

THE PHILATELIST MAGAZINE

フィラテリスト

スタンペディア日本版機関誌

Magazine

2018

AUTUMN ISSUE
STAMPEDIA INC.



20

当誌の読み方・使い方

当誌の位置づけ

当誌は無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社が運営する「スタンペディア日本版」の会員向け機関誌です。機関誌はPDFで発行され、年会費を納めた会員には、発行の都度登録Eメールに通知があり「マイ・スタンペディア」(<http://my.stampedia.net> 右図)よりダウンロードできます。

PDFの保存方法

ダウンロードしたPDFは、パソコンやスマホ等に保存できます。一旦保存するとそれ以降はいつでも好きな時にPDF版をご利用(閲覧、印刷など)頂けます。

PDF版をご自分で印刷して読む方へ

当誌の購読者は、PDF版をご自分の閲覧用に印刷することができます。刊行趣旨と編集方針の為ページ数が多いので、全てのページを印刷するよりは興味あるページのみを印刷する方法をオススメいたします。また視力の弱い方にも十分楽しんで頂ける様に、文字サイズや図版が大きくなるよう編集しています。**視力の良い方は『2 in 1』(プリンターの機能で、1枚の用紙に2ページ分印刷する方法)等をご活用頂いても十分読むことが可能です。**

PDF版の興味ある記事だけを印刷して読む方法

詳細な目次を用意しております。興味ある記事を見つけ、印刷を行ってください。本文をざっと流し読みして、印刷してじっくり読む記事を見つけるというやり方もあると思います。なお当誌では表紙を1ページ目としてページの割り付けを行っております(ページ番号は各ページのフッタに表示しています)ので、印刷に指定するページ番号も目次のページ番号と一致しております。

PDF版をパソコン、iPadで読む方法(オススメ)

PDF版はAdobe Reader等のPDF閲覧アプリを用いてご覧頂くことを推奨しております(右の画面)。なお、WEBブラウザでの閲覧はオススメしておりません。

左側にある、しおりマーク(→→)を押すと目次が表示され、各タイトルをクリックすることで、主画面が読みたい記事の内容に変わります。iPad, iPad miniでも快適にご覧いただけます。



紙版をご覧の方へ

当誌はPDFで読むことを前提とした新しいスタイルの郵趣雑誌です。このやり方により幅広い記事の取り扱いが可能となり、質・量ともに十分な総合郵趣雑誌が提供できるようになりました。また次ページの様な刊行趣旨と編集方針の為、ページ数が結果として多くなっています。

一方、PDF雑誌を発行する中で、有料で良いので内容をそのまま紙に印刷して欲しいとのご要望が寄せられる事が多くありました。ご自宅のパソコンで印刷するよりもそちらの方が便利だからという理由であり、その様なご要望にお応えする為、コピーしホチキスで綴じた紙版をお送りするサービスも提供を始めました。このような位置づけでよろしければご注文ください。



スタンペディアオークション

第7回セールカタログ

フロア 2018年11月17日(土) 12:00 浅草

会場 東京都台東区花川戸2丁目6-5 都立産業貿易センター&台東区民会館9階

スタンペディア日本版会員
全員に本カタログを無料
でお届けいたします！

届かない方は、正しいお送り先を
ご登録・ご連絡ください。



lot.74

スタンペディアオークション株式会社

〒102-0075 千代田区三番町30-6-501 FAX: 03-6800-5384 auction@stampedia.net

auction.stampedia.net

スタンペディア日本版機関紙「フィラテリストマガジン」

第20号

目次

＊ PDF 版で、記事タイトルをクリックすると各ページにジャンプします

当誌の読み方・使い方		P.02
目次		P.04
郵趣界重大ニュース		P.06
郵趣カレンダー		P.10
展示予定作品一覧	郵博特別切手コレクション展	特定非営利活動法人 郵趣振興協会 P.12
展示予定作品一覧	各地の切手展	特定非営利活動法人 郵趣振興協会 P.14
MACAU2018		特定非営利活動法人 郵趣振興協会 P.15
寄稿記事・郵趣論文		
私の発見・私の報告	昭和 26 年までの速達鉄道郵便	P.17
私の発見・私の報告	丸速センサス	P.18
私の発見・私の報告	和文機械印 時刻表示 24 時間型の初期使用例	P.20
私の発見・私の報告	欧文機械印 六本波 NAGASAKI Type I の最初期使用済	P.21
私の発見・私の報告	和欧文機械印に関する報告	P.22
読書の質問	東海大学 50 円コイル切手	P.23
額面 20 の切手・最初の 20 枚	スタンペディアコレクション	P.24
連載 凹版印刷された新動植物国宝図案切手（5）金剛力士像 500 円	横山 裕三	P.29
連載 南方占領地のフィラテリー（5）スマトラ統一加刷	守川 環	P.48
連載 南方占領地のフィラテリー（6）昭和切手の南方占領地における使用例	守川 環	P.54
第 1 次昭和・東郷 4 銭切手発行後の 4 銭切手 4 種の一般使用の状況	横山 裕三	P.56
Advertise のあれこれ	山本 勉	P.58
バイエルンの鉄道郵便印に見られる地名の略号	山本 勉	P.71
裁断ずれ切手帳は変造品？	永吉 秀夫	P.76
赤姫路の印刷版に関する考察	吉田 敬	P.80
的一滴	安藤 源成	P.83
郵便番号周知切手特集	編集部まとめ	P.84
外国来航空通常郵便物への到着日付印の押捺	行徳 国宏	P.90
和欧文機械印トピックス（第 34-36 回）	水谷 行秀	P.100
坂野鉄次郎の業績	安藤 源成	P.107
コレクションの作り方		
郵政博物館で切手展を開催しよう！	特定非営利活動法人 郵趣振興協会	P.115
切手コレクション紹介 旧小判切手高額	長野 行洋	P.116
切手コレクション紹介 新小判 5 厘	穴戸 俊介	P.118
切手コレクション紹介 14.00 円姫路城	吉田 敬	P.120
切手コレクション紹介 北海道の不統一印	長野 行洋	P.122
切手コレクション紹介 北洋方面への進出	石代 博之	P.124
切手コレクション紹介 ゴルフを究める 知識のトッププレーヤーを目指して	江村 清	P.126
切手コレクション紹介 Advertised Postmarks in Japan	岩崎 朋之	P.128

郵趣活動の記録

PRAGA2018 受賞結果抜粋	特定非営利活動法人 郵趣振興協会	P.130
全日展 2018 受賞記録	特定非営利活動法人 郵趣振興協会	P.132
全日展 2018 参観記	長野 行洋	P.134
郵趣振興協会 活動報告	特定非営利活動法人 郵趣振興協会	P.146
ジャパNSTAMPオークションニアレポート	鯛 道治	P.148
スタンペディアオークション 第6回セールレポート	スタンペディアオークション株式会社	P.156

あとがき	P.163
------	-------

広告一覧

スタンペディアオークション株式会社 [P.3]
無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社 [P.47, 164]

付録 1

郵便番号周知切手コレクション4本

全ページ掲載

* 本紙「郵便番号周知切手特集 (P.84)」と合わせてご覧ください。

付録 2

切手コレクション7本

全ページ掲載

* 本紙「切手コレクション紹介 (P.116)」と合わせてご覧ください。全日本切手展 2018、PRAGA2018 の優秀作品等を掲載。

付録3

その他の付録

- ・ アジア切手展 MACAU2018 展示作品一覧
- ・ 2019 年度郵博 特別切手コレクション展 募集要項

訂正

Stampedia Philatelic Journal 2017『日本における ADVERTISED 印～初期二重丸型から楕円型まで』
地名 (P.86 第 4 段落) に誤りがありました。

(誤) OUEDLINBURG → (正) QUEDLINBURG

図版キャプション (P.90) に誤りがありました。

(正しい中段左図のキャプション)「fig.11 楕円型横浜局使用例 (Type.2) Oval Type, Yokohama (Type 2)」

(正しい中段右図のキャプション)「fig.10 楕円型横浜局使用例 (Type.1) Oval Type, Yokohama (Type 1)」

Advertised 印の翻訳 (P.81)

(誤) “ADVERTISED” Cancellations → (正) “ADVERTISED” Postmarks

郵趣界重大ニュース

2018年6月～2018年9月

1 永井正保氏が世界切手展・外国伝統部門で大金賞を獲得

2018.8.15－8.18の会期でチェコ共和国で開催された、世界切手展プラガ2018で、永井正保さんが出品した「Private Printing Period in Victoria 1850-1859」が大金賞を受賞しました。

世界切手展の伝統外国部門での日本人の大金賞獲得は、一昨年初めまで5名しかいませんでしたが、その後、HAWAII（山崎文雄さん、TAIPEI 2016）PRUSSIA（吉田敬さん、ISRAEL2018）そして今回のVICTORIAが立て続けに大金賞を獲得し、合計で8名に増加しました。

かつては、金井、水原、石川といったビッグネームしかたどり着くことができなかった外国伝統部門の大金賞ですが、競争切手展に参加するにあたり、リーフ作りのルールとその運用への理解が浸透した結果があらわれたと言えます。



大金賞の表彰を受ける永井さん（小林彰さん撮影）

2 スtockホルミア2019、出品応募した全員をアクセプト

2019.5.29-6.2にスウェーデンで開催予定の英国王立郵趣協会主催の切手展ストックホルミア2019の実行委員会は、8月初めにアクセプト連絡を行いました。選考にあたり、出品応募した全員をアクセプトしたことを明らかにしました。

同展覧会は審査へのiPadの導入や、出品物搬入へのFEDEX等の利用など、効果のある施策を次々と打ち出していますが、その方針はアクセプト作品選定においても発揮されました。海外から参加する出品者の来場促進にも繋がるため、複数作品を応募した者の二作品目のアクセプト優先順位を下げることで、まず全応募者が最低一作品を展示できるようにアクセプト作業を進めたとのこと。

国際切手展への参加目的は展示を見る、ブースで買い物をする等が代表的です。しかしながらイグジビターにとっては、自分の作品が展示されているか否かにより参加モチベーションは大きく変わるのには致し方ないことであり、その心情を理解している実行委員会が、集客を優先し配慮したもので、大いに評価したいと思います。



3 クリックポスト 164 円から 185 円に値上げ

日本郵便は、2018/9/1 より、クリックポストの価格を12%引き上げる185 円に値上げしました。同サービスは、2014年6月に取り扱いを開始した宅配サービスで、業界最安値の宅配サービスとしてEC サービスを中心に多く利用されています。(縦34センチ×横25センチ×厚さ3センチ以内、重さ1キログラム以内、全国一律)

引受印も到着印も押捺されないことから、フィラテリーの観点からは、集め甲斐のない郵便物ではありますが、局留や付箋などを活用して収集することも可能です。

4 日本郵政グループ、霞が関から大手町に本社移転

日本郵政グループは、郵政省の建物を引き継ぎ、民営化後も千代田区霞が関に本社を置いてきましたが、旧通信総合博物館跡地に、大手町プレイスが開業したことを受けて、同ウエストタワーに、本社機能を集約・移転することになりました。

これに伴い、本社1階に設置されていた、千代田霞が関郵便局も移転改称し、大手町郵便局となります。同局は、1969.8.25 郵政省内郵便局として設置された普通無集配局が、その後、郵政事業庁内局に改称(2001.1.6) 日本郵政公社内局に改称(2003.4.1) を経て、2007.7.30 に千代田霞が関局に改称したもので、今回の移転改称で、郵便局の歴史に1ページが加わることになります。

ちなみに、普通局である同局は一時期分室を持っていました。(財務省内分室、2007.7.30-2012.3.31) また、近所に位置する似た名称の無集配普通局「霞ヶ関郵便局」は別の存在です。

5 額面8円の記念切手の発行

8月9日に日本郵便は、秋に発売する国際文通週間切手(10/9)について、従来発行された額面である70,90,110,130 円に加えて、8 円切手を発行することを発表しました。(右図) 10面シートで、発行数は300 万枚と発表されています。

官製葉書の額面が62 円、外国宛て航空葉書料金が全世界一律で70 円であるにも関わらず、差額の8 円普通切手が存在しない為、利用者は2円切手4枚、もしくは3円+5円の様な複数の切手の貼り足しが求められ、国際文通を振興する上で、利便性を高めるために発行が企画されたものです。



Amazon で電子部品を購入したらクリックポストで送付されてきた(ラベル有効期限: 2018/8/28)



6 公財) 日本郵趣協会 決算発表

会費収入 対前年一千万円弱減少し六千万円台に突入も部会会計統合で赤字幅圧縮に成功。
 会員維持率はマイナス 7 パーセント弱と再び低迷。会員力増強キャンペーンは不発に。

公益財団法人日本郵趣協会は、7月下旬に、2017 年度事業報告をインターネット上に発表しました。この公開情報を分析したところ、会員数は分析による推定(*1)で7,981 人から7,495 人へと486 名減少(-6.5%)したことがわかりました。

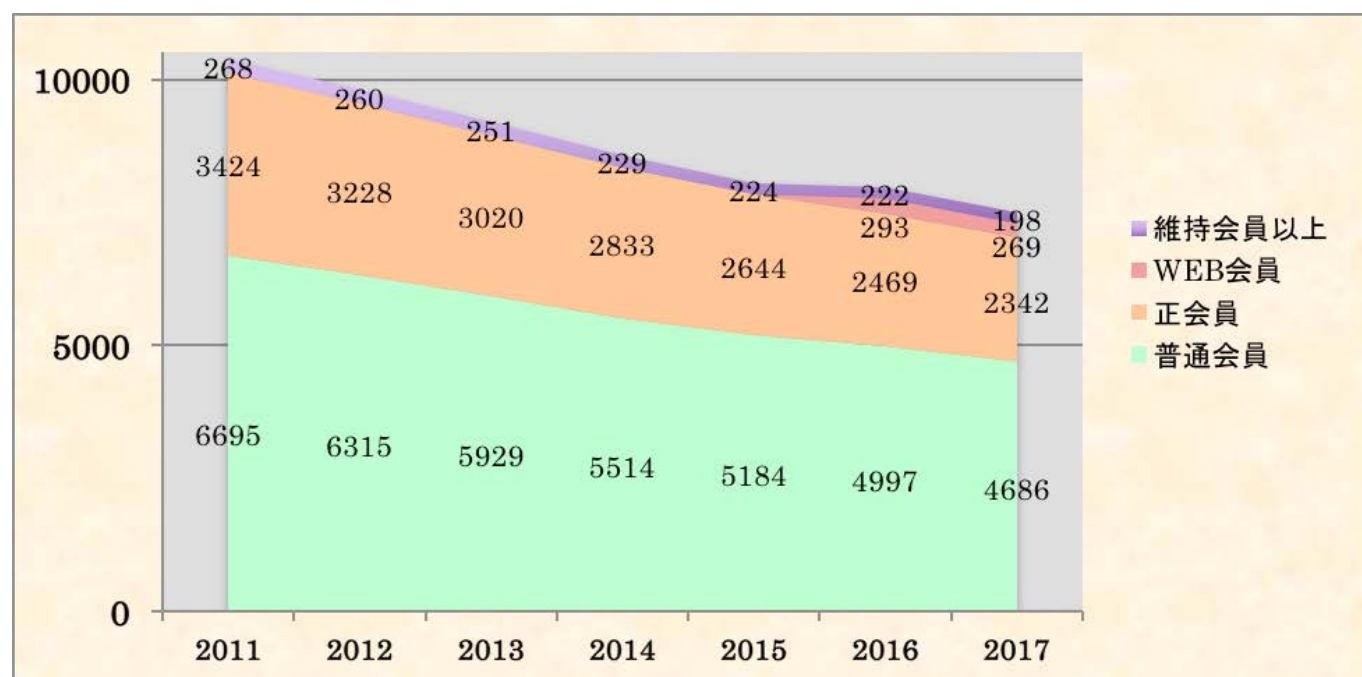
*1 2015 年度事業報告までは、会員数の実数が「正味財産増減計算書補足説明」で掲載されてきましたが、会員数減少が明示されてしまう事もあり、会員力増強キャンペーンを開始する中で、2016 年度事業報告より、これらの情報は非掲載となりました。したがって、ここに掲載された会員数などは、公開 PL 及び会費単価等から当誌が独自に分析して算出したデータとなります。

2015 年度、2016 年度の減少率は、マイナス 6%、マイナス 1%と改善傾向にありましたが、減少率は再び拡大し、日本郵便 150 周年を迎える 2021 年度に 5,000 人台に減少するペースに戻りました。

もっとも決算発表で示す数値から除外した事から分かる通り、現在の日本郵趣協会にとって会員数は重要度の高くない数値です。安価な年会費の WEB 会員(3,600 円/年)を新設した年に 300 人の会員集めに成功した様に、将来、2,000 円/年や 1,000 円/年、さらには無料の会員枠を新設すれば、会員数の増加が可能な事が経験済みであり、会員数と金額の二要素の内、現在重視されているのは後者の金額に移っており、低いランクに位置付けられている既存会員のランクアップ(正会員から維持会員等)が効果的です。

年度	増減人数	受取会費(万円)
2012	-584	8,310
2013	-603	7,809
2014	-624	7,875
2015	-524	7,754
2016	- 71	7,848
2017	-486	6,947

この観点から 2017 年度財務諸表を見た時に、会員数の 6.5% 減が霞むくらい深刻な点は、経常収益における「受取会費」が 7,847 万円から 6,946 万円へと大幅減少したという点です。



JPS 会員数（概数）の推移（2011 年～2017 年）参照；公益財団法人日本郵趣協会 決算報告書。当誌分析。

受取会費と事業収益が九割を占める日本郵趣協会の経常収益ですが、欧米の大規模郵趣組織と比肩しても立派なスタッフ数を維持する為には職員人件費も相応にならざるをえません。そのような経営環境において収益の柱の一方が一千万円近くも減少したことは決算に大きな影を落としました。

これを救ったのは 4.6 億円の有価証券等で構成される固定資産の生み出す運用益（利息）による収入増加（150 万円）と、従来、独自予算管理を認めてきた部会（現在は研究会と呼称）会計を協会の会計に統合したことによる収入増加（270 万円）です。

損益は、2016 年度の 305 万円から 2017 年度は -198 万円（損失）と 500 万円減少しましたが、上記の施策なかりせば、マイナス 1,000 万円の悪化となったはずです。部会会計の統合等がこの事態を救った形になりました。

日本郵趣協会は、法人の存立や各種施策の予算確保という点で、今後も「JPS の会員数」と「JPS の受取会費総額」の増強をはかると宣言しています。一方この運動には、フィラテリスト個人個人が拠出したお金を合計する巨額な金額が動きます。公益財団法人には、商法上の株式会社のような株主総会はない為、スタンペディアは、日本のフィラテリーの健全な発展のために、今後も、この活動を分析し報道してまいります。

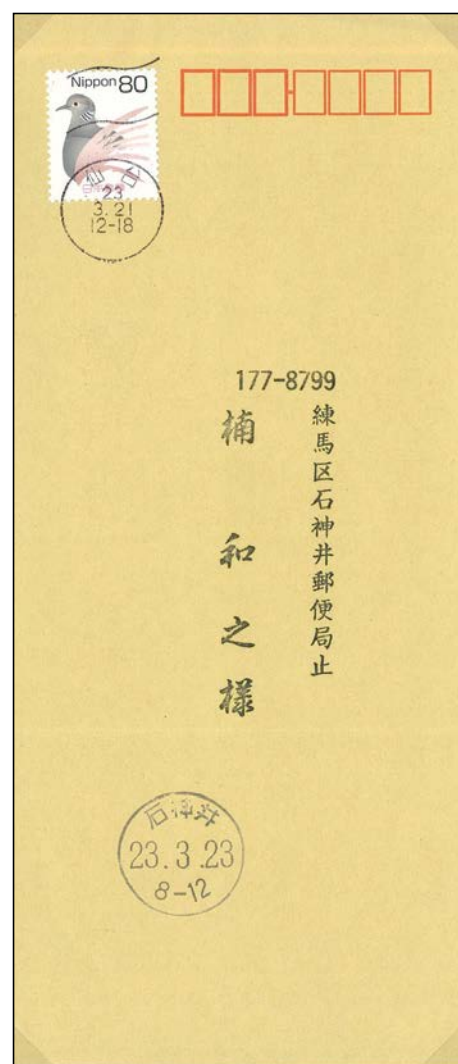
7 地震、台風を原因とする郵便サービスの低下

平成 30 年に激甚災害に指定された、西日本豪雨と北海道胆振東部地震は、交通網に多大な被害を与え、物流網に大きな影響を与えています。

物流サービスを提供する業者の一つである日本郵便の提供する郵便・小包サービスも大いに影響を受けるのは仕方のないところで、配達遅延など様々な影響が出た他、ゆうパック類の引受停止などの措置も取られています。

最近、日本は災害大国だと言われるようになり、全国どこに住んでいても安心しきることはできないと言われています。阪神・淡路大震災（1995 年）新潟県中越地震（2004 年）東北地方太平洋沖地震（2011 年）の記憶も新しい内に、近年は降雨による土砂崩れや高潮、都市部の浸水も加わり、心が安らぎません。

今回の災害による影響も郵便に出ていますので、引き受けを断られたゆうパックなど関連する使用例をお持ちの方はぜひ貴重な資料として保管されたいのではないかと思います。



仙台 23.3.21 (2011)

郵趣カレンダー

2018/9/15 ~ 2018/12/14 の郵趣イベント

国際郵趣連盟の規則に基づいて審査が行われる競争切手展

開催日	切手展名称	会場	備考	出品情報
2018/9/21-24	MACAU2018	The Venetian Macao Convention Center (マカオ)	アジア国際切手展	出品締切済
2018/11/16-18	JAPEX2018	都立産業貿易センター台東館 (浅草)	国内二大競争展	10/2 出品締切
2018/11/28-	THAILAND 2018	Royal Paragon Hall (タイ、バンコク)	世界切手展	出品締切済
2019/5/29-6/2	STOCKHOLMIA2019	Waterfront Congress Centre	FIPレコード掲載非対象	出品締切済
2019/7/31-8/4	SINGAPORE 2019	Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre	アジア国際切手展	出品要項未発表
2019 (予)	CHINA 2019	未定	世界切手展表	出品要項未発表
2020/3/19-22	New Zealand2020	Ellerslie Events Centre	アジア国際切手展	出品要項未発表
2020/5/2-5/9	LONDON2020	Business Design Center (英国、ロンドン)	世界切手展	出品要項未発表
2020 (予)	TAIPEI2020	未定	アジア国際切手展	出品要項未発表
2020 (予)	MALAYSIA 2020	未定	世界切手展	出品要項未発表
2021.5.17-22	South Africa 2021	未定	世界切手展	出品要項未発表
2026/5/23-5/30	BOSTON2026	Boston Convention and Exhibition Center (米国、ボストン)	世界切手展	出品要項未発表

一般切手展

開催日	切手展名称	開場時間	会場
9/29-30(土日)	スタンプショウかごしま 2018		サンプラザ天文館 3 階会議室
9/29-30(土日)	JPS 航空郵趣研究会展 2018	10:30-17:00 *2	切手の博物館
10/5-7(金土日)	メータースタンプ研究会展 2018	10:30-17:00 *2	切手の博物館
10/6-8 (土日月)	<動植物国宝切手の神髄>展	10/6 未定 -17:30 10/7 10:00-17:30 10/8 10:00-17:30	郵政博物館
10/12-14(金土日)	鉄道切手展 Railpex2018	10:30-17:00 *2	切手の博物館
10/13-14 (土日)	珠玉の菊切手コレクション展	10/13 未定 -17:30 10/14 10:00-17:30	郵政博物館
10/19-21(金土日)	楽しい湘南切手展 '18	10/19 12:00-18:00 10/20 10:00-18:00 10/21 10:00-17:00	フジサワ名店ビル6階 (藤沢)
10/26-27(金土)	ロッシーニ没後 150 年記念 音楽切手展	10:30-17:00 *2	切手の博物館
11/3-4(土日)	第 6 回ヨーロッパ切手展	11/3 未定 -17:30 11/4 10:00-17:30	郵政博物館

※ 1 切手の博物館で開催される切手展は抜粋して掲示しています。

※ 2 郵政博物館および切手の博物館で開催される切手展は初日のみ午後開始になるケースがございますので、各館のホームページで事前にご確認ください。

※ 3 郵政博物館の最終入場時刻は 17:00 です。

国内主要フロアオークション

開催日	主催者	回	東京下見会	メールの部
9/16	タカハシ・スタンプ・オークション	624		あり
9/29	スターオークション	44		
10/21	タカハシ・スタンプ・オークション	625		あり
11/17	スタンペディアオークション	7	10/8	
11/17	JPS オークション	518	11/10	あり（11/20 正午入札締め）
11/18	タカハシ・スタンプ・オークション	626		あり
11/18	ジャパンスタンプオークション	104	11/17	
12/1-2	ジャパンスタンプオークション	105	11/17-18	あり（12/4 午前 9 時入札締め）
12/22	スターオークション	45		

※事前下見日および備考は、判明している物のみを掲載しています。またジャパンスタンプ、スタンペディアオークションの事前下見日については東京開催のみを掲載しています。

東西の切手フリマ・即売会

開催日	曜日	名称	回	会場	開催時間
9/22-23	土日	切手バザール	101	切手の博物館（目白）	9:00-17:00
10/6	土	切手市場	163	日本橋富沢町 綿商会館	9:00-17:00
10/20-21	土日	切手バザール	102	切手の博物館（目白）	9:00-17:00
11/3	土	切手市場	164	日本橋富沢町 綿商会館	9:00-17:00
11/16-17	土日	切手市場感謝祭・秋		ホテルヴィアイン浅草 2 階	9:00-17:00
12/1	土	切手市場	165	日本橋富沢町 綿商会館	9:00-17:00
12/1-2	土日	大阪駅前第三ビルバザール	59	大阪駅前第三ビル 17 階	10:00-17:00

いずみ切手研究会

開催日	曜日	会場 / 備考
9/16	日	練馬区立勤労福祉会館 / 例会
10/21	日	練馬区立勤労福祉会館 / 例会
11/18	日	練馬区立勤労福祉会館 / 例会

郵趣カレンダーおよびピックアップイベントへの掲載方法

フィラテリストマガジンでは、郵趣を活性化させるイベントを開催・運営される方を宣伝の観点からお助けします。地方郵趣会や特定サークルの切手展であっても、展示物に自信があるイベントを主催されていらっしゃる方、是非ピックアップイベントに掲載してみませんか。展示作品、フレーム数、出品者名等を明記の上、tpm@stampedia.net までご連絡ください。

切手展以外のイベントの宣伝もまずは電子メールでご相談ください。tpm@stampedia.net

展示予定作品一覧

郵博特別切手コレクション展

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

「郵博特別切手コレクション展」は、我が国のフィラテリー等に関するナショナル・ミュージアムである郵政博物館で開催される切手コレクションの展覧会です。10月15日まで来年度の展示団体を募集しているほか、向こう3ヶ月間に4つの展覧会の開催を予定しております。当ページでは開催予定の展覧会の展示予定作品等について、ご案内いたします。

10/6-8（土日月）　＜動植物国宝切手の神髄＞展

作品名称	作品オーナー	F	内容
第一次動植物国宝切手	赤塚 東司雄	5	第一次動植物国宝切手を紹介した作品です。姫路城や多宝塔、弥勒菩薩などの多彩な使用面が見どころです。
「動植物国宝図案切手（第1次～第3次）～消印と使用例～」	山路 晴名	8	本展示は、昭和25年から40年にかけて発行された「動植物国宝図案切手」の消印と使用例を8フレームで展示した作品です。
第三次動植物国宝	吉田 敬	5	洋の東西を問わず、製造面バラエティーが大きいグラビア印刷を本格的に導入した時期の切手です。
新動植物国宝 1966年シリーズ	水谷 行秀	5	切手の製造・消印・郵便の制度に郵便の自動化や高度成長期の進展が見られる普通切手のシリーズです。
66年シリーズ 発光切手	宮崎 幸二	1	発光切手の様に珍しい切手の満月印収集は、困難ですが楽しいものです。普通局上尾局の県名入機械印・楕円型印が見つかりました。
新動植物国宝 1966-69	永吉 秀夫	6	書状15円期の普通切手として、1966.6.20発行の60・200円切手から1969.9.1発行の55円切手までを、偏りなく集めて整理しました。
1976年シリーズ	吉田 敬	4	小四で切手を集め始めた時の現行切手を、今の手法でまとめて見ました。
日本普通切手：1980～1988	須谷 伸宏	5	蝶40円、釣鐘60円などの切手は、みなさんも子供の時に使ったこともあるのでは？これらの懐かしい「現行切手」を製造面、使用面で徹底的に分類して、作品にまとめました。

10/13-14（土日）　珠玉の菊切手コレクション展

作品名称	作品オーナー	F
菊切手	古家 美和	6
「支那」加刷 菊切手	柳川 英幸	5
菊切手	村山 廣祐	5
菊切手	寺中 良幸	5
菊切手	内海 省一	5
菊切手時代の内国郵便	片山 七三雄	5
菊切手と書留郵便料金	安藤 源成	5
菊切手時代の急速郵便	池田 健三郎	2

【ショウケース展示】

郵政博物館所蔵の菊切手関係史料から次のものを展示いたします。

- (1) 『続大日本帝国郵便切手沿革誌』 稿本
- (2) 菊切手原版4種
- (3) 神功皇后図案用のスケッチ（紙焼き）

11/3-4(土日) 第6回ヨーロッパ切手展

作品名称	作品オーナー	F	内容
第一次世界大戦	樋口 豊	5	人類最初の「世界戦争」だった「第一次大戦」を遺された絵葉書、軍事郵便、切手でその物語を「オープン展」スタイルで作成しました
第一次世界大戦の推移	北村 定従	1	第一次世界大戦前夜からその勃発、西部戦線と東部戦線の攻防、日本とアメリカの参戦、大戦の終結について概観します。
葉書で読み解くフランスの第一次世界大戦	大橋 尚泰	2	拙著『フランス人の第一次世界大戦 - 戦時下の手紙は語る』(えにし書房刊)の抜粋・展示。郵便物の通信内容を重視します。
第1次世界大戦の英領インド遠征軍郵便史	榎沢 祐一	2	第1次世界大戦時にイギリスの要請を受けて参戦したインド遠征軍が設置した軍事郵便局で取り扱われた郵便物のコレクションです。
西トルキスタンと捕虜郵便	藤井 行康	1	ロシア帝国内の中央アジア南部地域を発着した捕虜郵便を中心とした作品です。
日英同盟二十年史	虎頭 雄彦	1	第一次世界大戦における日本の同盟協力を中心に、日英同盟20年の小史を1フレームのテーマチック作品にまとめました。
日独戦争の軍事郵便	玉木 淳一	3	山東半島や南洋群島、艦船郵便所からの使用例、ドイツ人俘虜の俘虜郵便などで日独戦争期の日本の軍事郵便の全貌を示しています。
第1次世界大戦後のインフレーション	伊藤 文久	8	第一次世界大戦後、ドイツ・オーストリア・ハンガリー・ポーランドを襲ったインフレを、それぞれ、実際のカバーで紹介します。
プラハ城切手	奥山 昭彦	3	プラハ城切手は今年、発行100年を迎えました。展示では第一期発行図案についてエッセイから製造面、使用面の変遷を展示します。
Slovenia 1919-1920, the First Issue	榎沢 祐一	5	第1次世界大戦後の独立国スロベニアの1番切手「チェーン・ブレイカー」のコレクションです。
ウクライナ他	吉田 敬	5	第1次世界大戦後の独立国ウクライナ等のカタログコレクションです。

日本の郵便とフィラテリーに関するナショナルミュージアム

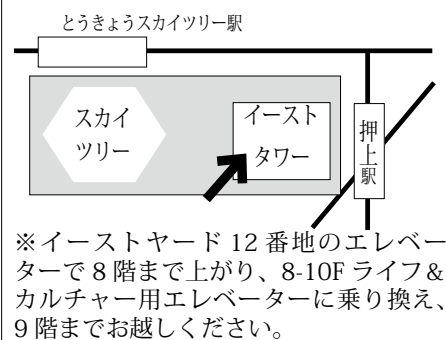
郵政博物館

ご利用案内

住所：墨田区押上1丁目1-2 東京スカイツリータウン・ソラマチ 9F

最寄：営団地下鉄 押上駅、東武・とうきょうスカイツリー駅

入場：有料（大人 300 円、小中高生 150 円）



展示予定作品一覧 各地の切手展

特定非営利活動法人 郵趣振興協会（まとめ）

スタンプショウかごしま2018

日程：9/29-30（土日）

場所：鹿児島市、サンプラザ天文館 3 階会議室（右図参照）



作品タイトル	F	氏名	備考
働く犬	1	大沢 知子	優れた嗅覚・聴覚を活かして活躍する犬たちの姿を紹介
オシドリ	1	柴田 公子	日本で最も美しい鴨のオシドリを海外のオシドリとともに紹介
愛すべき小動物・ネズミ	1	加賀谷 長之	害獣でありながら古来より続く、人間とネズミの親しい関係
最近の切手などを楽しもう	1	内田 雄二	乱発の新切手の中に、新しい時代ならではの楽しみがある
年賀葉書とキャラクター	1	谷之口 勇	アニメや映画のキャラクター等を描く年賀葉書や年賀スタンプ
ふるさと切手に見る北海道の花	1	岩重 弘文	ふるさと切手北海道版で取り上げられた花切手を展示
フランスの美術切手	1	大原 幸人	1970～80年代のフランスの美術切手を FDC 等とともに展示
平成時代の年賀切手	2	永吉 秀夫	平成時代前半の年賀切手を、年代順に整理して紹介
鳥物語	1	川原 啓一郎	鳥類の人間社会に及ぼした影響を多方面から観察してみる

コラム『町田趣味の切手展'18』の開催記録

白鳥 信行

今年で 19 回目となる日本郵趣協会町田支部の支部員による作品展を次の通り開催いたしましたので、その開催記録として掲載いたします。

開催期間：2018 年 8 月 22 日（水）～ 8 月 26 日（日）

開催場所：町田市立国際版画美術館

小型印の使用：あり

（注：会場での押印はなく、町田郵便局のみでの押印）



心配していた台風の影響も少なく、来場者は 390 名強と前年より増加しました。会員のの努力により地元のタウン誌に紹介されたことあり、以前切手を集めていた方のご来場者が例年に比べて多く、熱心に見ていただきました。会員の増加につながることを期待したいと思います。また、昨年他界された故宮澤氏の遺作品も合わせて展示しました。会員の中で重鎮的存在でした同氏の作品が見られなくなるのは残念です。改めてご冥福をお祈りいたします。来年も開催予定（8 月 21 日～25 日）ですので近隣の方々のご来場をお待ちいたしております。

アジア切手展 MACAU 2018

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

特定非営利活動法人 郵趣振興協会は、活動の一環として、国際切手展情報の充実に注力しています。このほど、掲題のアジア国際切手展について、主催団体より発表された展示作品より、日本からの出品を抜粋してお伝えいたします。

展覧会名称 : MACAU2018

会場 : The Venetian Macao Convention Center (マカオ)

会期 : 2018/9/21-24

	作品名	F	作品オーナー
伝統郵趣	Japan Definitives: Vocational Series	8	Nobuhiro SUDANI
伝統郵趣	Ryukyus 1945-52	8	Tsukasa ISHIZAWA
伝統郵趣	Hawaii, The Bank Note Issues	5	Fumio YAMAZAKI
伝統郵趣	Kingdom of Prussia, 1850-1867	8	Takashi YOSHIDA
郵便史	U.S. Postal Activity in China 1802-1922	5	Mitsuhiro OHBA
郵便史	Roman Letter Machine Cancellation	5	Takashi YOSHIDA
郵便史	Foreign Mail in Nagasaki, Japan 1865-1905	8	Sumihide ITOH
郵便史	British India Postal History in Hyderabad	5	Koichi SATO
郵便史	Austrian Inflation, 1921-1925	5	Fumihisa ITO
郵便史	U.S. Post office Department Official Business Air Mail 1911-45	5	Fumiaki WADA
ステーションナリー	Postal Cards of Japan 1873-1874 Cherry Blossom Issue	5	Touru SAI
ステーションナリー	Early History of Japanese International Post Cards	5	Satoshi KOMIYAMA
テーマティック	C Slania The Greatest Engraver of the world	5	Ryoji MURAYAMA
テーマティック	The Rise and Fall of Hitler and Nazis Germany	5	Sadanobu KITAMURA
現代郵趣	Postal History of Palestine 1995-2001	5	Yosuke NAITO
文献・単行本	Czechoslovak Gallery		Toshiyuki ICHIKAWA
文献・単行本	Gems on Paper		Yukihiko SHODA
文献・単行本	The Dragon Stamps of Japan		NARUMI. Co
文献・単行本	The Couriers of Japan		NARUMI. Co
文献・単行本	Japan Definitive Issue 1922-1937 Landscape Stamps for Surface Rates		Stampedia, Inc.
文献・雑誌	Stampedia Philatelic Journal		Stampedia, Inc.
文献・カタログ	Narumi's Japanese Revenue Stamp Catalogue		NARUMI. Co



寄稿記事・郵趣論文

私の発見・私の報告 昭和 26 年までの速達鉄道郵便

私の発見・私の報告 丸速センサス

私の発見・私の報告 和文機械印 時刻表示 24 時間型の初期使用例

私の発見・私の報告 欧文機械印 六本波 NAGASAKI Type I の最初期使用済

私の発見・私の報告 和欧文機械印に関する報告

読者の質問 東海大学 50 円コイル切手

額面 20 の切手・最初の 20 枚 吉田 敬

凹版印刷された新動植物国宝図版切手 (5) 金剛力士像 500 円 横山 裕三

南方占領地のフィラテリー (5) スマトラ統一加刷 守川 環

南方占領地のフィラテリー (6) 昭和切手の南方占領地における使用例 守川 環

第 1 次昭和・東郷 4 銭切手発行後の 4 銭切手 4 種の一般使用の状況 横山 裕三

Advertise のあれこれ 山本 勉

バイエルンの鉄道郵便印に見られる地名の略号一覧 山本 勉

裁断ずれ切手帳は変造品? 永吉 秀夫

赤姫路の印刷版に関する考察 吉田 敬

的一滴 安藤 源成

郵便番号周知切手特集 編集部

戦後の外国郵便史 外国来航空通常郵便物への到着日付印の押捺 行徳 国宏

和欧文機械印トピックス 第 34 回 2 期印の登場 水谷 行秀

和欧文機械印トピックス 第 35 回 1 期→2 期切り替え時の混乱 (1) 水谷 行秀

和欧文機械印トピックス 第 36 回 1 期→2 期切り替え時の混乱 (2) 水谷 行秀

坂野鉄次郎の業績 安藤 源成

私の発見・私の報告

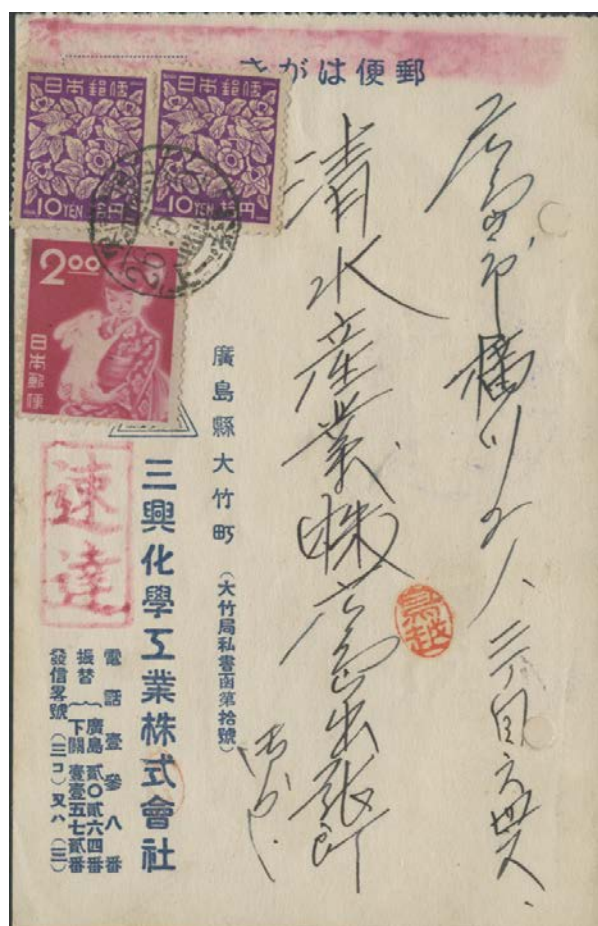
昭和 26 年までの速達鉄道郵便

本誌 18 号, 18 号でまとめた昭和 26 年頃までの鉄道郵便印の押捺された速達郵便物について、追加報告が 2 件ありましたので、掲載いたします。

本件は、かつて本池悟氏が「全日本郵趣 442 号 (平成 12 年 1 月号)」で示された見解である『戦後、速達郵便を鉄道郵便印で抹消再開した時期は公報等が示されておらず、詳しい再開時期は不明のままである。文献 (原典不明) に昭和 26 年の使用例が見られ、これが確認できる最古の使用例』の記事を、本誌 13 号 (2016 冬号) で川田 圭史氏が取り上げたことを契機として、熱心なコレクターが追い求めていたもので、マテリアルも豊富に市場にある現在、データを探してみようという取り組みです。

現在の最古は、馬淵 直人さんが紹介した昭和 23 年使用例ですが、鉄道郵便は全国で一斉に再開されたものではなく路線差があるため、昭和 26 年より前のものであれば、路線別にデータを集めております。お手持ちのマテリアルで、該当するものがございましたらよろしくお願いいたします。

年月日	鉄道名称	A 欄	C 欄	局名	宛先	報告者	掲載誌
23.5.2	関西本線	亀山大阪間	上二	左書き	静岡県	馬淵 直人	本誌 19 号
25.1.19	北陸本線	大阪青森間	上二	左書き	石川県	池田 健三郎	本誌 19 号
26.5.5	山陽本線	東京門司間	上一糸門	左書き	広島県	吉田 敬	本号
26.8.15	東北本線	東京青森間	上一郡盛	左書き	東京都	飯澤 達男	本号
26.10.4	草津線・北陸本線	柘植京都間	下二	右書き	長野県	宮崎 幸二	本誌 18 号



私の発見・私の報告

丸速センサス

本誌第 6, 7, 11, 19 号で掲載した丸速センサス (23 点) に、追加の報告を会員の飯澤 達男さんより頂きました。(丸速 -24, 25) 丸速 -24 は、センサス上速達料金 15 円時代最後期の都内速達です。なお、丸速 -25 は京都宛の書留速達書状 (8+30+20 円) であり、都内速達ではありません。都内速達ではない速達便に丸速印が捺印された例はこれで 3 点目です。(丸速 -18, 23 が過去に該当) 丸速 -24 は速達を示す赤線が引かれていないため、代用にこの丸速印を押した可能性も考えられます。ただし到着印は押捺されていません。

「丸速」印は、昭和 24 年 2 月 16 日から 7 月 31 日までの半年間だけ、東京都内で取扱われた「都内速達郵便」で使用された印影です。「速」の文字を縦方向に長く楕円形で囲った形がその特徴で、行徳 国宏氏がこの印の押捺された速達郵便物が「都内速達郵便」であることを、郵政総合博物館資料室所蔵の「通信文化新報」(24 年 3 月 2 日号) の記事から突き止めました。残存数が少ないことからセンサスを作成しております。

管理番号	引受日	引受局	形態	速達料	宛先住所	到着印	備考	現所有者
丸速 -19	24.2.18	板橋大山	官製葉書	15 円	品川区南品川	品川	検閲印あり	矢部
丸速 -01	24.2.24	本郷	官製葉書	15 円	板橋区板橋町	板橋		池田
丸速 -23	24.3.5	最高裁判所内	官製葉書	15 円	東葛飾郡湖北村新木		都内速達ではない	馬淵
丸速 -21	24.3.10	神田神保町	書状	15 円	目黒区	目黒	閲印あり	池田
丸速 -02	24.3.12	京橋通一	官製葉書	15 円	杉並区西田町			池田
丸速 -03	24.3.15	豊島	書状	15 円	中央区日本橋人形町	日本橋	検閲印あり	横山
丸速 -04	24.3.17	京橋	書状	15 円	足立区千住緑町			数珠
丸速 -05	24.3.22	渋谷	官製葉書	15 円	北区中里町	豊島	「占領下における速達郵便」(荻原海一氏、全日本郵趣 1990 年 2 月号) に掲載	(未調査)
丸速 -06	24.4.8	赤坂中町	官製葉書	15 円	品川区大井元芝町			横山
丸速 -07	24.4.9	東京中央	官製葉書	15 円	港区麻布市兵衛町			横山
丸速 -20	24.4.11	赤坂	官製葉書	15 円	練馬区小竹町	練馬	検閲印あり	矢部
丸速 -24	24.4.16	牛込	官製葉書	15 円	世田谷区世田谷	千歳		飯澤
丸速 -08	24.5.2	目黒	書状重量便	20 円	杉並区上荻窪		検閲印あり	行徳
丸速 -09	24.5.13	九段	官製葉書	20 円	目黒区大岡山	目黒		横山
丸速 -10	24.5.19	本郷片町	官製葉書	20 円	北区滝之川町			片山
丸速 -11	24.5.28	丸の内ビル内	官製葉書	20 円	杉並区阿佐ヶ谷	杉並		須谷
丸速 -25	24.6.1	新宿下落合	書状	20 円	京都市室町通御池		都内速達ではない 普通の速達書留	飯澤
丸速 -12	24.6.8	日本橋	書状	20 円	世田谷区千歳烏山	千歳	翌日到着	横山
丸速 -13	24.6.10	神田駿河台	書状	20 円	中央区築地			池田
丸速 -22	24.6.17	阿佐ヶ谷東原	官製葉書	20 円	杉並区西田町	杉並		馬淵
丸速 -14	24.6.22	大森久が原	書状	20 円	多摩郡府中町		速を抹消	行徳
丸速 -15	24.6.29	日本橋	書状	20 円	世田谷区千歳烏山	千歳	翌日到着	池田
丸速 -16	24.7.8	立石	官製葉書	20 円	杉並区大宮前	荻窪		数珠
丸速 -17	24.7.21	東京中央	官製葉書	20 円	大田区上池上町	田園調布	ヤフーオークションにて出品 (2002 年 3 月)	(未調査)
丸速 -18	24.7.27	東京中央	葉書	20 円	小田原市荻窪		速を抹消 都内速達ではない	吉田



丸速-24



丸速-25

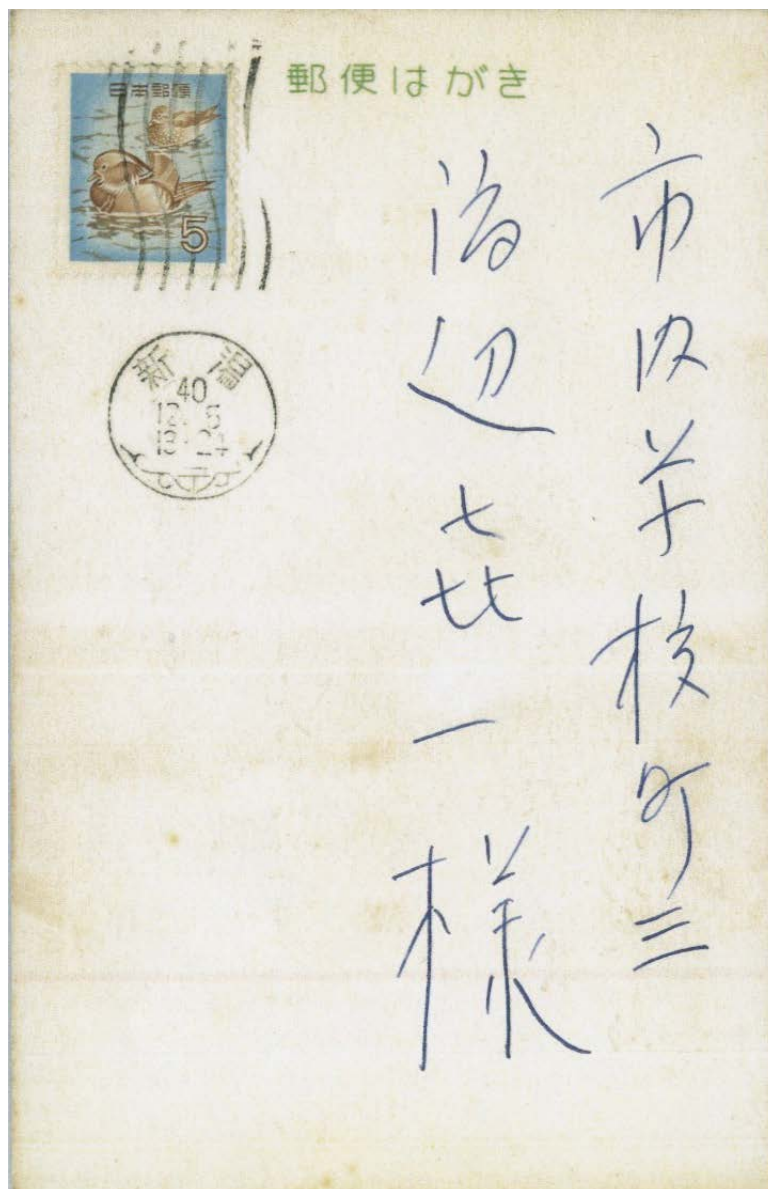
私の発見・私の報告

和文機械印 時刻表示 24 時間型の初期使用例

和文機械印の時刻表示24時間型ですが、今回飯澤達男さんより昭和40年12月5日の使用例が報告されました。本例は、河奈文彦さんが発見したこれまでの最初期を十日更新するものです。

また、昭和41年1月の年賀状への使用例を多くの方からご報告いただきました。そこで今後は昭和40年中の使用例に絞り募集し記録することに変更したいと思います。また同様の理由で、櫛型印につきましては、昭和40年6月までの使用例に限り募集することに変更させていただきたく思います。今回41年1月の機械印使用例および40年7月の櫛型印使用例をご報告いただきました方には申し訳ございませんが、どうぞご了承ください。

年	月日	時刻欄	局名	報告者	備考・図版
40	12.5	18-24	新潟	飯澤達男	本号
40	12.15	18-24	此花	河奈文彦	全日本郵趣 2004 年 1 月号 P.28 図 8



新潟 40 12 5 18-24

私の発見・私の報告

欧文機械印 六本波 NAGASAKI Type I の最初期使用済

欧文機械印 六本波 NAGASAKI Type I は、唐草紋様が誤って入れられた唯一の欧文機械印として人気があります。この消印の使用期間は、カバーを調査対象とする「欧文機械印ハンドブック」（2016 年、スタンペディア刊）にによれば、1921 年 5 月 7 日から同 5 月 13 日と記録されています。

同ハンドブックの発行後、最新使用例は、6 月 20 日にまで更新されましたが、今回、使用済単片上の部分消しではあるものの、5 月 6 日の印影が、丹羽 昭夫さんにより報告されました。



NAGASAKI 6 MAY 1921



(参考) 欧文機械印 六本波 NAGASAKI Type I の完全印影

私の発見・私の報告

和欧文機械印に関する報告

鈴木 寛さんより和欧文機械印について2点ご報告をいただきました。

1. 和欧文機械印「久留米輸送」の使用開始日

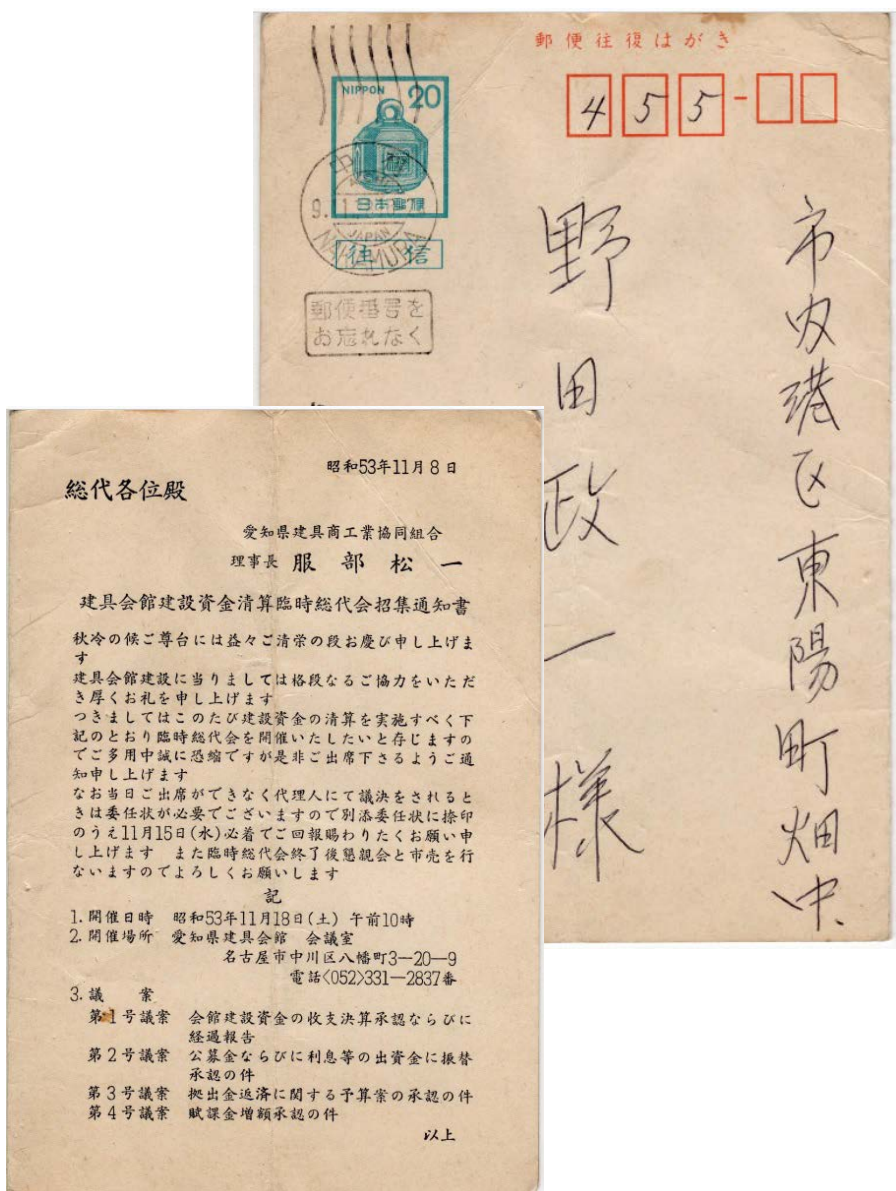
「久留米輸送」の使用開始日について、郵趣2011年2月号で「1986.11.-」とあるものを1986.10.21の使用済単片を発見した。



久留米輸送 61 / 86.10.21

2. 中村局の標語「郵便番号をお忘れなく」の最初期

中村局の標語「郵便番号をお忘れなく」の最初期使用例としてフィラテリストマガジン第16号に「1978.11.20」と記載されているものを、「1978.11.9」を発見した。



中村 9.11.78
標語「郵便番号をお忘れなく」

読者の質問 東海大学50円コイル切手

会員の矢島 英明さんからの質問です。

「お忙しいところ申し訳ありません。先日、キリストのキロボックスを整理していたところ、この様なものが出てきました。切手ではなく何かの目的で東海大学が発行したものを手違いで、郵便に誤使用したものであることは承知しております。

それでも、コイルの状態でごみとして捨ててしまうのも憚られもしや、こちらなら、発行の経緯などご存知の方がおられないかとご連絡申し上げました。全く価値の無いものとは存じますが、ご存知の方があれば何卒、教えていただけ得ないでしょうか？」



東海大学 50 円コイル切手 2 枚 和文丸印 福島・須賀川 29.10-8-12

フィラテリストマガジン創刊 20 号記念 額面20 の切手・最初の20枚

スタンペディアコレクション

外国切手ファンの会員から、最近日本切手の話題が多いので、外国クラシックの記事をお願いしますというご要望を頂きました。専門的すぎるのもあれだなあと思い、スタンペディアならではの記事を創刊 20 号記念で書いてみることにしました。

創刊 20 号にちなみ、額面「20」の切手、最初の 20 枚はどこで発行されたかについて、スタンペディアのデータベースで調査したところ、次のような結果になりました。

No.	切手	発行年	月日	発行国	cat#
1		1845		米郵便局長切手、セントルイス局	11X3
2		1849	1/1	フランス共和国	3
3		1849	7/1	ベルギー王国	2
4		1850	8/10	ベルギー王国	4
5		1849	9/-	ブラジル帝国	22
6		1851	1/1	サルジニア王国	2
7		1853	9/26	サルジニア王国	5
8		1854	4/18	サルジニア王国	8
9		1854	7/1	フランス帝国	15
10		1854	10/14	スイス連邦	23
11		1855	-	サルジニア王国	12f
12		1858	1/1	ナポリ王国	6
13		1858	2/-	ロシア帝国	3
14		1859	1/1	シシリア王国	17
15		1859	8/27	パルマ公国	14
16		1859	9/1	エミリア＝ロマーニャ州	9
17		1859	10/15	モデナ＝レッジョ公国	12
18		1859	-	グラナダ連合	6
19		1860	1/1	トスカーナ大公国	20
20		1860	-	グラナダ連合	12

世界最初の切手は、言わずもがなの1ペニー（英国ペニーブラック）です。スイスの最初の切手は4ラッペン、バイエルンは1クロイツァーといったように、桁数が1桁の額面の切手が多い中、最初から額面2桁の切手を発行していた国は限られます。

表で見ていただくと、フランス、ベルギー、イタリア（サルジニア、シシリー、モデナ）、スイスと言った南欧諸国に集中していることがわかります。フランを基軸とする通貨の、他の通貨との交換レートが一對多になることにもあらわれますが、額面20の切手は、当初は一部の国から発行される切手に限定して登場することが多かったのです。それでは一つ一つ切手を紹介していきましょう。

1845年 米国郵便局長切手 セントルイス局 20セント

「セントルイス・ベアー」の愛称で呼ばれるこの切手。残念ながらスタンペディアコレクションには収蔵されていません。（画像は10セント）1845.7.1に定められた米国の郵便料金（書状）は、300マイルを境とする距離別料金で、300マイルまでが5C、300マイル以上が10Cでした。重量0.5オンス毎の料金でしたので、20セント切手は、近距離（300mileまで）の4倍重量便もしくは遠距離（300mile以上）の2倍重量使用ということになります。

セントルイス局長切手は、米国郵便局長切手の中では、プロビデンス局（ロードアイランド）、ニューヨーク局の次に入手しやすい局ですが、3種の中で20セントは格段に少ない切手です。



1845 セントルイス・ベアー 10c

1849年1月1日 フランス 一番切手 20サンチームほか

フランスクラシック専門家の有吉伸人氏の登場により、日本国内でも本格的な作品をみることができた時代が到来した、フランス一番シリーズ「セレス」の書状額面ですが、適応期間が1850.6.30までの一年半しかありませんでした。

翌日から書状料金は25Cに値上げされますが、1854.7.1には再び20Cに値下げされ、エンパイア無目打切手20Cが発行されます。1850.7.1の料金改定から書状用額面の刷色は青と定められたため、エンパイア無目打切手の25Cと20Cは両方とも刷色が青なのです。



1854 ナポレオン 20c



フランス 1849 一番切手 セレス 20c

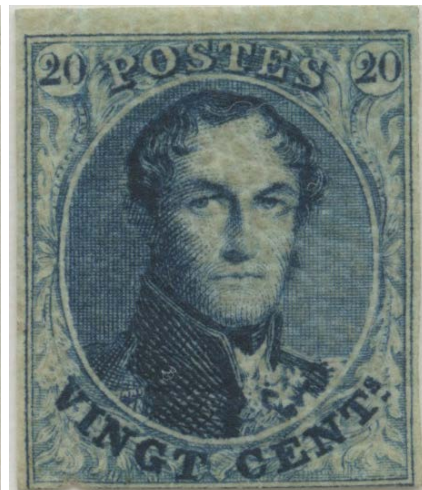
1849年7月1日 ベルギー 一番シリーズ 20 サンチームほか

国王レオポルドー世を描く切手から、メインナンバーで2種類が「額面20の切手、最初の20枚」に入りました。「エポレット」の愛称でフィラテリストに親しまれる一番シリーズを、意匠に描かれたレオポルド1世は気に入らなかったようです。

同年10月に追加発行された40サンチーム額面では、人物像の周囲を楕円で囲んだ「メダリオン」と呼ばれる新しい意匠が採用され、発行済みの20Cも翌年8月にはこの新意匠に切り替えられました。



1849 エポレット 20c



1850 メダリオン 20c

このような経緯で、エポレットの発行期間はわずか一年間。産業が発展し、郵便需要も強かった当時のベルギーですので、カバーは残されていますが、未使用の入手が難しいのが「エポレット」です。

1851年1月1日 サルジニア 一番切手 20 チェンテジミほか

のちにイタリアを統一するサルジニア王国は、イタリア最初の切手発行国で、同国の最初の書状料金は20サンチームでした。

同国のクラシック切手でさらに面白いのは二番シリーズの製造方法です。国王をエンボス加工で表現した切手ですが、インクによる印刷を施さない切手としては世界初になります。

国王肖像のエンボス加工は、切手の偽造対策に有効と考えられたためか、三番切手以降も継続されますが、3番切手以降は白紙が用いられ、印刷が施されています。



1851 サルジニア 20c



1853 サルジニア 20c



1854 サルジニア 20c



1855 サルジニア 20c

1854 年 10 月 14 日 スイス ストゥルーベル 20 サンチーム

青色の書状額面の多い「額面20の切手」ですが、1854年にスイスが発行した20サンチーム切手の刷色はオレンジでした。当時のスイスの国内書状料金は、5C、10C、15Cの距離制でしたので、この切手は基本料金用ではなく、中距離書状（10C）の書留取扱（書状料金の同額を徴収）などに使用されました。

中央集権化・通貨統一後のスイスでは、産業も隆盛し、郵便需要が増大しましたが、ストゥルーベルはその時期を支えた切手シリーズです。版や印刷の違いとともに、様々な用紙バラエティを楽しむことができる切手で、日本切手で言えば、Strubelの20年後に発行される小判切手に似たシリーズです。



1854 Strubel 20c

1858 年 1 月 1 日 ナポリ 一番シリーズ 20 グラナ

ナポリ切手に使用されたインクは酸化しやすい朱色で、スタンペディアコレクションに収蔵されている切手もお世辞にも状態が良いとは言えません。一番切手として、ナポリ王国の紋章を描く7種類の切手が発行されましたが、その中でも二番目の高額切手です。

ところで、スコットカタログでは、ナポリ王国の切手とシチリア王国の切手を『両シチリア王国（Two Sicilies）』の一つにまとめていますが、この分類はヨーロッパのフィラテリストにとって奇異に映るようです。

13世紀末の中世シチリア王国の分裂後、互いに「シチリア王国」を名乗っていた、シチリア島のシチリア王国と、半島側のナポリ王国は、1738年のウィーン条約で同一の1人の王を戴くこととなり、事実上の両シチリア王国の成立と見なされていますが、その後もナポリ王国とシチリア王国は別個の存在のままであり、切手の発行も別々にされ、両者の間に関連性はないためです。



1858 ナポリ 20 Gra

以下にその他のイタリアン・ステーツの額面20の切手を並べますが、左端がシチリア王国の20 Gra切手です。ナポリ王国の20 Gra切手と全く異なることがわかると思います。



1859 シチリア 20 Gra



1859 パルマ 20 c



1859 ロマーニャ 20 c



1860 トスカーナ 20 c

1858 年 2 月 ロシア 二番シリーズ 20 カペイカ

ロシアの一番切手は 1857 年 12 月に発行された無目打の 10 カペイカ切手（カペイカはルーブルの補助通貨で、100 カペイカ＝1 ルーブル）ですが、翌年早々に目打を導入し、10 カペイカに加えて、20 カペイカ、30 カペイカ切手を追加で発行しました。

当初の目打ピッチは 14.5 ないし 15 でしたが、12.5 が使われるようになり、初期の目打ピッチは特に未使用が珍しいものとされています。右の切手は P.14.5 の初期製造切手です。また、下に掲載したカバーは、P.12.5 です。（26 カペイカ分の切手貼り、オデッサ発ロンドン宛て書状，1870 年 10 月）

1858 ロシア 20 k



1859 年 グラナダ連合 一番シリーズ 20 センタボほか

『グラナダ連合』は聞きなれない国名ですが、ヌエバ・グラナダ共和国の憲法改正の結果 1858 年に建国され、1863 年にコロンビア合衆国の形成により廃止された短命な連邦共和国です。

一番シリーズ発行の翌年には類似意匠で、細部の異なる二番シリーズが発行されています。伝統郵趣の面白そうなシリーズです。



1859 グラナダ連合 20 c



1860 グラナダ連合 20 c

凹版印刷された新動植物国宝図版切手

(5) 金剛力士像 500 円

横山 裕三

1. 製造面

この切手は、第2次動植物国宝切手の八つ橋 500 円切手の後継として、1969（昭和 44）年 2 月 1 日に発行され、新動植物国宝切手 1967 年シリーズとして分類されています。1974（昭和 49）年 11 月 11 日に、伐折羅（ばさら）大将図案で大きさも小型化されたグラビア印刷の新 500 円切手が発行されましたので、約 5 年 9 カ月の比較的短い現役期間でした。

切手の大きさは 1966 年シリーズの迦陵頻伽 200 円切手と同じ横 22.5 ミリ、縦 33.0 ミリの大きさですが、1 シートの印面構成は 50 面ではなく、八つ橋 500 円切手と同じ横 4 枚 × 縦 5 枚の 20 面となっています。

図 1 は切手解説書と同じ仕様の学校配布の「教材」です。切手の基本的データが全て網羅されているはずなのですが、刷色の「暗い紫」の記載がありません。

切手の用紙は純白紙、裏糊は無色透明な PVA 糊で特に分類すべきことはなく、無目打、目打洩れなどのエラーや定常変種の類の報告もありません。ただし、目打型式にバラエティがあり、これは若干の考察が必要です。

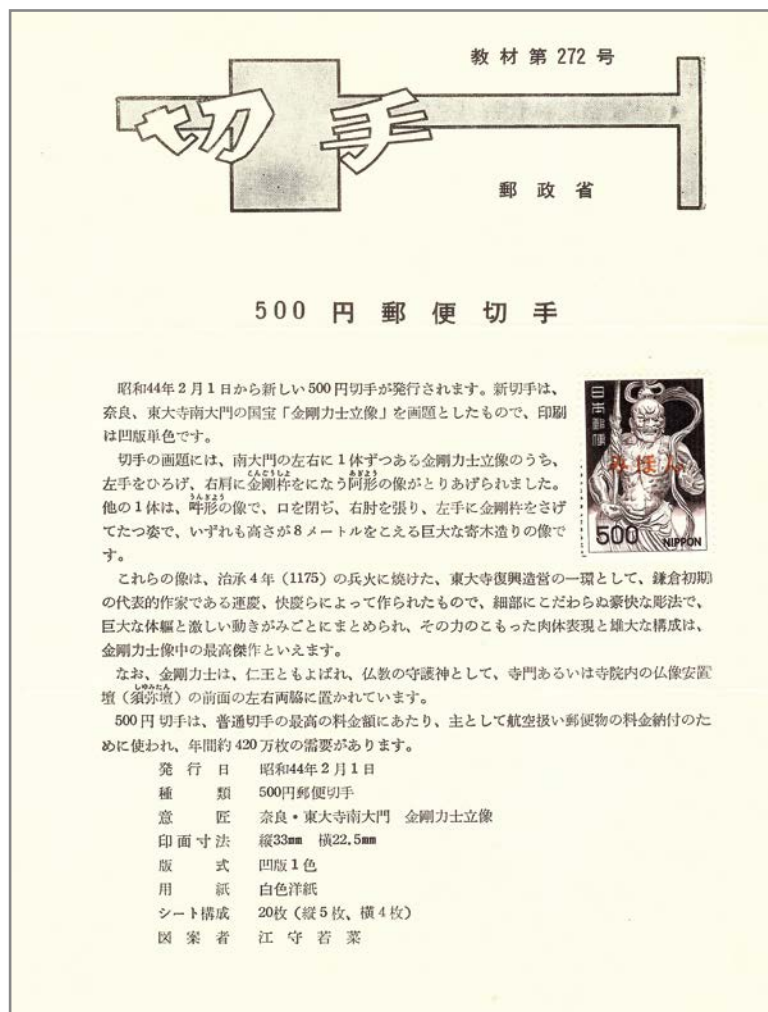


図1 切手解説書

(1) 印刷機、印刷時期、目打型式

①4種の逆抜櫛型目打型式

500円切手の印刷には、速刷機と輪転機が使われています。別冊日本切手名鑑『動植物図案国宝図案』（以下、名鑑という。）の巻末データにも載っており、速刷機印刷分は逆抜櫛型、輪転機印刷分は逆抜櫛型目打の上下抜け、上下抜け・右抜け、上下抜け・左抜けと分類されています。

速刷機と輪転機の2種を使った印刷について初めて報告したのは、おそらく『いずみ』（207号、昭和56年6月20日発行、いずみ切手研究会）に掲載された丸島一廣氏の「新発表」だろうと思われます。

新発表			
○500円仁王(352)凹版 目打K13½ (縦目紙)			
印刷機	製造年度	目打形式	シート構成
速刷機	44(櫛)	45(櫛)	2シート1 体×2ケ
輪転機	46(上下・左右抜)	47(上下抜)48櫛	4シート1 組

この発表が正しいとすれば、速刷機が使われていたのは発行初期の1969(昭和44)年と1970(昭和45)年です。速刷機と言えば昭和20年代の文化人切手の印刷に使用されており、この文化人切手に詳しい宮崎幸二氏によれば、「速刷機の用紙最大寸法500×500ミリ、印刷面最大寸法360×460ミリの制約から、印面寸法22.5×33ミリ、窓口シートの標準外寸122.5×210ミリの金剛力士像は、文化人切手の実用版の並べ方、“4シートが頭合わせの田型に並ぶ”だったと見て間違いのないと思う。」とのこと。輪転機全盛の時代に速刷機が復活したことには意外な感じがします。

この印刷機の違いは、印刷と目打穿孔について複雑な話を生じさせるのですが、それは後述することにして、まず目打型式について先に触れます。

207号

通常切手出現情報
○1円 6ケタ計数番号(669313...) 30番切手
手帳位置(カラーマーク上) 名古屋中央で56.5.14購入。西尾市の村瀬忠保氏(#272)宛。
○新40円 6ケタ計数(20番位置下)逆21 カラーマーク上 保谷局(56.2.20封)
○新40円逆21 西四新居新居局4月初めより出現。神戸ポートピア'81 56年4月末出現。清水市有戸局 カラーマーク下 56年4月中旬(本誌前号に中村俊幸氏既報)
○12円かぶと 56年4月中旬出現の噂?
○12円かぶと 150円 カラーマーク上 56年4月中旬出現の噂?

○新しい通常切手の予定
80円 7月10日 銀 グラビア2色 指定局下谷(外信用)
90円 " 上隅 グラビア2色 指定局下谷(外信用)
100円 " 銀線 グラビア3色 指定局奈良
100円コイル切手も変更ぞ! 近日?
40円 再改正 11月?
410円 再改正? 2千円発行?!

身体障害者福祉強調運動
にちなむ郵便葉書(福祉葉書・青い鳥はがき)
4月20日発行および配布
この葉書は、一般に売りさばくほか、通信記念にちなみ、事業PRの一環として、重度の身体障害者で申し出られた方にさし上げることをする
料額印面意匠・青い鳥 版式刷色・オフセット
3色(青・赤・黄)→インキ3色→版青、赤、黄
緑)・製造所・凸版印刷Kに大阪工場(岩本封印) 包装紙・長方形(簡便包装) 丸大型封紙印(30ミリ)、56.2.24~56.3.6
・全版にある版欠点・宛名赤枠 3種右辺下内部赤小点付着

40円切手追報 #325 中村俊幸
前号報告の40円逆抜櫛型のカラーマークは94番切手でしたが、4番切手にカラーマークがある逆抜櫛型目打40円が出現しました。56年5月14日、静岡県有度局で初見。
有度局の40円切手の配給順序は、逆櫛(カラーマーク94番)→逆櫛型→逆櫛(カラーマーク4番)となったわけ。なお、同局では包装袋を破っており、データが把握できませんでした。5月19日に、静岡県内局でやはり逆櫛(マーク4番)を発見。袋をもらったところ56.2.13包装で、包装者印は「菊地」です。5月26日現在、逆櫛マーク4番は有度局、藤枝及び島田局で発見中です。(有度は確認、藤枝、島田は収取からの情報) 県庁内局は売切れです。

図2 『いずみ』の丸島報告

丸島発表での目打型式は、櫛型、上下抜け・右抜け、上下抜け左抜け、上下抜けの4種があることを示しています。凹版印刷の場合は全て櫛型目打が穿孔され、普通櫛型と逆抜櫛型の2通りがありますが、ここではどちらを言っているのかは明らかではありません。「(櫛)」は、素直に読めば普通櫛型とも読むことができますが、現実には、普通櫛型のシートは見たことがありません。名鑑でも、普通櫛型は記録されていません。

そこで、片岡尤二氏の『現行切手取集入門』（昭和52年8月、日本郵趣出版、以下、片岡本という。）の記述を抜粋してみます。

「目打型式は4種が記録されている。発行当初は逆抜櫛型のみで、目打型式の変化を考えられなかったが、3年以上たつてからの昭和47年6月30日東京・大手町ビル内郵便局で逆抜櫛型の上下左抜という今までとは違った想像外のを発見入手

された（相沢一夫氏）。・・・中略・・・。そして丸ビル内郵便局で逆抜櫛型の上下右抜を入手（荒川富雄氏）したことによって、ますます、この目打型式の成因に興味を持たれたのであった。この成因について三島良績氏に印刷局での調査をお願いしたところ、印刷局では目打型式を変えた事実がないとのことで、ヨコ目打針を抜き忘れてできた一種のエラーということがわかった。この２種はその後、全国各地で出現し、量も多く、エラーといっても何ら普通のものとは変わらない。・・・中略・・・。その後、48年7月23日に東京中央郵便局で逆抜櫛型上下抜が発見され（関根しげる氏）、・・・中略・・・この上下抜は東京・新宿一郵便局に7月2日に既に出現しており、各地で出現したが期間が短いところと最後までのところがあった。最後になって再び最初の逆抜櫛型が出現しているところもあり・・・。」

4種の目打型式の出現順番は、丸島発表と片岡本はほぼ一致しており、片岡本では全て逆抜櫛型ということになっています。であれば、丸島発表の目打4種も全て逆抜櫛型と割り切りたいと思います。それを前提に、丸島発表の情報と片岡本記載の諸データを合わせ、また筆者所蔵の消印データも加味して、ここまでの話を改めて整理してみたのが表1です。

年（度）	製造枚数	印刷機	印刷時のシート構成	穿孔時のシート構成	目打型式	消印の年・月（暫定）
44	500万枚	速刷機	2面横並び頭合（4面）	2面横並び	逆抜櫛型	44年2月～46年11月
45	1,100万枚					
46 （注1）	1,500万枚	輪転機	4面順並びの田型を横に並べて計8面	4面順並びの田型	逆抜櫛型上下・左または右抜け	47年6月～48年7月
47	1,000万				逆抜櫛型上下抜け	48年7月～50年12月
48 （注2）	1,300万			2面横並び	逆抜櫛型	48年11月～49年3月
49	？					

表1 製造年別諸データ
（注1）後述の④を参照 （注2）後述の②を参照

②印刷機と実用版の構成及び目打穿孔方式

速刷機の場合の実用版は、窓口シートが2面横並びになったものが頭合わせに配置された4面構成です。印刷後、目打穿孔前に横に裁断して、窓口シート2面掛けで逆抜櫛型目打を穿孔し、その後に耳紙部分を化粧裁ちして1面ずつに切り離して完成です。

輪転機は、宮崎氏の推定によれば、「文化人切手時代の旧型凹版輪転印刷機ではなく、『新版 切手と印刷』（163頁）に載っているジオリ凹版輪転印刷機で、枚用紙最大寸法558×736ミリ、印刷面最大寸法500×700ミリまで印刷可能なもの。500円切手のシート配置は、おそらく同書の164頁に載っている船シリーズの印刷製品と同じ形態だったものと考えられる。」ということです。

これによると、実用版は、「窓口シート4面が順目に並ぶ田型」のものが2セット、横に並んで輪転機に取り付けられました。結果、窓口シート8面構成で印刷され、目打穿孔前に4面田型ずつに裁断して、窓口シート4面掛けで逆抜櫛型上下抜けの目打を穿孔し、その後に耳紙部分を化粧裁ちして1面ずつに切り離して完成です。

昭和 46 年の製造時は、目打機は 4 面掛けで耳紙の上下に抜けて穿孔する仕様の目打機を使用したものの、中央部分の横の目打針を抜き忘れたため、結果として右抜けと左抜けのシートが生じました。

昭和 47 年の製造時には、中央部分の横の目打を忘れずに抜いたため、正常の上下抜けとなりました。

では、48 年はどうでしょう。

逆抜櫛型を生じさせるためには、速刷機の場合と同じように逆抜櫛型で 2 面掛け穿孔するか、4 面掛けで上段シートの耳紙に目打をしない仕様の逆抜櫛型で穿孔する（この場合、半数が逆抜櫛型で半数が逆抜櫛型上下抜けとなる。）かという、二つの方法があります。表 1 では、一応 2 面掛け穿孔の方を採用しました。（注 2）

ただし料金別納使用の使用済みシートで見ると、48 年以降のデータでも 4 種の目打型式がみられますので、48 年の製造時にどちらの方法で穿孔したのかは、実際のところ断定できません。ただ、48 年までの製造数からみると、「逆抜櫛型」が最も多いと言えます。

なお、速刷機で刷った 4 面及び輪転機で刷った 8 面のそれぞれの印刷シートの各面を区別すること、即ち実用版上の位置関係を区別することは不可能です。定常変種が見つからないこと、そしてシートの耳紙にトンボが全く現れないので区別しようがないことが理由です。

③目打型式

前述のとおり、500 円切手の目打は、縦・横とも 13 1/2 ピッチの逆抜櫛型目打で、耳紙への目打の穿孔状態によって、4 種類に分類されています。櫛型系の目打型式については、本誌第 16 号（2017 秋号）の 200 円切手の稿でくどいほど書いたのですが、印刷機の違いという要素が加わったので、この 4 種類の目打の特徴と穿孔方法を、改めて表 2 にまとめておきます。

	目打型式	目打の特徴	穿孔方式	備考
a	逆抜櫛型 (図 3-1)	・シートの下耳紙に目打が貫通しているが、シートの上耳紙には目打が貫通していない。 ・縦目打の合わせ目のズレが、横目打の上方に現われる。	櫛型目打機（櫛歯が下向き）で、シート横並び 2 面穿孔。	(考えられる別の穿孔方式) 櫛型目打機（櫛歯が下向き）で、シート田形状 4 面穿孔。結果、上段の 2 面が「a」、下段 2 面が「b」
b	逆抜櫛型 上下抜け (図 3-2)	逆抜櫛型で、シートの上耳紙にも目打が貫通している。通常の逆抜櫛型目打の場合は、上の耳紙に目打が貫通していないので、通常のものとは区別するため「上下抜け」という言葉を加えてある。	櫛型目打機（櫛歯が下向き）の上下両抜け仕様で、シート田形状 4 面穿孔。	
c	逆抜櫛型 上下抜け 右抜け (図 3-3)	逆抜櫛型上下抜けで、シートの右の耳紙に目打が貫通している。「d」と左右で対をなす。	・「b」の目打機の中央縦の耳紙部分の横目打針を抜き忘れ、シート田形状 4 面穿孔。 ・結果、左側 2 面が「c」右側 2 面が「d」。	
d	逆抜櫛型 上下抜け 左抜け (図 3-4)	逆抜櫛型上下抜けで、シートの左の耳紙に目打が貫通している。「c」と左右で対をなす		

表 2 目打の分類（逆抜櫛型 4 種）



図 3-1 逆抜櫛型



図 3-2 逆抜櫛型上下抜け



図 3-3 逆抜櫛型上下抜け・右抜け



図 3-4 逆抜櫛型上下抜け・左抜け

④普通櫛型目打の可能性

上記①～③では、逆抜櫛型であることを既定事実として述べてきました。しかし、本当に逆抜櫛型だけで、普通櫛型は無いのでしょうか。確かに、この 500 円切手には、下耳紙に目打がなく上耳紙に目打がある「普通櫛型」が未だに発見されていないので、これは「なし」で良いでしょう。では、「b」「c」「d」の形状の普通櫛型はどうでしょうか。

図 4 は、「上下抜け 左抜け」の使用済シートですが、横目打の下に縦目打のズレがはっきりと現れています。これは、「普通櫛型」の大きな特徴ですので、500 円切手にも「普通櫛型の上下抜け 左抜け」が存在するということではないでしょうか。その場合の穿孔方式は、「c」、「d」を作った上下両抜け仕様で目打針を抜き忘れた 4 面穿孔の目打機と同じですが、「櫛歯を上向き」にした目打機で穿孔されたものだと思います。図のものは左抜けのものですが、これと対になる右抜けのものも存在する筈です。

ただし、一つ疑問があります。目打針を「櫛歯が下向き」と「櫛歯が上向き」の二つの目打枠をわざわざ作り、ご丁寧に二つとも目打針を抜き忘れたというのは考え難いことです。おそらく、目打枠は一つで、櫛歯の向きを下向きにしても上向きにしても、どちらの向きでも目打機にセットできたのではないかと思います。（穿孔するシートの上下を逆に置いただけ、という説も未だ捨てきれませんが。）

さらに、右抜け・左抜けになっていない上下抜け、つまり「普通櫛型上下抜け」もあるかもしれません。この「普通櫛型上下抜け」は、200 円切手にも出現した珍しい目打です。別納使用済みシートは入手し易いですから、普通櫛型上下抜けを、是非探してみてください。

以上のとおり、この 500 円切手の目打型式は、表 1 の昭和 46 年製造の行に、輪転機印刷・4 面穿孔・「普通櫛型上下抜け・左抜け」を加えておく必要がありそうです。さらに、この「右抜け」も早晚追加になるでしょう。（注 1）また、表 2 には、次の 2 行を加えて置かなければならないと思います。

	目打型式	目打の特徴	穿孔方式	備考
e	普通櫛型 上下抜け・右抜け	普通櫛型上下抜けで、シートの右の耳紙に目打が貫通している。「f」と左右の対をなす。	「c」「d」を穿孔した目打枠を櫛歯が上向きになるように逆に取り付けたものか？穿孔するシート面を。上下逆に置いたものか？	
f	普通櫛型 上下抜け・左抜け (図 4)	普通櫛型上下抜けで、シートの左の耳紙に目打が貫通している。「e」と左右の対をなす		

表 3 目打の分類 (追加)

(3) 印刷機による印面の違い

前述のとおり、速刷機版も輪転機版も、各印刷機に取り付けた実用版のシート面を区別することは不可能ですが、速刷機版と輪転機版で刷られた個々の切手を区別することは可能なのでしょうか？ その手掛かりになるのは、用紙、刷色、原版の違いですが、用紙はこれといった違いはありません。刷色は、濃淡やコントラストの強弱のようなものは見かけられますが、決め手に欠けます。では、原版はどうでしょうか。

速刷機は平面版ですから、原版、転写された実用版印面及び刷られた印面のそれぞれのサイズは、同じ値と考えられます。輪転機は、版面が円筒形になるため、実用版に転写する原版は、円周方向の大きさは微妙に調整されている筈で、速刷機と輪転機の原版は、別物ということになります。

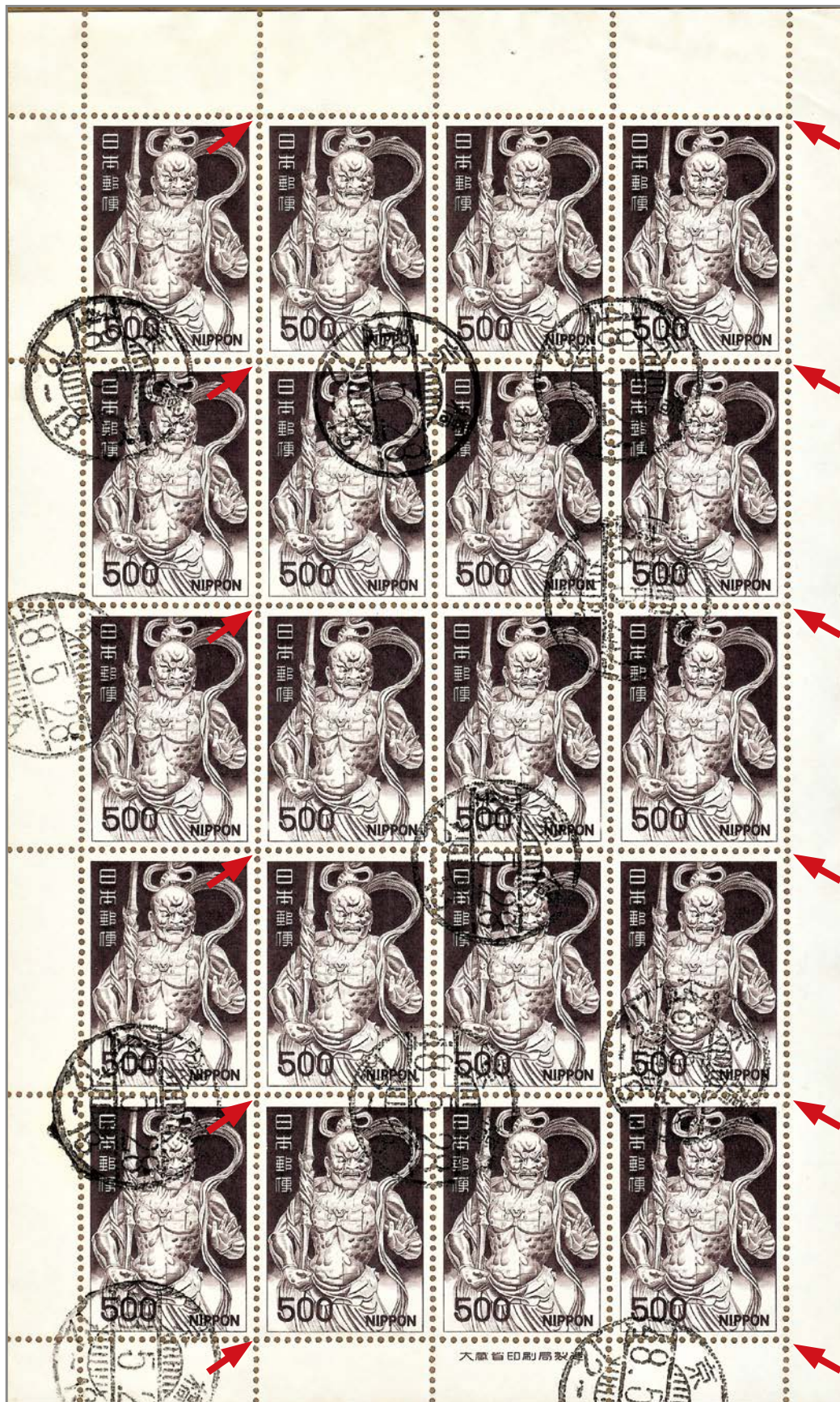


図4 上下抜け 左抜けで普通櫛型の特徴を持つシート

そこで、刷られた印面サイズに違いや二つの原版の違いを示す証拠（秘符）を調べているのですが、残念ながら、見つけることができないでいます。精巧に作られていると感心せざるを得ません。これに関しては、皆様からの新たな報告を期待したいと思います。特に、速刷機版「逆抜櫛型」と輪転機版「逆抜櫛型」は、何とか区別したいものです。

2. 使用面

(1) 適正・適応使用例.

まず、郵便料金表を眺めながら、この切手の適正・適応使用例（同額面の後継の普通切手が発行されるまでに、1枚貼り又は1枚で加貼できる料金）として考えられる料金の組み合わせを拾ってみます。（リストは45-46ページに掲載）

500円額面の切手は、通常の普通切手サイズに小型化された伐折羅大将図案の新切手が1974（昭和49）年11月11日に発行されましたので、この大型の500円切手の適正・適応使用期間は、同年11月10日までとなります。

この間、郵便料金としての500円は、まだ高額の方の部類であり、使用は極く限られた書状の特殊取扱いや小包使用に限られます。また、外国宛郵便も印刷物の重量便の特殊取扱いや小包なので、一例でも入れば御の字でしょう。どちらかという、最初から料金別納の料金納付に使う目的が強かったようで、別納使用済シートは沢山残されています

昭和47年以降は、料金の値上げにより使い易くなりますが、やはり難しいことに変わりはありません。また、伐折羅大将500円切手への切替わりが遅かったようで、昭和48年以降は国内・外国宛ともに多く使用されていますが、適正・適応とは関係のない貼り合わせの混貼が多くなっています。

①発行日の1969（昭和44）年2月1日～1971（昭和46）年6月30日

この時期の適正・適応使用はとても少なく、郵趣家が意識的に作って残してくれたもので我慢しなければなりません。図5は、リスト1の現金書留・速達・配達証明・引受時刻証明で1970（昭和45）年12月の使用です。要賠償額は、95,000円超え97,000円で料金295円（3,000円迄60円、3,000円超えは2,000円毎5円につき、5円×47倍＝235円）、速達料50円、配達証明料70円、引受時刻証明料70円で計485円。これに定形書状15円を加えて合計500円となります。引受時刻証明を付ける必然性はありませんし、何しろ差出人は著名な収集家ですので、郵趣家便であることは一目瞭然です。

②1971（昭和46）年7月1日～1972（昭和47）年1月31日

いわゆる7ヶ月料金期間の物品書留で、高額の要償額付きです。あるのでしょうか。

③1971（昭和46）年7月1日～1974（昭和49）年9月30日

国内小包の1枚貼りは難しいですが、リスト15の第2地帯宛（4kg～5kg）やリスト17の第3地帯（2kg～3kg）などはあるそうと思っていましたら、収友がリスト11の図6を持っていました。

④1972（昭和47）年2月1日～1974（昭和49）年11月10日（新切手の発行前日）

国内料金の基本料金が改正されました。速達料と書留料は前年7月1日に改正されていました。図7は、見た目は図5と同じ現金書留・速達・配達証明・引受時刻証明ですが、使用は昭和49年6月です。要賠償額は85,000円超え90,000円で料金270円（5,000円迄100円、5,000円超えは5,000円毎10円につき、10円×17倍＝170円）、速達料70円、配達証明料70円、引受時刻証明料70円で計480円。これに定形書状20円を加えて合計500円です。一見すると一般使用のように見えますが、これも郵趣家便で、作った本人から譲り受けました。



図5 現封19（製造銘なし）使用
現金書留・速達・配達証明・引受時刻証明
要償額95,000円超え97,000円迄
武生 昭和45年12月28日

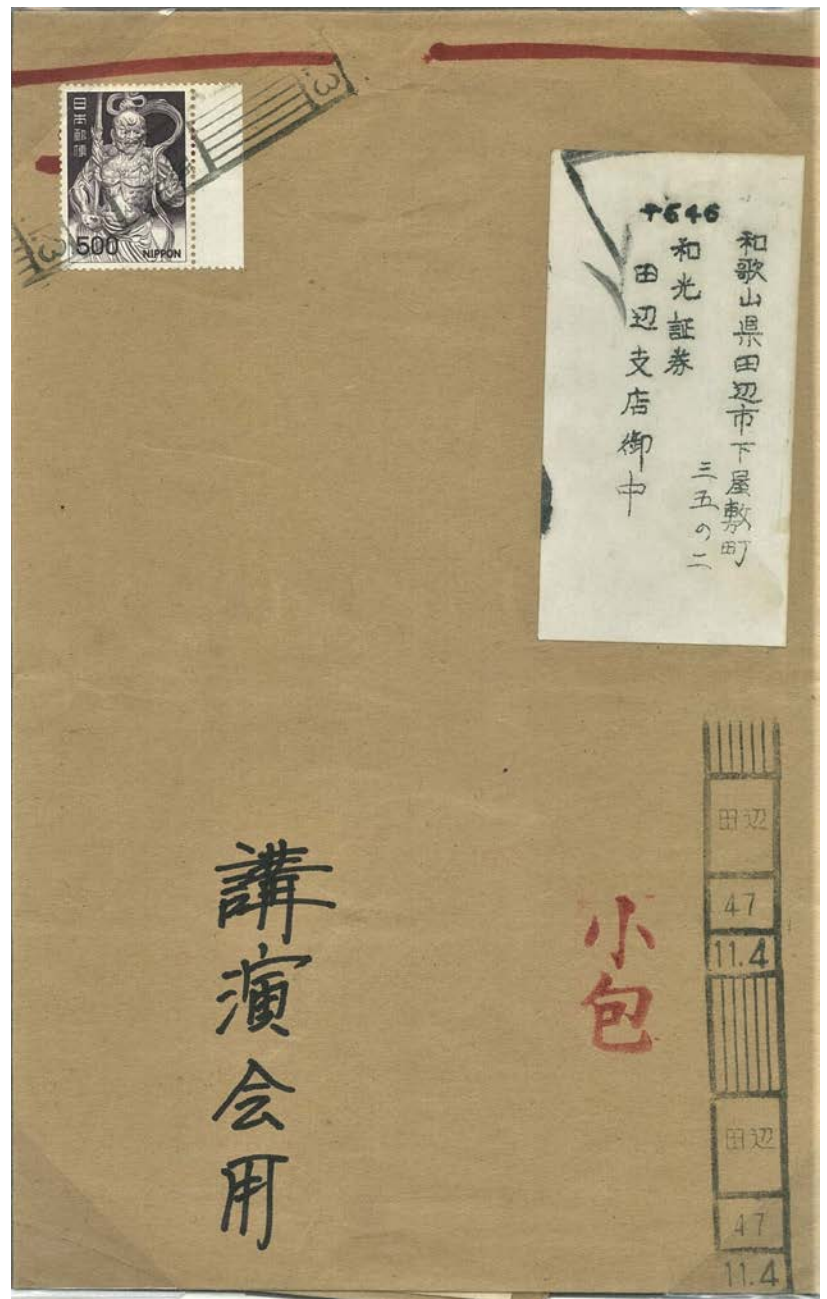


図6
小包第1地帯その他宛 速達小包（水谷行秀氏蔵）
小包料（3kg～4kg）350円＋速達料（2kg～6kg）150円 計500円
大阪中央 昭和47年11月4日

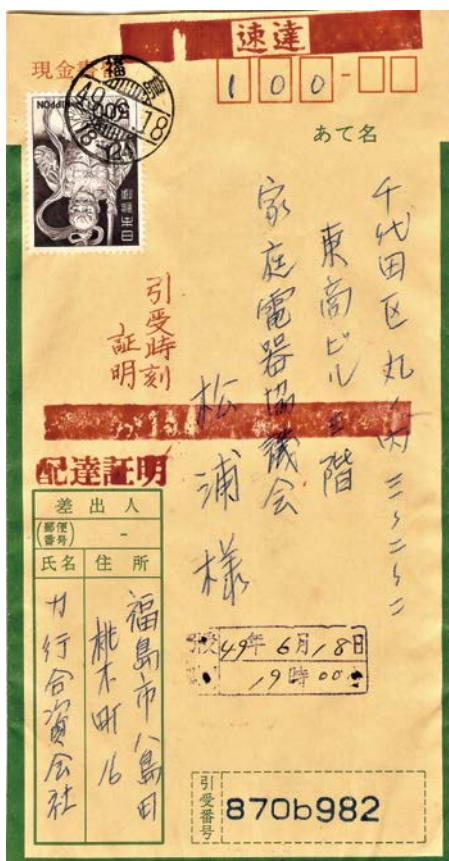


図7 現封19（製造銘なし）使用
現金書留・速達・配達証明・引受時刻証明
要償額85,000円超え90,000円迄
福島 昭和49年6月18日

⑤ 1972（昭和 47）年 7 月 1 日～ 1974（昭和 49）年 11 月 10 日（新切手の発行前日）

図 8 は、リスト 21 の 1973（昭和 48）年 7 月の使用。第 2 地帯宛航空便書状の 7 倍重量便で、10 g までの基本料金 80 円に基本重量超え 60g ～ 70g 迄の加算 420 円を加えて 500 円となったものです。

図 9 は、図 8 と同じ重量便で、書留扱いにしたため、料金の 100 円切手が加貼されたもので、両方の切手とも適応使用というものです。

なお、名鑑には、リスト 24 と思われるオランダ宛の別配達価格表記書状が掲載されています。しかし、封筒に重量 8 g、価格 2 フランとありますので、価格表記書状 200 円 + 書留料 100 円 + 価格表記料は 50 円（200 フラン迄）で、合計料金は 350 円だと思ふのですが。



図 8 航空便書状第 2 地帯 米国宛 TOKYO 欧文ローラー印 1973 年 7 月 26 日
書状基本料金 10 g 迄 80 円 + 超え 60 g ～ 70 g 迄 420 円 計 500 円

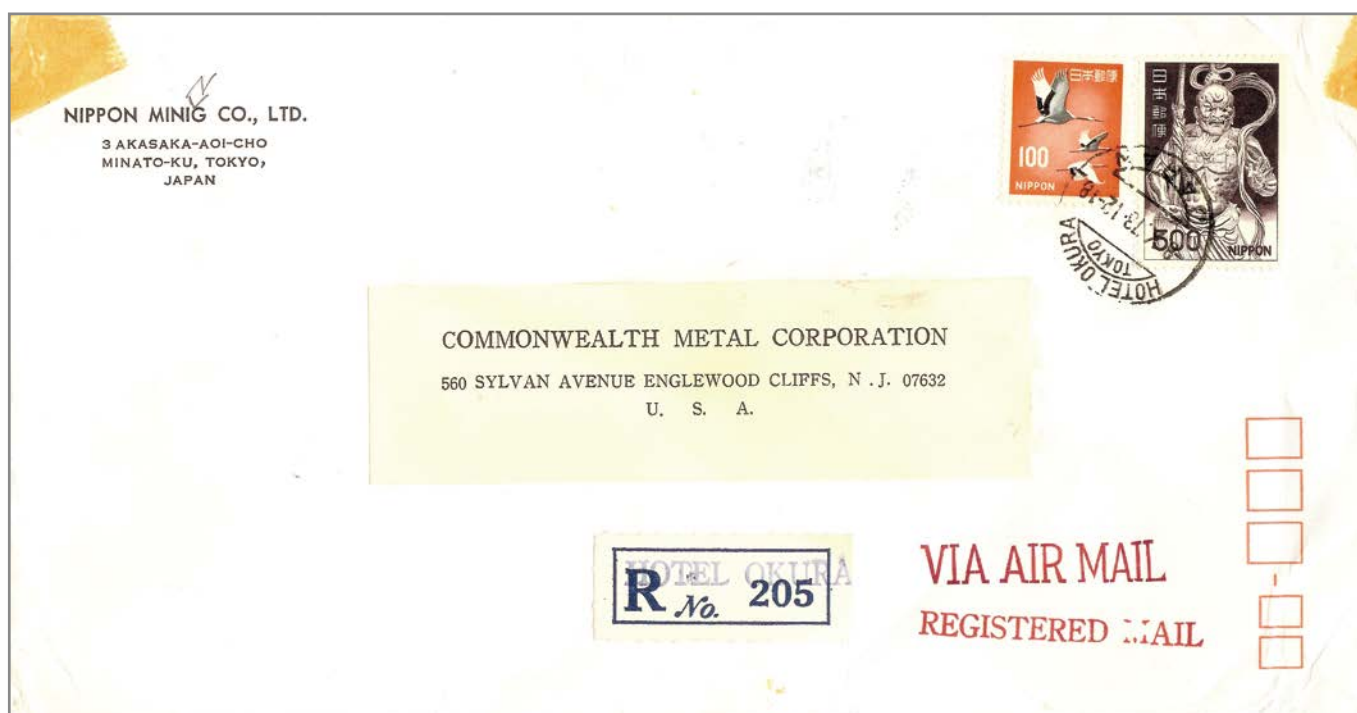


図 9 航空便書状第 2 地帯 米国宛 書留料 100 円加貼 HOTEL OKURA 1973 年 10 月 8 日

⑥ 1974 (昭和 49) 年 10 月 1 日～1974 (昭和 49) 年 11 月 10 日 (新切手の発行前日)

新切手発行直前の 10 月に小包料金の改正が実施され、約 1 カ月間の適応使用期間です。存在しているなら、とても稀少な使用例となるでしょう。この料金での 11 月以降の使用例でも、珍しいものと言えるでしょう。

⑦発行日の 1969 (昭和 44) 年 2 月 1 日～1971 (昭和 46) 年 6 月 30 日

⑧発行日の 1969 (昭和 44) 年 2 月 1 日～1969 (昭和 44) 年 6 月 30 日

⑨ 1969 (昭和 44) 年 7 月 1 日～1971 (昭和 46) 年 6 月 30 日

⑩ 1971 (昭和 46) 年 7 月 1 日～1974 (昭和 49) 年 9 月 30 日

⑪ 1971 (昭和 46) 年 7 月 1 日～1972 (昭和 47) 年 5 月 14 日

⑫ 1972 (昭和 47) 年 5 月 15 日～1972 (昭和 47) 年 6 月 30 日

⑬ 1974 (昭和 49) 年 10 月 1 日～1974 (昭和 49) 年 11 月 10 日 (新切手の発行前日)

⑦～⑬の料金期間区分は外国宛の小包料金ですが、どれ一つとっても差し出された量は少ないでしょうし、まして残されているものがあるとはとても思えません。何かしらあれば、目の保養にしてみたいものです。

(2) 理に適った混貼使用例

金剛力士像 500 円切手は、適正・適応使用例だけに目を向けていては、なかなか使用例は集まりません。国内郵便では小包以外は自然な形で料金が 500 円を超えることはありませんが、外国宛郵便であれば重量便と別配達や書留を付けることによって優に 500 円を超えることが多くなります。その場合、郵便局の窓口では、高額切手から降順に料金に合う切手を貼っていくので、500 円を超えればこの切手を最初に貼り付けることになり、これは窓口での切手取扱上、理に適ったやり方です。

図 10 は、①の料金区分期間を 1972 (昭和 47) 年 6 月 30 日まで延ばした外国郵便の料金区分期間に対応した第 2 地帯米国宛の 8 倍重量便書状です。10 g までの基本料金 90 円に基本重量超え 70g～80g 迄の加算 560 円を加えて 650 円となったもので、1970 (昭和 45) 年 4 月の使用です。500 円切手を貼った残りの 150 円分を、75 円切手 2 枚で対応しています。

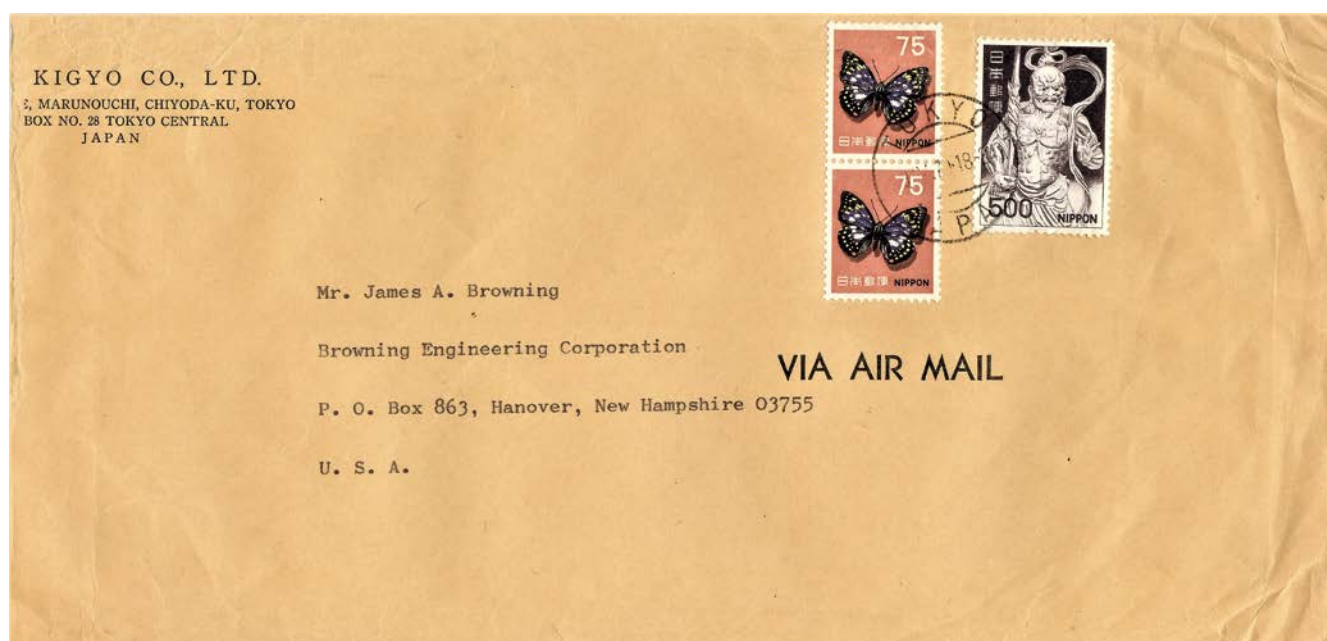


図 10 航空便書状第 2 地帯 米国宛 TOKYO 1970 年 4 月 9 日
書状基本料金 10 g 迄 90 円+超え 70 g～80 g 迄 560 円 計 650 円

図 11 ～ 14 は、⑤の料金区分期間の使用例です。

まず、図 11 は、第 2 地帯カナダ宛の 6 倍重量便書留書状です。10 g までの基本料金 80 円に基本重量超え 50g ～ 60g 迄の加算 350 円を加え、さらに書留料 100 円で 530 円となったもので、昭和 47 年 12 月の使用です。500 円切手を貼った残りを、30 円切手 1 枚で対応しています。

図 12 は、第 2 地帯米国宛の 8 倍重量便書状です。10 g までの基本料金 80 円に基本重量超え 70g ～ 80g 迄の加算 490 円を加えて 570 円となったもので、1973（昭和 48）年 12 月の使用です。500 円切手を貼って、残りは 70 円切手 1 枚で対応しています。



図 11 航空便書状第 2 地帯 カナダ宛 KANDA 1972 年 12 月 29 日
書状基本料金 10 g 迄 80 円 + 超え 50 g ～ 60 g 迄 350 円 + 書留料 100 円 計 530 円



図 12 航空便書状第 2 地帯 米国宛 KAMAISHI 1973 年 12 月 17 日
書状基本料金 10 g 迄 80 円 + 超え 70 g ～ 80 g 迄 490 円 計 570 円

図 13 は、第3地帯西ドイツ宛の 5 倍重量便別配達書状です。10 gまでの基本料金 100 円に基本重量超え 40g ~ 50g 迄の加算 360 円を加え、さらに別配達料 100 円で 560 円となったもので、昭和 48 年 5 月の使用です。500 円切手を貼って、残りを 60 円切手 1 枚で対応しています。

図 14 は、第3地帯西ドイツ宛の 6 倍重量便書状です。10 gまでの基本料金 100 円に基本重量超え 50g ~ 60g 迄の加算 450 円を加えて 550 円となったもので、1974 (昭和 49) 年 7 月の使用です。500 円切手を貼った残りを、50 円切手 1 枚で対応しています。



図 13 航空便書状第3地帯 西ドイツ宛 YOKOHAMA 1973年5月16日
書状基本料金 10 g 迄 100 円+超え 40 g ~ 50 g 迄 360 円 + 別配達料 100 円 計 560 円



図 14 航空便書状第3地帯 西ドイツ宛 SHIBUYA 1974年7月3日
書状基本料金 10 g 迄 100 円+超え 50 g ~ 60 g 迄 450 円 計 550 円

(3) 多数貼り

高額切手であるため、1974（昭和 49）年 11 月までの現役期間中における多数貼りの郵便物は、国内便ではまず見られません。外国宛であれば、重量便書状に 2 ～ 3 枚貼付した例は多く見られますが、他の切手との混貼ばかりです。

図 15 は、図 5 と同じく①の料金区分期間を昭和 47 年 6 月 30 日まで延ばした外国郵便の料金区分期間に対応した第 2 地帯米国宛の、実に 32 倍重量便書状です。10 g までの基本料金 90 円に基本重量超え 310g ～ 320g 迄の加算 2,480 円を加えて 2,570 円となったもので、500 円切手を 5 枚も貼って残りの 70 円分を、25 円と 45 円切手 2 枚で対応しています。

問題は、使用年月日です。ご覧のとおり日付印がなく、東京空港局の消印漏れ消印が 2 カ所に押捺されて切手が抹消されています。封筒には、日付が分かる手掛かりは一切ないのですが、貼付切手の合計額と一致するのはこの期間の料金だけで、その後の昭和 47 年 7 月 1 日改正、1976（昭和 51）年 1 月 25 日改正の料金では、過不足が生じてしまいます。また、1972 年シリーズの 25 円切手の発行は昭和 47 年 1 月 21 日です。この 2 点から、この重量便の差出日は、昭和 47 年 1 月 21 日～同年 6 月 30 日まで間であると推定しました。

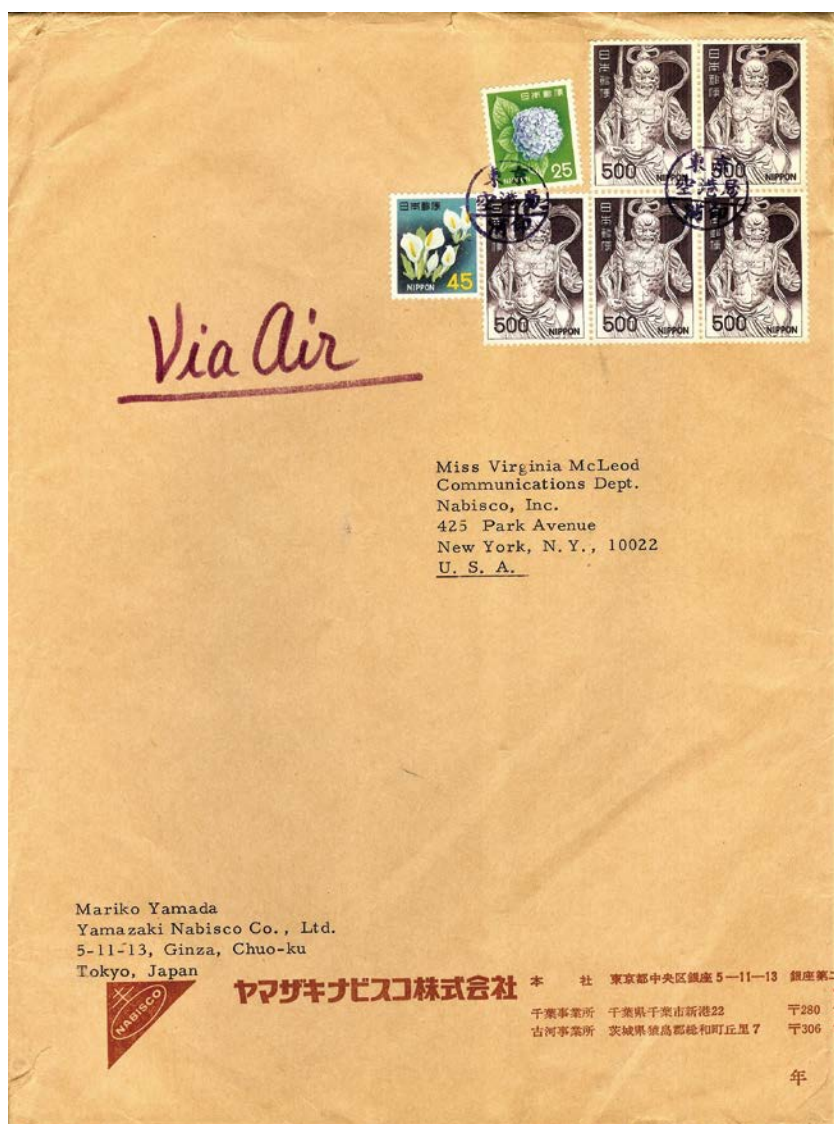


図 15 航空便書状第 2 地帯 米国宛 東京空港局の消印漏れ印で抹消
1972 年 1 月 21 日～同年 6 月 30 日の使用
書状基本料金 10 g 迄 90 円+超え 310 g ～ 320 g 迄 2,480 円 計 2,570 円

図16は、1971（昭和46）年10月7日に長崎県の大村郵便局から差し出された内容証明の謄本です。この時（昭和41年7月1日～51年1月24日）の料金は、証明用紙1枚目は100円、2枚目からは1枚毎に50円でしたので、全部で19枚という長文の内容証明です。郵便局保管分だけに料金相当の切手が貼られますが、このようなものは究極の局内使用例として、1通ぐらいは持っていて良いと思います。

⑤の外国宛の料金期間は、1976（昭和51）年1月24日まで続くのですが、図17は、1975（昭和50）年8月に出された2枚貼り第3地帯ペルー宛の10倍重量便書状です。1974（昭和49）年11月11日に新500円切手が発行されたので、その後の使用となりますが、これだけの貫禄品は無視できません。また、第3地帯宛はヨーロッパ宛が圧倒的に多いので、南米宛は稀少でしょう。

なお、1000円切手の発行は1975（昭和50）年4月22日ですから、本来は1000円切手1枚貼りもあり得た筈ですが、この切手の2枚貼りも味わいがあります。

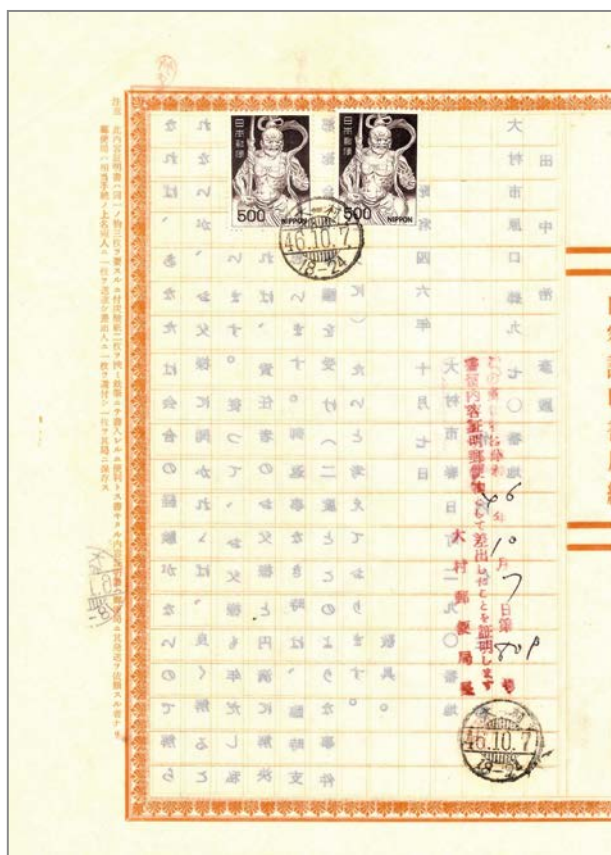


図16 郵便局保管謄本の最終頁に切手を貼付して消印押捺。大村 昭和46年10月7日
1枚目100円+超え1枚毎50円×18枚900円 計1000円



図17 航空便書状第3地帯ペルー宛（水谷行秀氏蔵）

OSAKAJOTO 1975年8月27日

書状基本料金 10 g 迄 100円+超え 90 g ~ 100 g 迄 900円 計1000円

(4) 新切手発行後の料金改正で生じた 1 枚貼り使用例

1974（昭和 49）年 11 月 11 日の新 500 円切手発行から 1 年 2 カ月後の 1976（昭和 51）年 1 月 25 日に、国内及び外国宛の郵便料金がインフラ気味に全面改正されたことにより、500 円切手の使い道がかなり身近なものになりました。まだ郵便局に旧切手が残っていたとみえて、最後の奉公でかなり使用され、特に国内便では 1 枚で適応する料金があります。基本的なものは、後期使用例として集めておかざるを得ないと思います。

図 18 は、書状 50 円、速達料 150 円、書留料 300 円でちょうど 500 円。図 19 は、書留料 300 円と配達証明料 200 円でちょうど 500 円になり、特殊取扱い料金を 1 枚で貼ることができました。

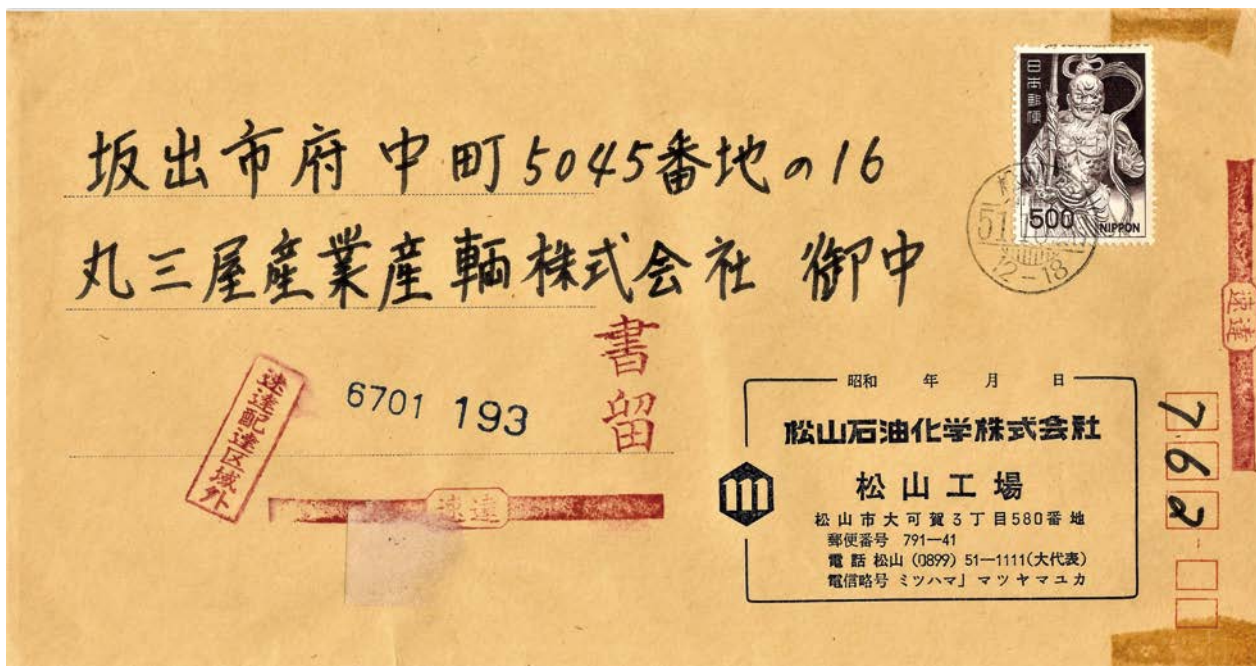


図 18 書留・速達書状 書状 50 円 書留料 300 円 速達料 150 円 松山西 昭和 51 年 10 月 26 日

(5) 消印

消印は、櫛型印、ローラー印、欧文印、欧文ローラー印とも、料金別納に沢山使用されましたので、単片やブロックで集めることは容易です。しかし、図 20 の最初期印と後期使用例の部に入りますが図 21 の試行ローラー印などは、気をつけて集めておくべきでしょう。



図 20 （水谷行秀氏蔵）
発行初期の和文ローラー印
大阪南 昭和 44 年 2 月 21 日



図 21 （水谷行秀氏蔵）
I 期の試行ローラー印
福山 昭和 50 年 4 月 15 日

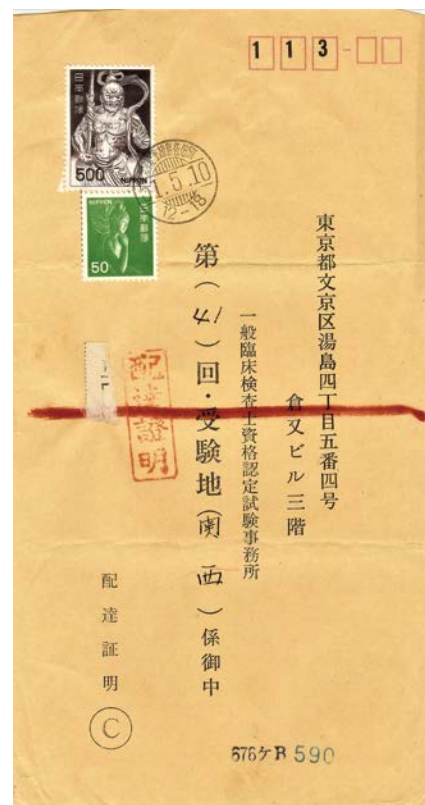


図 19 書留・配達証明書状
書状 50 円 書留料 300 円
配達証明料 150 円
愛媛・宇和島佐伯町 昭和
51 年 5 月 10 日

金剛力士像 500 円切手の適正・適応使用例

- ①発行日の 1969 (昭和 44) 年 2 月 1 日～1971 (昭和 46) 年 6 月 30 日
- 1 (国内) 現金書留 定形 速達・配達証明・引受時刻証明 (～25g) 15 円 + (要償額 96,000 円～97,000 円) 295 円 + 速達料 50 円 + 配達証明 70 円 + 引受時刻証明 70 円 (図 5)
 - 2 (国内) 定形書状書留 物品 15 円 + (要償額 850,000 円～853,000 円) 書留料 485 円
 - 3 (国内) 書留 物品 (要償額 880,000 円～883,000 円) 500 円加貼
 - 4 (国内) 定形外書状書留・速達・配達証明 (500g～1kg) 200 円 + (要償額 140,000～143,000 円) 書留料 130 円 + (500g～1kg) 速達料 100 円 + 配達証明料 70 円
 - 5 (国内) 定形外書状書留・速達・配達証明・引受時刻証明 (500g～1kg) 200 円 + (要償額～3,000 円) 書留料 60 円 + (500g～1kg) 速達料 100 円 + 配達証明料 70 円 + 引受時刻証明 70 円
 - 6 (外国) 航空便印刷物 第 1 地帯宛 重量便書留 (～20 g) 40 円 + (基本重量超え 260g～280g) 加算 390 円 + 書留料 70 円
 - 7 (外国) 航空便小型包装物 第 1 地帯宛 重量便書留 (～80 g) 130 円 + (基本重量超え 260g～280g) 加算 300 円 + 書留料 70 円
 - 8 (外国) 航空便価格表記書状 第 1 地帯宛 重量便 (～10 g) 130 円 + 書留料 70 円 + 価格表記料 (1000～1200 フラン) 300 円
- ② 1971 (昭和 46) 年 7 月 1 日～1972 (昭和 47) 年 1 月 31 日
- 9 (国内) 定形重量便書状書留 物品 20 円 + (要償額 950,000 円～955,000 円) 書留料 480 円
 - 10 (国内) 書留速達 物品 (要償額 750,000 円～755,000 円) 400 円 + 速達料 100 円 計 500 円加貼
- ③ 1971 (昭和 46) 年 7 月 1 日～1974 (昭和 49) 年 9 月 30 日
- 11 (国内) 小包 第 1 地帯その他宛 速達 (3kg～4kg) 350 円 + 速達料 (2kg～6kg) 150 円 (図 6)
 - 12 (国内) 小包 第 1 地帯その他宛 書留 (4kg～5kg) 400 円 + 書留料 100 円
 - 13 (国内) 小包 第 2 地帯宛 書留速達 (～1kg) 300 円 + 物品書留料 100 円 + 速達料 (～2kg) 100 円
 - 14 (国内) 小包 第 2 地帯宛 書留 (2kg～3kg) 400 円 + 書留料 100 円
 - 15 (国内) 小包 第 2 地帯宛 (4kg～5kg) 500 円
 - 16 (国内) 小包 第 3 地帯宛 書留 (～1kg) 400 円 + 書留料 100 円
 - 17 (国内) 小包 第 3 地帯宛 (2kg～3kg) 500 円
- ④ 1972 (昭和 47) 年 2 月 1 日～1974 (昭和 49) 年 11 月 10 日 (新切手の発行前日)
- 18 (国内) 現金書留 定形 速達・配達証明・引受時刻証明 (～25g) 20 円 + (要償額 85,000 円～90,000 円) 270 円 + 速達料 70 円 + 配達証明 70 円 + 引受時刻証明 70 円 (図 7)
 - 19 (国内) 定形書状書留 物品 20 円 + (要償額 950,000 円～955,000 円) 書留料 480 円
 - 20 (国内) 書留 物品 (要償額 1,000,000 円～1,005,000 円) 500 円加貼
- ⑤ 1972 (昭和 47) 年 7 月 1 日～1974 (昭和 49) 年 11 月 10 日 (新切手の発行前日)
- 21 (外国) 航空便書状 第 2 地帯宛 重量便 (図 8、9) (～10 g) 80 円 + (基本重量超え 60g～70g) 加算 420 円
 - 22 (外国) 航空便印刷物 第 1 地帯宛 重量便書留 (～20 g) 40 円 + (基本重量超え 240g～260g) 加算 360 円 + 書留料 100 円
 - 23 (外国) 航空便印刷物 第 1 地帯宛 重量便別配達 (～20 g) 40 円 + (基本重量超え 240g～260g) 加算 360 円 + 別配達料 100 円
 - 24 (外国) 航空便価格表記書状 第 3 地帯宛 (～10 g) 200 円 + 書留料 100 円 + 価格表記料 (800～1000 フラン) 200 円
- ⑥ 1974 (昭和 49) 年 10 月 1 日～1974 (昭和 49) 年 11 月 10 日 (新切手の発行前日)
- 25 (国内) 小包 第 1 地帯市内宛 書留速達 (1kg～2kg) 300 円 + 書留料 100 円 + 速達料 (～2kg) 100 円
 - 26 (国内) 小包 第 1 地帯市内宛 速達 (2kg～3kg) 350 円 + 速達料 (2kg～6kg) 150 円
 - 27 (国内) 小包 第 1 地帯市内宛 書留 (3kg～4kg) 400 円 + 書留料 100 円
 - 28 (国内) 小包 第 1 地帯市内宛 (5kg～6kg) 500 円
- ⑦発行日の 1969 (昭和 44) 年 2 月 1 日～1971 (昭和 46) 年 6 月 30 日
- 29 (外国) 小包 船便 (1kg刻み) (～1kg) 500 円 ビルマ (直接)、カイマン (米国経由)、アラブ連合共和国エジプト (ガザ島を除く各地) (直接)
 - 30 (外国) 小包 航空便 (1kg刻み)
 - グアム (600 g～700 g) 基本料金 (～1kg) 150 円 + 航空加算 (600 g～700 g) 350 円
 - マレーシア (100 g～200 g) 基本料金 (～1kg) 320 円 + 航空加算 (100 g～200 g) 180 円
 - ホンジュラス (～100 g) 基本料金 (～1kg) 320 円 + 航空加算 (～100 g) 180 円
 - サウジアラビア (～100 g) 基本料金 (～1kg) 320 円 + 航空加算 (～100 g) 180 円
 - オーストリア (～100 g) 基本料金 (～1kg) 320 円 + 航空加算 (～100 g) 180 円
 - ポーランド (～100 g) 基本料金 (～1kg) 320 円 + 航空加算 (～100 g) 180 円
 - 南西諸島 (1.1kg～1.2kg) 基本料金 (1kg～3kg) 260 円 + 航空加算 (1.1kg～1.2kg) 240 円
- ⑧発行日の 1969 (昭和 44) 年 2 月 1 日～1969 (昭和 44) 年 6 月 30 日
- 31 (外国) 小包 船便 (1kg刻み) (～1kg)
 - デンマーク (スエズ経由)、ケニヤ (直接)、タンザニア (直接)
- ⑨ 1969 (昭和 44) 年 7 月 1 日～1971 (昭和 46) 年 6 月 30 日
- 32 (外国) 小包 船便 (1kg刻み) (～1kg) ソロモン (オーストラリア経由)
- ⑩ 1971 (昭和 46) 年 7 月 1 日～1974 (昭和 49) 年 9 月 30 日
- 33 (外国) 小包 船便 (1kg刻み)
 - 連合小包 第 1 地帯 (韓国、台湾他) (～1kg)
 - 第 3 地帯 (インドネシア、マレーシア他) (～1kg)
 - 南西諸島宛 (1kg～2kg) * 南西諸島宛は沖縄復帰前日 1972 (昭和 47) 年 5 月 14 日迄。
 - 特約小包 フィリピン、米国、カナダ、南アフリカ (～1kg)

⑪ 1971 (昭和 46) 年 7 月 1 日～1972 (昭和 47) 年 5 月 14 日

34 (外国) 小包 航空便 (1kg 刻み)

連合小包 第 1 地帯 (韓国、台湾他) 2kg～3kg の加算分 250 円 ×2
第 4 地帯 (セイロン、インド他) 1kg～2kg の加算分 500 円
南西諸島宛 (～1kg)

⑫ 1972 昭和 47) 年 5 月 15 日～1972 (昭和 47) 年 6 月 30 日

35 (外国) 小包 航空便 (500 g 刻み)

連合小包 第 1 地帯 (韓国、台湾他) 1kg～1.5kg の加算分 250 円 ×2
第 4 地帯 (セイロン、インド他) 500 g～1kg の加算分 500 円

⑬ 1974 (昭和 49) 年 10 月 1 日～1974 (昭和 49) 年 11 月 10 日 (新切手の発行前日)

36 (外国) 小包 船便 (1kg 刻み) (2kg～3kg の 250 円 ×2=500 円分の加算)

連合小包 第 4 地帯 (セイロン、インド他)、第 6 地帯 (サウジアラビア、トルコ他)、特約小包 カナダ、南アフリカ)

37 (外国) 小包 航空便 (500 g 刻み)

連合小包 第 1 地帯 (韓国、台湾他) 1kg～1.5kg の加算分 250 円 ×2
第 4 地帯 (セイロン、インド他) 500 g～1kg の加算分 500 円

号外発行のお知らせ

2016年より開始した号外の JAPEX 参観ガイド（右図）には全日展ガイドを大きく上回る賞賛の声をいただいております。

これはひとえに JAPEX が巨大な切手展で、予習しないととても回りきれないボリュームだからだと思います。

編集も大変です。今年もなんとかマンパワーを確保できましたので、号外（参観ガイド）を発行いたします。

11月12日発行予定
約160ページフルカラー



JAPEX2018 出品者のみなさまへ

「JAPEX2018 参観ガイド」のメインコンテンツは、出品者による「私の作品の注目ポイント」です。紙幅に制限のある出品目録では語り尽くせない、展示作品を見るにあたり必要な事前知識の紹介や、作品の解説、そして展示マテリアルの紹介など、みなさんの本音をどうぞお寄せください。

お送り頂きたいもの

1. 文章（テキスト）：作品参観に役立つならば内容は自由です。ページ数は、少ない方で1ページ、多い方で8ページ程度の割り当てが可能です。全体で200ページ程度にまとめる予定ですので、冗長にならぬ様、編集についてはお任せ下さい。
2. リーフもしくは郵趣マテリアルの画像：カラーコピーの郵送、もしくは200DPIによるスキャン画像を添付ファイルとしてメールでお送りください。

原稿〆切と送付先

郵便の場合：2017/11/6 到着分まで。102-0083 海事ビル内郵便局留置 吉田敬

メールの場合：2017/11/10 到着分まで。tpm@stampedia.net

※短期間での編集になるため、10/31以降の到着分については、校正できません。

あらかじめご了解いただき、編集についてはお任せください。

※ご郵送頂いた原稿、コピーについては原則として返却しません。

お次はジャペックスだ！

南方占領地のフィラテリー (5)

スマトラ統一加刷

守川 環

スマトラ統一加刷は、従来の地域ごとの加刷に代わり、スマトラ島全域で使用する目的で 1944 年 1 月 1 日に発行されました。(一部地域において 1943 年 12 月に使用)

台切手候補の多くがすでに加刷されてしまっていた為、東海岸地区やアチェ州で多く残っていた無加刷の女王図案の切手を中心に加刷されました。日専ではこの加刷を大きく〔大日本帝国郵便〕の右書きと左書きの 2 種に分類していますが、実際には台切手に合わせて何種類かの版が用意されていました。本項ではこの加刷タイプをより深く分類していきたいと思います。

〔大日本帝国郵便〕右書き加刷

日専 T.40 は農耕図案と踊子図案の切手ののに加刷された、右書きの「大日本帝国郵便」で、下方に国名抹消のための横棒の有無があり、2 種類に分けられます。

図 1 は横棒ありで一般的なタイプですが、「大日本」枠付き加刷された切手に再加刷されたものも存在し珍しくありません(図 2)。横棒無しは「大日本」枠付き加刷切手に再加刷するために用意されたものです(図 3)が、「大日本」枠付き加刷されていない切手に加刷されたものも存在し、非常に珍しいです(図 4)。



図 1 (918z)



図 2 (918z+832z)



図 3 (919z+832z)



図 4 (919z)

DAI NIPPON カタログ No.				918z		919z	
台切手			守川 No.	未	済	未	済
図案	用紙	額面・目打					
農耕図案	透かし無し	3 1/2c	11S1	*	*	*	*
	透かし有り	1c	11S2	*	*		
		2c	11S3	*	*		
		2 1/2c	11S4	*	*		
		3c	11S5		*		
踊子図案		3c	11S6	*	*		
		4c	11S7	*	*		
		5c	11S8	*	*		
		7 1/2c	11S9	*	*		

JSCA T.40

DAI NIPPON カタログ No.				918z+832z		919z+832z	
台切手			守川 No.	未	済	未	済
図案	用紙	額面・目打					
農耕図案	透かし無し	3½c	11S10			*	*
	透かし有り	1c	11S11	*	*	*	*
		2c	11S12	*	*	*	*
		3c	11S13	*	*		
踊子図案		5c	11S14			*	*

JSCA T.40 + T.4

DAI NIPPON カタログ No.				918z+221	
台切手			守川 No.	未	済
図案	用紙	額面・目打			
農耕図案	透かし無し	3½c	11S14A		*
	透かし有り	2c			*

JSCA T.40 + T.6

DAI NIPPON カタログ No.				918z+811z		919z+811z	
台切手			守川 No.	未	済	未	済
図案	用紙	額面・目打					
農耕図案	透かし有り	1c	11S9A		*		
		4c	11S9B			*	*

JSCA T.40 + T.2

〔大日本帝国郵便〕 左書き加刷・機械加刷

日専 T.41 は左書きの「大日本帝国郵便」で、下方に国名抹消のための横棒の有無があり、2 種類に分けられます。それぞれに手押し加刷と機械加刷があります。

横棒の有るタイプは農耕図案・旧女王図案と踊子図案に用意されたものです。横棒のないタイプは新女王図案用に用意されたものです。機械加刷は横棒の有無のほかにそれぞれ台切手の大きさにより加刷タイプも 2 種類ずつ存在します。

横棒のあるタイプ（旧女王図案用）は、15 セントから 40 セントまでの普通サイズの切手に使用され（図 5）、他に 5 ギルダー用の大きなサイズのものがあります（図 6）。普通サイズのものは 10×10 の 100 面構成で、5 ギルダー用の大きいサイズのものは 5×5 の 25 面構成です。

横棒のないタイプ（新女王図案用）は、10 セントから 40 セントまでの普通サイズの切手に使用されたもの（図 7）と、50 セントから 10 ギルダーまでの大きなサイズの切手に使用されたものがあります（図 8）。いずれも 10×10 の 100 面構成です。



図 5 (921z)



図 6 (923z)



図 7 (922z)



図 8 (924z)

逆加刷、二重加刷、裏写り（図9）、加刷ずれ（図10）などのエラーが存在します。また、旧女王 20cに黒・青の二重加刷（図11）が使用済のみ確認されています。



図9



図10



図11

〔大日本帝国郵便〕左書き加刷・手押し加刷

機械加刷同様に手押し加刷にも横棒の有無があり、2種類に分類できます。横棒のないタイプは新女王図案用で、機械加刷同様に小・大の2版が存在します（図12、13）。本来は台切手の大きさに合わせて使い分けされるべきものであったと思われますが、実際にはその多くは小型の版が用いられ、大型で加刷されたものは 17 1/2c、10G、25G の3額面のみ確認されています。



図12 (912z) 小



図13 (913z) 大



横棒のあるタイプは農耕・旧女王・踊子図案用です。東海岸州やアチェ州では、既に大半の農耕図案切手や踊子図案切手に加刷が行われ、無加刷シートの在庫が底をついていた為、大き目のブロックに手押し加刷が実行されました。

ところで、図14の様なブロックが存在します。加刷の特徴を見る限り上下、左右の加刷の位置が均等になっており、機械加刷に分類できます。ところが、オランダの郵趣界では、農耕図案切手への〔大日本帝国郵便〕左書き加刷・機械加刷はないというのが現在の見解です。

ところが最近になって、〔大日本帝国郵便〕左書き加刷・手押し加刷の、横棒ありタイプ（旧女王図案用、図15）を



図14 (917z)

加刷した農耕切手を発見いたしました（図16）。このことから、農耕図案切手に使われた加刷には機械加刷も存在すると考えられます。（従来は手押し加刷だけと考えられていました）

なお、機械加刷の印刷版は、旧女王図案切手に対しては、10×10の100面構成の印刷版が用いられたと考えられますが、農耕図案切手に対しては同様ではありません。



図15 (911z)



図16 (911z)

南方占領地切手の機械加刷に分類される切手に時々見られますが、横一列の10個または二列20個程度に組んだ印刷版をシートないしマルチプルに対して複数回実行することで、加刷切手の製造を行うことがあります。この農耕図案切手への加刷はその製造の可能性が高いと思います。

また、機械加刷の印刷版の素版一つ一つを使用し手押し加刷したと考えられる特徴を持つ切手も存在します。（図17）



図17 (917z)

DAI NIPPON カタログ No.			912z		913z	
台切手			守川 No.			
図案	用紙	額面・目打	未	済	未	済
新女王図案		10c (I) p.13 ¹ / ₄	11S37a	*		
		10c (I) p.12 ¹ / ₂ 小穴	11S37	*	*	
		10c (I) p.12 ¹ / ₂ 大穴		*	*	
		10c (II)	11S38	*	*	
		15c	11S39	*	*	
		17 ¹ / ₂ c	11S40	*	*	*
		20c	11S41	*	*	
		25c	11S42	*	*	
		30c	11S43	*	*	
		35c	11S44	*	*	
		40c	11S45	*	*	
		50c 小穴	11S46	*	*	
		50c 大穴		*		
		60c 小穴	11S47	*	*	
		60c 大穴		*	*	
		80c 小穴	11S48	*	*	
		80c 大穴		*	*	
		1G 小穴	11S49	*	*	
		1G 大穴		*	*	
		2G 小穴	11S50		*	
		2G 大穴		*	*	
		5G	11S51	*	*	
		10G	11S52	*	*	*
		25G	11S53	*	*	*
本国切手		5c	11S55	*	*	
		12 ¹ / ₂ c	11S56	*	*	

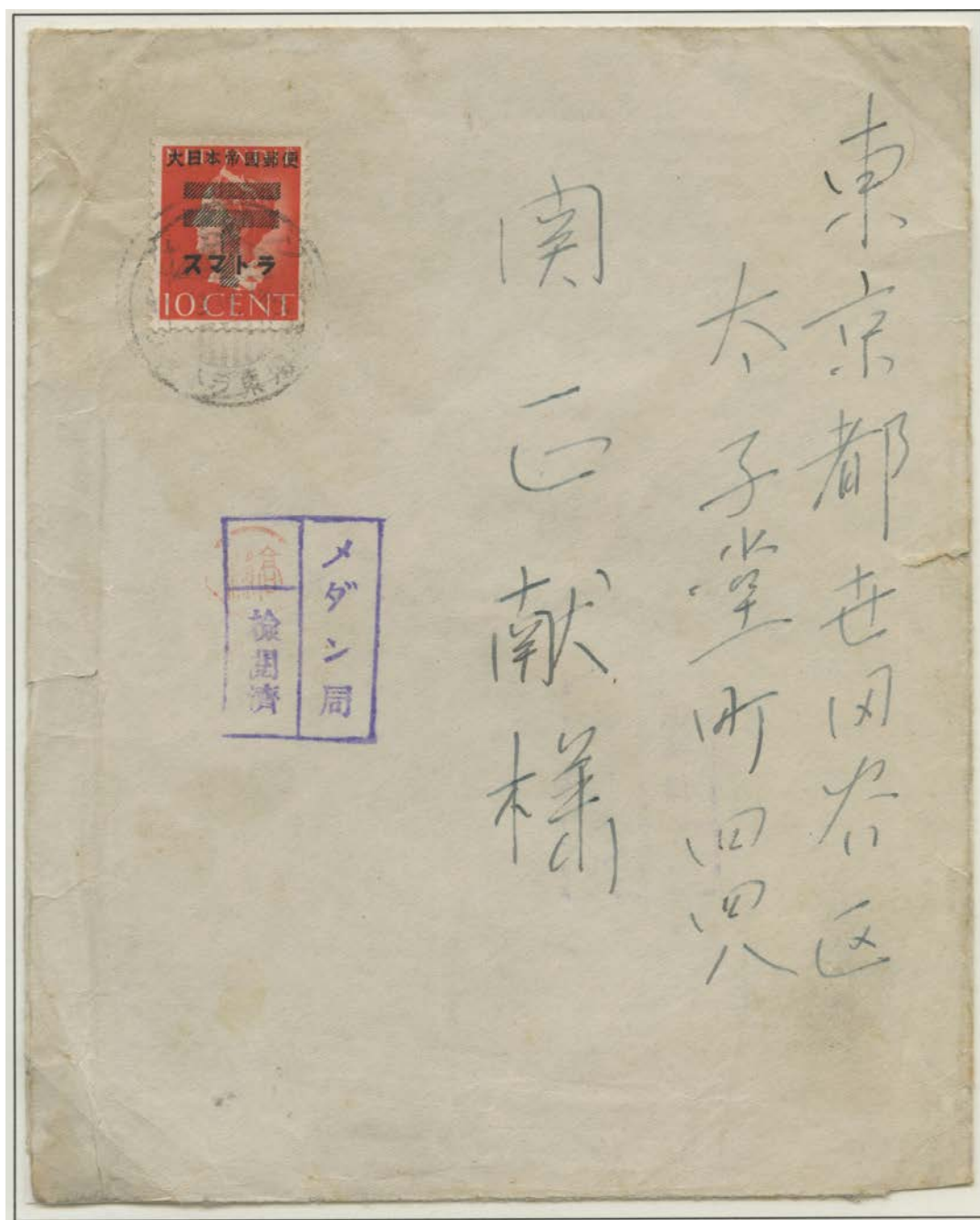
JSCA T.41

DAI NIPPON カタログ No.			917z		911z	
台切手			守川 No.			
図案	用紙	額面・目打	未	済	未	済
農耕図案	透かし無し	3 ¹ / ₂ c	11S15	*		
旧女王図案	透かし無し	10 c	11S16		*	*
		12 ¹ / ₂ c	11S16A			*
		15c	11S17		*	*
		20c	11S18		*	*
		25c	11S19		*	*
		30c	11S20			*
		40c	11S20A		*	*
		50c	11S21		*	*
		2 ¹ / ₂ G	11S23		*	*
農耕図案	透かし有り	1c	11S24	*	*	
		2c	11S25	*	*	
		2 ¹ / ₂ c	11S26	*	*	
旧女王図案	透かし有り	10 c	11S27			*
		15c	11S28		*	*
		20c	11S29		*	*
		20c p.11 ³ / ₄ × p.12 ¹ / ₄				*
		25c	11S30		*	*
		30c	11S31		*	*
		35c	11S32		*	*
		40c	11S33		*	*
		1G	11S34			*
		2G	11S35			*
		5G	11S36		*	*
踊子図案		3c	11S54		*	*
		4c	11S54A			*
		7 ¹ / ₂ c	11S54B		*	*

JSCA T.40

オランダのカatalogであつても、1948 年発行のものには、興味深いリストが掲載されています。農耕図案切手に機械加刷をした透かし無し 2 c、透かし有り 1c、2½c、3c が記載されているのです。いずれの切手も画像や加刷タイプに関する説明はなく非常に不確かなものであり、他に旧女王図案の透かしなし切手への機械加刷として 12½c や 50 c が記載されていることで、よりこの本の信憑性は低下していると言わざる負えませんが、100%可能性がないわけではないと思われます。

日本宛て書状・実郵便



新女王図案 10c Type I「大日本帝国」機械加刷, 1944.1.18
Medan to Tokyo、メダン局検閲

〔大日本帝国郵便〕 左書き加刷・手押し加刷・紫

最後に統一加刷に見られる紫色の加刷（図18）についてご紹介します。

20 年位前までは、これはすべて偽物であると言われていました。しかし、使用済が、その後発見されたことにより、真正品として認められる様になりました。

もっとも、応急的に加刷を行ったため、台切手に合わせて加刷タイプを選ぶことがなく、間違った加刷のされ方が多く見られます。（横棒の無い加刷を旧女王図案に行ったり（図19）、横棒のある加刷を新女王図案に行ったりされました（図20）。



図 18



図 19



図 20

なお、加刷の紫色が鮮やかなものは戦後の後押しとされます（図21）。



図 21



踊り子図案切手のマルチプルに、〔大日本帝国郵便〕手押し加刷をするにあたり、左側には左書き加刷を、右側には右書き加刷を行った例。両加刷が同時に同じ場所に存在したことを示す。

南方占領地のフィラテリー (6)

昭和切手の南方占領地における使用例

守川 環

編集部の依頼により、昭和切手等の南方占領地における使用例（書状や葉書などのカバーや局内書類のみ、使用済は含めず）について、まとめてみました。

本表を「守川 2018-09 作成 Version」として、今後、会員各位からの情報提供も参考にして改善を図ってまいりたいと思います。昭和切手等の南方占領地における使用例をお持ちの方は是非、守川宛て、もしくは編集部宛てに情報をお寄せください。

		フィリピン	香港	ビルマ	マライ	北ボルネオ	スマトラ	ジャワ	海軍担当地区	アンダマン
一次	5 Rin	RRR	○							
	1 Sen		○	RR	○	R	○			
	2 Sen	R	○	RR	○	RR	○	RRR	RR	RRR
	3 Sen	R	○	RR	○	R	○		R	
	4 Sen	△	○	RR	○	RR	○			
	5 Sen		△	RR			○			
	6 Sen				○		○			
	7 Sen				○	RR	○			
	8 Sen			R	○	R	○			
	10 Sen				○		○		R	
	12 Sen									
	14 Sen						△			
	20 Sen	△	○		○		△			
	25 Sen				○		○			
	30 Sen		○		○		○			
	50 Sen		○		○		○		RR	
	1 Yen		○		△		○		RR	
	5 Yen		RR							
	10 Yen									
二次	1 Sen	R	○				R			
	4 Sen					RR				
	5 Sen	R	○	○	○	RR	○	RRR	R	RRR
	7 Sen		△							
	10 Sen					R	R			
	15 Sen					R				
楠公	2 Sen	R	○	RR	R	R				
葉書	3 Sen	RRR								

○もしくはR カバーで確認されている切手（Rは珍しさで多いほど珍しい）、△ カットでのみ確認されている切手
対象切手は昭和一次全部および二次昭和と楠公葉書の一部

守川 2018-09 作成 Version

Strook voor geadresseerde. <i>Segi boeat si'alamat.</i> Datum _____ 19____ Tanggal _____ f <u>1000.-</u> AFZENDER: <i>Sipengirim:</i> <i>Abd. Wahid bin Chamoes bin Abd. Wahid bin Abd. Wahid bin Abd. Wahid bin</i>	BINNENLANDSCHE POSTWISSEL. No. W 4. <i>1000</i> Gld. <i>=</i> Cts. Roepiah Sen. <i>Scriboe roepiah</i> Guldensbedrag in letters. — Wang roepiah dengan hoeroef. Cts.-Sen. Naam: <i>S. Abderrahman bin Mohamad Hjaefri</i> Adres: <i>Sorabaja</i>	Frankering. <i>2.</i>
E. 1940—812—A6—175.	Kantoor van storting. Nummer. <u>5</u> No. W 15. Handteekening postambtenaar. <i>Ames</i>	5974—39

55

第1次昭和・東郷4銭切手発行後の 4銭切手4種の一般使用の状況

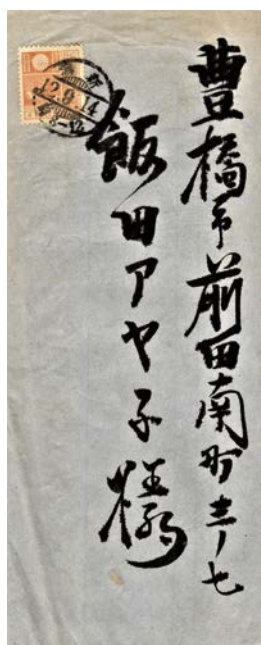
横山 裕三

第2次上海事変は、昭和12(1937)年8月13日、上海の国際共同租界の日本人区域を守備していた海軍の陸戦隊陣地に対して、中国（当時は中華民国）の正規軍が銃撃したことにより勃発したと言われています。日本からは陸戦隊が増派されるとともに、陸軍の第3師団と第11師団からなる上海派遣軍が、8月23日に上海北部沿岸に上陸しました。しかし、中国軍の堅固な陣地に大苦戦し、9月末までの損害は、第3師団で戦死者1,080名、戦傷者3,589名、第11師団で戦死者1,560名、戦傷者3,980名と記録されています。

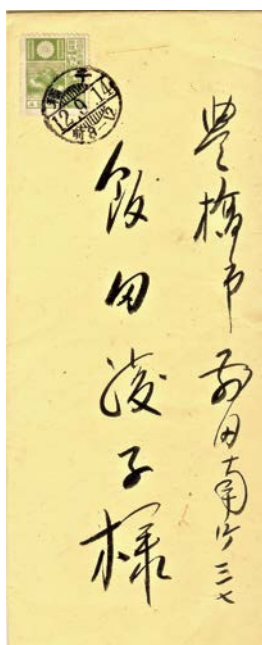
この緒戦において、第3師団に編入されていた愛知県豊橋の歩兵第18連隊の第3大隊大隊長だった飯田七郎少佐が、9月9日に戦死しました。この時の戦闘の様態と大隊長の戦死については、国内新聞の9日の夕刊と10日の朝刊で大々的に（おそらく誇張されて）報道されたようです。その結果、報道直後から11月に実施された出身地（千葉県山武郡瑞穂村）で挙行された村葬の頃までの期間に、飯田大隊長の遺族の許には、連隊が置かれた豊橋周辺の関係者、出身地の瑞穂村周辺の関係者、各地の元部下将兵や友人知人からの弔意が、書状、葉書及び電報で大量に寄せられることになりました。

さて本題です。このたび、その一部と思われる郵便物のコレスポンデンスを入手したところ、4銭切手貼りの書状が64通含まれていました。（実は、書状はもっとあったのですが、残念ながら肝心の切手が剥ぎ取られていてデータとして使い物にならないものが多数含まれていました。）

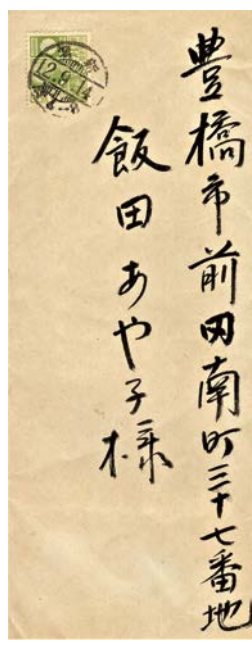
昭和12年4月1日に書状料金が4銭に改正されたため、既に発行されていた富士鹿切手の第1次改色新版に加えて、改正当日には第2次改色新版の昭和毛紙が暫定発行され、5月には昭和白紙に切り替わるなど、3種の富士鹿切手が使用されました。さらに8月1日には、第1次昭和の東郷4銭切手が発行されました。郵趣的には、この4種類の4銭切手の使用状況、特に切替わりの時期については興味あるところです。



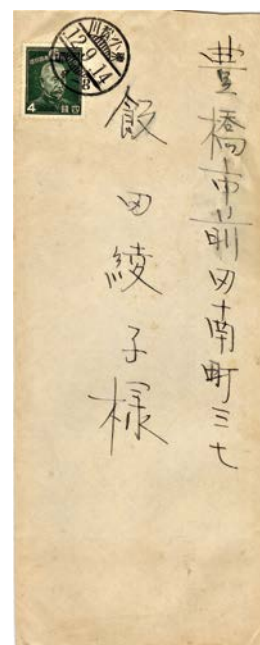
富士鹿切手 1次改色
新潟



富士鹿切手 昭和毛紙
千種（愛知）



富士鹿切手 昭和白紙
新潟



第1次昭和切手
東小松川（東京）

幸い、この 64 通の書状には 4 種の 4 銭切手を使用されており、東郷 4 銭切手の発行 40 日後である 9 月 10 日から 12 月までの日付が分布していました。しかも、一つのイベントに対して、広域かつ同時期の一般の人たちによる使用例なので、全体を客観的に俯瞰できるデータとしても申し分ないと考えられます。

別表は、64 通の消印から日付順に使用局を整理したもので、この表からは、切替わりに関して次のようなことがみて取れます。

- ・ 9 月～ 10 月は、4 種の 4 銭切手が同時に使用されている。
- ・ 改色新版切手は、10 月には在庫が払底したように思われる。
- ・ 昭和毛紙切手は、もともと発行数が少ないので使用例も少ないが、11 月には在庫が払底したものと
思われる。
- ・ 昭和白紙切手は、東郷切手発行後も広範に使用されており、東郷切手への切替わりは遅い。
- ・ 千葉大網局（山武郡の集配局の一つ）では、昭和毛紙切手が 9 月末頃まで使用され、その後は東郷
切手に切替わるのではなく、先に昭和白紙に切り替わったようである。
- ・ 東郷切手は、10 月までは兵庫と富山の 2 例を除いて東京都内での使用となっている。東郷切手への
切替えは、郵便量が多い都内が先行したものと思われる。
- ・ 東郷切手の 9 月までの初期使用は、意外に少ないのではないかと思います。

この表に、皆さまが所蔵されている各 4 銭切手の昭和 12 年 8 月以降のデータを加えてみると、より精度の高いデータ表になるとと思います。

日付	改色新版 (S5)	昭和毛紙 (S12.4.1)	昭和白紙 (S12.5)	東郷 (S12.8.1)	日付	改色新版 (S5)	昭和毛紙 (S12.4.1)	昭和白紙 (S12.5)	東郷 (S12.8.1)
9/10	新潟		広島	荏原洗足	9/28				
	練馬		世田谷		9/29		濱松（静岡）		
	愛知・知立				9/30	世田谷		長崎本博多	練馬
9/11	新潟・村上	千葉	名古屋					新潟	
	(//)		芝		10/2			千葉・大網	
	(//)		(植田(秋田))		10/4	愛知・刈谷			
9/12			兵庫		10/7				渋谷
			新潟・攝田屋		10/10			千葉・大網	
			新潟・村上		10/16				杉並
9/13	長野	広島・警固屋	長岡	杉並	10/29			名古屋	目黒
			新潟本町	兵庫	10/30			千葉・大網	
9/14	新潟	千種（愛知）	新潟	東小松川					
		高田南本町（新潟）			11/2			千葉・大網	
9/15	愛知・大濱				11/5			千葉・大網	
9/16				(淀橋)	11/7		岡崎・六ツ美（愛知）		
9/17			長岡	富山	11/25				伏見
9/18			鎌倉						大阪中央
9/19					11/26				京橋
9/20				目黒	11/30			落合長崎	
9/21	浦和		千葉・大網						
9/22	新発田				12/6				京橋
9/23					12/15				東京中央
9/24			和歌山・高松		12/20				千葉・本納
9/25		千葉・大網	大阪・櫻井		12/22			桑名（三重）	
			青森・木造		12/28				東京中央
9/26		千葉・大網			局数計	11	8	28	17
9/27			青森・木造		割合	17.2%	12.5%	43.8%	26.6%

Advertise のあれこれ

山本 勉

東京 Advertised 印のデータ更新

Philatelic Journal 2017 誌で岩崎朋之さんが「日本における ADVERTISED 印～初期二重丸型から楕円型まで」という珍しい分野の記事を書かれています (pp.81-96)。私は郵便史全般に興味がありますので、手持ちの「Advertised」印付きカバーを調べてみました。その結果、たまたま持っていたものが、どうやら少しだけデータを更新するものらしいので、記録のためにここで紹介します。

問題の印は「ADVERTISED. / 189」という東京の二行印です(岩崎さんは「年号入一行印」と表現)。p.83の最後期データでは「1899年2月2日」となっていますが、手持ちのものは「1899年3月3日」ですので、約1ヶ月遅い例です。文面は「明治32年」の年賀状。差立てはボンベイ、1909年1月11日です(図1～図3)。



図1：表面。
1899年1月11日
ボンベイ→東京



図2：東京の Advertised 印
1899年3月3日

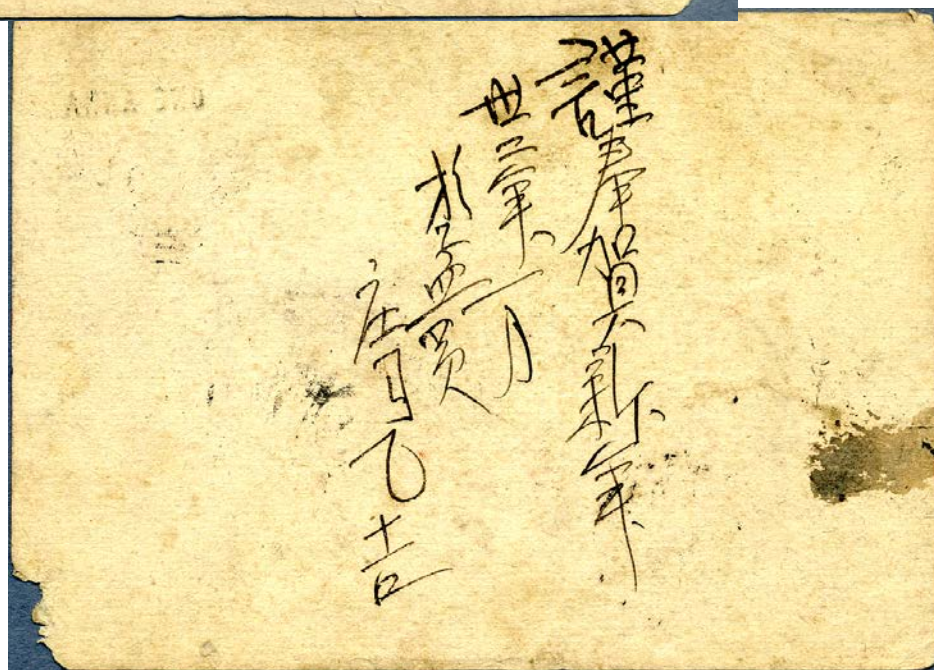


図3：裏面。
明治32年(1899年)
の年賀状

バイエルンの鉄道郵便印で差立られた、横浜の楕円型 Type 2の最初期使用例について

先日入手した横浜楕円型の「Advertised」印が押されたハガキはタイプ2の最初期使用例である「1909年11月18日」です(図4)。



図4：1909年9月16日、(バンベルク)→横浜(10月22日)

このハガキの、もう一つ面白い点はバイエルンの鉄道郵便印で差立てられている点です(図5)。

①「K.B. BAHNPOST / HOF V NRNB. / 16 SEP 09」とあり、「K.B.」は「Königlich-Bayerische」の略で、全体では「バイエルン王国鉄道郵便 / ホーフ・ニュルンベルク間 / 第5便 / 1909年9月16日」となります(図5～図6)。



図5：1909年9月16日、バイエルンの
ホーフ・ニュルンベルク間鉄道郵便印。



図6：同型の印(参考)

②横浜へ1909年10月22日到着。裏面に横浜の楕形欧文印あり(図7)。

③1909年11月18日、横浜の楕円型「Advertised」印(図8)。



図7：裏面。横浜の到着印；
1909年10月22日。

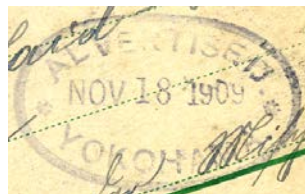


図8：横浜の楕円型 Advertised 印。
1909年11月18日。

④受け取りに現れないため、横浜で「INCONNU」(名宛人不明)の印を押して返却。

⑤ドイツで「ZURÜCK」(返却)の印を押して差出人戻し。

※ハガキ表面に、差出人の希望する経路が書かれています。「via: New York - San Francisco; eventuell retour über Aden - Port Said - Brindisi」→「ニューヨーク、サンフランシスコ経由、返却は場合によってはアデン、ポート・サイド、ブリンディジ経由で」。果たしてどのルートで返却されたのでしょうか。

※バイエルンの鉄道郵便印では地名の略号が使われています。まず、1851年に半円形の印(Kreissegment 印 = あぶみ型のような三日月印)で登場し、1867年からの単円形の印(今回のハガキに押された印)で全盛となります。単円印はバイエルンにおける鉄道郵便印の典型の一つで、1910年頃に登場したボックス型の印とともに長く使われました。1947年という最後期使用例まであります。今回の例は「HOF」と「NRNB.」ですが、「HOF」は省略ではありません。「NRNB.」は比較的分かりやすく「Nürnberg」(ニュルンベルク)の略です。同様の印をお持ちの方の参考のために地名略号の一覧表を資料として本記事の次の記事として掲載致しました。

「広告」か「公告」か？

英語の「advertise」は日本語にすると「広告」、「公告」両方の意味があります。ですが、私は「公告」を採りました。その理由の一つは前述の岩崎朋之さんの記事中、p.82に引用された外国郵便取扱規程で「公告」となっているからです。以下はそこからの引用です(カタカナをひらがなにし、句点を加えるなどしています)。

第159条は「外国より到着したる郵便物にして配達あたわざるもの」の処理について書かれています。これによると一定の手続きを経た後、次のように処理するよう規程されています。

「每一箇月分宛取纏め、第158条の手續に依り公告すべし」

第158条は日本から外国に差し立てたけれども還付された郵便物に関する規程です。これも一定の手続きを経た後、次の処理をするよう規程されています。

「每一箇月分宛取纏め、翌月初めに於て、本邦人宛のものは其の地発行の邦文新聞紙に、外国人宛のものは同横文新聞紙に、其の表書を写取り、適宜の期間公告すべし」

このように、規程で「公告」の文字を使っているのです。

「公告」は国や地方公共団体が法令や規則に基づいて行う行為です。「広告」にはそのような意味はありません。Advertiseは国家機関である郵政が規則に従って行う告知ですから、「公告」であり、「Advertised 印」は「公告印」と呼ぶべきだ、というのが二番目の理由です。

近年、多くの国の郵政業務が民営化されていますが、昔はそうではありませんでした。郵政が立派な国家機関だったということを別の角度から見てみます。ちょっと脱線しますが、「郵便は国家そのものである」という概念をポーランドを例に述べさせていただきます。

ポーランドは第1次大戦時も第2次大戦時もドイツに占領されましたが、「ポーランド」という国家を連想させる文字をドイツは嫌いました。第1次大戦時では、ドイツ占領下のポーランドで、1915年に「Russisch - Polen」(ロシアのポーランド = 占領する前はロシア領だったポーランド)と加刷した切手を発行しました。

しかし、翌年には「Gen.Gouv. Warschau」(<General Gouvernement Warschau/ ワルシャワ総督府)という加刷切手に置き換わりました。「ポーランド」という文言の使用を避けたのです(図9)。

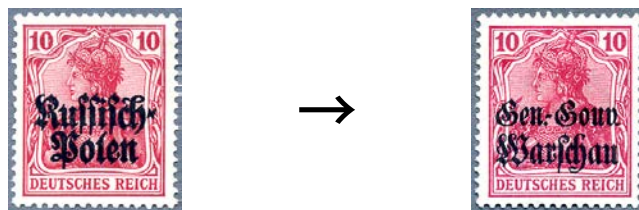


図9：第1次大戦時にドイツ占領下ポーランドで発行された加刷切手。「ロシアのポーランド」加刷が「ワルシャワ総督府」加刷へと変更されています。

第2次大戦時のドイツ占領下ポーランドでは、当初は単に「占領されたポーランド地区」と呼ばれていました。しかし、1939年10月12日に「Erlaß über die Verwaltung der besetzten polnischen Gebiete」(占領されたポーランド地区の統治に関する命令)にヒトラーが署名し、その結果、今後この地区は単に「Generalgouvernement」(総督府)と呼ばれることとなりました。本来この言葉は普通名詞ですが、固有名詞となったのです。最初の切手発行が1939年12月ですから、「ポーランド」の文字ははじめから見られません。最初の加刷シリーズこそ「Deutsche Post Osten」(ドイツ東部郵便)でしたが、その後の切手はすべて「Generalgouvernement」(総督府)と表示されています。これが正式名称であり、日本でしばしば見かける「ポーランド総督府」は日本人の理解が得やすいよう「親切心」から出た表現(?)で、正確なものでありません。このように、ヒトラーも国を連想させる「ポーランド」という表現を嫌ったのです(図10)。

一方、イギリスに逃れたポーランド亡命政府は、ポーランド国歌の一節である「ポーランド未だ滅びず」を具現すべく切手の発行を行いました。そもそも、他国に亡命して領土もないのに切手を発行することが可能だったのでしょうか？それは万国郵便連合条約(UPU)の規定と関係があります。UPU条約では、ある国の艦船や公海上の船舶ではその国の切手を使いその国の郵便料金表に従うこととなっています。この規定を適用し、ポーランド船籍の艦船や船舶上で発する郵便物のために切手を発行したのです。最初の切手発行は1941年12月。当時のUPU条約は1940年7月1日発効の第11回ブエノスアイレス大会のものです。会議そのものは1939年5月であり、当然ポーランドも署名しています。ただし、切手を発行する実需上の必要性はほとんどありません。ただ、ただ、「ポーランド」がこの世に存在していることを示すためだけに発行されたと言っても過言ではありません(図11)(各国政府に送った回状や適用された艦船名・船舶名などの詳細は「ポーランド郵趣」誌No.37/1998年参照)。



図10：第2次大戦時にドイツ占領下ポーランドで発行された正刷切手。「ポーランド」の文字は使われず、「総督府」とのみ表示されています。



図11：1941年に在英ポーランド亡命政府が発行した切手。艦船・船舶でのみ使用可能。「ポーランド」という国が存続していることをアピールするのが発行目的。

以上のように、切手1枚といえども深い思いが込められており、端的に言えば、切手あるいは郵便はそれ自体が「国家」であると捉えることができるのです。「郵便」= 国家機関であり、それが規則にのっとり行う advertise ですから、やはり「公告」がよりふさわしいかと思います。

アメリカの Advertise 制度について

日本は郵便黎明期に各国の制度を模倣しました。ボタ印はアメリカにならったものと言われますが、Advertised 印も、おそらくアメリカにならったものだと思います。ここでは、先輩格であるアメリカの Advertise 制度を見ておくことにします。

アメリカでは郵便の初めから局に留め置き、受取人が局に出向く制度でした。アメリカの大都市で無料の戸別配達が始まったのは 1863 年だそうです。アメリカでは局留便のことを今日でも「general delivery」（一般的な送達 / 受渡し）と呼ぶのですが、局に留め置くのが一般的だったからでしょう。この点、「郵便局で留め置かれた」という直接的な意味のフランス語「poste restante」やドイツ語「postlagernd」とは異なります。なお、「delivery」という用語は郵便・郵趣の世界では、日本語の「戸別配達」の意味で使われることが多いです（「special delivery」が「別配達」と訳されるように）。

さて、アメリカでは留め置きが普通でしたので、当然、取りに来ない人もたくさんいます。そこで、一定期間取りに来ない場合には、郵便局の掲示板に氏名等を貼り出すとともに、地元の新聞紙で公告するという手続きが広く行われていました。

アメリカの Postal History Journal 誌の No.151 ~ 153/2012 年を参考にして、分からない部分もありますが、編年的にまとめてみました。

- 1777 年 10 月 17 日付大陸会議（Continental Congress）の決議による規定；
 - ・ 没書（配達不能郵便物）は 3 ヶ月ごとに新聞紙で公告掲載 (advertise) し、受取人からは郵便料金以外の料金を徴収しないで交付する。
 - ※これが、おそらくアメリカにおいて advertise に関して言及した最初の公的文書であろうと思われます。
 - なお、当時の郵便料金は受取人払が普通でした。
- 1778 年 6 月 22 日、没書の監督官（Inspector of Dead Letters）が上記の規定に追記；
 - ・ 地元紙で連続 3 週間公告掲載してから没書として郵便本局（General Post Office）に送付すること。
 - ・ 郵便本局で開封し、郵政長官（Postmaster General）が内容物を確認し、最適な場所で再度公告掲載する。二度公告掲載された書状は、郵便料金とともに「掲載に要した費用 (the necessary expense of such publications)」を徴収して受取人に交付する。
- 1782 年 10 月 18 日付大陸会議（Continental Congress）の布告；
 - ・ 各郵便局長は 3 ヶ月ごとに、新聞紙で連続 3 週間、その局に滞留している書状のリストを掲載しなければならない。そして、次の 3 ヶ月を経過すると、没書として郵便本局に送付する。
 - ・ 郵便本局では郵政長官により開封・検査され、貴重品を含まないものは廃棄される。貴重品を含むものは書状とともに慎重に保管し、書状の日付、氏名とあて先、内容物の明細を台帳に記載する。その後、郵政長官は 3 ヶ月ごとに、その所有者にとって最も都合がよさそうな新聞紙に掲載する。この書状を受け取る者は、郵便料金と上記の掲載に要した費用を支払わなければならない。
- 1792 年 2 月 20 日の郵便法、第 18 項；
 - ・ 郵便局長代理（deputy postmasters）（※）は 3 ヶ月ごとに近隣の新聞紙の一つに連続して 3 週間、その局に滞留している書状のリストを掲載しなければならない。そして、その 3 ヶ月後、これらを没書として郵便本局に送付しなければならない。

・郵便本局では開封・検査され、もし貴重品が入っている場合は、その所有者が居住していそうな地の新聞紙の一つに掲載する。当該書状と内容物は保管され、受取人から郵便料金と掲載の費用の支払いを得て交付する。

※これはアメリカ最初の郵便法。なお、郵便局長代理 (deputy postmasters) というのは郵政長官「Postmaster General」に代わって仕事をする人という意味でしょうから、単に「郵便局長」と言ってもよいのかもしれませんが。

● 1794 年の郵便法、第 18 項；

・郵政長官の指示があれば、より頻繁に公告掲載ができるようになりました。また、新聞紙が発行されていない場所もあるので、新聞紙への掲載に代えて、人通りの多い建物の壁面など公共の場に掲示することが可能となりました。

・訓令第 17 号で、年 4 回ではなく、実験的に毎月公告することが、次の 10 都市に呼びかけられました。Boston, New York, Philadelphia, Baltimore, Alexandria, Fredericksburg, Richmond, Norfolk, Petersburg, Charleston。

● 1808 年の訓令第 9 号；

・新聞公告の出費を一通最高 2¢ と規定しました（それまでも一紙だいたい 2¢ でしたが）。受取人から徴収する額は実費ですので、これ以降はたいてい 2¢ と考えて間違いありません。

・月 1 回公告する都市として次の 15 都市が追加されました。

Portland, Portsmouth, Salem, Providence, New Port, Hartford, New Haven, Annapolis, Albany, Washington City, Georgetown, New Orleans, Pittsburg, Augusta, Savannah。

● 1825 年の訓令第 9 号；

・月 1 回公告する都市を四半期の平均純利益が \$500 以上の全郵便局に拡大されました。

● 1828 年の訓令第 9 号；

・新聞紙への掲載はその郵便局の近隣で最も普及しているものを優先する、と注釈。

● 1835 年の郵便法、第 35 項；

・郵政長官の指示により、2 紙以上に掲載できることとなりました。ただし、その費用は 1 通につき 4¢ を超えてはなりません。

● 1843 年の訓令第 33 号；

・同一局区内あてや私書箱あての書状、あるいは印刷物等は公告しない旨追記。

● 1845 年の郵便法、第 18 項；

・書状上に公告料 (advertising fee) を表記しなければならなくなりました。これ以前は局長の任意なので書かない場合も多い（たいていは 2¢ ですが）。

● (参考) 1847 年 7 月 1 日、アメリカ最初の切手発行 (5¢ と 10¢)

● 1851 年の郵便法、第 5 章；

・掲載できる新聞紙は週 1 回以上発行され、その局の地域で最も普及しており、1 通 1¢ で公告掲載可能

なものであること。なお、掲載紙は1紙とする。

・書状のリストは郵便局の掲示板に掲示され、6週間ごとに貼り替える。

●（参考）1855年4月1日、切手による前納が義務となりました。1847年に切手が発行されてからも、制度として未納便（＝料金受取人払）が認められていました。

●（参考）1879年7月1日、不足料切手の使用開始。公告料も受取人から徴収する料金ですから不足料切手が使われます。→ The Philatelist Magazine 第13号、p.60「不足料切手の用途とその周辺」の（6）参照。なお、「広告」は「公告」に訂正ください。

● 1894年の郵政長官報告によると、ニューヨーク市でのデータでは新聞公告した書状の2.5%しか受取人に交付できていない由。

● 1894年9月27日付けの郵政長官命令第335号；

・今後は公告料を徴収する前に不足料切手を貼付しないこと（＝交付時に1¢分の不足料切手を貼る）。

● 1918年の郵政長官命令で、公告は外国来の郵便物に限る。（「This is Philately」による）

● 1924年には内国便で公告掲載された例は無いと。

● 1932年の郵便法及び規則では、まだ1¢の公告掲載料の規定が活きている。

● 1935年のPostal Guideでは、外国来の郵便物を公告掲載した場合は1¢を徴収すると書かれている。

● 1948年の郵便法及び規則では、内国便、外国来の郵便物とも公告しない。（「This is Philately」による）※徴収すべき公告料金についてまとめると；

1808年？月？日～1851年6月30日は2¢（又は4¢）。

1845年7月1日～書状上に公告料を表示することが義務となりました。

1851年7月1日～（20世紀でも）は1¢

1894年？月？日～交付時に不足料切手を貼る

※前述のようにほとんど受取人などに交付されませんでしたし、徴収すべき場合でも実際には徴収されていないものが多いとされています。したがって、今日残された「Advertised」印付きカバーのほとんどは没書課に送られ、その後「紙くず」として処分されたものです。もちろん郵趣界に流れてきますから、おかげで今日私たちが楽しめるわけです。

※Advertised印の規格は定められておらず、各郵便局長の判断で作られたため、さまざまな形のものがあります。日本でも行印、楕円印、二重楕円印などがありますが、歴史の長いアメリカの場合は当然もっと多いのです。ここで、そのいくつかを紹介いたします。※図版番号はこのあとの実例カバーの番号と同じです。



図12：一行印



図13：一行印
（料金「1 CENT」を組み込み）

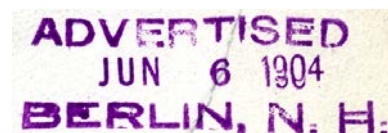


図14：三行印
（局名、日付入り）



図 15：単円印
(日付は手書き)



図 16：二重丸印
(局名、日付入り)



図 17：楕円印



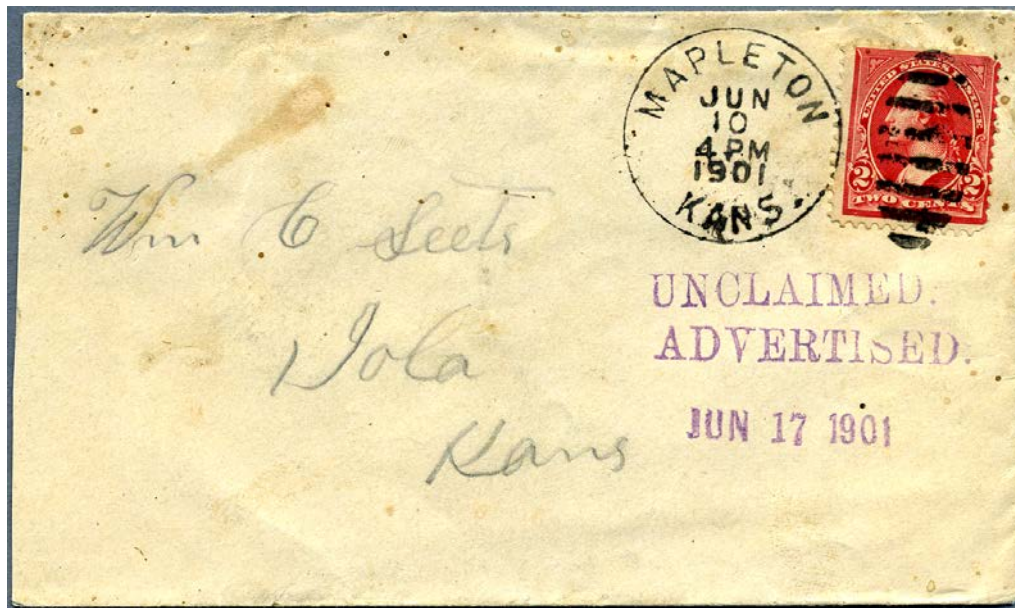
図 18：四角形印 (一行)



図 19：四角形印 (正方形)
(日付、年号入り)

図 12：一行印

ADVERTISED. (Iola 局)



1901 年 6 月 10 日、Mapleton, KS → Iola, KS

図 13：一行印
(料金「1 CENT」を組み込み)

ADVERTISED 1 CENT (Brooklyn 局)



1868 年 1 月 5 日、Buffalo, NY → Brooklyn, NY

図 14：三行印
(局名、日付入り)

ADVERTISED
JUN 6 1904
BERLIN, N. H.

(Berlin 局)



1904 年 5 月 24 日、Boston, MA → Berlin, NH

図 15：単円印
(日付は手書き)



(Schuyler 局?)



?? 年 7 月 19 日、Auburn, ME → Schuyler, NE?
(裏面に Schuyler 局の日付印あり -7 月 23 日)

図 16：二重丸印
(局名、日付入り)



(Providence 局)



1864 年 7 月 29 日、Bangor, ME → Providence, RI

図 17：楕円印



(New York 局)



1868 年 7 月 29 日、May's Landing, NJ → New York City

図 18：四角形印 (一行)

ADVERTISED

(Lebanon 局)



1887 年 1 月 22 日、Breathedsville, MD? → Lebanon, PA → New York City

図19:四角形印(正方形)
(日付、年号入り)

ADV
AUG 8
1866

(Providence 局)

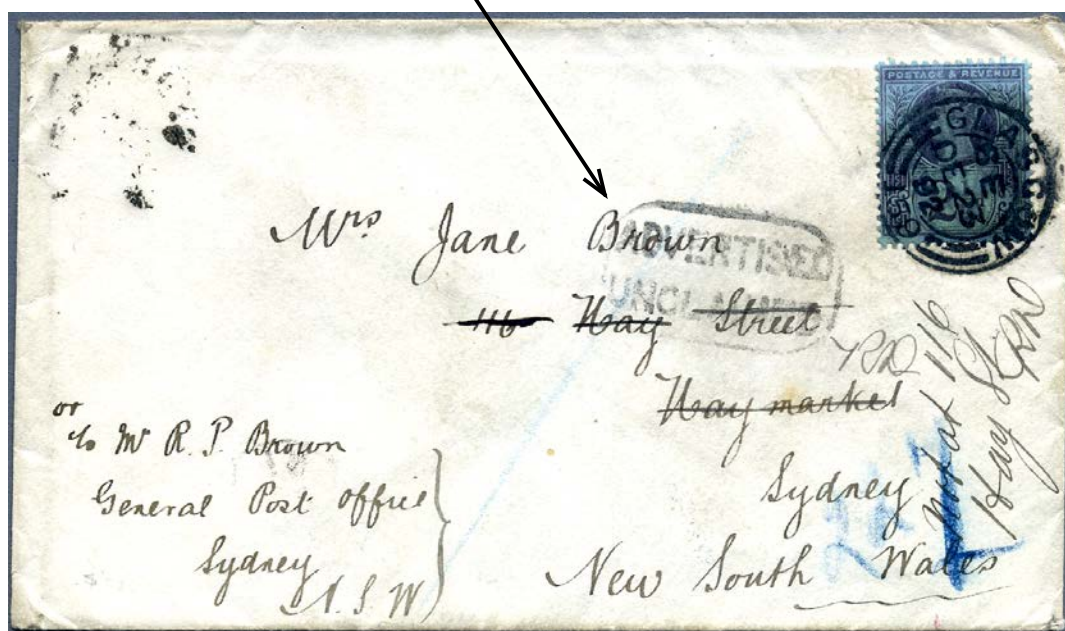


1860s 年 8 月 1 日、New Bedford, MA → Providence, RI

日本、アメリカ以外の国での Advertise 制度

アメリカでの最後期使用例は 1941 年の国内便だそうで、フィリピンでは 1986 年の例があるとか。香港、南アフリカ、カナダ、オーストラリアなどにもこの制度があります。調べればおそらくもっと多くの国にあるでしょう。ここでは 2 例紹介します。

シドニー局の Advertised 印
「ADVERTISED / UNCLAIMED」



1892 年 12 月 23 日、グラスゴー (イギリス) →
シドニー (ニュー・サウス・ウェールズ / 後のオーストラリア)



1946 年 12 月 2 日、コペンハーゲン (デンマーク) → マニラ (フィリピン)

マニラ局の Advertised 印

ある Advertised カバーの物語

最後に、私の専門であるポーランド関係のカバーで「Advertised」処理がなされたものを1通紹介します。当時オーストリアの Cieplice(現ポーランド) から第1次大戦中の1916年3月9日にアメリカの Michigan City, IN に宛てた未納書状です。明らかな未納・不足便は差立て国の「T」表示がなくても名宛国で徴収できます(当時の UPU 施行規則 §9)。基本書状料金 = 25ctms = (アメリカ) 5c なのでその倍額の 10c 分の不足料切手を貼付。最終的には 1916 年 10 月 28 日に DLO(Dead Letter Office/ 没書課 = 配達不能郵便物課) へ送られました。

⑤ Advertised 印
16 年 10 月 14 日

⑥ 無請求
16 年 10 月 28 日

④ 指示印
(To avoid...)

⑦ 不足料切手貼付
16 年 10 月 28 日

⑧ DLO へ
16 年 10 月 28 日

① 引受印
16 年 3 月 9 日

③ 到着印
16 年 9 月 15 日

② オーストリア
の検閲印
(Przemyśl)



バイエルの鉄道郵便印に見られる地名の略号一覧

山本 勉

「Advertise のあれこれ」を寄稿された山本さんから同原稿の附属資料として本稿も寄稿いただきました。資料性も高く、索引で検索が容易になるよう、単独原稿として扱うことにしました。(編集部)

バイエルの鉄道郵便印(図)に見られる地名の略し方には母音を抜く一般的な方法や、出だしの文字の場合が多いのですが、各地名に確立した略号はないようです。ここでは、ドイツの鉄道郵便部会が2010年に出版した Katalog der Unter Deutscher Postverwaltung verwendeten Bahnpoststempel mit Streckenangabe 2010 というカタログから抽出しました。



主にこのようなタイプの印

なお、同一スペルで小文字のものは個別記載を省略しました(例、「AUGS」があれば「Augs」は省略)。また、ピリオドは無いものとし、「ä」「ö」「ü」はそれぞれ「a」「o」「u」と見なし、大文字と小文字は無視して並べています。ところで、同一の略号で異なる地名を表す場合があります。例えば「B」は「Bamberg」、「Berchtesgaden」、「Burghausen」のいずれかを表しますが、どれにあたるかは個別の組み合わせにより決まっています。ただし、この表ではそこまでは考慮していません。

略号	地名
A	Aibling
A	Augsburg
Af	Altdorf
AGBG	Augsburg
AGSB	Augsburg
Agsbg	Augsburg
AI	Aidenbach
AID	Aidenbach
ALL	Alling
ALLERB	Allersberg
ALLERG	Allersberg
ALLERSB	Allersberg
ALLRSB	Allersberg
ALTDF	Altdorf
ALTGL	Altenglan
ATL	Altleiningen
ALTLEIN	Altleiningen
ALTOMS	Altomünster
ALTOMST	Altomünster
Am	Amberg
AMBG	Amberg
ANNWR	Annweiler
ANSB	Ansbach
ARNST	Arnstorf
ARZB	Arzberg
ASCHAFFENB	Aschaffenburg
ASCHB	Aschaffenburg
ASCHBG	Aschaffenburg
ASCHF	Aschaffenburg
ASCHFF	Aschaffenburg
ASCHFFB	Aschaffenburg
AUGB	Augsburg
AUGS	Augsburg
AUGSB	Augsburg

略号	地名
AUGSBG	Augsburg
B	Bamberg
B	Berchtesgaden
B	Burghausen
Ba	Bamberg
BAD STEB	Bad Steben
BADSTBN	Bad Steben
BAER	Bärnau
BAERN	Bärnau
BAM	Bamberg
BAMB	Bamberg
BAMBG	Bamberg
BAMBRG	Bamberg
BÄR	Bärnau
BÄRN	Bärnau
Bay	Bayreuth
BAYR	Bayreuth
BAYR.ZELL	Bayrischzell
BAYRISCHZ	Bayrischzell
BAYRTH	Bayreuth
BAYRZELL	Bayrischzell
BBG	Bamberg
BBRM	Biebersmühle
BBRÜCK	Bingerbrück
Be	Benediktbeuren
Be	Beuerberg
BECHH	Bechhofen
BEHRGSMÜHLE	Behringersmühle
Beil	Beilingries
BERCHT	Berchtesgaden
BERCHTESG	Berchtesgaden
BGLFD	Burglengenfeld
BGZB	Bergzabern
Bgzbrn	Bergzabern

略号	地名
Bi	Bichl
BINGBK	Bingerbrück
BISCHFGN	Bischofsgrün
BISCHFSHM	Bischofsheim
BISCHOFG	Bischofsgrün
Bischofsgr	Bischofsgrün
Bischofsh	Bischofsheim
B.KISSG	Bad Kissingen
B.KSSG	Bad Kissingen
Bmb	Bamberg
Bmbg	Bamberg
BMG	Bamberg
Bo	Bodenwöhr
Bod	Bodenwöhr
BRENLB	Brenschelbach
BRG	Bamberg
Brgch	Breitengüßbach
BRK	Brückenau
BRTH	Bayreuth
BRUCHS	Bruchsal
BRUECK	Brückenau
BRUECKEN	Brückenau
BSCHF	Bischofsheim
BSSF	Biessenhofen
BSSH	Biessenhofen
BSSHf	Biessenhofen
BSSHFN	Biessenhofen
BSSNH	Biessenhofen
B.TÖLZ	Bad Tölz
Bu	Buchloe
BUCHL	Buchloe
BUNDT	Bundenthal
Burg	Burglengenfeld
Burgh	Burghausen

略 号	地 名
BURGLF	Burglengenfeld
B.ZELL	Bayrischzell
BZLL	Bayrischzell
B.Zll	Bayrischzell
CDEZBG	Cadolzburg
CDZBG	Cadolzburg
CH	Cham
CHA	Cham
CONZ	Konzell
Crish	Crailsheim
CRLSH	Crailsheim
CRSH	Crailsheim
D	Deisenhofen
DANNST	Dannstadt
DEG	Deggendorf
DEISENHf	Deisenhofen
Df	Deggendorf
Di	Dietfurt
Dietf	Dietfurt
DINKSCH	Dinkelscherben
DKLSCH	Dinkelscherben
DMBHL	Dombühl
DNNST	Dannstadt
Dnwrth	Donauwörth
DNWTH	Donauwörth
Dollnst	Dollnstein
DOMB	Dombühl
DONWTH	Donauwörth
DORF	Dorfen
DSCHR	Dinkelscherben
DSCHRB	Dinkelscherben
DÜRKH	(Bad) Dürkheim
E	Eger
E	Eurasburg
EBERMST	Ebermannstadt
EBERMSTDT	Ebermannstadt
Ebersbg	Ebersberg
Eg	Eger
EGE	Eger
EGGM	Eggmühl
EGR	Eger
EI	Eisenstein
EICHST	Eichstätt
EIS	Eisenstein
EISENB	Eisenberg
EISENST	Eisenstein
EINSB	Eisenberg
Eisnst	Eisenstein
Eist	Eisenstein
Erb	Erbendorf
ERLG	Erlangen
ERLGN	Erlangen
ES	Eslarn
ESCH	Eschenbach
Eschlohe	Eschenlohe
ESL	Eslarn
ESLN	Eslarn
F	Feilnbach
F	Feucht

略 号	地 名
F	Freilassing
FCHT	Feucht
FHAFEN	Friedrichshafen
FICHTLBG	Fichtelberg
FKF	Frankfurt
FKFT	Frankfurt
FKT	Frankfurt
FLAD	Fladungen
FLADNG	Fladungen
FORCH	Forchheim
FORCHH	Forchheim
FORCHM	Forchheim
FR	Freilassing
Fr	Frasdorf
Fr	Freyung
FRANKF	Frankfurt
Frankft	Frankfurt
FRASDF	Frasdorf
FREILASS	Freilassing
FREILASSG	Freilassing
FREIS	Freising
Freis	Freisbach
FREISHM	Freinsheim
Frey	Freyung
FREYST	Freystadt
Frkf	Frankfurt
Frkft	Frankfurt
FRKFT	Frankfurt
Frkt	Frankfurt
FRKTH	Frankenthal
FRNKf	Frankfurt
Frnkth	Frankenthal
FRNSH	Freinsheim
Frnshm	Freinsheim
Ftlbg	Fichtelberg
FUESS	Füssen
FURT	Furth
FÜSS	Füssen
G	Garmisch
Ga	Garching
Ga	Garmisch
Garch	Garching
GARM	Garmisch
Geis	Geisenhausen
Gem	Gemünden
GEMD	Gemünden
GER	Georgensgmünd
Germsh	Germersheim
GERMSH	Germersheim
GEROLZ	Gerolzhofen
GEROLZH	Gerolzhofen
GEROLZHN	Gerolzhofen
GEROLZHOF	Gerolzhofen
GKRLB	Grosskarlbach
Gl	Glonn
GLZH	Gerolzhofen
GLZHF	Gerolzhofen
GLZHFN	Gerolzhofen
GLZN	Gerolzhofen

略 号	地 名
GMD	Gemünden
GMDN	Gemünden
GMND	Gemünden
GMNDN	Gemünden
GMSH	Germersheim
GNZBG	Günzburg
GO	Gotteszell
Gr	Grafenau
Gr	Gräding
GRÄB	Gräfenberg
GRÄFB	Gräfenberg
GRÄFBG	Gräfenberg
GRÄFNB	Gräfenberg
GRDG	Greding
GRED	Greding
GREDG	Greding
GREISB	Greisselbach
GREISBCH	Greisselbach
GREISEL	Greisselbach
GREISSELB	Greisselbach
Grf	Grafenau
GRFB	Gräfenberg
GRFG	Grafing
GRFNB	Gräfenberg
GRKBCH	Grosskarlbach
GRNST	Grünstadt
Gr. Osth	Grossostheim
GRUENST	Grünstadt
GSFD	Geisenfeld
GSSTSH	Gessertshausen
GÜNZB	Günzburg
GZBG	Günzburg
H	Haag
H	Hof
H	Holzkirchen
Haid	Haidhof
HAIDH	Haidhof
HAIDM	Haidmühle
Hamb	Hambach
HAMLBG	Hammelburg
HASSF	Hassfurt
HCHSP	Hochspeyer
Hdm	Haidmühle
HEIDELBG	Heidelberg
Helm	Helmbrechts
HERSB	Hersbruck
HERXH	Herxheim
HETTENL	Hettenleidelheim
HF	Hof
HINTERW	Hinterweidenthal
HK	Holzkirchen
Hlmb	Helmbrechts
HMBR	Helmbrechts
Hn	Holzkirchen
Ho	Hof
Ho	Holzkirchen
Hochsp	Hochspeyer
Hochst	Hochstadt
HOFHM	Hofheim

略 号	地 名
HOLFD	Hollfeld
Holz	Holzkirchen
HOLZK	Holzkirchen
HOLZKIRCH	Holzkirchen
HOM	Homburg
HOMB	Homburg
HOMBG	Homburg
HOMG	Homburg
HSCH	Herrsching
HSCHN	Herrsching
HSCHNG	Herrsching
HSSF	Hassfurt
HZB	Hauzenberg
HZBG	Hauzenberg
HZGCH	Herzogenaurach
IMMST	Immenstadt
INDERSDF	Indersdorf
ING	Ingolstadt
IngIst	Ingolstadt
INGOLST	Ingolstadt
INGST	Ingolstadt
IRRN LH	Irrenlohe
JAGSTFLD	Jagstfeld
JOS	Jossa
K	Kochel
K	Kufstein
KAISERS	Kaiserslautern
KAISERSL	Kaiserslautern
KAUF	Kaufering
KAUFB	Kaufbeuren
KAUFG	Kaufering
KAUFRG	Kaufering
KBLDN	Kirchheimbolanden
KCHL	Kochel
KDZBG	Kadolzburg
Ke	Kempten
KEMPT	Kempten
KFG	Kaufering
Kfst	Kufstein
KGHF	Königshofen
KGS HF	Königshofen
KIND	Kinding
KIRCHLAMNITZ	Kirchenlamnitz
KITZG	Kitzingen
KITZGN	Kitzingen
KITZING	Kitzingen
KLMNST	Klingenmünster
Kltr	Kaiserslautern
KLTRN	Kaiserslautern
KMPT	Kempten
Kmptn	Kempten
KO	Kochel
KOE	Kötzing
KONZ	Konzell
KPT	Kempten
KPTN	Kempten
KRBCH	Krumbach
KREUZN	Kreuznach
KRMB	Krumbach

略 号	地 名
KRUHE	Karlsruhe
KRUMB	Krumbach
KRZN	Kreuznach
KSL	Kaiserslautern
KSRL	Kaiserslautern
KSRLTN	Kaiserslautern
KSRSL	Kaiserslautern
KSRT	Kaiserslautern
KSSG	Kissingen
KSSNG	Kissingen
KTH	Kirchenthumbach
KTZG	Kitzingen
Ku	Kufstein
KUFST	Kufstein
L	Landau /Isar
L	Lauterecken
LA	Landau
LA	Landshtut
LAND	Landau
LAND	Landshtut
Landst	Landstuhl
LANGM	Langmeil
LANGQ	Langquaid
LANST	Landstuhl
Lauf	Lauterburg
LAUT	Lauterhofen
LAUTB	Lauterburg
LAUTERH	Lauterhofen
Lauth	Lauterhofen
LAUTR	Lauterburg
Lautrbg	Lauterburg
Lchfls	Lichtenfels
LCHTF	Lichtenfels
Ld	Landau
Ldau	Landau
LDG	Landsberg
LDHF	Ludwigshafen
LDSH	Landshtut
Ldwgh	Ludwigshafen
Ldwgsh	Ludwigshafen
Ldwgst	Ludwigsstadt
LDWH	Ludwigshafen
LDWHF	Ludwigshafen
LDWHFN	Ludwigshafen
Ldwst	Ludwigsstadt
LECHB	Lechbruck
LECHBR	Lechbruck
LHAFEN	Ludwigshafen
Lhst	Lehesten
Li	Lindau
Lichtenf	Lichtenfels
LICHTF	Lichtenfels
LIND	Lindau
Lm	Lam
LMPTSM	Lampertsmühle
LNDSB	Landsberg
LNDST	Landstuhl
Lndsth	Landstuhl
LNFNCH	Langenneufnach

略 号	地 名
LSHAF	Ludwigshafen
LSHFN	Ludwigshafen
LTCK	Lauterecken
Ltrckn	Lauterecken
LU	Ludwigshafen
LUDWIGSH	Ludwigshafen
LUDWIGSS	Ludwigshafen
LUDWIGSST	Ludwigshafen
LUDWSTADT	Ludwigsstadt
M	Marquartstein
M	Meiningen
M	Memmingen
M	Miltach
M	Murnau
M	Mühlendorf
M	München
MAIN	Mainburg
MAINB	Mainburg
MANNH	Mannheim
MARN	Marnheim
MARNH	Marnheim
Maroldswsch	Maroldswesach
MARQUARTST	Marquartstein
Marw	Maroldswesach
Maraws	Maroldswesach
MARXG	Marxgrün
Maxau	Maximiliansau
MAXG	Marxgrün
MCH	München
MCHBG	Münchberg
MCHE	München
MCHEN	München
MCHN	München
MCKNH	Meckenheim
Mdf	Mühlendorf
MDLHM	Mindelheim
Me	Memmingen
Me	Mering
MECKNH	Meckenheim
MEING	Meiningen
MEINGN	Meiningen
MELLR	Mellrichstadt
MELLRST	Mellrichstadt
Mem	Memmingen
Meming	Memmingen
Memm	Memmingen
MEMMG	Memmingen
MEMMGN	Memmingen
MEMMING	Memmingen
M.ERLB	Markt Erlbach
MERTING	Mertingen
MF	Mühlendorf
MGN	Meiningen
Mhldf	Mühlendorf
Mi	Mindelheim
Miltbg	Miltenberg
MITTENW	Mittenwald
MKTRD	Marktreidwitz
MLTB	Miltenberg

略 号	地 名
MLTBG	Miltenberg
MLTNB	Miltenberg
MNCH	München
MNCHN	München
MNGN	Meiningen
MNST	Münster
MNST	Münster am Stein
Mnstr	Münster am Stein
Mnstr	Münster
M.O.	München
M.OBDF	Marktoberdorf
MONSH	Monsheim
Mrdw	Marktredwitz
M.REDWITZ	Marktredwitz
MSTR	Münster
MU	München
Mu	Murnau
Mü	München
Mue	Mühdorf
Mue	München
MUGGENDF	Muggendorf
MÜNCH	München
MÜNST	Münster
MÜNST	Münster am Stein
MURN	Murnau
MUST	Mutterstadt
MUST	Münster
M.WALD	Markt Wald
MXAU	Maximiliansau
N	Nürnberg
NB	Nürnberg
NBBG	Nabburg
Nberg	Nürnberg
NBG	Nürnberg
NBRG	Nürnberg
Ndlgn	Nördlingen
NEU	Neukirchen
Neu	Neustadt
Neuenm	Neuenmarkt
Neuenmr	Neuenmarkt
NEUF	Neufahrn
NEUK	Neukirchen
NEUKIRCH	Neukirchen
Neum	Neumarkt
NEUMARKT	Neuenmarkt
NEUMKT	Neuenmarkt
Neumkt	Neumarkt
Neun	Neunburg
NEUNK	Neunkirchen
NEUNKIRCH	Neunkirchen
Neuof	Neuoffingen
Neuoffgn	Neuoffingen
NEUSG	Neusorg
NEUST	Neustadt
Nf	Neufahrn
Nffgn	Neuoffingen
Ng	Nürnberg
Ni	Nittenau
NK	Neukirchen

略 号	地 名
NK	Neunkirchen
NKCH	Neunkirchen
Nm	Neumarkt
NMKT	Neuenmarkt
Nmkt	Neumarkt
NMRKT	Neuenmarkt
Nnkch	Neunkirchen
Nnkchn	Neunkirchen
Nnke	Neunkirchen
NOERDL	Nördlingen
N.OFF	Neuoffingen
NÖRD	Nördlingen
NORDHALB	Nordhalben
NÖRDL	Nördlingen
Nördlgn	Nördlingen
NRB	Nürnberg
NRBG	Nürnberg
NRDL	Nördlingen
NRG	Nürnberg
NRNB	Nürnberg
NRNBG	Nürnberg
Nsg	Neusorg
NST	Neustadt
NUENB	Nürnberg
NUNK	Neunkirchen
NÜRNB	Nürnberg
NÜRNBG	Nürnberg
O	Oberamergau
OBDF	Oberndorf
OBERA	Oberamergau
OBERAMMERG	Oberamergau
Obndf	Obernburg
OBSTD	Oberstdorf
OCHBR	Ochenbruck
OFFST	Offstein
OTTOB	Ottobeuren
OTTOBN	Ottobeuren
OVCHT	Oberviechtach
P	Passau
P	Peissenberg
PA	Passau
PAS	Passau
Pbg	Peissenberg
Peissnbg	Peissenberg
PF	Pfarrkirchen
PFA	Pfarrkirchen
PFN	Pfronten
PFRONT	Pfronten
Pg	Pocking
PIRM	Pirmasens
PL	Plattling
PLA	Plattling
Plat	Plattling
PLATT	Plattling
PLATTL	Plattling
Plattlg	Plattling
PLEINF	Pleinfeld
PLNF	Pleinfeld
PO	Pocking

略 号	地 名
POCK	Pocking
Pockg	Pocking
PRE	Pressath
PRMS	Pirmasens
Probstz	Probstzella
PS	Passau
PSS	Passau
R	Regensburg
R	Reichenhall
R	Rosenheim
RDBG	Riedenburg
RDNBG	Riedenburg
RDWTZ	Marktredwitz
RE	Regensburg
REDW	Marktredwitz
Redwitz	Marktredwitz
REG	Regensburg
REGB	Regensburg
Regbg	Regensburg
RESG	Regensburg
Rg	Regensburg
Rgbr	Regensburg
RGS	Regensburg
RGSB	Regensburg
RGSBG	Regensburg
RGZB	Regensburg
RHRBCH	Rohrbach
REIDBG	Riedenburg
RITSCHH	Ritschenhausen
Rm	Rosenheim
Ro	Rosenheim
Ro	Rothenburg
ROETH	Röthenbach
ROETN	Röthenbach
Ros	Rosenheim
ROSENH	Rosenheim
ROSENHM	Rosenheim
ROSH	Rosenheim
ROTHB	Rothenburg
ROTHENB	Rothenburg
ROTHNB	Rothenburg
ROTTERSH	Rottershausen
ROTTSH	Rottershausen
Rp	Ruhpolding
Rrtshfn	Rennerhofen
RTTSH	Rottershausen
Ru	Ruhpolding
RUHPOLD	Ruhpolding
S	Salzburg
S	Schliersee
SA	Salzburg
SAALF	Saalfeld
SAARB	Saarbrücken
SAARBG	Saarburg
SAARBR	Saarbrücken
SAARG	Saargemünd
Saargd	Saargemünd
SALZB	Salzburg
SALZBG	Salzburg

略 号	地 名
Salzbrg	Salzburg
SCH	Schongau
Sch	Schellenberg
Sch	Schliersee
SCHEID	Scheidegg
SCHELLBG	Schellenberg
SCHFF	Schifferstadt
Schffst	Schifferstadt
SCHFT	Schweinfurt
SCHIFF	Schifferstadt
Schiffst	Schifferstadt
Schl	Schliersee
SCHLIERS	Schliersee
SCHLLKR	Schöllkrippen
SCHLUESSELF	Schlüssenfeld
SCHLÜCH	Schlüchtern
Schlücht	Schlüchtern
SCHLÜSSELF	Schlüsselfeld
Schm	Schmidmühlen
SCHN	Schnabelwald
SCHNABW	Schnabelwald
SCHNTT	Schnaittach
SCHNTTCH	Schnaittach
SCHNW	Schnabelwald
SCHO	Schondorf
Scho	Schongau
Schoellkr	Schöllkrippen
SCHOELLKRIPP	Schöllkrippen
SCHÖKR	Schöllkrippen
SCHÖLLKR	Schöllkrippen
SCHON	Schongau
SCHONG	Schongau
SCHÖNS	Schönsee
SCHW	Schweinfurt
Schw	Schwandorf
SCHWAB	Schwabach
SCHWADF	Schwandorf
Schwan	Schwandorf
SCHWD	Schwabach
SCHWDF	Schwandorf
SCHWEINF	Schweinfurt
SCHWEINT	Schweinfurt
SCHWF	Schweinfurt
SCHWFT	Schlüchtern
SCHWT	Schweinfurt
SELGST	Seligenstadt
SELIGST	Seligenstadt
SELIGSTDT	Seligenstadt
SGDF	Siegelsdorf
Si	Simbach
Simbch	Simbach
SLGST	Seligenstadt
SLSDF	Siegelsdorf
SMLDF	Simmelsdorf
SMLSDF	Simmelsdorf
SONTHFN	Sonthofen
SRGMD	Saargemünd
St	Straubing
STADT	Stadtamhof

略 号	地 名
STADTL	Stadtlauringen
STADTLRG	Stadtlauringen
STAUD	Staudernheim
STEB	Steben (Bad Steben)
Steinb	Steinburg
Stgt	Stuttgart
ST.ING	Sankt Ingbert
St.INGB	Sankt Ingbert
ST.LAUR	Stadtlauringen
STNCH	Steinach
STPRZ	Stadtprozelten
ST.PRZ	Stadtprozelten
STRAUB	Straubing
STRBG	Straubing
Szbg	Salzburg
TCHT	Treuchtlingen
TH	Thann
THANNH	Thannhausen
Ti	Tittmoning
Tirsch	Tirschenreute
To	Bad Tölz (Tölz)
Tö	Tölz (Bad Tölz)
Tr	Traunstein
Traun	Tarunstein
Trchl	Treuchtlingen
TRCHT	Treuchtlingen
TRCHTL	Treuchtlingen
Trn	Traunstein
TRO	Trostberg
TROSTBG	Trostberg
TRST	Traunstein
Trstb	Trostberg
TST	Traunstein
Tt	Tittmoning
Ttz	Tutzing
TU	Tutzing
Tü	Tüssling
TÜRKH	Türkheim
Tüssl	Tüssling
U	Ulm
U.B.	Unternbibert
U.BIBT	Unternbibert
UEHLF	Ühlfeld
ÜHLF	Ühlfeld
UL	Ulm
UNGERH	Ungerhausen
Ue	Übersee
VELD	Velden
VI	Viechtach
VILSH	Vilshofen
VLD	Velden
Vo	Vohenstrauß
Voh	Vohenstrauß
VOHST	Vohenstrauß
VOLKCH	Volkach
W	Weilheim
W	Würzburg
Wa	Waging
Wa	Waldkirchen

略 号	地 名
Wa	Waldmünchen
Wai	Waidhaus
Waid	Waidhaus
Waidh	Waidhaus
Warmenstch	Warmensteinach
Warmenstein	Warmensteinach
Wass	Wasserburg
WASSBG	Wasserburg
WBG	Würzburg
WDBCH	Windsbach
WEDEN	Weiden
WEI	Weiden
Weid	Weiden
WEIDN	Weiden
WEIL	Weilheim
WEILH	Weilheim
WEILRB	Weilerbach
WEISS	Weissenburg
Weissb	Weissenburg
WEISSENBR	Weissenbrunn
WEISSENST	Weissenstadt
WEMD	Wemding
WEMDG	Wemding
WERTH	Wertheim
WERTING	Wertingen
WGRTH	Wicklesgreuth
WGSCH	Wegscheid
WIES	Wiesau
WILDFL	Wildflecken
WIND	Winden
WINDSH	Windsheim
WISA	Wiesau
WLDM	Waldmünchen
WLHDF	Wilhermsdorf
Wlnz	Wolnzach
WMS	Worms
Wo	Wolftratshausen
WOLN	Wolnzach
WOLNZ	Wolnzach
Wrms	Worms
Wrthm	Wertheim
WRZ	Würzburg
WRZB	Würzburg
Wrzg	Würzburg
WS	Wiesau
WSSB	Weissenburg
WUERB	Würzburg
WUERZB	Würzburg
WÜRZBG	Würzburg
Wybg	Würzburg
WZB	Würzburg
Wzbg	Würzburg
WZBR	Würzburg
WZG	Würzburg
Zw	Zwiesel
ZWBR	Zweibrücken
Zwbrkn	Zweibrücken
Zweib	Zweibrücken
ZWEIBR	Zweibrücken

裁断ずれ切手帳は変造品？

永吉 秀夫

1967 年 6 月 1 日に、自動販売機で発売するための切手帳 3 種が発行されました。

この「旧きく」以降 1981 年「梵鐘」までの切手帳は、切手 10 枚分のサイズのペーン (60 円切手帳の場合はその半分) を表紙に貼りつけた共通の形態をしています。その中の何種かに「裁断ずれ」というエラーが存在します。



(図 1) きく 60 円切手帳の「裁断ずれ」(表紙つき状態の内側)

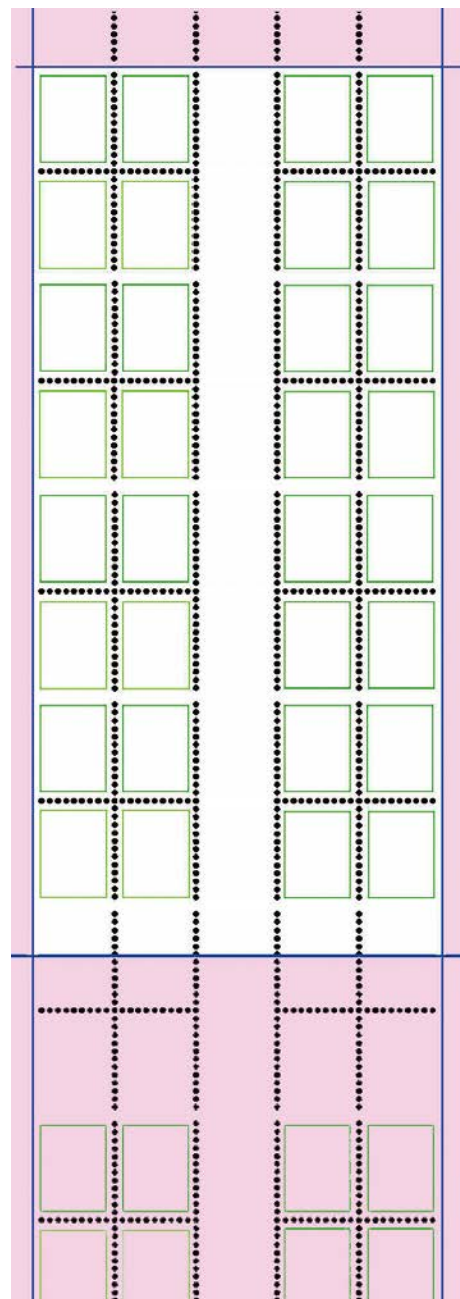
筆者も最近になって、遅ればせながら図 1 の裁断ずれ (60 円切手帳) を入手したのですが、これを詳しく観察するにつれて疑問を抱くようになりました。少なくとも今回の入手品は、不正に流出した未裁断シートを使った変造品だろうというのが、現時点での結論です。すでにどこかで報告済みの事実かも知れませんが、筆者にとっては新発見だったということで、ここに報告しておくことにしました。

(1) きく切手帳の製造方法

まずはこの時期の切手帳の製造方法について、簡単に復習しておきます。90 円・100 円のペーンは、グラビア輪転機の円筒状実用版上に 16 ペーン構成で製版されたと推察されます。この輪転機を使って印刷・目打穿孔された実用版 1 面分の右上 1/4 部分 (4 ペーン分) の概念図を、図 2 に示しました。

ロール紙に印刷された切手は、この 4 ペーンつづきのサイズにカットしたのち表紙と貼りあわせ、表紙ごと 1 ペーンずつにカットして折曲げ、という工程を経て出来上がりとなります。この製造方法は、文献 1 に詳述されている万博切手帳の製造法と本質的に同じです。万博切手帳では、切手サイズが大きいため実用版が 8 ペーン構成となっている点だけが異なります。

切手 4 枚のみからなる 60 円切手帳のペーンは 90 円、100 円ペーンの右半分と同一ですが、60 円切手帳専用の実用版が準備されたとは考えにくいです。印刷された 90 円または 100 円ペーンの左半部分を切り捨てた可能性が高いと思われます。



(図 2) きく切手帳ペーン (100 円) の製造方法

(2) 裁断ずれ切手帳の疑問点

図1の60円切手帳は、裁断位置がずれてペーンの横目打位置で裁断され、中央が無目打となっているものです。目打の状態がわかりやすいように、黒台紙をはさんでスキャンした画像を図3に掲載しておきます。しかし上記の製造方法から考えて、本当にこのようなエラーが起こりうるものかという疑問が生じます。問題はこの切手帳、表紙の方は裁断ずれでないという点です。すなわち裁断ずれというよりは、表紙とペーンの貼りあわせがずれていることの方が本質的です。

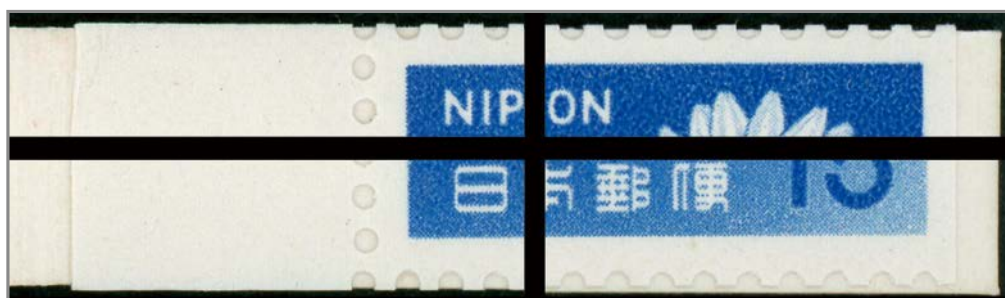


(図3) 裁断ずれ切手帳のペーン部分

4ペーン分の表紙と4ペーンつながった未裁断シートを貼り合わせる工程では、恐らく余白部に印刷されているトンボを使って位置合わせをしたと思われますが、その際ちょうど切手1枚分だけずれるということは起こりそうにありません。もちろん「起こりそうにないこと」が起こるのがエラーなのですが、もしこういうエラーが起こるのなら、貼りあわせが半端にずれたものも多数存在するはずです。そういう切手帳は、開いて見さえすれば不良品であることが一見してわかるので検査ではねた、という説明はできるでしょう。しかしそれでも疑問は残ります。

(3) 今回入手品の詳細観察

図1をよく見ると、ペーンの端が表紙の端と完全には一致してないように見えます。上辺は全体、下辺は左半分ほどで、表紙よりペーンの端がはみ出しています。4枚ペーン四隅の拡大図を、図4に示しました。表紙外側からスキャンした画像も、図5に示しておきます。これらの画像からは、目打のギザギザが表紙の端からはみ出している状況を、容易に見て取れます。本当に貼りあわせが1段分ずれたものを裁断したのであれば、ペーンの端と表紙の端は完全に一致していなければなりません。



(図4) 今回入手品の拡大画像



(図5) 表紙外側からのスキャン画像

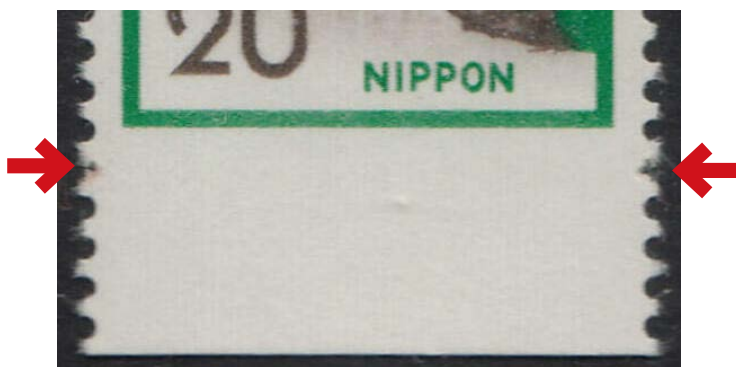
すなわち図1の切手帳は表紙とペーンを貼り合わせてから裁断したものではなく、別々に裁断した表紙とペーンを貼り合わせたものであると断言できます。このような製品は、正規の工程を経て出来上がったものでないことは明かです。製造過程で不正に持ち出された4ペーン構成の未裁断シートを本来の位置ではないところで裁断し、これを正規品のペーンを剥ぎ取った表紙に貼りつけた変造品であると推察されます。

少し後の時期の切手帳になりますが、「20円まつ」と「10円しか」を組み込んだ100円切手帳についても、製造過程で不正に流出したと思われる未裁断シートやそれを使って作成したと思われる裁断ずれ切手帳が存在します(と記憶しています)。

筆者は図6の「20円まつ1辺目打もれ」を所持していますが、これは裁断ずれ切手帳を作成するときに発生した切りくずと考えられます。この切手は下辺が目打もれとなっていますが、このような目打もれは、通常シート切手では存在しえません。この時期のどの方式で穿孔したにせよ、縦目打が完全で横目打のみ目打もれということはありません。



(図6) まつ切手帳の未裁断シートから切り取った単片?



(図7) 図6の目打部分拡大図

一方図2の切手帳ペーン概念図(20円まつの場合は左半が多少異なりますが)を見ると、4ペーン構成の未裁断シートから裁断ずれペーンを作ったとき、最下部の切りくずから図6の切手が1枚とれることがわかります。(注1) この切りくず切手では、縦目打のうち、無目打となっている横目打と交差する位置が無目打となっているはずですが、図6ではこの部分にも目打穴があります。しかしこの目打穴を詳しく観察すると、図7の赤い矢印のように他の穴と明らかに異なる形状をしています。あとから拙劣な器具を使って、手作業で穴開けした結果であろうと考えられます。

(注1) 単純に4ペーン構成の未裁断シートから裁断ずれを3ペーン採取した場合、図6の「切りくず切手」の上辺はストレートエッジになっているはずですが、実際にはそうではありません。「裁断ずれ切手帳」の中に、目打部分を手でちぎったもの、もしくはそれを切り直した寸詰まりが出まわっているかも知れません。

以上が今回の調査・考察結果ですが、同類品をお持ちの方がおられたらぜひ調べてみて下さい。なお本稿執筆中に Web 上で公開されたジャパNSTAMPオークション(8月25-26日)の出品物には、数々の切手帳のエラー品が含まれています。その中には今回取りあげた「裁断ずれ」もありますが、画像を見るとやはり表紙とペーンの端が少しずれているように見えます。

不正流出品だからといって、それだけの理由で収集価値がないとは言いません。シートを分割するところまでは許容です。しかしそれ以上の手を加えて何かに見せかけた変造品は許されないと思うのですが、皆様いかがでしょうか。

(文献1) 内藤陽介「解説・戦後記念切手第4巻」(日本郵趣出版2006年)



[編集部より] 本号の表紙を飾る20円切手図版の元の未裁断ペーン(スタンペディア蔵)。永吉さんの推測が正しいことを証明するマテリアル

全日展 2018 出品作品より 赤姫路の印刷版に関する考察

出品者：吉田 敬

1 ペーンだけと信じられてきた赤姫路の印刷版

昭和 26 年に発行された 14 円姫路城切手（銭位）は、人気がある切手で、最新の組合カタログの未使用評価は 1 枚 10,000 円もします。もっとも、実際の取引金額はその一割程度です。だいたいわかりますが、それでも高価な切手であることに変わりありません。しかし、この切手は昭和 26 年から昭和 31 年まで 5 年半以上外信葉書用額面として発行されており、そこまで少ないものではないはずです。

しかしながら「なんとなく少なそう」という理由で、これまで印刷版は一版のみだと信じてきた人が多いと思います。実際には、先に述べたとおり未使用が高価だった為、未使用シートの流通量が少なく、フィラテリスト、ディーラーを問わず、複数のシートを同時に保有した人がほとんどおらず、製造面研究が疎かにされたため、憶測のみが一人歩きしただけなのですが。

先ほど未使用単片の取引金額はカタログ値 10,000 円の一割程度であると書きましたが、ブロックやシートになると、その安さでの入手は難しく、シートの流通金額はカタログ値の半分程度の 40 万円から 50 万円前後に跳ね上がります。傷や汚れの大きな未使用シートでも、20 万円近くで流通しており、マルチプルが珍しい切手の一例です。

筆者は、一番多い時でシートを 4 シート、それに加えて多数の大型マルチプルを集めた後で、それらを元にした印刷版に関するオリジナル・スタディを行い、全日本切手展 2018 に出品しましたが、その内、製造面に関する研究について、是非誌上で発表してほしいというご依頼を多数頂戴しましたので、僭越ながら本稿にまとめさせていただいた次第です。

発表済みの、赤姫路の定常変種 (pos.97)

オリジナル・スタディを始めるにあたり、既存研究を調査したところ、山路晴名さんが「スタンペディア フィラテリック ジャーナル 2012」にご執筆された記事をまず発見しました。（右図、P.50）。

曰く「96 番 と 97 番に薄い赤の細長い曲線が見られるものがあります。複数確認していますので、定常変種の可能性があります。」

手持ちのシートや大型マルチプルで探したところ、シート 2 枚を含む 4 つの塊で確認することができました。そして残りの塊の同一ポジションには、この特徴がみられませんでした。



図 / Figure - 9 96番と97番に薄い赤の細長い曲線
Thin red line on Pos.96&97

pos.97 だけで終わらない定常変種

この pos.97 左側に見られる薄い赤い細長い曲線ですが、どうやら pos.97 で終わらず、上に向かって伸びていることに気づきました。右図は「薄い赤い細長い曲線を上から赤ペンでなぞった画像」ですが、ところどころ途切れながらもシート最上段の pos.7 まで細長い曲線が繋がっていることがわかります。ここまでくると、もはや「ヒビ」です。

同じシート内に他にも似たような「ヒビ」が入っていないか調べたところ、Pos.9/99 の縦 10 枚ストリップで、同様にヒビを発見しました。pos.7/97 のストリップ同様に曲線を強調した画像を右に掲示します。

この二つの「ヒビ」は、シート2枚を含む4つの塊で確認できましたので、印刷版の定常変種と判断しました。また、残りのマルチプルからは、同一ポジションにこれらの定常変種を含まないマルチプルを2シート含む4点確認いたしました。

赤姫路の2種類のペーンは、製造時期が異なるか？同時か？

定常変種の調査から、赤姫路の印刷版（ペーン）が少なくとも2種類以上存在することが確定しました。

赤姫路は発行数が他の切手と比べて極端に少ない（だからカタログ価格が高い）為、印刷版は一版しか存在せず、また凹版印刷機にも同時に1ペーンのみ取り付けられて製造されたという仮説もあったほどの赤姫路ですので、これに反する事実は大きな発見です。

しかし、これだけでは、この2つのペーンは、凹版印刷機に2面ペーンとして同時につけられたものなのか、それとも時期を違えて使用されたものなのかがわかりません。

ここで日専にも掲載されている糊の研究をすると、手持ちのマテリアルの中で、両方の印刷ペーンに、それぞれ A 糊と D 糊を発見することができました。この確認により状況証拠的には、14 円の印刷ペーンは同時に2つ以上あったと考えられます。

つまり専門分類としては、赤姫路は、次の4種類に分類されます。

ペーン A	pos.7/97,9/99 に定常変種あり	A 糊
ペーン A	pos.7/97,9/99 に定常変種あり	D 糊
ペーン B	定常変種なし	A 糊
ペーン B	定常変種なし	D 糊



Pos.7/97

Pos.9/99

再考が求められる凹版切手の研究

動植物国宝や昭和切手の収集家と話をする中で、「凹版切手は、製造面のバラエティが少なく、競争展開向けの展開が難しい」という話をよく耳にします。凸版印刷は耳紙に印刷された罫線で、輪転版と平面版が区別でき、しかも第3コーナー周辺の罫線の形状で輪転版印刷機まで特定できるから、「展開が簡単だ」ということなのでしょう。

しかしながら、伝統郵趣部門における主役は罫線ではなく切手ですので、罫線の分類以上に切手を含む印刷版の分類が可能になれば、より望ましいのです。その観点から凹版切手の研究を再考すると、罫線に何も印刷されない為、一見何も変化が無いように思えるものの、通常倍率のルーペで細部を拡大してみると、実は全ての切手が一枚一枚違うように見えることがあります。

このようなバラエティが生じる原因は、凹版切手の製造工程における印刷版の作成方法の変化にあります。技術革新の歴史を追うと、大正11年(1922)から使われてきた「チャップマン転写方式」は、昭和28年(1953)に「クラッチ法」と「鉄電鋳法」による印刷版作成に駆逐されます。これは、後者により製造された切手はほぼ均一である一方、前者により製造された切手は、シートの全ての切手が異なってしまうがちだからです。そして、14.00円赤姫路は、前者である「チャップマン転写方式」で印刷版が作成された切手なのです。

ところで、技術が変わる端境期に凹版印刷で製造された通常切手の内、「チャップマン転写方式」に該当するものについて、別冊日本切手名鑑「動植物国宝図案」(1991, JPS)に記載ある内容は多くの間違いを包含しています。

昭和31年(1956)9月発行の14円『姫路城』(#308)、翌32年3月発行の24円『平等院鳳凰堂』(#310)、34年(1959)4月発行の30円『平等院鳳凰堂』(#311)は、いずれも銭単位切手時代に作られた転写方式による凹版版面をそのまま流用し、額面の部分のみを彫刻し直したものであり、

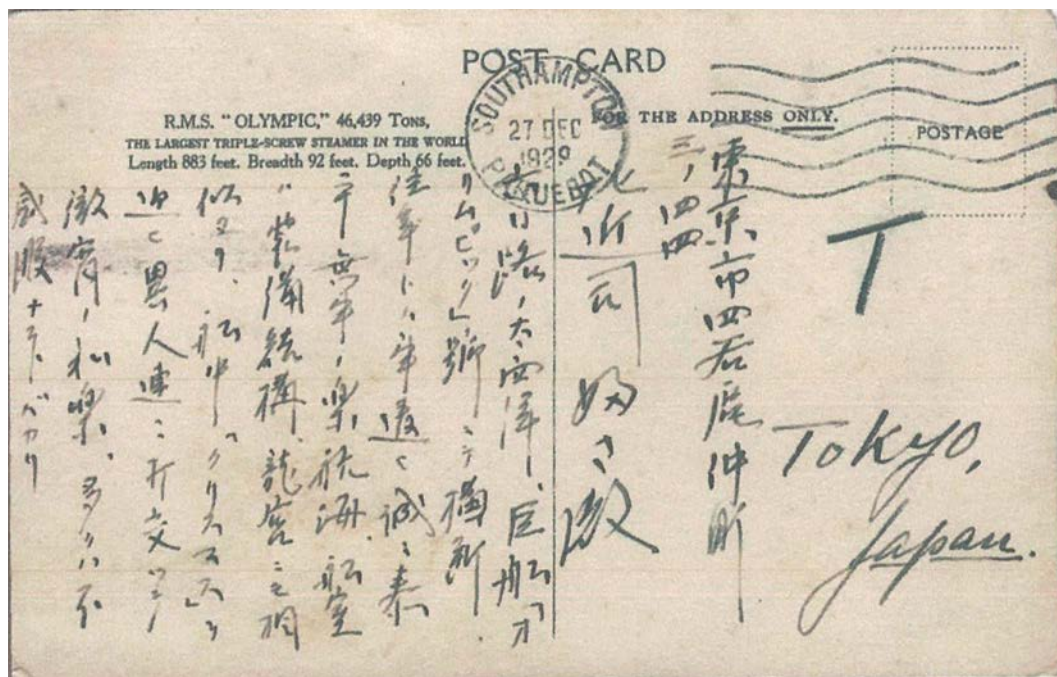
と記述がありますが、5倍程度のルーペで見れば分かる通り、両者は全く別の版です。また、一次円単位の14円切手は、100面シートの切手一枚一枚が正確に複製されており、ポジションの違いによる差が認められません。『チャップマン転写方式』で作成した版で、このような製造を行うことは神業を超えており、私は、この切手は『クラッチ法』と「鉄電鋳法」により印刷版が作成されたと考えています。



的一滴

安藤 源成

太平洋航路 PAQUEBOT / オリンピック号



切手無 T 料金不足
PAQUEBOT SOUSHAMPTON 27.DEC. 1929. → TOKYO
差出人「北近司政三」が妻「ふさ」にあてたもので、「北近司政三」は戦後「商工大臣」と成る。

オリンピック (RMS Olympic) は、1900 年代にイギリスのホワイトスターライン社がイギリスやアイルランドなどヨーロッパ各地とアメリカ東海岸のニューヨークなどの航路に就航した客船。・姉妹船タイタニック

1915 年 9 月にオリンピックはイギリス海軍省の命を受けて軍用輸送船として徴用された。12 ポンド砲と 4.7 インチ機関砲取り付け、1915 年 9 月 24 日輸送船 2410 として、リバプールからガリポリに向けて部隊を輸送する任務についていた。その後、東地中海に置いて輸送任務を続けた。



裏面

オリンピックは第一次世界大戦終結後に再び客船として就役し、その後 20 年近く現役の客船として栄光を保ち続けた。500 回もの大西洋横断をこなし、先の U ボートとの一騎打ちの逸話も加わって、晩年には「Old Reliable」(頼もしいおばあちゃん) という愛称で親しまれ、1935 年に引退した。

郵便番号導入50年 郵便番号周知切手特集

1968年（昭和43年）7月1日に、郵便番号が導入されて丁度半世紀経過した2018年7月1日を祝うため、郵政博物館（東京・墨田）は、「郵便番号導入50周年展」を特定非営利活動法人 郵趣振興協会と開催しました。（会期は2018/6/30-7/1、右は会期中使用された小型印）

この切手展の開催が決まり、様々な切手展に、郵便番号周知切手が展示されることが増え、フィラテリストの関心も高くなった郵便番号周知切手について、研究の進んだ100面シートとコイル切手の製造面を記事にまとめると共に、4名の収集家にコレクション全リーフの掲載をご協力頂き、珍しい使用例をご覧くださいけるようにしました。



100面シートの製造

水谷行秀さんが、1990年代に一念発起して調べてやろうと思い立ち、切手商をあちこち周って実物を見せてもらいながら目打別収集をした結果、切手ごとに存在する目打が解明しました。その後の新種の発見はありません。今回、印刷機ごとの表としてまとめました。

発行年	額面	製造に使用された印刷機			
		板グラビア印刷機 (逆抜櫛型目打)	4色グラビア輪転印刷機 (連続櫛型目打)	3色グラビア輪転印刷機 (試行目打*2)	凸版印刷機改良型グラビア輪転印刷機 (全型目打)
43	7		○	○	
	15	○	○	○	○
44	7		○	○	
	15	○	○	○	○
45	7	○			
	15		○*1		
46	7		○		
	15		○*1		
47	10		○		
	20		○	○	
48	10		○*1		
	20		○		

*1 昭和45,46年の15円および昭和48年の10円切手の3種類は、4色輪転印刷機で製造されたシートに、逆2連1と正2連1の目打の二種類が存在する。

*2 3色輪転印刷機で製造されたシートには試行目打が施される。昭和43年（一次）は正4連1が試行中で、昭和44年以降は連続櫛型目打が試行中だった。

*3 昭和48年（6次）のみ、4色輪転印刷機製造シートに計数番号が印刷されなかった。また凸版改良型2色輪転印刷機で製造されたシートの計数番号の太さは、昭和43年に比べて44年は細くなった。

*4 黄色で背景着色された欄は、複数の機械で製造され、みほん字入りの存在が確認できた分。

コイル切手の製造

400 万枚発行された 15 円コイル切手（昭和 43 年）の一卷は 500 枚ですので、8,000 巻の完封が発行されたことがわかります。

この自動販売機発売用のコイル切手は、凸版印刷機改良型グラビア輪転印刷機で製造されました。同印刷機は輪転印刷機で、印刷版の一周に切手 22 枚分の版をつけることができました。このため印刷版は、横 10 枚 縦 22 枚で準備され、凸版印刷機改良型グラビア印刷機で通常使用される巻き紙に印刷されました。

一卷のコイル切手を完成させるのに、前後リード紙を含めて 522 枚の切手が巻き付けられます。印刷機は 1 回転で 22 枚の切手を印刷する為、24 回転が必要です。なお最終的に切手が下方方向に向けて心棒に巻き付けられていることから、印刷版は天地逆に設定されていたことが推定されます。

なお、15 円コイル切手の印刷版は、100 面シート同様、横方向の切手は連刷だったと推定されます。このため、巻き付け開始切手も 2 種類存在します。

普通の切手であれば、この後、全型目打が穿孔され、裁断されるわけですが、コイル切手であるため、目打ユニットから縦方向の目打針は撤去され、横方向の目打穿孔のみが行われました。また、横方向の裁断を行わず、代わりに縦方向の裁断が行なわれました。この結果、印刷機からは 10 本の縦長の切手の繋がりが出力される形となります。（5 本は「あて名に」から始まり、残り 5 本は「あなたの」から始まります）

上記の縦長の切手の繋がりは、灰色のプラスチックの心棒（写真の中央部参照）に巻き付けられます。心棒の直径は 2.6 cm、一周は 8.16 cm であり、切手 3 枚と 1/3 に相当します。4 枚目の切手の上部 1/3 の糊が心棒への接着に用いられています。切手は下方方向に向けて心棒に巻き付けられていきますが、この内最初の 16 枚と最後の 6 枚には黒いマジックで幅約 1 cm の線が引かれており、切手としての効用を無効化しています。また最初から 11 枚目の切手にはさらに直径 1.2 cm の穴が空けられています。

ロール状の切手を自動販売機にセットするにあたっては、切手をセットした直後のテストが必要なことが、最後の 6 枚（自動販売機セット後においては最初の 6 枚）が必要な理由です。また、切手が残り少なくなってきた時に、販売停止時期を機械が検知する為に、物理的に変化のある切手が必要なことが、上から 11 枚目の切手（最後の販売用切手から 6 枚目）に穴が空いている理由です。先ほど書いた通り、巻きつけ開始切手が 2 種類存在するため、この最初と最後の無効化されたストリップも 2 種ずつ存在します。

ロール巻きつけ作業が完了すると、巻き付けた最後の切手に、4 * 12mm の長方形のセロハンテープが巻かれ、状態が固定されます。その状態で左右に「十五円ロール切手（郵便番号制周知用）」ゴム印が紫で押捺された「大蔵省印刷局封緘証」シールが貼られます。封緘紙の一方にのみ、日付印が黒で押捺されますが、現在確認できた範囲で、初期製造分は切手を正方向に置いた状態で、右側の封緘紙に押され、後期製造分は左側の封緘紙に押されています。



切手コレクション紹介

全日本切手展 2018 金銀賞 付録1に全リーフ掲載 (5F)

郵便番号宣伝 1968-1973

宮崎 幸二

今から50年前の昭和43年(1968)7月1日、郵便番号制度が施行されました。差出人に宛先の区分番号を書いてもらう画期的な取り組みであったため、郵政は全力で普及を図ります。郵便番号宣伝は、この一環で1-6次まで大量に発行されたキャンペーン切手で、告示上は「通常郵便切手」として、既存の7円金魚や15円菊に優先して販売するよう指示されました。この作品は、このシリーズの通常切手としての性格を製造・使用の両面から明らかにしようとするものです。(出品者コメント)

郵便番号切手1次～6次で5フレ80リーフの作品が作れるとは驚愕。意外に後半で見せるアイテムの難しさが痛感された。(長野 行洋コメント)

郵便番号宣伝1968-73

【展示の目的及び概要】

昭和40年代初頭、郵政省は、高度経済成長を背景に増大する郵便物処理の合理化を進めていた。先ず、昭和41年(1966)7月に郵便物の定形制度が施行され、続いて最大の変革として、昭和43年(1968)7月1日に郵便番号制度が導入された。全国の市町村に5桁の郵便番号を割り振り、郵便物の差出人に宛名の郵便番号を記載させ、これを自動読取区分機で識別し、配達先を機械的に仕分けるもので、懸案であった配達区分は飛躍的な合理化を達成し、50年を経て現代に至る郵便物処理の方法を確立した。

本作品の『郵便番号宣伝』は、郵便番号の記憶助業・普及を図るために発案されたキャンペーン切手で、切手印面は、当時標準化されていた「色検知」の規格(注1)に準じ、キャラクターに「ナンバ-君」(注2)を採用、図案に標語を入れ、制度導入時の第1次から第6次迄6年間にわたり、例年7月1日の制度記念日に、はがき及び封書額面の切手をそれぞれ数億枚単位で発行した。発行数が予め規定された為、殆ど全ては記念・特殊切手に分類されているが、公式には通常郵便切手(普通切手)として告示されたものである。但し、第1次切手には、少数のコレ切手と切手帳ペ-ンが合わせて発行されており、エ-グな存在となっている。

この作品は、当該キャンペーン切手が、通常郵便切手(普通切手)として大量発行されたことにより発現した様々な特徴を表現しようとするもので、切手製造面ではコスト削減を目的とした各種目打型式の試行や板ラビ7版と輪転ラビ7版の違いを。また使用面では発行期間中、いわゆる「7ヶ月料金」を含む二度にわたる国内料金の改定、アジア・オセアニア郵便連合加盟や沖縄返還前後の料金などを含む外信料金の变化を。消印では、日立型機械印や和欧文機械印の試行と導入、郵便番号制度周知の標語印の使用などのバリエ-ションをそれぞれ特徴的な使用済やか-を用いて展開する。

(注1)自動押印のため切手貼付位置検知が出来る様、切手図案にベ-タ刷りや検知枠を用いたもの。

(注2)第1次切手発行時には、単に「郵便番号のシンボルマーク」と紹介されたが、直後に公募による「ナンバ-君」の愛称が付けられた。

【展示プラン】

第1、第27レ-ムには、先ず自動読取区分機の導入を記念した各地の官製記念か-を配し、第1次切手の切手帳ペ-ンを含む1次から6次切手の「みほん」字入りを示す。続いて第1次切手の製造面と使用面を発行数の少ないコレ切手と切手帳ペ-ンに重点を置き展示する。

第3から第57レ-ムには、同様に第2次から第6次発行の切手の製造面と使用面をそれぞれの特徴に留意して発行順に配置する。

【注目のマテリアル】

1. 各地郵政局による自動読取区分機始動記念の官製記念か- (No. 2, 3, 4, 7-7)
2. 第1次7円切手京都北局消印の発行日前使用例 (No. 9, 7-7)
3. 第1次15円コレ切手貼付局日立型和文機械印II期(標語有)消印か- (No. 23, 7-7)
4. 第1次切手帳ペ-ン貼付台湾宛配達書状航空便 (No. 32, 7-7)
5. 韓国21Pコード記載限定加盟国宛低料船便書状の和欧文機械印押印による紛来か- (No. 70, 7-7)

【参考文献】

1. 『郵便番号宣伝切手を制覇する』郵便1998年7月号(第52巻通巻593号)久野徹、水谷行秀
2. 『戦後の郵政資料 第3巻』(2006)『同 第4巻』(2007)行徳國宏
3. 『一億総切手狂の時代 1966-1971』(2006)『沖縄・高松塚の時代 1972-1979』(2007)内藤陽介

作品オーナーのご好意で本作品(P.86,87とも)は付録1に全リーフが収められています。

付録1は、「マイスタンプEDIA」よりダウンロードできます。入手後は、個人の利用の範囲で印刷等してご利用ください。

切手コレクション紹介

現代切手展 (1998 年) 優秀賞・改善作品 付録1に全リーフ掲載 (68 ページ)

郵便番号宣伝

水谷 行秀

まだ現代切手展があった 1998 年に出品して、優秀賞を戴いた作品にアイテムを追加したものです。郵便番号宣伝は記念・特殊切手としては珍しく製造面のバラエティがあります。また、キャンペーン切手として普通切手より優先的に売り捌かれました。このため、短期間に消費されたという特徴があります。これらの特徴を表した作品を作りたくて現代切手展に出品したのです。昨今では 1 枚のリーフに 2 通のカバーを貼る方が良いとされています。1998 年当時は必ずしもそうではなかったことを考慮して見て頂けたら幸いです。

また、作品を作るには切手帖やコイルもそれなりに難しいですが、7 円が特に難しいです。低額で半端な額面というのがその理由ですが、実際集めてみるとハガキの基本と応用パターン（年賀・沖縄宛て・速達など）しか集まりません。これでは見た目に変化がなく退屈な作品になってしまいます。7 円でいかに飽きさせないかがポイントとなります。

切手の種類も 14 種類（1968 年の標語違いは数え無い場合）と少なく、発行も 1968 年から 1973 年と 6 年だけです。未使用も安価なものが多く、最近の未使用の人気の無さを加味するとブロックやシートを購入してもそれほど額のにはならないでしょう。サブコレクションとしては非常に手ごろな郵便番号宣伝切手、どうぞお楽しみ下さい。そして是非この世界へ参入して下さい。お待ちしております。（出品者コメント）

20 年前多くのコレクターに「郵便番号宣伝でここまでできるのか」と衝撃を与えた作品。（吉田敬コメント）



切手コレクション紹介

郵便番号導入50周年展 展示作品 付録1に全リーフ掲載 (4F)

郵便番号宣伝切手

中澤 正夫

郵便事業の近代化を図る為に、昭和43年7月1日から郵便番号制が実施され、普及宣伝する目的で当日に郵便番号宣伝切手第1次分が発行された。当該シリーズ切手は第6次分まで普通切手として発行され各種変化が見られます。

例えば、製造面では目打形式や計数番号の変化、使用面では消印の変化（標語入りの和文機械印と和欧文機械印に3種類の標語や戦後型時刻表示、等）、使用例では国内便や外信便の特殊取扱便等。

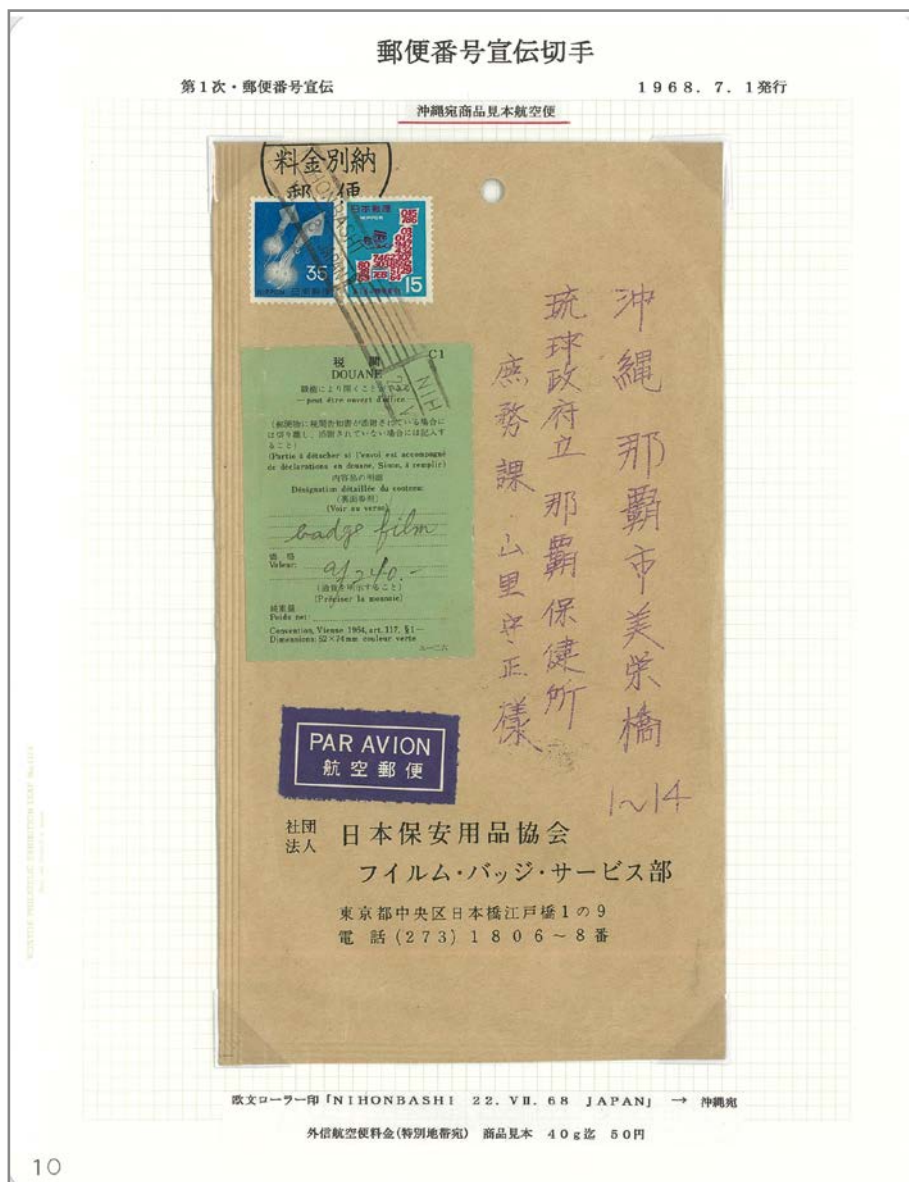
特に当時は未返還だった沖縄宛の特別地帯宛外信便や新規に登場した和欧文機械印の試験期間内押印のエンタや誤植によるエラー押印のエンタ等がありますので、全般的に楽しめます。(出品者コメント)

発行当時、郵便局に勤務し、この切手を販売したこともある出品者による50年間収集してきたマテリアルのコレクション。

唸らせられる使用例も多く、展示にあたり選りすぐりのマテリアルが選択されたことがよくわかる。(吉田 敬コメント)

作品オーナーのご好意で本作品(P.88,89とも)は付録1に全リーフが収められています。

付録1は、「マイスタンペディア」よりダウンロードできます。入手後は、個人の利用の範囲で印刷等してご利用ください。



10 ページ 特別地帯宛て航空商品見本

切手コレクション紹介

郵便番号導入50周年展 展示作品 付録1に全リーフ掲載 (5F)

郵便番号宣伝切手

吉田 敬

記念切手の発行枚数がせいぜい1800万枚程度だった当時、2億枚から4億枚も製造された同切手には、製造上からも使用上からも通常切手同様の多岐に渡るバラエティが見られるはずです。

出品者は、30年以上前の高校生の頃にこの切手を収集していましたが、作品にまとめるのはこれが初めてのことです。今回コレクションを作っている最中も明らかなシェードバラエティを認識致しましたし、本作品はさらに改良することが可能だと考えております。またいつか展示機会があれば幸いです。(出品者コメント)



18 ページ コイル切手 24 枚貼り使用例

戦後の外国郵便史

外国来航空通常郵便物への到着日付印の押捺

行徳 国宏

昭和 20 年代後半、外国から本邦あてに到着する航空通常郵便物が増加するにつれて、差出局の日付と本邦への到着・配達日付との間にかなりに所要日数が掛っていることに対して、郵便利用者から業務遅延ではないかという苦情が多く寄せられていたようである。当局は、郵便物の遅延原因が差出国から本邦までの航空取扱業務によるものか、それとも、外国来航空郵便物の本邦到着後の国内運送業務によるものかを調べ、郵便利用者に事情を説明をしなければならなくなり、到着日付印の調達と押印準備が始められた。本文は、外国来航空通常郵便物への到着日付印の押捺事情と開始時期とを郵政公報から引用し、現物を開示してみたい。

1 昭和 27 (1952) 年 4 月 10 日からの到着日付印の押捺施行

外国来航空通常郵便物への到着日付印の押捺施行は、昭和 27 年 4 月 10 日からであった。従来の欧文櫛形日付印には時間表示がなかった。外国郵便物の差出しが盛んになるにつれて、外国宛郵便物に押捺する通信日付印に時刻を入れた新しい通信日付印の作製使用が求められるようになり、そのため時間活字を入れた欧文三日月印が作製されることになった(24 年 9 月郵政省告示第 177 号『通信日付印の形式』の一部改正を定めた 27 年 4 月 10 日付け郵政公報第 714 号中の郵政省告示第 102 号)。告示中の「通信日付印の形式改正」とあるが、具体的には欧文三日月印のことである。

次に、同郵政公報第 714 号中の公達第 38 号の外国郵便取扱規程の一部改正では、

1. 「外国郵便交換局 11 局を定めた。
2. 外国郵便の取扱に使用する時間活字入り日付印の形式を定め、その時間活字を 0-8、8-12 から始まる 2 時間刻みで 22-24 までの 9 刻みを定めた。」

さらに、郵政公報第 714 号に掲載の郵国第 558 号では、

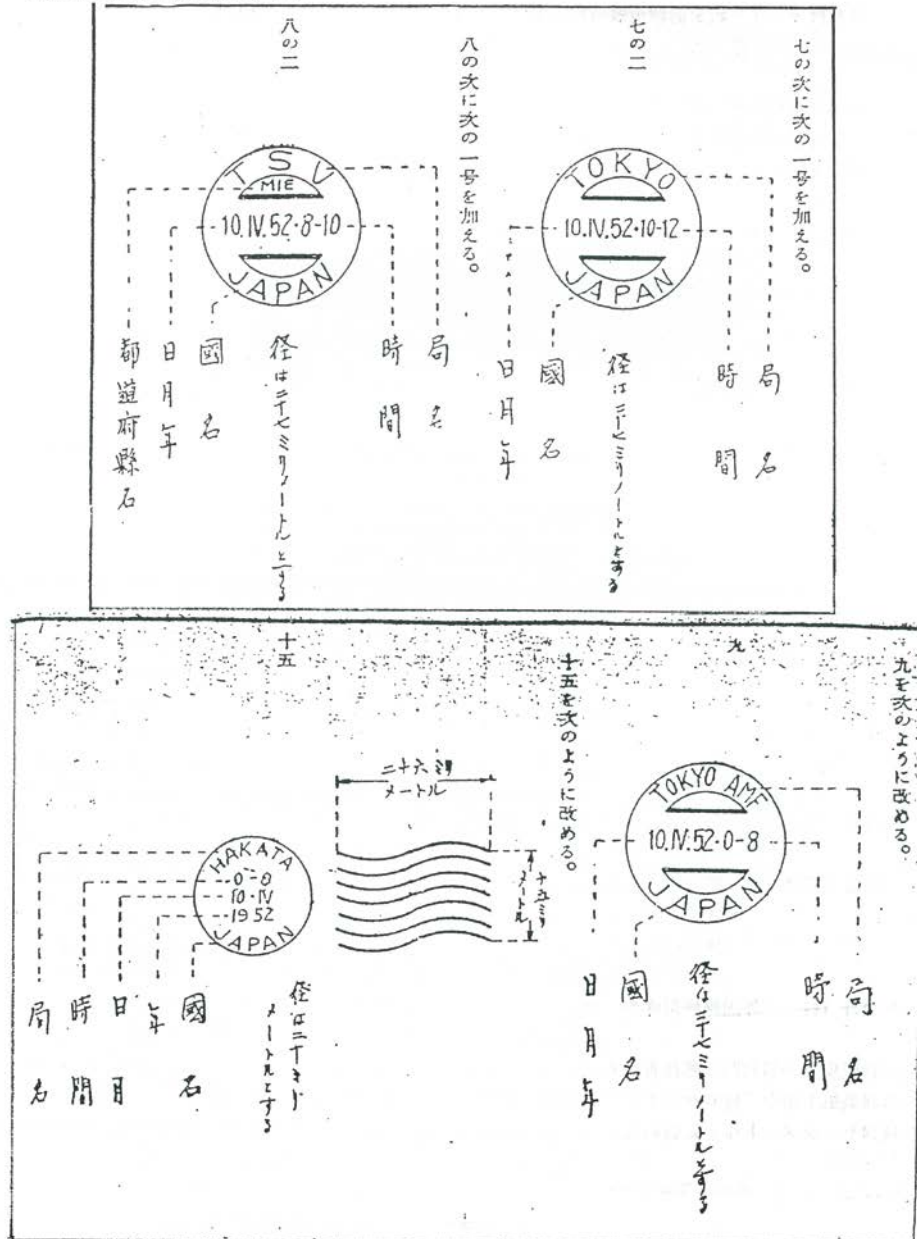
1. 「交換局用時間活字入り日付印は、来る 4 月 10 日より交換局 11 局のうち東京中央局、横浜局、大阪中央局、神戸中央局、博多局及び東京中央局羽田分局の 6 局において、航空郵便物の引受消印及び外国来航空郵便物の到着日付印に使用することにした。
2. 「自動押印機による日付印」を「郵便物の包装、形態及び切手貼付の状態よりみて押印に支障のない場合に限り、通常郵便物一般の引受消印及び外国来航空郵便物の到着日付印として使用する。使用局は、さしむき東京中央局、大阪中央局及び博多局とし、使用開始期日は追って指定する。」

とした。(「自動押印機による日付印」の形式が発表されているが、実際は使用されなかったことがわかっている。)

早速現物を掲載してみよう。図 1 はアメリカ来の航空書簡への到着日付印で、欧文三日月印を使用した交換局 6 局のうちの HAKATA 局である。欧文三日月印使用開始 (1952.4.10.) から 2 カ月後の 6 月 16 日使用である。図 1 は神奈川県藤沢市宛であったのに、東京中央局羽田分局で博多局宛郵袋に締め切られたのだろうか。HAKATA 局で到着押印後、東京羽田空港へ返送されたのか。

到着日付印押捺開始以前に外国郵便交換局へ送達され、そこで到着日付印が押された例が存在しているかどうかについて、筆者は戦後の欧文櫛型印を収集してきたので、押捺された到着日付印の使用局の

27年 4月10日 (通信日付印の形式改正) (欧文三日月印の使用開始)
 (郵政省告示第 102号) (郵政公報第 714号、27年 4月10日)
 郵便規則 (昭和22年12月逓信省令第34号) 第3条及び外国郵便規則 (昭和25年郵政省令第13号) 第5条に基く、昭和24年 9月郵政省令告示第 177号 (通信日付印の形式) の一部を次のように改正し、昭和27年 4月10日から施行する。



- 6 -

昭和27年4月10日



図 1

例を過去に所蔵していた。1949年の欧文櫛型印のHAKATAと1948年のTOKYO局で、複数の使用例をノートに記録していた。今は処分して手元にはないが、最近入手した例を掲載する。

図2はフランス来航空郵便で、PARIS L2 / RUE DE BALZAC 1951.1.12. 差出しの小樽宛。裏面に小樽局の欧文櫛型印が押されている。

紙面の都合で掲載しないが、図1の受取人宛にポーランドからの航空郵便をもう1通手に入れている(OTARU / NIPPON 24.4.51)。1949年10月1日、欧文櫛型印を使用している局ではC欄国名はNIPPONからJAPANに改正された。しかし、OTARU局は1951年以降も国名NIPPONを使用していたことが、これまでのデータ調査で確認している。図2はその1例である。



図2

2 昭和30(1955)年8月1日からの到着日付印としての欧文機械印押印

外国来航空郵便物の到着通数はさらに増加するようになり、到着日付印の押印作業も一段と増えるようになってきた。到着日付印は欧文三日月印によって引受けられて昭和27(1952)年4月10日施行として発表した到着日付印の欧文機械化はまだ実現できていなかったが、機械化の準備は続けていた。昭和30(1955)年8月1日、「通信日付印使用形式」の一部が改正されることになった。そして、外国来航空郵便物への到着日付印の機械による消印として欧文機械印の使用が実現した。

(1) 公達第80号

(30年7月27日付け郵政公報第1371号に掲載の公達第80号)

外国郵便取扱規程(昭和26年10月公達第159号)の一部を次のように改正する。

第392条を次のように改める。(到着日付印及び通常局の取扱に関する規定の準用)

第392条 航空通常郵便物が外国から到着したときは、年賀特別郵便物を除いてその裏面に日付印を明らかに押した上、自局で配達すべきものについては、第114条乃至第118条の規定を準用する。但し、書状以外の郵便物には右の到着日付印を押さないものとする。

第332条の2中日付印の形式を次のように改める。

1 東京中央郵便局羽田分局及び大阪中央郵便局において使用するもの。(上図)

2 その他のもの(下図)

(2) 通達(郵国第544号)

外国来航空通常郵便物にたいする到着日付印について

外国郵便取扱規程第392条に規定する外国来航空通常郵便物にたいする到着日付印の押印については、消印機等の整備のため実施が延期されていたが、このたび、関係告示および公達が改正され、左記によりこの取扱を開始することになったから了解されたい。

なお、右到着日付印の押印は、外国来航空通常郵便物についてさす出国から本邦交換局までの運送と本邦到着後配達までの国内運送との区別を明瞭にすることを目的とするものである。従って、従来しばしば見受けられた外国来航空郵便物についての遅延苦情については、今後この取扱によって本邦業務の取扱に起因するものであるかどうかを十分明らかにすることができるが、反面わが国内取扱に遅延が原因するがごとき場合には、その責任の所在もまた明らかになるものであるから、今後、同郵便物の規定差出便および規定配達便への結束方についてなお一層の徹底方配意されたい。なお、郵国第 558 号通達（欧文日付印の使用について）（昭和 27 年 4 月 10 日付郵政公報掲載）は、廃止する。

記

1 開示月日

昭和 30 年 8 月 1 日とする。（同日最初の到着便から実施すること。）

2 押印実施局

東京中央郵便局羽田分局、大阪中央郵便局および博多郵便局とする。

3 押印すべき郵便物

自局あて外国来航空通常郵便物のうち書状（航空書簡および年賀以外の特殊取扱としたものを含む。）とする。

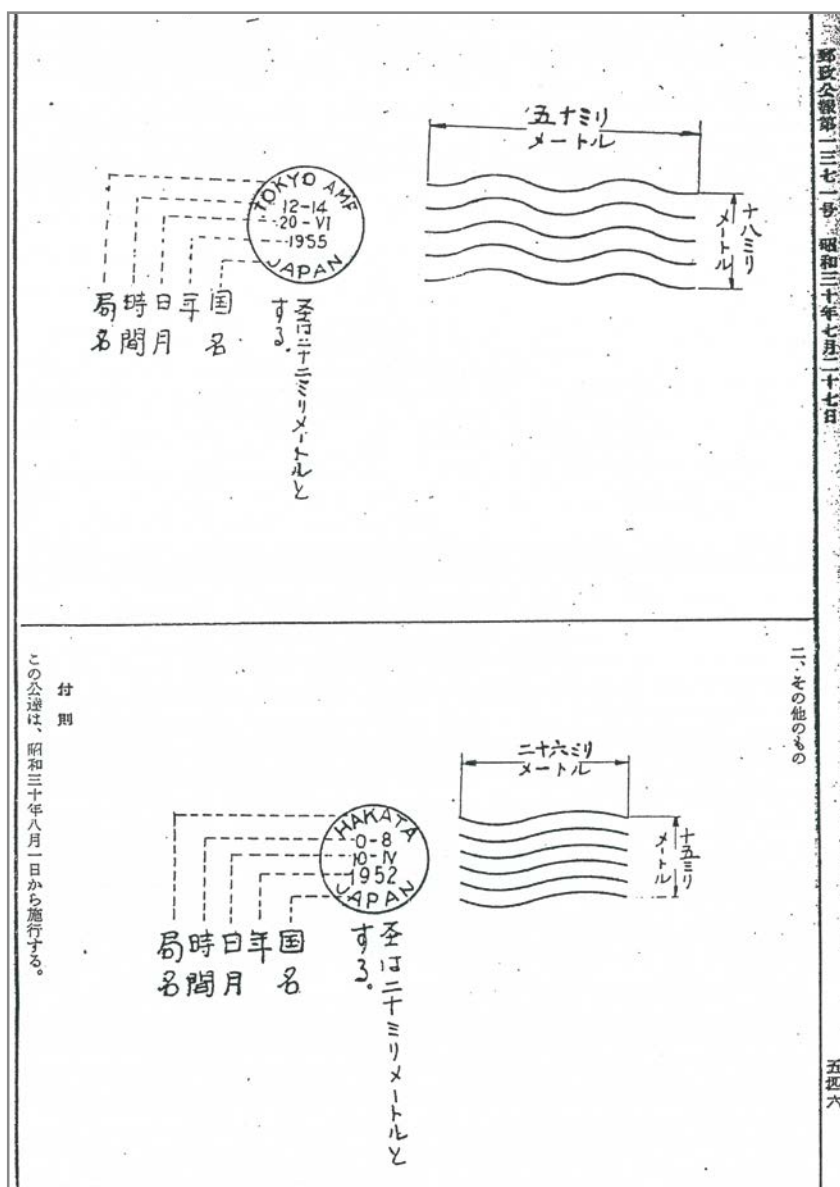
ただし、当分の間、羽田分局においては、大阪中央局および博多局あてに締め切るべき郵袋中に納入する郵便物には押印することなくこれを送付し、大阪中央郵便局および博多局でそれぞれこれに押印すること。

4 使用日付印

外国郵便取扱規程第 529 条第 2 項、第 532 条又は第 532 条の 2 に規定する日付印とする。

5 押印上の注意

到着日付印の押印に際しては、郵便物をき損しまたは汚損することのないように充分配意すること。



30（1955）年8月1日、到着日付印として欧文機械印がようやく東京中央郵便局羽田分局と大阪中央郵便局とに配備・使用されることになった。博多局には欧文機械印は配備されなかった。理由はわからないが、到着する外国来航空郵便物数が少なかったため、欧文三日月印による押捺で済まされたのであろう。

さて、30（1955）年8月1日以降の到着日付印では、欧文機械印 OSAKA 局の到着初日印が発表されている（以下は文献1とそこからのデータを引用する。86 ページの下段の図版。文献1：吉田 敬氏『欧文機械印ハンドブック』無料世界切手カタログ・スタンペディア株式界社刊、平成 27 年 7 月 15 日）。

図3と図4は HAKATA 局 3.X.55. と 27.X.55. の到着日付印が押されたもの。図3と図4は、東京羽田空港（東京中央局羽田分局）経由の、ドイツ来福岡県内宛の航空郵便物である。到着日付印の改正後の 1955 年年内使用例。

実は、図3と図4は高校時代の筆者宛。当時高校生の間で国際文通が盛んであった。筆者もクラスメイトと一緒に海外文通を始めたばかりであった。その相手がドイツの高校生だった。大事に残していた筆者の青春時代の手紙である。

欧文機械印では、上述の文献にある OSAKA 局と東京中央局羽田分局（TOKYO AMF）がある。両局に欧文機械印があり、希少な日付印と言われている。欧文三日月印は、人気のある欧文機械印の前では注目されていないが、東京中央局羽田分局では欧文三日月印を到着日付印としても使用していた（図5）。



図 3 HAKATA 3 . X . 55



図 4 HAKATA 27 . X . 55



図 5 TOKYO AMF 28 . XI . 55

なぜ、欧文機械印ではなかったのか、理由はわからない。欧文機械印がたまたまその時不具合だったのか、あるいは到着航空郵便物が少なかったため、機械を稼働しないで欧文三日月印で手押し押印したのか。ちなみに、TOKYO AMFは AIRPORT MAIL FACILITY だということが分かった(『切手』1971.6.21.(266) 付けの2ページ。「空港郵便施設局」と訳するか)。TOKYO AMF の局名は 31 (1956) 年1月22日まで使用され、23日に TOKYO AP に局名変更された。

3 昭和31(1956)年1月23日「通信日付印使用形式」の改正

(1) 31年1月23日付け郵政公報第1487号に掲載の郵政省告示第78号

24年9月郵政省告示第177号(通信日付印使用形式の件)の一部を次のように改正し、昭和31年1月23日から施行する。

14の2を次のように改める

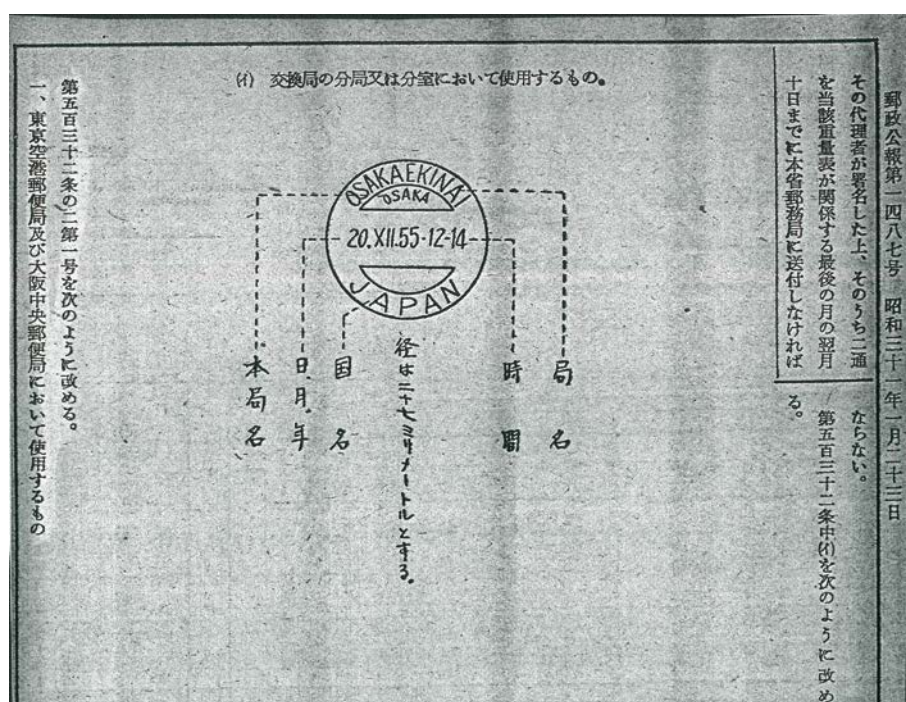
(2) 同上の公達第4号

外国郵便取扱規程(昭和26年10月公達第159号)の一部を次のように改める。

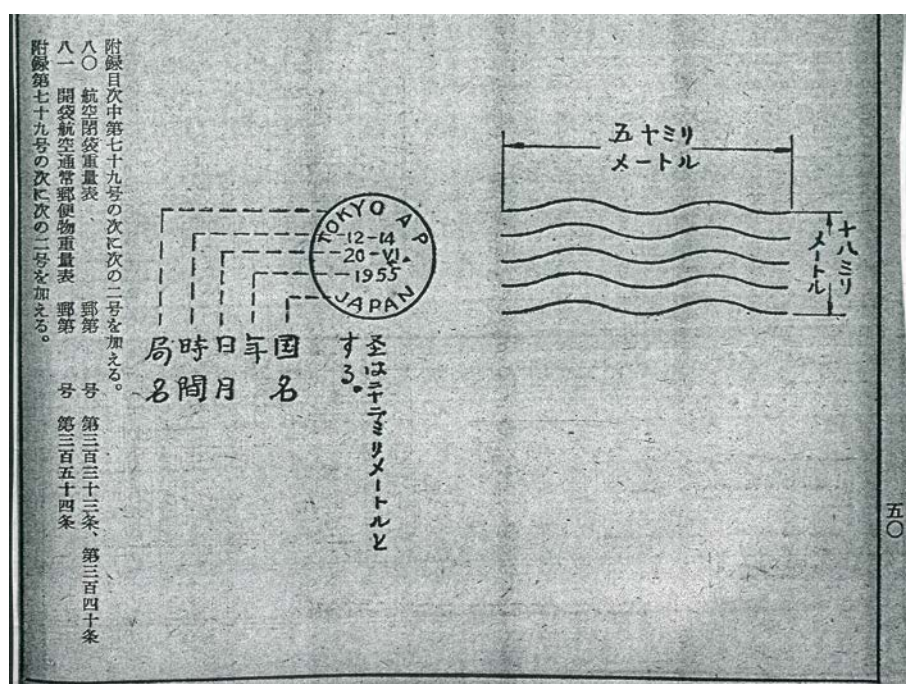
第3条2項中「東京中央郵便局羽田分局」を「東京空港郵便局」に改める。

第532条の2第1を次のように改める。

1. 東京空港郵便局及び大阪中央郵便局において使用するもの



図版 昭和31年1月23日 (上)



図版 昭和31年1月23日 (下)

欧文機械印は東京空港局（改局名）と大阪中央局で使用されることになったが、波の長さは50mm、幅18mmは不変であったが、波の形式が大波5本となったのが、大きな違いであった。図6は OSAKA 局の 29.IX.1956. 年の到着日付印のアメリカ来航空書簡で神戸市宛、OSAKA 5本波の使用開始年のものである。

他方、第3の航空局・博多局には欧文機械印は配備されていなく、欧文三日月印が使用されていた。図7は筆者宛で、「通信日付印使用形式」の改正4カ月後の56年6月使用である。

ここで、今迄気がつかなかった、2つの交換局の到着印押捺の例があるので開示してみる。東京空港局（TOKYO AP）に到着した外国来航空郵便物の宛先は、博多局宛であった。東京空港局では博多局宛の郵袋に締め切るべきところ、東京空港局でうっかり（習慣的に）到着日付印を先に押印して郵袋に締め切った。開袋した博多局では、到着日付印を規則通りに押捺して配達した。東京空港局と博多局の到着日付印が封筒裏面に押されている。いままで見てきた到着日付印押捺の航空郵便物の中で2通見つけた。図8はその内の1通である。



図6 OSAKA 29. IX . 1956



図7 HAKATA 2. VI . 56



図8 TOKYO AP 26. X . 58,
HAKATA 27. X . 58

4 昭和 36(1961) 年 8 月 22 日「通信日付印使用形式」の改正

(36 年 8 月 23 日付け郵政公報第 2593 号に掲載の郵政省告示第 552 号)

「昭和 24 年 9 月郵政省告示第 177 号（通信日付印形式の件）の一部を次のように改正し、昭和 36 年 8 月 22 日から施行する。」本文中、「14 の 3、を次のように改る。」

として欧文機械印の形式が示されている（図版上）。局名は OSAKA で、大型 5 本波、波の長さ 50mm、幅 18mm、印径は 22mm となっている（図 10）。

もう一つ、「15 を次のように改める」として、局名 TOKYO の小型 6 本波で、波の長さは 26mm、幅 15mm、印径は 20mm と小型になっている（図版下）。

図9は TOKYO AP 局の 6 本波である。他方、大型 5 本波、波の長さ 50mm の OSAKA 局は未入手。

昭和 36. 8. 22 (1961 年)

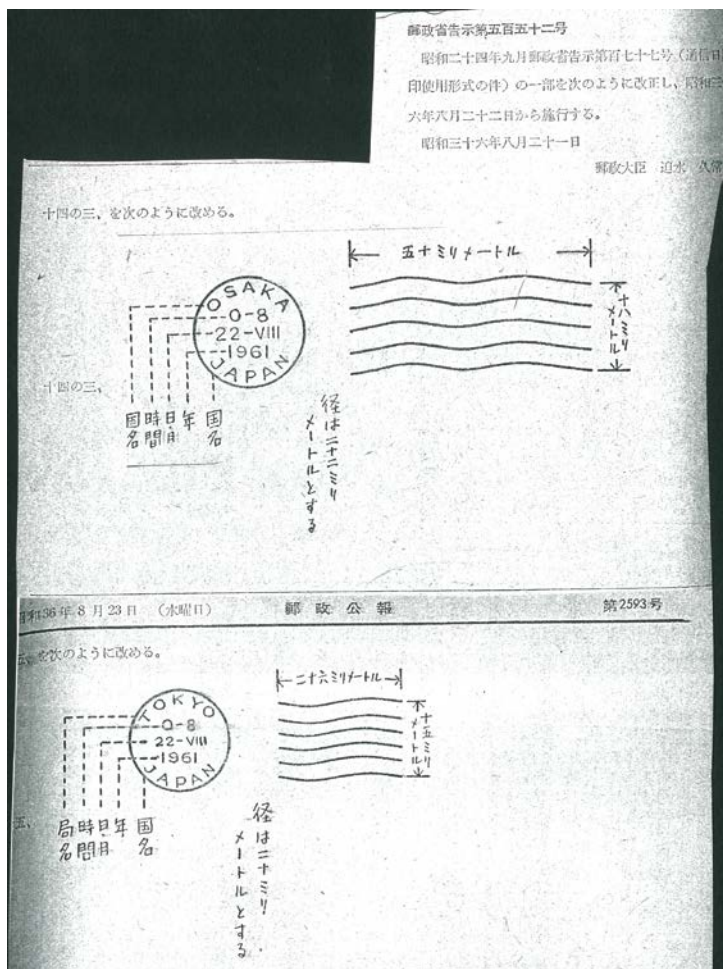


図9 NAHA 9. 3. 62, TOKYO 1 (?), III. 1926

5 昭和 37 (1962) 年 11 月 1 日「通信日付印使用形式」の改正

(37 年 10 月 18 日付け郵政公報第 2724 号に掲載の郵政省告示第 694 号)

「昭和 24 年 9 月郵政省告示第 177 号(通信日付印形式の件)の一部を次のように改正し、昭和 37 年 11 月 1 日から施行する。」

として、欧文機械印の形式が発表されている。

「14 の 3、を次のように改める。」

局名は OSAKA 6 本波、波の長さ 50mm、幅 18mm、印径は 22mm となっている(図版)。

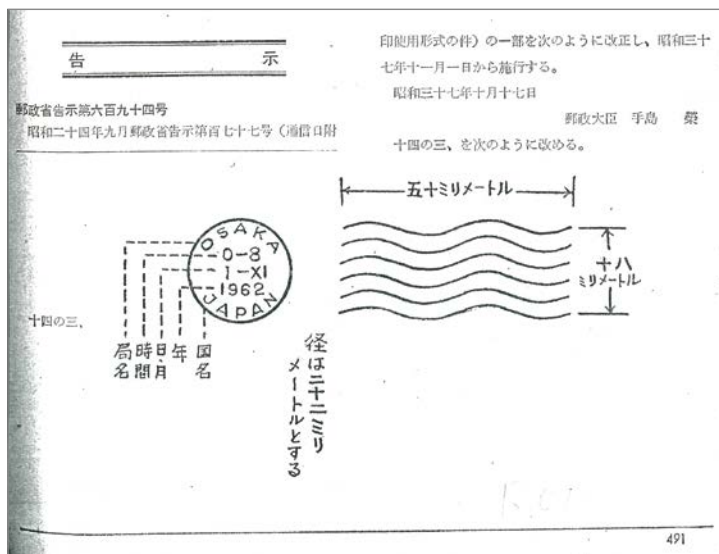
図 10 は「14 の 3」として掲載された形式のもので、36 (1961) 年 8 月 22 日改正の OSAKA 局大型 5 本波を引継いだ、波間が広い 6 本波形式の使用例である(19-XI. 1962)。

この改正では、従前の「15」の小型波欧文機械印は 37(1962) 年 11 月以降発表されていない。幸い、文献 1 に「TOKYO AP 波ありが『現存 3 点』として発表されていて、やはり 1961 年告示の「15」の欧文機械印が引継がれていたことが分かった(105 ~ 106 ページでは、TOKYO AP の Type II に該当する)。

そして、なぜか TOKYO AP 局では、波無しの欧文機械印が 1964 年から使用されていることが発表されている(文献 1 によれば、1962 ~ 63 年のデータがなく、1964 年で 7 月 30 日 ~ 12 月 29 日の 6 点がある)。この波無し欧文機械印の形式は従前のものと異なり、更埴した活字位置が「日月/時間/年号」をデータを持つものであるという(同 106 ~ 108 ページ)。

図 11 は 27.VIII./8-10/1964 のデータを持つもので、文献 1 に発表の使用期間内に使用されたものであることがわかる。

そして到着日付印としての欧文機械印(「15」TOKYO AP 局)が使用されなかった 1962 ~ 63 年に到着した外国来航空郵便物には欧文三日月印 TOKYO AP が使用されたのか。ともかく、1962 ~ 63 年の到着日付印 TOKYO AP 局を発掘してみる必要も出てきた。



昭和 37 年 (1962) 11 月 2 日改正

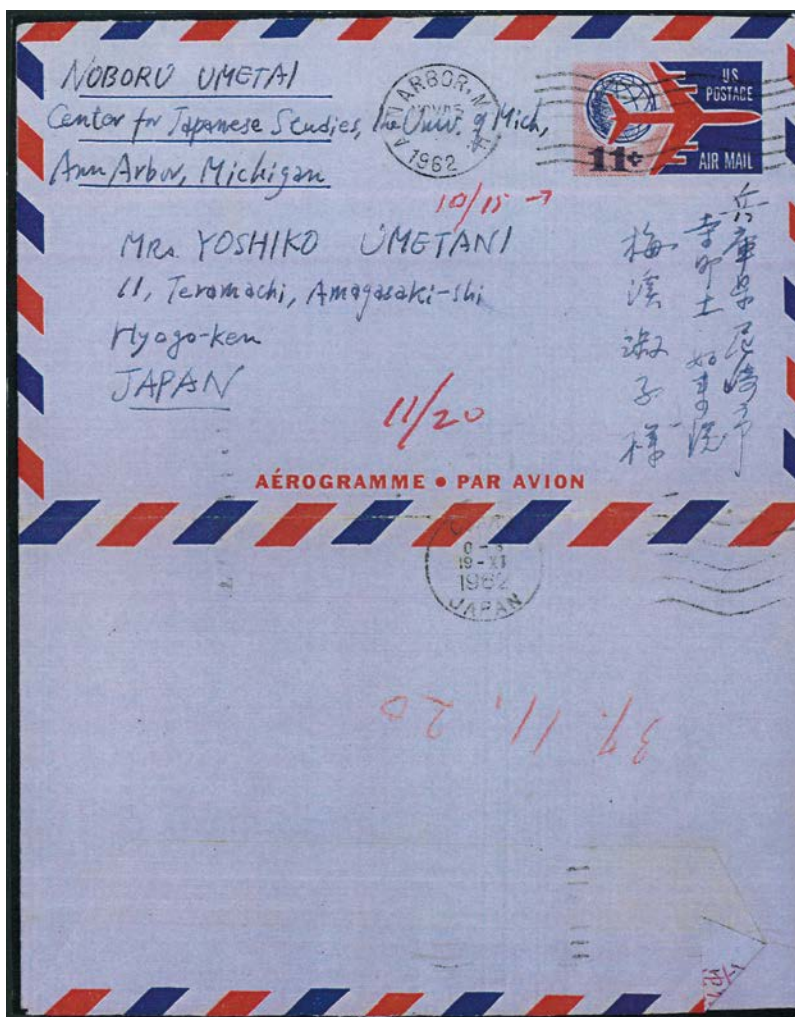


図 10 OSAKA 19. XI. 1962

6 昭和 43 (1968) 年 3 月 31 日 到着日付印の廃止

「外国来航空通常郵便物に対する到着日付印の押印廃止について

外国から到着する本邦あて航空書状への到着交換局における到着日付印の押印は、送達速達化および業務の簡素化をはかるため、43 年 3 月 31 日限りで廃止されたから了知ありたい」(43 年 4 月 20 日付け大阪郵政公報郵便版第 360 号に掲載の郵業二第 66 号)。

時代が新しいとはいえ、年を追うごとに増加している外国来航空郵便物は主要都市宛に限らず地方都市にも配達されている。日本に到着する外国航空郵便物は、空港所在地の東京、大阪、博多空港から、東京中央、大阪中央及び博多局へとそれぞれ中継され、宛先地へ配達されている。どこの局を経由したかは外国来航空郵便物の裏面に欧文日付印が押されている。

外国来航空郵便物の発掘・調査はまだ緒についたばかりであるようだ。日本切手の収集家にしてみれば、外国来航空郵便物に貼付された外国切手には関心がなく、外国来航空郵便物が詰まった箱を見る人が少ないのが現状であろう。

文献 1 : 吉田 敬氏『欧文機械印ハンドブック』

(無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社刊、平成 27 年 7 月 15 日)。

参考文献 行徳 国宏『戦後の郵政資料』第 2 巻、第 3 巻及び第 4 巻の該当期日。



図 11
TOKYO AP 27. VIII./8-10/1964

和欧文機械印トピックス 第34回 2期印の登場

水谷 行秀

1979（昭和 54）年 9 月 1 日より 2 期の元号入り和欧文に全国一斉に切り替わった。これは同年 6 月 12 日に公布・施行された「元号法」により、元号の法的な根拠が与えられたことに沿った措置となる。記念切手では同年 7 月 14 日発行の「検疫制度 100 年記念」より印面に元号が表記された。

この当時現在と比較にならないほど元号が一般に重用されていた。1976 年の世論調査において 87.5% が元号を使用していた。そういう背景があって 1977 年に日本青年協議会が元号法制化運動を本格化させた。同年 9 月には元号法制化を求める地方議会決議運動が始まり、46 都道府県 1632 市町村で議会決議を達成した。政府は 1978 年 11 月 17 日に法制化を閣議決定。総理府と内閣法制局とで法案を作成、23 日までに決定し、同年 11 月 24 日政府案が紙面に掲載された。こういった流れで公布された「元号法」は現在も 1 番短い法律として存在している。

ちなみに条文を記すと、

第 1 項：元号は、政令で定める。

第 2 項：元号は、皇位の継承があつた場合に限り改める。

附則

第 1 項：この法律は、公布の日から施行する。

第 2 項：昭和の元号は、本則第一項の規定に基づき定められたものとする。

付則まで付けてもこれだけである。そして法的な根拠が与えられたことにより、公的文書は元号が使用されることとなった。

さて前置きが長くなったが、和欧文機械印において元号を入れるために 1 期から 2 期へ変更となった。大きな違いは下記の通り。

D 欄	都道府県名（または空欄）	→元号
E 欄	国名の JAPAN	→都道府県名（または空欄）
C 欄	日付の並び 日月年時間帯	→年月日時間帯
年活字	後ろに「・（中点）」	→「.（ピリオド・下点）」

収集家としては初日の使用例は押さえておきたい。また、1 期から 2 期への切り替えにおける混乱が見られた。これらについては次回以降で触れよう。

参考文献：wikipedia 等

和欧文機械印12期

元号入りへの切り替え

1979.9.1

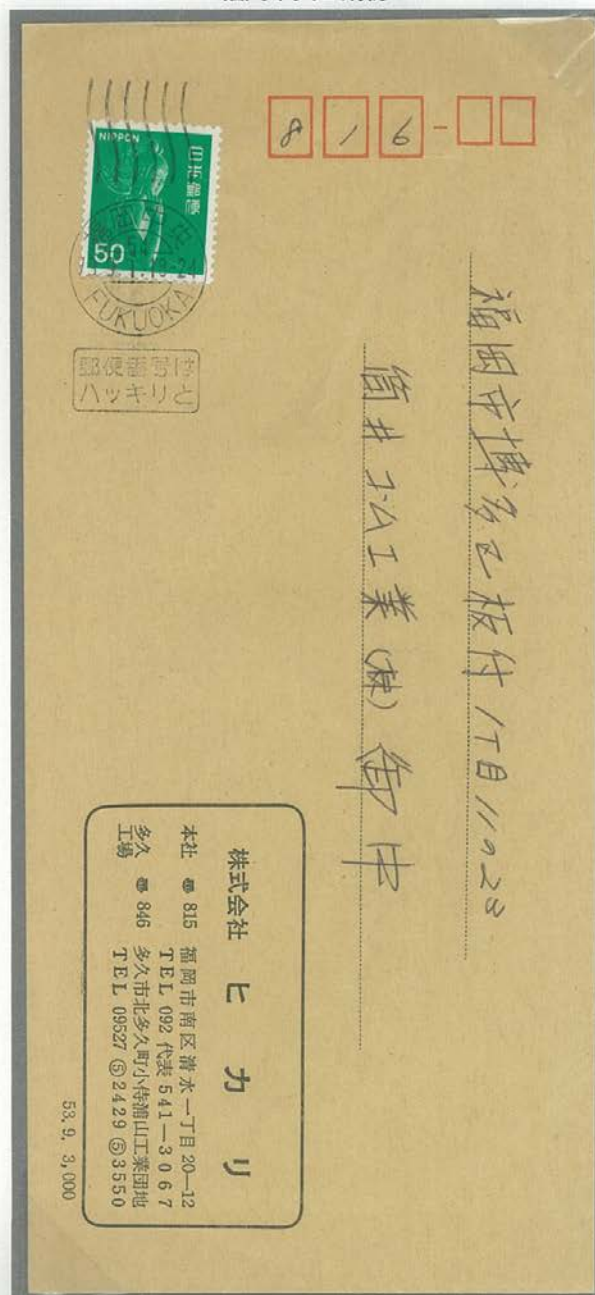
昭和54(1979)年6月12日公布・施行された元号法を受け、元号の使用に法的な根拠が与えられた。記念切手では同年7月14日発行の「検疫制度100年記念」より元号が記載、和欧文機械印にも元号を組み込んだ印が同年9月1日より全国一斉に使用された。その際、日付を示す活字の順序が「日月年」より「年月日」と変更された。

福岡中央1期最終日



31.8.79 8-12

福岡中央2期初日



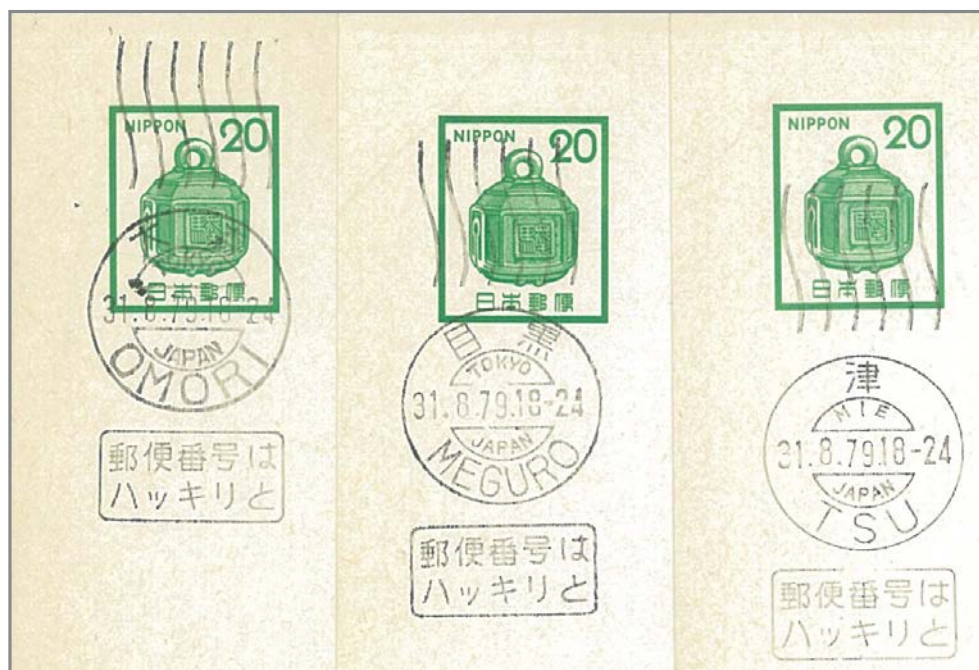
54/79.9.1 18-24

和欧文機械印トピックス 第35回

1 期→2期切り替え時の混乱（1）

水谷 行秀

1 期から 2 期への切り替えは、和文機械印における戦後統一型から 24 時間型への切り替えのようなガラガラ型ではなく、1979（昭和 54）年 9 月 1 日より一斉に行われた。しかしながら 33 回で紹介したように 2 期の年活字「79.」を早々と使用した目黒局（図①）などや、更には 2 期の「年・月・日・時間帯」の順番にしてしまった蒲田局（図②）があった。これらは印枠が 1 期なので 1 期の項で紹介した。今回は 2 期の印枠を使った切り替えによる混乱のエラー印を紹介しよう。



図① 大森・目黒・津



図② 蒲田

まずは、前日の 1979 年 8 月 31 日に 2 期の印枠を使用してしまった品川局がある（図③）。これは現在のところ官白のみ確認している。



図③品川

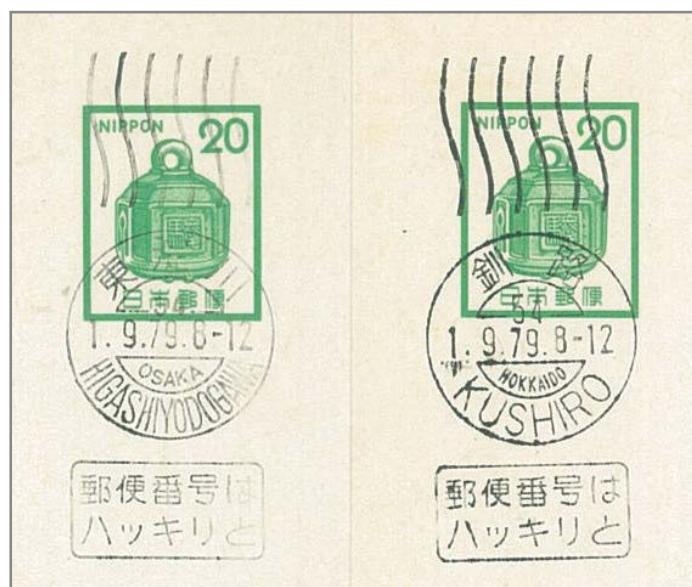
そして、図②の1期中に2期の配列をしてしまった蒲田局とは逆のパターンで、2期に入ってから1期の配列である「日・月・年・時間帯」のまま使用してしまった局が3局知られている。それらは中京・釧路・東淀川である。まずは中京局だが、ここでは直ぐに気が付いたようで当日午前中に正規の配列とされた（図④）。東淀川局（図⑤）釧路局（図⑥）共に9月6日までの誤配列が確認されている。いずれの局も大局ではなく、使用期間も極短いために単片でもカバーでも入手は簡単ではない（図⑦）。

参考文献：丸島報告

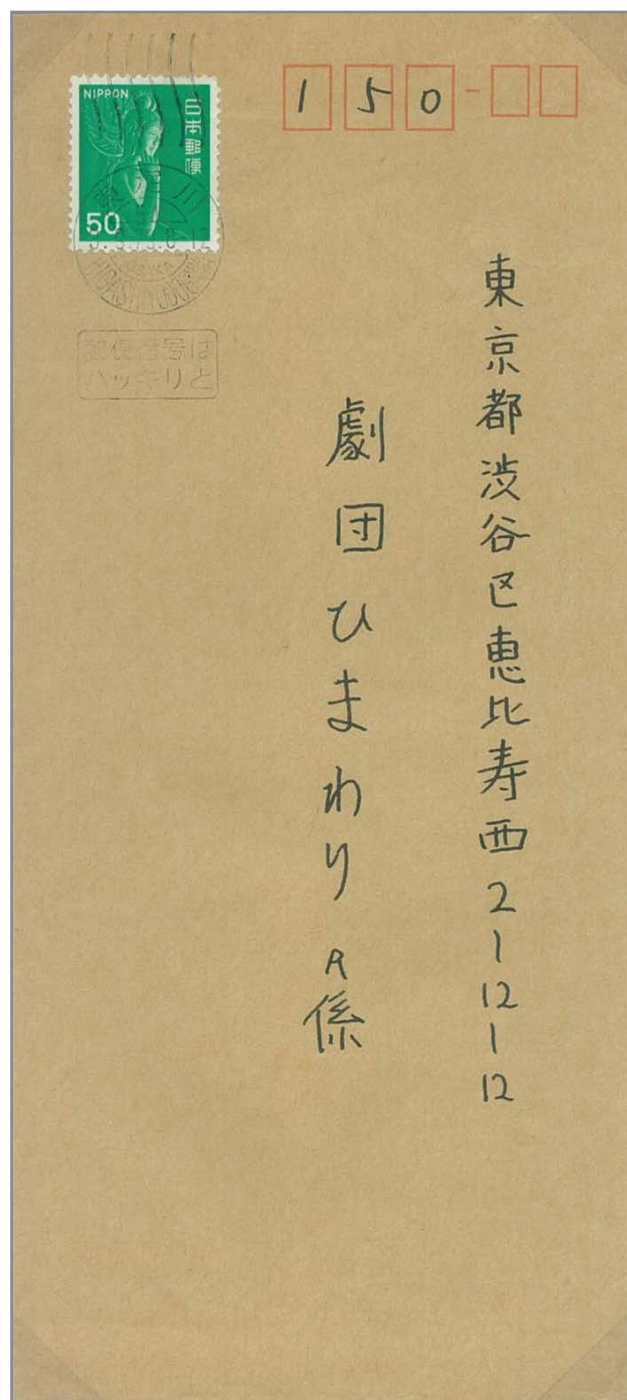
参考ブログ：低予算型切手収集記



図④ 中京



図⑤⑥



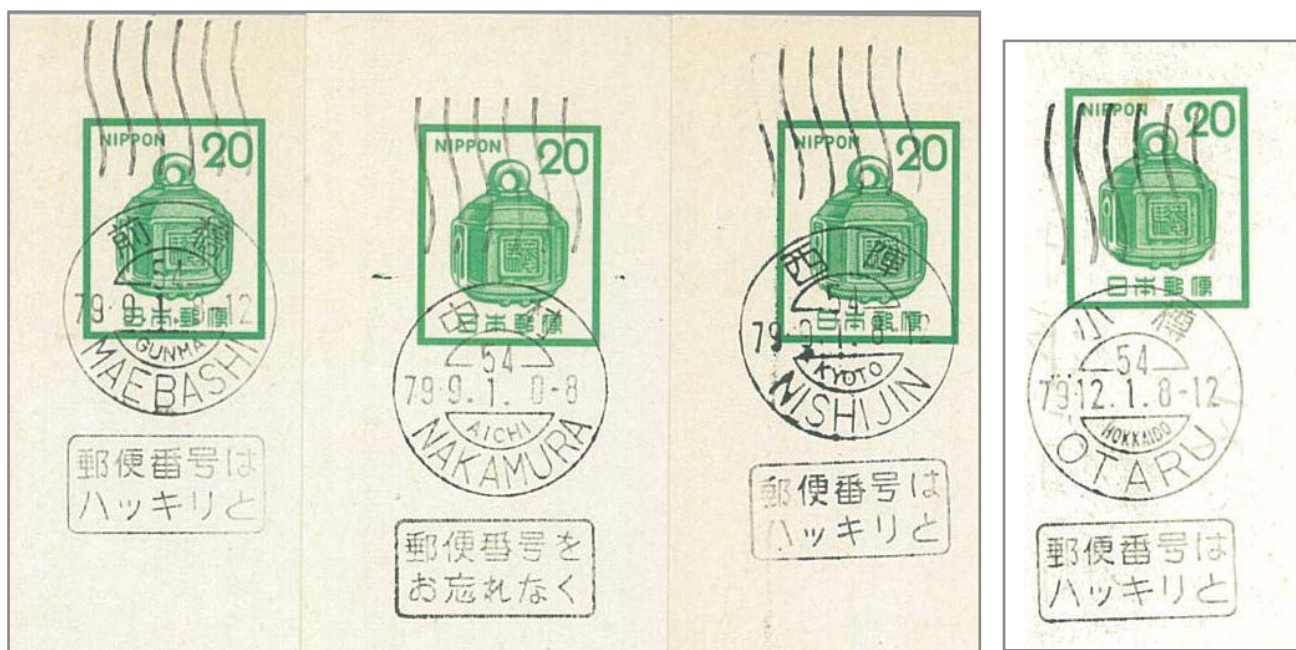
図⑦東淀川

和欧文機械印トピックス 第36回

1 期→2期切り替え時の混乱 (2)

水谷 行秀

1 期から 2 期への切り替えは、印枠と活字順列だけではなく、年号活字の後ろにある点が「・(中点)」から「.(ピリオド・下点)」と変更になったことは紹介済みである。切り替え年では同じ「79」という活字であるため、いくつかの局では区別せずに使用していたのではないと思われる。ここに手持ちのものを図示しておく(図①)。実は比較的最近気が付いたポイントで、手元にあった初日印官白の中にあったもの。図②と③はやはり手元にあったカバーの中にあったもの。これまでこの観点で集めた訳ではないので読者諸兄のお手持ちの中にも見つかる可能性は高いと思う。



図①

図②

また、最近入手したカバーのロットの中に大津局のこの時期のカバーを複数含んでいて、「・(中点)」のものも「.(ピリオド・下点)」のものもあった。それらを見ると先端末端を区別する訳でもなく混在して使用されたことが確認された(図④)。このように 1 期と 2 期の年活字が局によっては違いを意識されず使用されたと考えられる。当然ではあるが、この誤用は 1979 年に限られる。その年の 9 月から 12 月までなので 4 か月の期間となる。

大局ではこの辺りは徹底されていたのか、東京中央を始めとする中央局では確認していない。これまでに確認した中では地方の局に多く見られるようだ。

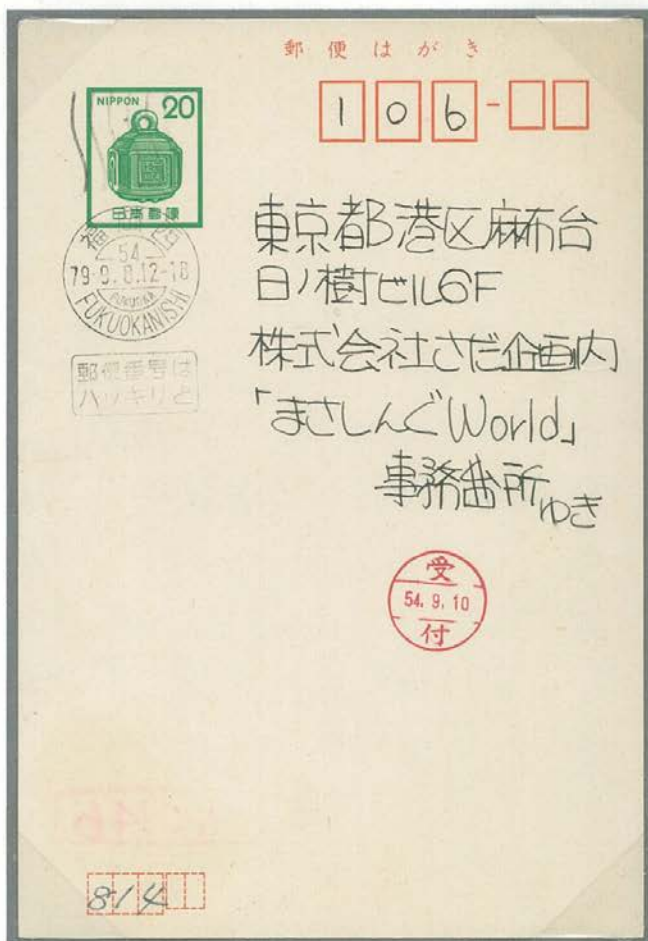
和文機嫌印2期

切り替え時の混乱

1979.9.1-12.31

1期印では、年号活字の後ろに「・(中ボツ)」があったが、2期印では「.(ピリオド)」となった。同じ「79」という数字であるため、1期の「79・」を9月1日以降も使用した局が見られる。この誤使用は1979年に限られる。

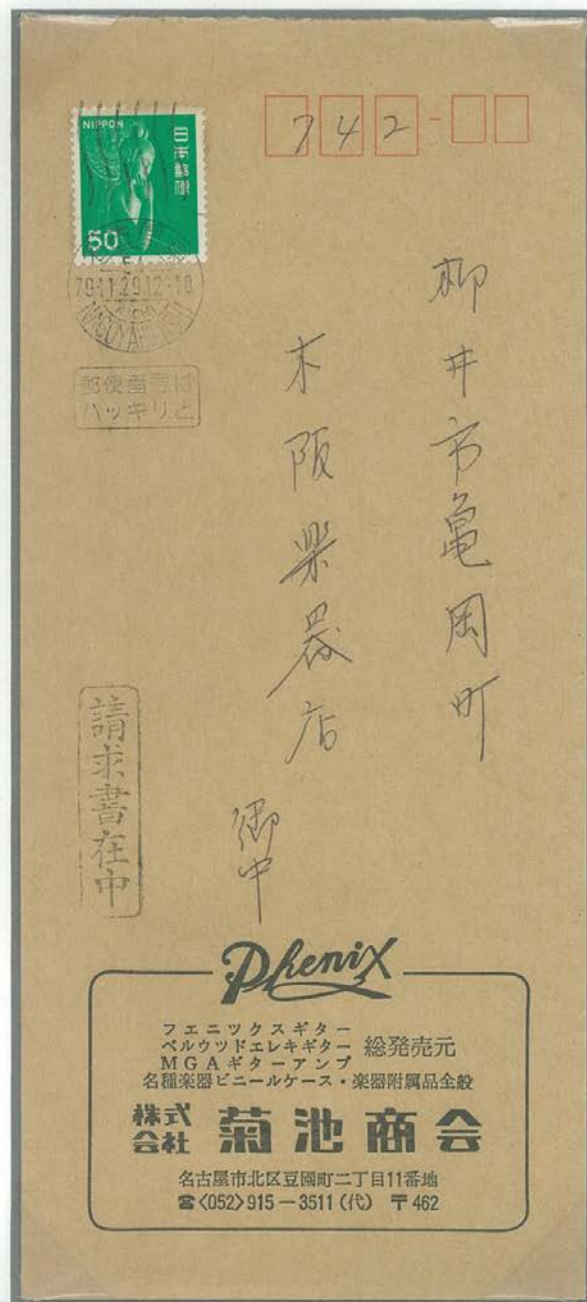
福岡西/「79・」使用



54/79・9.8 12-18

「79・」と「79.」との違いを区別せず使用したと思われる局が複数確認されている。東京中央など大局においては徹底されていたが、「79・」を使用したのは地方の局に見られる。

名古屋東/「79・」使用



54/79・11.29 12-18

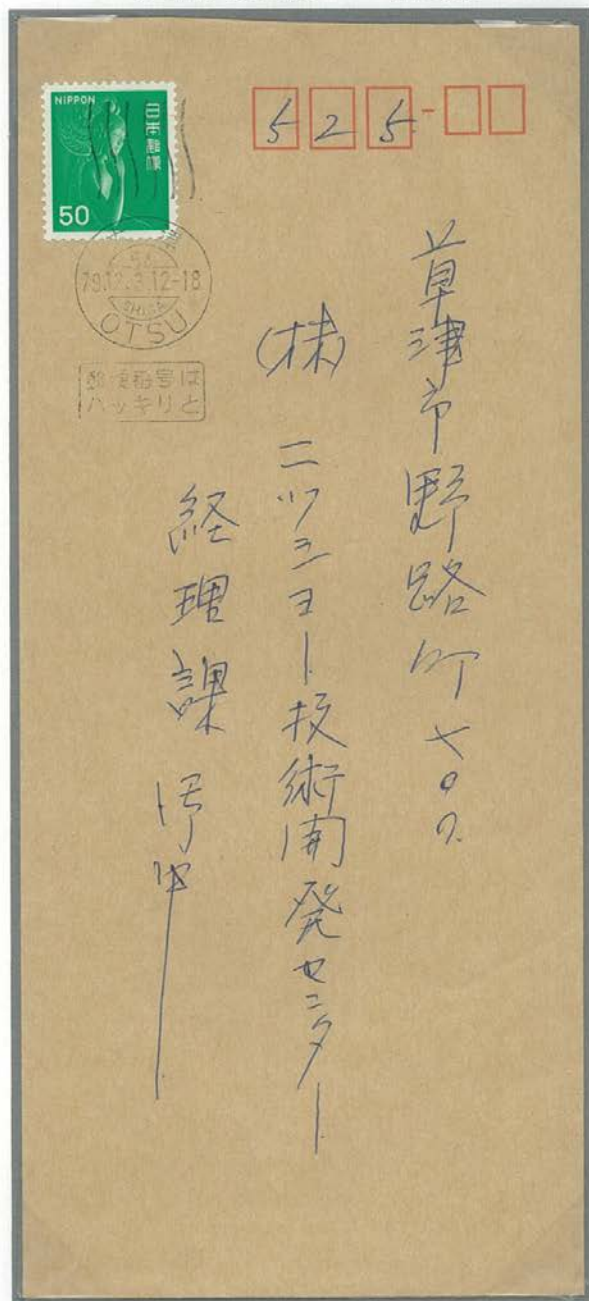
和政文機機印2期

切り替え時の混乱

1979.9.1-12.31

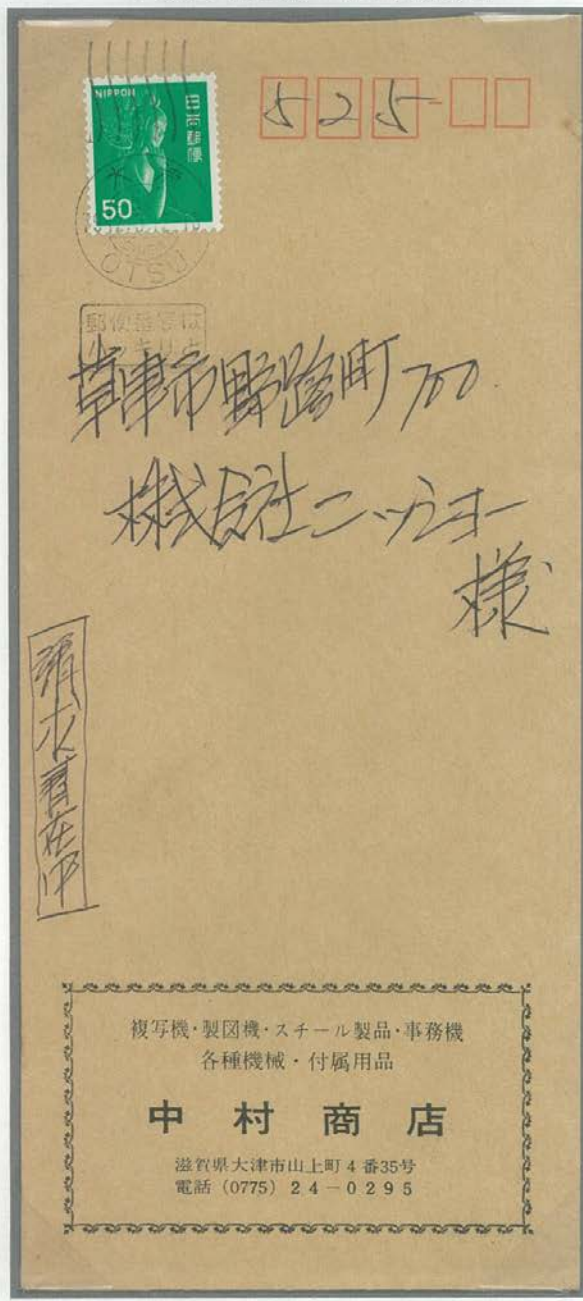
1期印の年号活字「79・」と2期の年号活字「79.」を混在して使用した局も確認されている。

大津/先端/「79.」使用



54/79. 12. 3 12-18

大津/末端/「79・」使用



54/79-12. 3 12-18

上の2通を見ると先端・末端で「79・」と「79.」を区別して使用したように思われるが、他の多数のカバーの調査で「79・」を先端部に使用した例も確認しており、区別を意識していなかったと考えられる。

郵便中興の恩人 坂野鉄次郎の業績

安藤 源成

文章：坂野記念館

通信総合博物館の分館として昭和 28 年に建設され、現在は郵政博物館を運営する通信文化協会が運営する坂野記念館は、郵便中興の恩人として郵便関係者の間では名高い坂野鉄次郎（写真）の業績を称えて建設された博物館です。しかしながら前島密に比べて、フィラテリストの間での知名度は低い坂野鉄次郎とはいったいどのような人物だったのかについて記念館の近くにお住いの安藤さんに依頼し、坂野記念館にまとめていただいた資料を入手いたしましたので、ご紹介いたします。（編集部）



坂野鉄次郎の主な業績

1 通信地図規定の制定

通信地図は、一般の表示事項のほかに道路の距離、集落毎の戸数まで記入したもので、郵便の集配順路、集配時間、所要人員、集配回数等を科学的に決めるためにも不可欠な資料です。

しかし、明治 36 年頃までの地図は陸軍参謀本部作成のものか、集配局長が作成したという見取り図しかありませんでした、陸軍参謀本部のものは地図に詳しい地名が表示されていない、激しいものは地名が記載されていないというものでした。

また、集配局長作成のものは、自局に都合の良いように作成されるなど、ずさんなものが多くありました。そのため、例えば無集配局設置の要請があっても、地名さえ満足に分からないことがあり、まして、利用予定戸数等、細部は皆目分からないことが多くありました。

そこで、明治 37(1904) 年 12 月、坂野さんによって初めて通信地図が制定・作成され、明治 39 年 7 月にはほぼ完成し、現在も重要な基礎資料として使用されています。

（参考）

明治 42 年 9 月まで集配局、明治 42 年 10 月から 1 等郵便局、明治 43 年から通信管理局、大正 2 年から逓信省で調製しました。

2 郵便線路図の改正

郵便物を運送する経路を郵便線路と呼んでいますが、坂野さんは郵便線路を鉄道、水路、鉄索（ケーブル）及び通常道路の4種類に分類し、それぞれの運送回数、運行標準時刻を定めて、郵便物を正確に送り届けるために欠くことのできない体系を整備しました。特に、郵便の便数設定の基準と運送便の運行標準時刻を規定している点は今に活用されています。

3 郵便物区分規定の実施

長距離・大量の郵便物の区分作業は、分けの方法やルールが処理手数と配達スケジュール確保に大きく影響します。旧来の区分規定は、例えば岡山県下から差し出された郵便物はすべて無区分のまま、岡山局（岡山中央局）一括送付し、そこで分けをして東方面行きは大阪局（大阪中央局）へ送付し、大阪局は西日本各地からのものを一緒にして改めて分けして発送するというように手数が二重三重となり、運送時間も多くなり配達が遅れるばかりでなく経費もかさみました。

坂野さんは今までの区分規定を整備統合して、郵便物が多い地域及び需要が多い地域等を勘案して分けをして直接発送するなど合理的な規定を明治41(1908)年6月27日公達第527号として発出し、昭和18(1943)年まで一部の修正が行われただけで35年にわたって実施されてきました。

4 鉄道郵便車の改善

鉄道の発達とともに鉄道郵便業務（明治25年4月から車中区分を開始）の重要性が高まりましたが、明治中頃の郵便車は最小で8m³、最大で70m³でしたが、ほとんどが木製の小型車でボギー車（車体に対して水平方向に回転可能な装置を持つ台車）が少なく、動揺が激しいものでした。

坂野さんが鉄道船舶郵便課長になったとき、郵便車中取扱状況の視察のため大阪まで同乗し、「何としても寒くてやり切れない、これでは鉄道郵便係員が気の毒である。車中をもっと暖かくして、もっと快適な作業環境をつくってやらねばならない、何しろ郵便車というものが貨車を改造したものであって、ボギー車でないため車軸バネが強く、乗ってられないほど動揺が激しい。何よりもまず郵便車を作ってやらねばならない。」と感想を述べられています。

当時の記録によると、483両の郵便車のうち、約8割の車両には車両火災予防用の消火設備がない。電灯設備車は2割、残り8割はランプによる彩光。暖房についても「湯たんぽ」を腹巻の中に入れて暖をとるもの約8割、冷房に至っては扇風機の設置はわずか15両という状況でありました。

坂野さんは、逓信省所有の60m³のボギー車「テユ」型車6両を作りました。この車両は車室を2分して、一方に通常郵便取扱室、他方は小包郵便取扱室、車室の中心部には一般旅客車の2等車に準じる休憩室があり、さらに便所、洗面所を備えるとともに通風装置、電灯の照明に意を注ぎ、当時としては至れり尽くせりの郵便車を竣工させました。そのため、乗務員の作業環境の改善と、増加しつつあった郵便物輸送に大いに貢献し及びました。



郵便現業絵巻（日本,1987）より

5 郵便専用列車の開設

大型機関車の出現によって列車スピードも時速 45kmを出せるようになっていました。イギリス、アメリカではすでに「FAST MAIL(早い郵便)」という郵便専用列車を走らせており、我が国においても郵便専用列車の運転を鉄道省に申し入れましたが、特別急行列車の運行に支障があると一旦は拒否されました。

しかし、通信文化と交通文化は本質的には同じものである、日露戦争による景気上昇期において、朝鮮、満州及び台湾あての小包が急増し小包の円滑な輸送が必要である、と鉄道省と粘り強い交渉を行いました。

ついに、明治 40(1907) 年 3 月 16 日のダイヤ改正を機に「新橋」と「神戸」の両駅をそれぞれ午後 9 時に発車する郵便車 3 両と新聞小荷物車 1 両の 4 両編成の郵便専用列車(所要時間 15 時間 20 分)を走らせ、迅速な大量輸送を実現しました。

6 年賀郵便特別取扱制度の確立

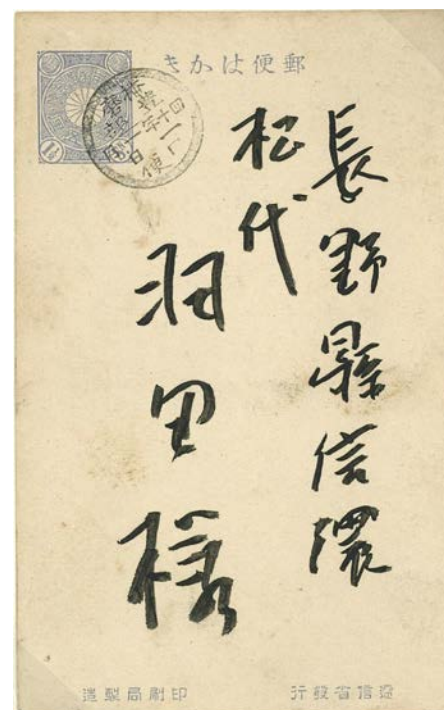
郵便創業当時にはあまり目立たなかったが、簡易な通信制度として「郵便はがき」が利用され、「年賀状」としての利用が流行してきました。

その結果、明治 31(1898) 年頃には「年賀状」は大量(年賀状の通数の記録はありません)に差し出される状況となり、12 月中に出された「年賀状」が 1 月下旬、はなはだしいのは 2 月に入ってから配達されたという苦情も生じました。

坂野さんは、明治 39(1906) 年 11 月 29 日付け逓信省令第 51 号をもって「年賀特別郵便規則」を次のように定め、

- ①引受期間は 12 月 15 日から 29 日まで、と 12 月中であったものを短縮
- ②年賀郵便は他の一般郵便とは別にして取扱う
- ③年賀郵便のみ、初めて集中局を設けて普通 3 等局(今の特定局)の負担を軽くする
- ④その他

その結果、円滑かつ確実に元旦配達を行うシステムが確立され、現在の年賀郵便処理にも受け継がれています。



年賀特別郵便規則制定直後の年賀状
播磨・豊部 明治 40.1.1

(参考)

☆ 明治期の年間郵便物取扱数(年賀状の記録はありません)

明治 4(1871) 年	56 万通
明治 31(1898) 年	6 億 243 万通 (明治4年の 1057 倍)
明治 39(1906) 年	11 億 8787 万通 (明治 4 年の 2084 倍)

☆ 明治 39 年当時の物価

手紙(書状)	3 銭 [4 匁 (15 g) までごとに]
はがき	1 銭 5 厘
もりそば、かけそば	2 銭 5 厘
ゴールデンバット(たばこ)	4 銭

7 郵便集配規定の制定

全国どこでも毎日、郵便を戸別に配達するという仕組みは郵便サービスの根幹をなしていますが、創業期から集配区画の意義、設定の仕方、集配時刻、集配方法の定めなど基準となる規定が無く、先例や習慣で処理していたため、集配区画が単に集配員の利害だけで設定されたり、地勢だけによっていることもありました。

そのため、1号便はまだ帰局していないのに、2号便、3号便が出発しなければならない、配達にあっては次便のものより遅くなったり、取集では不結束になったり、反対にむなしく集配員を配置している場合もありました。

そこで坂野さんは、全面的に均衡のとれた区画にすることとして、明治37（1904）年8月に集配規定を改正、約2年をかけ地状や集配キロ程を確実に知るための地図（通信地図）をほぼ完成させた上で、改めて明治39（1906）年9月、本格的に集配規定を次のように改正しました。

- ①従来イ号便、ロ号便と称していた便名を1号便、2号便と呼ぶ。
 - ②集配区の設定基準は、市内地の通常郵便物取集は1便およそ50分から1時間30分、配達は1便およそ2時間30分から3時間、配達は1日およそ7時間30分とする。市外集配は1日およそ7時間30分として、その所要時間を基準として区画を定める。
- このことが、坂野さんを郵便企画に科学性を与えた人と言われるゆえんです。

8 野戦郵便演習の実施

戦時下においても郵便の送達を確保するため、坂野さんは明治36（1903）年10月に兵庫県一帯において行われた陸軍特別大演習に郵便隊を配して、野戦郵便演習をおこないました。

この演習は、実際の戦時下の野戦郵便（軍公用通信）の迅速かつ正確な送達を図るとともに、日露戦争で前線へ出征した人々と故郷を結ぶ大切な手紙を守るために大いに役立ちました。

9 特設電話の交換業務

電話架設の希望は多く、設備が追いつかず地方小都市においてはいつの日に開設されるか分からず、遅滞状況となっていました。

遅滞解消のため例外的に1回線で4加入まで認めることもしましたが、事業拡張の財源不足を補うため、町村が一切の建設費を負担（市外線と局内設備は政府が負担）する電話交換業務の開始に力をいれました。

その結果、明治36（1903）年の35,000加入が大正3（1914）年には211,000加入と6倍にもなりました。



電話加入権申込書 大正 6.6.30

10 通信官吏練習所の見直し

当時の練習所訓練生は部内者からのみ選抜されていたため、①十分な教育を受けた者が少ない。②仕事が忙しくて勉強する時間が取れない。③中学時代の成績は中、以下の者が多い。④入局後の期間も短く事業知識が不足気味。⑤訓練期間を1年としたため徴兵猶予の特典がなく、訓練中でも兵役が課せられる事がある。⑥教官側も卒業後直ちに役立つ実務訓練をややもすると行い、原理原則をおろそかにして、単に規定を暗記させるだけに走り、応用力を養う授業が少なかった。⑦教官は現場との兼務者で本務が忙しく、完全な授業をしようと願っても準備等ができない。など、本来この訓練に期待されている効果が実現されていませんでした。

そこで、坂野さんは、

◎学術・技能共に事業の中核となる職員を育成しなければならない。

◎単に多くの卒業生を出すより、少数でも精鋭の卒業生で将来、事業に十分活躍できる人物を養成すべきである。そのためには

①養成目的を一層明確にする。②卒業後直ちに実務に役立たなくても、事業の精神、学理を明確に理解し臨機応変の対応ができる職員を育成する。③修業年限は2年に延ばし、徴兵猶予の特典を与える、ただし、電信科は1年とする。④訓練生は部内外から募集する。⑤卒業後5年間は部内に在職する義務を課する。⑥授業料等は無料とする。⑦訓練生は無給だが、月10円(部内より合格した者は5割以内の増給ができる)を支給する。⑧制服は貸与する。

と具申し改革を行いました。

(注) ③から⑧までは東京郵便電信学校とほとんど同じ内容です。

坂野さんは、訓練所の改革後、初代通信官吏訓練所長に就任し、職員育成に尽力しました。訓練所はその後、37年の永きにわたり8千人に及ぶ郵政中堅職員を送り出し、通信事業に多大な貢献をしました。

11 国際無線電信会議への出席

明治45(1912)年6月、ロンドンで開催された第2回国際無線電信会議に主席代表として出席し、投票権問題などに関する要求、実現に力を尽くされました。

12 通信要録の発行

明治42(1908)年に郵便・電報・電話などのほか為替・貯金などの利用方法を広く一般利用者にお知らせする案内書として「通信要録」を発行しました。

13 通信協会(はじめは通信協会)雑誌の発行

明治41(1907)年8月に時の通信局長、小松謙次郎氏を会長に坂野さん他5名を常務委員として通信協会(はじめは通信協会)が発足しました。

協会は毎月1回協会雑誌を発行して、規則の改正、規程の制定等があった場合、その解説をしたり、職員からの改良意見を掲載し、職員への事業知識の普及向上ならびに事業に関する研究、意見の発表機関としては唯一のものでした。

坂野さんは、執筆陣の中心にあり自ら「鉄筆生」と号して、創刊以来毎号、熱心に筆をとられました。なぜ「鉄筆生」と称したかといえ、坂野さんは毛筆書ではまるで字にならないと筆を苦手にしており、鉄筆でガリを切っていたゆえんだそうです。この雑誌の発行により、事業知識が普及され、職員の研究心が高まり、考えをまとめたり文章にする力も高まってきました。同誌は、名称が変更になりましたが現在も継続して発行されています。

14 郷土発展のための貢献

大正4(1915)年12月14日、西部通信局長を最後に逓信省を退官した坂野さんは、請われて大阪電灯会社の常務取締役として実業界に転身し、その後郷土で鉄道、電灯事業等の発展に渾身の働きをしました。また、郷土野谷村の村長や貴族院議員として政治の場やNHK岡山放送局を誘致するなど、公私にわたって郷土発展に尽力しました。

坂野鉄次郎さんのエピソード等

<エピソード>

雷が大嫌いで、豪胆な坂野さんも雷が鳴りそうな日は、朝から落ち着かずそわそわしていました。

実際に雷が鳴ると顔面蒼白となり、難しい会議中であろうとその会議は中断されたり終了させたようです。

また、普段は絶対決裁しないような文書でも決裁される事を職員はよく知っており、とても決裁されそうもない難しい文書は雷が鳴るまで待って文書決裁を受けたとジョークで言われています。

姉、八重野が結婚し婚家へ付添として赴いた際の口上で「ふつつかな姉ですが・・・」と挨拶すべきところ「不調法な姉ですが・・・」と言い間違え、後々まで失敗談として姉にあやまっていました。

<人柄>

逓信省高官であったにもかかわらず、人に迎合しないで年賀状に

お上には 少々失礼なれど

子(ネ)の歳や 口上だけでは

人よらず

と川柳で時の政府を批判しています。

<坂野鉄次郎の年譜>

明治 6(1873) 年	誕生	11月14日、岡山県御津郡野谷村に生まれる。
明治 31(1898) 年	25 歳	7月東京帝国大学を卒業、直ちに逓信省に入る。
明治 32(1899) 年	26 歳	岡山県玉島の酒造業、高見家の亀代乃と結婚。 大阪郵便電信局監理課長(奏任官)となる。
明治 33(1900) 年	27 歳	長野郵便電信局長となる。
明治 35(1902) 年	29 歳	通信局鉄道船舶郵便課長(初代)となる。

明治 36(1903) 年	30 歳	通信局内信課長 (初代) となる。
明治 37(1904) 年	31 歳	野戦高等郵便局長を兼務する。
明治 39(1906) 年	33 歳	兼任関東都督府参事官、通信局企画課長 (初代) となる。
明治 41(1908) 年	35 歳	東京郵便局長兼逓信書記官となる。
明治 42(1909) 年	36 歳	「通信要録」を著す。
		逓信官吏練習所長兼務となる。
明治 43(1910) 年	37 歳	大阪逓信管理局長兼大阪地方海員審判所長となる。
明治 45(1912) 年	39 歳	第 2 回国際無線電信会議 (ロンドン) に主席代表として出席する。
大正 2(1913) 年	40 歳	西部逓信局長 (勅任) となる。
大正 4(1915) 年	42 歳	大正天皇の即位大礼に際し、大礼使事務官を勤める。
		12 月 14 日逓信省を退官し、実業界 (大阪電灯会社、常務取締役) に入る。
大正 8(1919) 年	46 歳	大阪電灯を辞し、藤田組理事兼片上鉄道社長となる。
大正 15(1926) 年	53 歳	中国合同電気 (今の中国電力) 社長となる。
		昭和 24(1949) 年まで在任する。
昭和 4(1929) 年	56 歳	生誕の地、野谷村の村長となる。
昭和 7(1932) 年	59 歳	貴族院議員となる。
昭和 14(1939) 年	66 歳	貴族院議員に再選される。
昭和 27(1952) 年	79 歳	時の佐藤栄作郵政大臣から招かれて上京し、第 3 回郵政記念式典に参列する。
昭和 28(1953) 年		その帰途、芦屋市の令息宅で発病、6 月 5 日没する。
		生誕地である、岡山市吉宗に 7 月 19 日逓信総合博物館の分館として「坂野記念館」を開設する。
平成 5(1993) 年		開館 40 年を節目として、岡山市北区栢谷 1039-1 に新築移転し現在に至る。

坂野記念館

岡山市北区栢谷 1039-1

(086)294-5851

9:00 ～ 16:00 (月曜日休館)



コレクションの作り方

郵政博物館で切手展を開催しよう！

特非) 郵趣振興協会

切手コレクション紹介

旧小判切手高額

長野 行洋

新小判5厘

穴戸 俊介

14.00 円姫路城

吉田 敬

北海道の不統一印

長野 行洋

北洋方面への進出

石代 博之

ゴルフを究める 知識のトッププレーヤーを目指して

江村 清

Advertised Postmarks in Japan

岩崎 朋之

郵趣活動の記録

PRAGA 2018 受賞結果抜粋

特非) 郵趣振興協会

全日本切手展 2018 受賞記録

特非) 郵趣振興協会

全日展2018参観記

長野 行洋

郵趣振興協会 活動報告

特非) 郵趣振興協会

ジャパNSTAMP・オークションニアレポート

鯛 道治

スタンペディアオークション 第6回セールレポート

スタンペディアオークション(株)

あなたも、ナショナル・ミュージアムで切手展を開催できます 郵政博物館で切手展を開催しよう！

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

郵政博物館と特定非営利活動法人郵趣振興協会は、郵政博物館における「郵博特別切手コレクション展」2019 年度展示団体を現在募集しております。

応募にあたっては、募集要項内容（付録3に全5枚を掲載）をご了解いただいた上で、10月15日までに申込書（5枚の内の最後の2枚）にご記入の上、ご提出ください。

（参考：募集要項抜粋）

会 場：郵政博物館多目的スペース

募集会期：

会期候補日は、展示団体の希望をご記入ください。当協会が郵政博物館側と交渉いたします。なお、ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み、春休みはじめ、郵政博物館の主催行事が行われる期間については、切手展の開催は不可能になる可能性が高いとお考えください。会期は土・日曜日の2日間を原則とします。会期初日を金曜日以前に早めることもスケジュールにより可能です。希望する場合はご相談下さい。

開催時間：

特別切手コレクション展の開催時間は、郵政博物館の開館時間である午前 10:00- 午後 5:30 と同一です。なお会期初日の開始時間だけ、設営の為に午後 1 時にずらすことが可能です。最終日も必ず 17 時 30 分まで開催し、撤去は閉館後 1 時間 30 分以内（遅くとも 19 時まで）で実施していただきます。

展示規模・設備：40 フレーム（1 フレーム 16 リーフ）を原則とします。

展示団体負担金：50,000 円

特別切手コレクション展の運営に関する実務は、博物館と本事業を共催する協会が担当します。協会は非営利組織ですが、当該事務及び広報（葉書チラシ、参観ガイド等）に要する諸経費相当額として、出展決定後に 50,000 円の展示団体負担金を申し受けます。

なお、展示団体の申込者が、当協会の賛助会員である場合、展示団体負担金を一万円減額します。

申込期間・方法

出展申込書（別紙）に必要事項をご記入の上、協会あてご提出願います。申込期間は、2018 年 6 月 11 日から 2018 年 10 月 15 日の間とします。（必着）出展の可否につきましては、協会理事会において審査・選定作業を行った上で、1 か月後を目処に決定し結果をご連絡致します。

お問合せ・申込み先

協会は限られた人的資源で運営されていますので、本事業に申し込まれる方は原則として電子メールによる日常的な連絡・調整に支障のない方に限ります。また、本事業の実務は全て協会が担当します。会場となる郵政博物館への直接のお問い合わせはできません。

2 年連続して開催する展示団体の優遇

2 年連続して開催する展示団体が前年と同時期の展示を希望する場合は、他の展示団体より優先的に開催時期を割りあてます。但し主催者行事が入る場合は、優遇致しかねます。

・連絡先 E メール info@kitte.com

・郵送物の送り先 〒102-0083 海事ビル内郵便局留置 特定非営利活動法人 郵趣振興協会 郵博特別展係

切手コレクション紹介 全日本切手展 2018 大金銀賞 付録2に全リーフ掲載 (1F)

旧小判切手高額

長野 行洋

日本初の近代凸版印刷により発行された小判切手は、「旧小判」17種、「U小判」3種、「新小判」10種の計30種に大別される。

前期に発行された「旧小判」の内12銭以上の高額面6種は切りの良い最高額面50銭以外、手彫切手から継承された半端な額面も含め、発行数も少なく、外国郵便の利用も珍しく、国内での実際の用途も少なく、蒐集に苦労させられる。

この展示は、6種類の旧小判切手を製造面・使用面で分類・展開した伝統郵趣のワンフレームです。(出品者コメント)

出品者の旧小判切手の高額面のコレクションを初めて拝見しました。

いくつかの額面で展示されていた使用例も素晴らしかったのですが、それ以上に製造面を示すページがいずれも美しく収集されていて素晴らしいと感じました。

しかしながら、競争展のワンフレーム部門として適切な主題設定かというと、国際競争切手展の審査員であれば肯定できない人が大半だと思います。

ここまでお持ちなのであれば、むしろ、低額面もお持ちの長野さんのレギュラー部門での作品の展示を是非拝見したいと感じました。(吉田 敬コメント)

旧小判切手高額

日本初の近代凸版印刷により発行された小判切手は、明治9年から15年に発行された「旧小判」17種、明治16年に発行された「U小判」3種、明治21年から25年に発行された「新小判」10種の計30種に大別される。

前期に発行された「旧小判」の内、12銭以上の高額面6種は切のよい最高額面50銭以外、手彫切手から継承した半端な額面も含め、発行枚数も少なく、外国郵便の利用も珍しく、国内での実際の用途も少なく、蒐集に苦労させられる。

15銭・20銭・50銭は電信用として大量に使用されたが、逆に本来の郵便使用例だけでリーフをつくるのも難しい。一番現存数の少ない45銭は、使用されたカバーも発見されていない。ただ12銭はじめ、初期の色は実に魅力的である。

この展示は、6種類の旧小判高額切手を製造面・使用面で分類・展開した、伝統郵趣のワンフレーム作品です。

- 1 -

タイトルリーフ

旧小判 50 銭 5 枚 + 旧小判 10 銭 2 枚貼
白色薄紙

旧小判
50 銭紅赤

1879 (明治12) 年 6 月 30 日発行
P10



YOKOHAMA (7. 20) → ROME (I T A L I A)

1883 (明治16) 年

(欧州宛外信書状 10 銭 × 26 倍 + 書留 10 銭 = 2 円 70 銭)

- 16 -

最終リーフ 旧小判 50 銭 5 枚貼りのイタリア宛外信書留書状

作品オーナーのご好意で、本作品は、付録2に全リーフが収められています。付録2は、「マイスタンペディア」よりダウンロードできます。入手後は、個人の利用の範囲で印刷等してご利用ください。

切手コレクション紹介

全日本切手展 2018 大銀賞 付録2に全リーフ掲載（1F）

新小判5厘

穴戸 俊介

1889年10月1日より国内郵便の第3種料金が引き下げられ、従来の1銭から5厘となりました。このため用途がなくなり販売が休止されていた旧小判5厘と同系色・同図案の切手が製造されて発売されました。

公示は新切手ではなく販売停止の解除でしたが、休止の間に切手の製造方法が進歩し、印刷原版も新しく造られたため、新小判に分類されます。この切手を版、色調、目打等で分類し、使用例を並べてみました。（出品者コメント）

第一段で製造面をきっちり分類、二段目以降で使用例をカバーで、外信使用までしっかり。（長野 行洋コメント）

新小判5厘

1889年（明治22年）8月19日 販売停止解除






旧小判5厘 160%

新小判5厘 160%

1889年（明治22年）10月1日より、国内郵便の第3種基本料金（16匁以下）が改訂され、従来の1銭より5厘に引き下げとなった。これにより、用途のないためしばらく販売が休止されていた5厘切手の需要が生まれ、以前に発行されていた旧小判5厘切手と同系色・同図案の切手が製造され、発売されることとなった。

公示では新切手の発行ではなく従来の5厘切手の販売停止解除であったが、製造を休止している間に切手の製造方法が進歩し、印刷原版も新しく作られたため、旧小判5厘とは別種の切手として分類され新小判5厘切手と呼ばれている。

本作品では、この切手を版、色調、目打によって分類し、それぞれの時代の使用例を国内郵便、外国郵便を中心に並べた。

リーフ No.	
1	タイトルリーフ
2~4	製造面のバラエティ（初期印刷=100面版 後期印刷=400面版）
5~8	使用例 国内郵便
9~15	" 外国郵便
16	" 非郵便

作品オーナーのご好意で、本作品は、付録2に全リーフが収められています。

付録2は、「マイスタンプEDIA」よりダウンロードできます。入手後は、個人の利用の範囲で印刷等してご利用ください。

タイトルリーフ

新小判5厘 使用例 外国郵便

後期印刷12灰茶

第2項はがき UPU諸国宛て 3銭 (1892年7月1日~1897年9月30日)



KOBE (神戸)
1896年9月27日
↓
YOKOHAMA
(横浜)
9月30日
↓
HAMBURG
EIMSBÜTTEL
(アイムスビューッテル)
11月5日
↓
HAMBURG 5
11月6日
(ハンブルグ=ドイツ)

後期印刷12灰茶

第2項はがき 4銭 (1897年10月1日~1907年9月30日)



HAKODATE
(函館)
1899年9月8日
↓
YOKOHAMA
(横浜)
9月11日
↓
STADE
(シュターデ=ドイツ)
10月15日

切手コレクション紹介

全日本切手展 2018 大金銀賞 付録2に全リーフ掲載 (1F)

14.00 円姫路城

吉田 敬

昭和 26 年に発行された 14 円姫路城切手（銭位）は、人気がある切手ですので、高価に取引されていますが、昭和 31 年まで 5 年半以上外信葉書用額面として発行されており、そこまで少ないものではありません。しかしながら、「なんとなく少なそう」という理由で、これまで印刷版は一版のみだろうと考えてきた人も多いのではないかと思います。今回の展示では、シートを元にした印刷版に関するオリジナル・スタディを中心とした伝統郵趣作品を作りました。（出品者コメント）

子供の頃、未・済どちらでも 1 枚入手できればとの対象 1 種で Wリーフ 8 枚にまとめられた度肝を抜く作品、未使用シートが 4 枚と外信中心のカバーに圧倒され絶句。（長野 行洋コメント）

Introduction

Outbound mails was prohibited after the WWII in Japan, and was resumed on August 28th, 1947. Surface post card rate was 2 Yen at first, however, was raised two times in 1948 and 1949 because of the postwar inflation.

1949 surface post card rate was 14 Yen and it lasted for 10 years until March 31st, 1959. As there were no stamp of 14 Yen denomination, the ministry of post & telecommunication issued it on March 27th, 1951.

Souvenir sheet of this stamp was also issued on the same day and the number of issue is only 200 thousand.

This stamp and its souvenir sheet was produced through engraved plate press, which was usual for high value stamps just to prevent counterfeit, and produce outstanding design which was enough to appeal the rival of Japan then.

14.00 Yen Himeji Castle

The Most Lovely Japanese Landscape Stamp

Purpose of the Exhibit, and the Original Study

This is the first and only research exhibit to show the production of this stamp with deep analysis, and it's based on the exhibitor's original study.

Production report including date and quantity was normally recorded by printing company, however, no report for this issue exist either in private hand or in museum. Thus it's next to impossible to study this stamp deductively, and as a result the number of study report was small since the issue.

Among those study reports, the existence of a plate flaw "curled hair line" (*) seems to be a key finding, because this plate flaw was often found at pos.97, while several other pos.97 does not have this plate flaw.

*1 Reported by Mr. Haruna YAMAJI, the Stampedia Philatelic Journal 2012 edition. Several examples



The exhibitor thought this might be a starting point of inductive study of this stamp, and collect sheets and big multiples containing the lower rows as much as possible.

As a result of this accumulation, three facts about plate flaws are found.

- (1) Curled hair line is not only a plate flaw of pos.97, but large crack spread on a vertical strip of ten from pos.7 to pos.97. (see the left vertical strip of ten)
- (2) Another crack also spread on a vertical strip of ten from pos.9 to pos.99. (see the right vertical strip of ten)
- (3) Above two cracks exist on several sheets together, and the other several sheets without these cracks are also found.

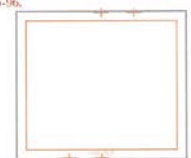
The existence of two printing panes can be supposed from these facts about plate flaws. The exhibitor named one printing pane A and the other printing pane B.

The maximum number of panes which can be put into an engraved plate press together is four, however, it was also all right with only one pane. So it is not clear that both of printing pane A and B were used at the same time or not.

Printing Plate

Regardless of the number of panes in a printing plate, the die of this stamp was transferred to the copper plate one by one in the Chapman transfer method.

Imprint was transferred to the plate under pos.93-96, and four registered marks were also transferred at the upper of pos.3-6 and pos.7-8, and the lower of pos.93-94 and pos.95-96.



Each distance between the stamp and the registered marks are the same in both panes A and B, however the distance between the imprint and the stamp differs in panes A and B.

Name	Pane	Gum #2	Shade	Distance #3	Shown
Sheet A	with crack	D	dark	3.1 mm	P2
Sheet B	with crack	A	light	3.1 mm	P2
Sheet C	without crack	A	light	3.5 mm	P3
Sheet D	without crack	A	light	3.5 mm	P1
Block A	with crack	A	light	3.1 mm	not shown
Block B	without crack	A	light	3.5 mm	P3
Pair A	with crack	A	light	3.1 mm	not shown
Pair B	without crack	D	dark	3.5 mm	P3

*2 A is an arabic gum and D is a dextrin gum
*3 Distance between stamp and imprint

Engraved plate press was not equipped with any perforation unit, so sheets were transported to perforation machine by hands. Every 5 or 6 sheets were pin-held at the register mark and then were perforated one rows and one rows.

Exhibit Plan

There exist no essays, DIE proofs and proofs for this issue.

So the collection starts with MIHON overprinted stamps, which means SPECIMEN in this leaf, followed by three leaves showing mint sheets and multiples of the different printing panes.

Transfer method was long used for engraved plate press since 1926 when the first engraved stamp was issued in Japan, and this stamp was also used this method. This method inferior to electrolyzing method introduced in 1933 because of the poor precision of reproduction.

This means the transferred copies have many varieties, which is also shown in the exhibit.

Selected usages are shown in page 5 & 6. Although this stamp was sold for rather long period of more than five years between 1951 and 1956, demand on surface post card rate stamp was weak and the number of printing was also small.

The last two pages show the souvenir sheet. The first page shows the production varieties based on the exhibitor's original study, followed by a page showing selected usages; internal and external, full souvenir sheet and cut from s/s.

Specimen



First Day Cancellation



TOKYO 27 3 51 (Showa 26)

タイトルリーフ

作品オーナーのご好意で、本作品は、付録2に全リーフが収められています。付録2は、「マイスタンプEDIA」よりダウンロードできます。入手後は、個人の利用の範囲で印刷等してご利用ください。

JAPAN

14.00 Yen Himeji Castle . A Study of Printing Plates

1951

Printing Pane A

This is a cracking plate and two crack lines can be seen in vertical strips of pos.7/97 and pos.9/99

The distance between the imprint and the stamp is 3.1 mm.

Pos. 49 with a Plate Flaw "Upwards Crack"



KAMATA 26 5 29 (1951)
Bulk mails payment document

Staple holes →

A Sheet with Arabic Gum**A Sheet with Dextrin Gum**

Register mark and pin hole

Register mark and pin hole



2 ページ ペーン A (pos.7/97 および pos.9/99 にひび割れのある実用版で製造されたシート)

JAPAN

14.00 Yen Himeji Castle . A Study of Printing Plates

1951

Printing Pane B

This is a pane without big two crack lines, which can be found in the pane A.

The distance between the imprint and the stamp is 3.5 mm.

Both of arabic gum and dextrin gum was used for this pane.

Dextrin Gum

Pos.95/96

Lower Register Mark

Pos.85/96 with arabic gum

Staple holes →

A Sheet with Arabic Gum

Supposed to be a register mark

Register mark



3 ページ ペーン B (定常変種の確認できない実用版で製造されたシート)

日高国

幌泉

幌泉郡

1874 (明治 7) 年 - 月 - 日郵便取扱所 開局

||不統一印 (抹消) + ◎K G 印 (証示)



日高・幌 泉 1875 (明治 8) 年 10 月 17 日 差立
 日高・浦 川 1875 (明治 8) 年 10 月 22 日 経由
 胆振・苫 細 1875 (明治 8) 年 10 月 23 日 経由
 武蔵・東 京 1875 (明治 8) 年 10 月 28 日 到着



裏面 × 70 %

- 1 2 -

1 2 ページ 幌泉局。国内書状だが、封筒を横に倒して英文でも宛名の記載があり、コレクションの見た目に多様性を加えるマテリアル

作品オーナーのご好意で、本作品は、付録2に全リーフが収められています。付録2は、「マイスタンペディア」よりダウンロードできます。入手後は、個人の利用の範囲で印刷等してご利用ください。

切手コレクション紹介

全日本切手展 2018 金銀賞 付録2に全リーフ掲載 (1F)

北洋方面への進出

石代 博之

19世紀半ば以来、北洋方面への進出は、日露ないし日ソの国際関係に規定されてきた。これらの国際関係は日露戦争、ロシア革命、シベリア出兵、日ソ戦争（第二次世界大戦）という戦争のたびに断絶し、その後に更新されてきた。

この作品は北洋方面への進出が、どのような要因を受けて変遷してきたのか、郵便を通して考察し検証している。(出品者コメント)

ワンプレの帝王が今年の日口の選りすぐりアイテム、構成さすが。(長野 行洋コメント)

北 洋 方 面 へ の 進 出



年 月 日	1870	1880	1890	1900	1910	1920	1930	1940	1950
日 露 の 国際関係				▲1875年5月7日:樺太千島交換条約	△1904年2月8日:日露戦争 ▲1905年9月5日:ポーツマス条約 △1907年7月28日:日露漁業協約	△1917年3月8日:ロシア革命 △1918年8月2日:シベリア出兵 △1921年・1922年:自治的出漁			
日 ソ の 国際関係						△1922年12月30日:ソ連の成立 △1925年1月20日:日ソ基本条約 △1928年1月23日:日ソ漁業条約 1945年8月9日:日ソ戦争△			

◆ 概 要

19世紀半ば以来、北洋方面への進出は、日露ないし日ソの国際関係に規定されてきた。これらの国際関係は日露戦争、ロシア革命、シベリア出兵、日ソ戦争(第二次世界大戦)という戦争のたびに断絶し、その後に更新されてきた。関東軍の場合、陸上の権益は国策会社としての満鉄に集中していたのに対して、北洋における海上の権益は、日露漁業株式会社などの民間企業であった。この作品は北洋方面への進出が、どのような要因を受けて変遷してきたのか、郵便を通して考察し検証している。

◆ 構 成

1. 日露の国境画定	(1) 樺太千島交換条約		P. 2
2. 日露戦争	(1) 日露戦争		P. 3
	(2) ポーツマス条約		P. 4
3. シベリア出兵	(1) シベリア出兵		P. 5
4. ソ連の成立	(1) ソ連の成立		P. 6
	(2) 日ソ基本条約		P. 7
	(3) 日ソ漁業条約		P. 8
	(4) 北千島鮭鱈漁業の統合		P. 9
	(5) 朝鮮半島から樺太への人口移動		P. 10
5. 日ソ戦争	(1) ソ連軍が南樺太へ侵攻		P. 11
	(2) 占守島の戦い		P. 12
	(3) 樺太からの「緊急疎開」		P. 13
	(4) 樺太残留邦人		P. 14
	(5) 樺太からの引揚げ第一船「雲仙丸」		P. 15
	(6) サハリン残留朝鮮人		P. 16

1 / 16

作品オーナーのご好意で、本作品は、付録2に全リーフが収められています。

付録2は、「マイスタンペディア」よりダウンロードできます。入手後は、個人の利用の範囲で印刷等してご利用ください。

タイトルリーフ

切手コレクション紹介

全日本切手展 2018 大金銀賞 付録2に全リーフ掲載 (5F)

ゴルフを究める - 知識のトッププレーヤーを目指して -

江村 清

スコットランドが起源の近代ゴルフ。クラブで小さなゴルフボールを打ち、如何に少ない打数でカップの中に入れるかを競うスポーツです。しかし、ゴルフにはスコアよりも大切なものが潜んでいます。自らが誠実にルールを守り、他のプレーヤーに敬意を払い共存しながら楽しくゲームを進めることが必要です。本作品は、ゴルフの歴史、ゴルフ場の環境、ゴルフの魅力とルール・エチケット、ゴルフの楽しみ方などについて展開しました。(出品者コメント)

フィラテリスト・ゴルファーも少なくないが、下手な横好きでサブとしてテーマチック作品をとの郵趣家は少なくないが実現できたコレクターはごく少数なのでは。筆者も通信機メーカー勤務だったので情報通信電話のテーマと駄マテリアル収集するも一向に進まず。お得意のWリーフコースに、多彩な玉筋マテリアルでファー。(長野 行洋コメント)



6 ページ ゴルフの発祥期限と発展史 下部に日米の格子印を示し、ゴルフボールのディンプルを説明しているところが面白い

作品オーナーのご好意で、本作品は、付録2に全リーフが収められています。付録2は、「マイスタンプEDIA」よりダウンロードできます。入手後は、個人の利用の範囲で印刷等してご利用ください。

切手コレクション紹介

PRAGA2018 90pts.[金賞相当] 付録2に全リーフ掲載 (1F)

Advertised Postmarks in Japan

岩崎 朋之

全日本切手展に2年連続で出品した作品をグレードアップし、初めての国際展に出品いたしました。審査員の方との対話に沿って以下の点を大幅に改善しました。①後期20年を削り、対象時期を初期のみに絞りました。これにも関わらず、展示点数は増加し計20展となりました。②わかりやすさを重視、局別からタイプ別の展示に変更しました。③コンディションをより良いものに大幅に入れ替えました。④展示技法について、カバーを重ねない等美しく改善しました。(出品者コメント)

世界展のワンフレームで日本人が金賞相当の90pts.を獲得した作品。過去の記録が手元にないため、確実ではありませんが、初めて、もしくは非常に珍しいことだと思います。

本作品は、初出品の前から構想をお聞きし、可能性を感じていた作品です。日本国内よりも競争展の本場の欧州で高く評価された事実は、ポスタル・ヒストリー部門に出品する全競争展出品者にとってヒントとなる点が多く含まれた作品だと思います。(吉田 敬コメント)

作品オーナーのご好意で本作品は付録2に全リーフが収められています。

付録2は、「マイスタンペディア」よりダウンロードできます。入手後は、個人の利用の範囲で印刷等してご利用ください。



ADVERTISED POSTMARKS IN JAPAN

Some undeliverable mail that could not be returned, mainly including mail that had arrived from overseas, was collected each month and announced for a ten-day period, and if the recipient could still not be located, advertisements would also be placed in additional channels, such as English-language newspapers. The **"ADVERTISED POSTMARK"** is a postmark that indicates that a piece of mail went through this process.

This is an exhibition of Advertised Postmarks by type, from the first double-circle postmark to the last postmark used in the 1910s. It should be noted that mail advertised in this way was only a very small percentage of undeliverable mail, that which was judged to be of extremely high value or likely to be delivered successfully. In addition, since such mail that could not be returned was destroyed by burning, there are relatively very few samples remaining today.

- **"ADVERTISED POSTMARK"** is a postmark indicating that dead letter was publicly announced in a newspaper.
- In Japan, this system was principally in place from the 1870s until approximately the 1910s.
- There are five or fewer existing examples of the majority of types, and considered to be rare.
- This work is the first exhibit of this postmarks, and the exhibiter made the first-ever comprehensive and systematic study of it.
- As the existing types and the offices that used them are limited in number, and because they were not commonly used, the theme is best suited to a single-frame format.

THE BASIC TYPES OF ADVERTISED POSTMARKS IN JAPAN



Early
Double Circle
Postmarks
1877-1891
P2-P3

ADVERTISED

Single-line Postmarks
1888-1900
P4-P8



Single-line
Postmarks
1903-1916
P9-P16

PLAN OF THE EXHIBIT

- I Early Double Circle Advertised Postmarks
- II Single-line Advertised Postmarks
- III Oval Advertised Postmarks

EXISTING NUMBER OF EACH EXAMPLES SHOWN IN THIS EXHIBIT

P.2 : FIRST DOUBLE CIRCLE TYPE:YOKOHAMA	5	P.10 : OVAL TYPE (TYPE-1):YOKOHAMA	6
P.3 : FIRST DOUBLE CIRCLE TYPE:KOBE	2	P.11 : OVAL TYPE (TYPE-2):YOKOHAMA	2
P.4 : SINGLE LINE TYPE:YOKOHAMA	10	P.12 : OVAL TYPE (LARGE TYPE):YOKOHAMA	3
P.5 : SINGLE LINE TYPE (WITH YEAR):YOKOHAMA	2	P.13 : OVAL TYPE (DOUBLE CIRCLE):TOKYO	4
P.6 : SINGLE LINE TYPE:TOKYO	1	P.14 : OVAL TYPE:TOKYO	5
P.7 : SINGLE LINE TYPE (WITH YEAR):TOKYO	3	P.15 : OVAL TYPE (POSTAL SYMBOL):TOKYO	2
P.8 : SINGLE LINE TYPE:NAGASAKI	1	P.16 : OVAL TYPE:KOBE	3
P.9 : OVAL TYPE (DOUBLE CIRCLE):YOKOHAMA	6		

RESERCH AND STUDY

- Detailed classification by type of advertised postmarks and determination of what period they were used.
- **Update of 15 data examples**, including the discovery of the earliest use of the Kobe double-circle type.
- **Classification for the first time of TYPE-1 and TYPE-2** Yokohama oval Advertised Postmarks with date.

Bibliography & Sources : Advertised Postmarks (Tomoyuki Iwasaki : Philatelic Jornal 2017), Yushu-Hankoshu (Mamoru Sawa 2013),

PRAGA 2018 受賞結果抜粋

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

2018/8/15(水)～8/18(土)に、チェコ共和国・プラハ市にあるホテルで開催された世界切手展の受賞結果の抜粋(グランプリと日本からの出品)をご報告いたします。なお展示作品数は379で、その内、大金賞38、金賞64でした。

GRAND PRIX INTERNATIONAL

Classic Switzerland (Hackmey Joseph, Israel)

その他のグランプリ候補

The United States Imperforate Issues of 1851-1856 and Their Importance in an Expanding Postal System (Eubanks Gordon, USA)

Norwegian Skilling Covers – Domestic and Abroad (Komnaes Tom, Norway)

Navigation Lines Serving South America (Santos Everaldo, Brazil)

Grand Prix National

Postal History of Czech Lands (from the Beginning until 1867) (Vaníček Vít, Czech)

その他のグランプリ候補

Postal History of Slovakia 1850-1875 (before Öster-reichische Post in der heutigen Slowakei 1850-1875) (Severín Peter, Czech)

【日本からの出品作品と審査結果】

部門	作品名	F	氏名	賞
伝統：ナショナル	Czechoslovakia Hradcany Issue 1918 – 1920	8	Takaku, Kenichi	92 G
伝統：アジアオセアニア	Chrysanthemum Issue of Japan	8	Hatanaka, Tamidou	88 LV
伝統：アジアオセアニア	Private Printing Period in Victoria 1850 – 1859	8	Nagai, Masayasu	95 LG
伝統：アジアオセアニア	Ryukyus 1945 – 1952	8	Ishizawa, Tsukasa	93 G+SP
伝統：アジアオセアニア	Indian Feudatory state: Hyderabad	5	Sato, Koichi	91 G
郵便史：アジアオセアニア	The Development of Japanese EXPRESS DELIVERY Service in Early Period	8	Ikeda, Kenzaburo	92 G
文献：単行本	Hand-Engraved Stamps JAPAN 1871 – 1876		Sobue, Yoshinobu	86 LV
文献：単行本	Czechoslovak Gallery		Ichikawa, Toshiyuki	65 SB
文献：単行本	International Exhibition History 1965 – 2004		Shoda, Yukihiro	61 B
文献：雑誌	Stampedia Philatelic Journal		Yoshida Takashi	90 G
文献：カタログ	Ryukyu Specialized Catalogue		Japan Philatelic Society Foundation	82 V
文献：カタログ	Japanese Specialized Catalogue vol.1, vol.2		Japan Philatelic Society Foundation	87 LV
ワンフレーム：アジアオセアニア	Japanese High Value Definitive issue "Fujiwara-no- Kamatari 5 Yen	1	Ikeda, Kenzaburo	86
ワンフレーム：アジアオセアニア	Advertised Postmarks in Japan	1	Iwasaki, Tomoyuki	90 SP
オープン	The Czechoslovak government in exile 1940 – 1945	5	Tadatsu, Akira	80 V



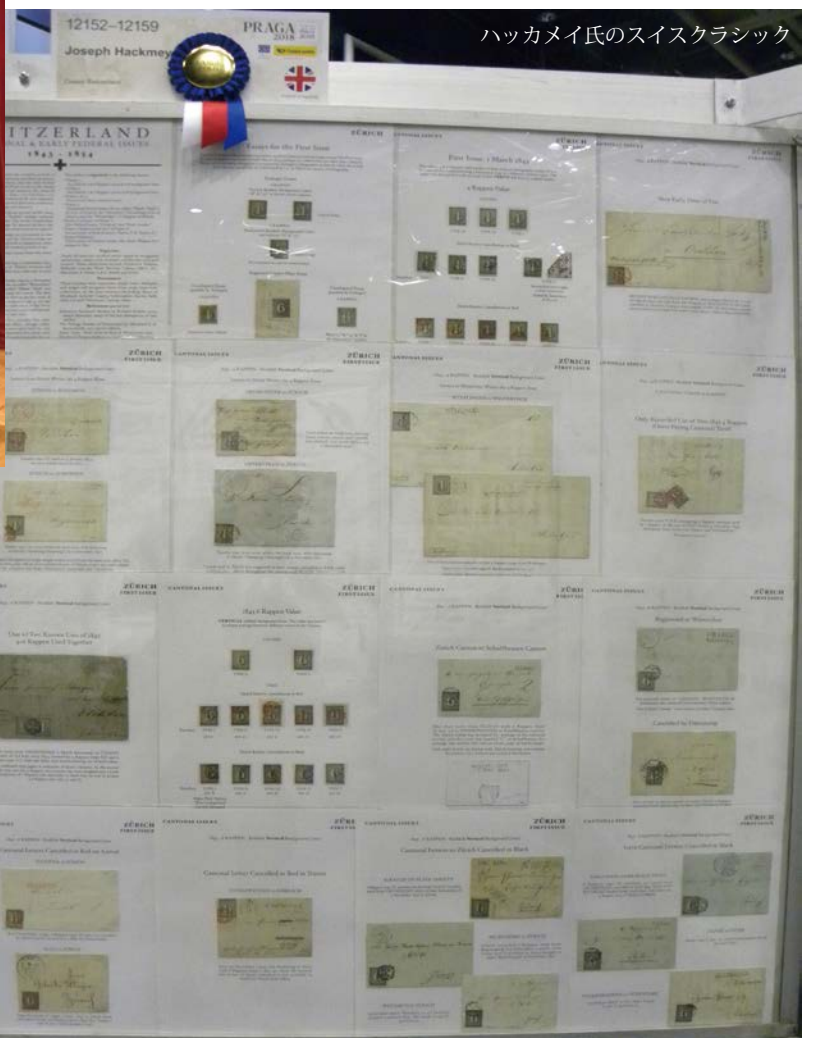
写真提供：小林彰氏（次ページとも）



チャンピオン授与式



ナショナル部門に
出品した高久さん



ハッカメイ氏のスイスクラシック



全日本切手展 2018 受賞記録

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

2018/7/20(金)～7/22(日)に東京、錦糸町のすみだ産業会館8階で開催された切手展の受賞記録

部門	作品名称	F	出品者	結果
チャンピオン	Ryukyus 1945-52	8	石澤 司	95 LG SP
	日本急速郵便史・拡大期	8	池田 健三郎	90 LG
伝統郵趣・日本	手彫切手	5	瀧川 忠	81 LV
	Japan Hand Engraved Stamps 1871-1876	5	小山 隆	88 G SP
	菊切手	5	内海 省一	71 LS
	菊切手	5	三木 充	85 G
	田沢旧大正毛紙切手	5	丹羽 昭夫	92 LG SP
	大正切手 P 12 L	5	山田 祐司	80 LV
	第2次昭和切手	4	濱谷 彰彦	72 LS
	第3次昭和切手	5	横矢 仁	82 LV
	戦前戦中の記念切手	5	田辺 幹夫	78 V
	JAPAN1950-'51. Animal, Plant, & National Treasure Series(1950-'65) The First Unit (With"00") Issued:1950-'51	5	赤塚 東司雄	80 LV
	第2次動植物国宝切手 1952-59	5	矢嶋 秀明	77 V
	第一次円単位 1952-1959	5	吉田 敬	85 G
	郵便番号宣伝 1968-73	5	宮崎 幸二	75 V
	郵便番号宣伝 (1次 - 6次)	3	宇佐見 比呂志	63 SB
	電子郵便切手	3	北野 雅利	57 B
	琉球 (1948?58)	5	太田 克己	75 V
	Ryukyu Dollar Currency Conversion Provisional Series	5	木戸 裕介	78 V
	分銅はがき	5	伏木 良雄	81 LV
	洋紙手彫証券印紙 1873-1874 (明治6-7年)	5	長谷川 純	94 LG SP
伝統郵趣・外国	英国ジョージ6世グラビア普通切手	5	佐藤 明夫	78 V
	アルゼンチンの正刷公用切手	5	佐藤 浩一	84 LV
	Ceres 1849-1850	3	有吉 伸人	85 G
	事故防止シリーズ 1971-73	5	田中 勝善	64 SB
郵便史・日本	金子入り書状と貨幣封入郵便	3	石川 勝己	90 LG SP
	北陸の鉄郵印	3	青木 章博	67 S
	時刻表示の廃止	3	山田 克興	75 V
	戦前の日米航路の郵便	5	安藤 源成	72 LS
	1937年の急速郵便制度改革	5	池田 健三郎	78 V
	訴訟書類 (特別送達)	3	村上 信和	77 V
郵便史・外国	中国一戦後、国際航空便	4	川崎 徹夫	77 V
	オーストリアインフレ 1921-1925	5	伊藤 文久	83 LV
	South America Airmail by Graf Zeppelin	5	立川 賢一	86 G
テーマティック	ゴルフを究める 知識のトッププレーヤーを目指して	5	江村 清	78 V
	バラのきた道 その生い立ちと人々のかかわり	5	山田 精一	83 LV
	Floriculture	5	嘉ノ海 暁子	85 G
	宇宙開発の進化	5	中尾 謹三	73 LS
	障害者スポーツ	3	大沢 秀雄	72 LS
オープン郵趣	東京オリンピック	5	犬飼 英明	75 V
	The Czechoslovak government-in-exile 1940-1945	5	忠津 章	85 G SP
	フィンランド共和国 その独立と苦闘	5	菊池 達哉	72 LS
ユース	鳥切手がいっぱい	1	津田 賢士郎	68 S SP
	日本の城めぐり	1	榎本 育美	74 S SP
	昆虫の仲間	1	村上 和穂	71 S SP
	観賞魚	1	千葉 郁実	73 S SP

部門	作品名称	F	出品者	結果	
現代郵趣	日本の自然シリーズ Nature in Japan 1992-98	5	村山 廣祐	68	S
	額面印字コイル切手	1	虎頭 雄彦	82	LV
	リトアニア書留郵便史 1989-1996	5	荒木 寛隆	88	G SP
ワンフレーション (伝統郵趣)	旧小判切手高額	1	長野 行洋	82	LV
	新小判5厘	1	穴戸 俊介	74	LS
	〈支那〉加刷 菊・1円	1	柳川 英幸	73	LS
	「満州国」皇帝（傳儀）来訪記念	1	木下 朋英	68	S
	14.00 円姫路城	1	吉田 敬	81	LV
	切手趣味週間記念「壹圓切手帖」	1	馬淵 正比呂	73	LS
	地域限定発売「観光切手、博覧会切手」使用例	1	馬淵 正比呂	71	LS
	コロンブス世界博覧会	1	鈴木 敏之	59	B
	米国平版印刷1セント切手	1	奥山 昭彦	81	LV
ワンフレーション (郵便史)	龍切手カバー上の東京の初期箱場印	1	手嶋 康	88	G
	産業図案切手発行下における速達郵便迅速化4政策	1	珠敷 雅	83	LV
	北海道の不統一印	1	長野 行洋	83	LV
	志摩国の消印	1	中世古 誠	80	LV
	沖縄・宮古島局の郵便印（戦後～B円時期）	1	大井 道夫	83	LV
	北洋方面への進出	1	石代 博之	79	V
	満鉄附属地の郵政権移譲	1	小林 富士夫	82	LV
	日中戦争期における軍事郵便 陸軍兵士・越後谷一郎の軍事郵便使用例より	1	浅野 周夫	62	SB
	船内無線電信取扱所の日付印	1	安藤 源成	75	V
	ADVERTISED POSTMARKS IN JAPAN	1	岩崎 朋之	87	G SP
ワンフレーション (テーマティック)	ドラクロワの「十字軍のコンスタンチノープル進入」	1	川辺 勝	78	V
	働く犬	1	大沢 知子	70	LS
	世界遺産・富士山	1	下園 康治	57	B
	古代の女神像	1	今井 徹	64	SB
郵趣文献 (単行本・カタログ)	千葉晋一コレクション「手彫切手」		株式会社鳴美	82	LV
	乃木2銭切手の研究		児玉 博昭	77	V
	鴻爪痕		株式会社鳴美	77	V
	郵便の歴史		株式会社鳴美	83	LV
	全国郵便局名録 2018		株式会社鳴美	74	LS
	風景印 2018		株式会社鳴美	73	LS
	風景印アーカイブ		株式会社鳴美	68	S
	在横浜フランス郵便局大型数字 5118 入菱形印		小林 彰	77	V
	新昭和切手		飯澤 達男	65	S
	備前国の明治初期郵便印		安藤 源成	80	LV
	第 67 回全日本切手展		小藤田 紘	75	V
	全国郵便局消印蒐集叢書第 25 巻 茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県全郵便局索引		小島 純二	65	S
	チェコスロヴァキア美術館		市川 敏之	62	SB
郵趣文献 (雑誌・定期刊行物)	Stampedia Philatelic Journal		無料世界切手カタログ・スタンプメディア株式会社	90	LG
	東海郵趣 復刊第1号？第20号		祖父江 義信	71	LS
	月刊「たんぶるぼすと」		株式会社鳴美	75	V



チャンピオンクラス受賞風景
(写真提供：小林彰氏)

全日展2018参観記

長野 行洋

7/20～22に、恒例となったJR錦糸町駅前の百貨店丸井8Fの「すみだ産業会館」で、全日本切手展2018が開催された。今年は全国的に猛暑・酷暑との闘い。たどりつけば会場はキンキンに冷えた天国だが、会場までは午前中早い時間でもすでに30度近く、日差しじりじり厳しかった。3連休だった昨年に比べ、平日の初日は来場者がやや少なかったが、土日は参観者が増え、会期3日間としては昨年以上の来場があったのではないだろうか。今年から後援頂いた東京新聞にも、会期前日より連日紙上に記事を掲載頂き、東京新聞を見て来場された一般客も散見された。以下、敬称略にて。

今年の企画展示（日本）は発行70周年の「産業図案切手」（大阪・須谷伸宏）、昨年3月オーストラリア・メルボルンで開催されたアジア国際切手展で日本戦後として初の金賞に輝いた作品。（右図）

エッセイ・プルーフに始まり高額面まで大ブロック含め未使用で製造面を分類。使用例としては郵便史的なもの・高額の使用例と、マテリアル・構成とも大いに見習うべき秀作。数十年前だったら、産業図案で国際展金賞を誰が想像しただろうか。

郵政博物館所蔵の産業図案試刷の展示も眼福であった。もうひとつは「郵便番号50周年」にちなんだ、切手だけでなく、ポスター・チラシ等の今となっては希少な資料が興味深かった。

オープニングセレモニーにチェコ在日大使も出席頂いたチェコ切手展には「チェコスロバキア・プラハ切手1818-1920」（福島・高久健一）。過去2回国際展で金賞を得た、エッセイ・プルーフから始まり一点物含む年季のコレクション。

オープンクラスご出品「The Czechoslovakia government-in-exile 1940-1945」（北海道・忠津章）も企画コーナーに展示。1939年ナチスドイツに占領され、イギリスに亡命政府を設立、1945年の母国開放までのチェコスロバキア共和国の歴史絵巻を郵趣材料以外も含め展開、見事金賞・東京新聞賞を受賞。これら2作品は、この8月チェコ・プラハで開催される特別国際切手展に出品され、どのような評価を得られるか、期待大。



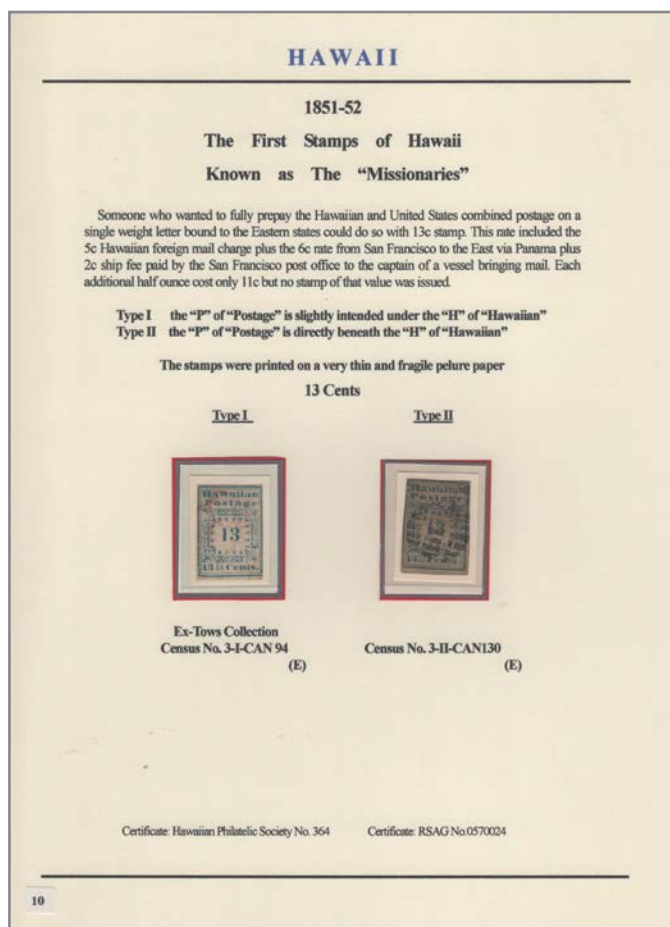
審査員出品

当初出品数が少な目と今回再設も、競争出品数ますますで、全体に華やかな全日展に。外国伝統郵趣2作品、国内で拝見でき何より。

「Hawaii」(福井・山崎文雄)2016 台北国際切手展で大金賞を受賞したクラシックの作品。宣教師切手と呼ばれるファーストイッシュュも大珍品 2c 以外何点も。次の数字シリーズはオリジナルスタディ、7 フレとも充実。(左下図)

「Austria & Lombardy-Venetia The 1850 Issues」(千葉・斎藤環)これまた、オーストリア及び支配下のイタリア北部のロンバルディ・ベネチアの最初のシリーズ 10 種を 8 フレに展開した驚くべき作品。共に日本人としての最高収集。前後の作品に囲まれ目立たなかったため見逃された方お気の毒。(右下図)

他に、ステーションナリー「エチオピアの航空書簡」(東京・井上和幸)、郵便史「アウシュビッツ郵便史」(東京・内藤陽介)5月のイスラエル展で大金銀賞受賞作品、会場で著者本も販売、好評。



チャンピオンクラス

2点いずれも大金賞、8月チェコ・プラハ国際展出品作品が事前に目にできるとは感激。

「Ryukyus 1945-52」(広島・石澤司)95点の高得点でグランプリにあたる日本郵便賞も受賞。氏のライフワークの集大成。ブルー・原画等アーカイブマテリアルの充実度驚くべき。スタンプレスカバーの分量をセーブして全体にバランスと大迫力の作品。

「日本急速郵便史・拡大期」(東京・池田健三郎)も同様にライフワークのテーマ作品を更に作り変え改善を図った作品。これらも、国際展での評価が楽しみ。(右上図)

伝統郵趣<日本および関連地域>

手彫から現行・エボックの郵便番号、琉球、葉書、印紙までバラエティに富んだ19作品。

何年も連続ご出品「手彫切手」(北海道・瀧川忠)大金銀賞、毎年構成作り直しの努力には脱帽。

「Japan Hand Engraved Stamps 1871-1876」(大阪・小山隆)初出品でいきなり金賞・通信文化協会賞受賞の快挙。手彫は安く今が集めどきと言われて久しいが、現実に作品として昇華するのは難しい。厳選された切手・カバーがバランスよく構成された秀作。センスが感じられ、今後の活躍が期待される。(右下図)

今年は菊が2点。「菊切手」(東京・内海省一)大銀賞、無加刷を切手・カバーとも素直に並べた佳作。加刷を加え、更なる伸び代が楽しみ。

「菊切手」(香川・三木充)大ベテラン久々の登場で遂に金賞に到達おめでとうございます。みほん他充実、未使用で色調・目打を分類、50銭P12x12½C未も。カバーも高額までしっかりと。朝鮮・支那加刷もバランスよく、さすが見ごたえ十分。

田沢2点いずれも横綱相撲。

「田沢旧大正毛紙切手」(東京・丹羽昭夫)大金賞・全日本郵趣連合賞。毎年ご出品ながら常に新しい面を。今年は、印面版欠点のオリジナルスタディが。

The Development of Japanese EXPRESS DELIVERY in Establishing and Expansive Period 1911-1937

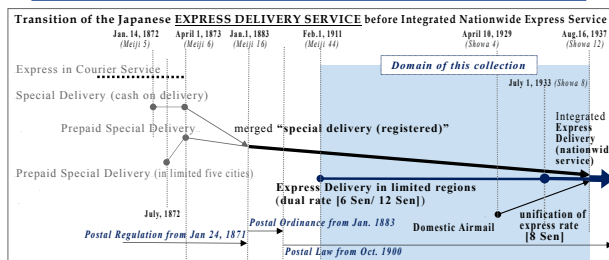
Definition

This is a specialized postal history collection of the development in terms of preferential and additional express postal service under the concept of EXPRESS DELIVERY SERVICE in broad sense, which consists of the progress in "express service in limited regions", "special delivery service", and "domestic airmail service", followed by integrated "nationwide express service" on August 16th, 1937. The details are below.

Express Service in Limited Regions: express delivery mail whose every process is put on the promptest way in very limited cities, "express" is an isolated postal service and does not need obligatory registration, gradually expanding into whole nation between 1911 and 1937, the rate is 6 Sen/ 12 Sen from Feb. 11, 1911 to June 30, 1937, followed by 8 Sen from July 1937

Special Delivery: obligatory registered express delivery mail from delivery post office to recipient, which exists compatibly with express service in limited regions, and was merged into nationwide "express" on August 16th, 1937

Domestic Airmail Service: after April 10th, 1929, if there is airline route on the delivery way, addresser of the mail can use domestic airmail as an optional service to make it be delivered promptly, however domestic airmail is treated as ordinary mail on the way of surface delivery without express charge



Aim of the Exhibit

We can know the quality of modern postal service through confidence in its safety and promptness. This collection makes a focus on the latter and deals with important and expansive part of the EXPRESS DELIVERY SERVICE defined above. The exhibit exemplifies the qualitative transition of the function and effectiveness by Japanese postal authority in terms of the highest delivery speed available at that time. There are various items of "EXPRESS" in broad sense during establishing and expansive period (1911 to 1937) on this exhibit, showed in accordance with the following structure.

Structure and Development of the Exhibit

Part I: Introduction and Ensnaring Express Delivery in Limited Regions 1911-33 1st-6th frames

I-1 Foundation Period of Express and Compatible Registered Special Delivery in the Area Where Express Was Not in Service ---- p.2-16

I-2 Dual Rate Express in Limited Regions, Compatible Registered Special Delivery, and Domestic Airmail ---- p.17-96

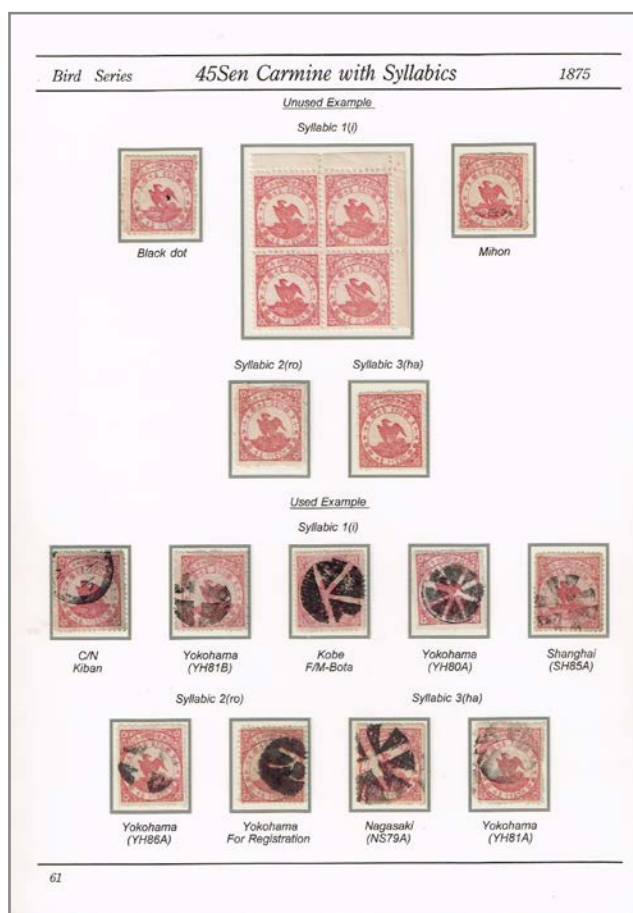
Part II: Expansion of Express Service under Unified Express Rate 1933-37 7th-8th frames

II-1 Express Delivery, Compatible Registered Special Delivery, and Domestic Airmail under 3 Sen Letter Rate ---- p.97-123

II-2 Express Delivery, Compatible Registered Special Delivery, and Domestic Airmail under 4 Sen Letter Rate ---- p.124-128

References

- "Recent Topics on Studies Concerning the Japanese Postal History of Prompt Delivery" by Kenzaburo IKEDA, FRPSL (exhibitor), "Stampedia Philatelic Journal 2017", Stampedia, Inc. published on Nov. 16, 2017, pp.95-104
- "Postal History of the Japanese Prompt Delivery" by Kenzaburo IKEDA, FRPSL (exhibitor), "Stampedia Philatelic Journal 2013", Stampedia, Inc. Published on Nov. 22, 2013, pp.53-71



「大正切手 P12L」(長野・山田祐司) 大金銀賞、田沢の達人究極のテーマ。大正切手にまで広げながら P12L だけで5フレ作れるとは。大正のインポートランスで、この評価ながらマテリアルは逸品揃い。

昭和は難しい2・3次。

「第2次昭和切手」(東京・濱谷彰彦) 大銀賞、ゼネラリストが毎回テーマを変えて。年々作品の構成・見せ方に進歩の跡が。

「第3次昭和切手」(広島・横矢仁) 大金銀賞、状態のよい適度な枚数の銘付ブロックでの製造面の分類わかりやすく、ありふれた物除外のカバーは逸品ばかり、その時代の難しさいくばくか。(右上図)

「戦前戦中の記念切手」(岡山・田辺幹夫) 金銀賞、かんむり未銘付田型・制定シートカバー等大目玉多数。バランスの関係か、愛国航空が済の下に未銘付田型が並んでいたが、やはり未・済の順序が素直なのは。

現行6点、目も眩むほど。

「JAPAN 1950-'51. Animal, Plant, & National Treasure Series (1950-'65) The First Unit (With "00") <Issued: 1950-'51>」(兵庫・赤塚東司雄) 大金銀賞、ブルーフに始まり希

少なゼロ付のシート・大ブロック・使用例が目白押し。

「第2次動植物国宝切手 1952-59」(兵庫・矢嶋秀明) 金銀賞、今は流行らなくなった銘付10枚ブロックでの製造面比較はかえって新鮮に映った。

「第一次円単位 1952-1959」(東京・吉田敬) 金賞、作品全体Wリーフ、未シート多数で大迫力。大型カバーも自在のレイアウト。子供の頃には想像できなかったスケールの作品。(下図)



制度開始 50 周年、郵便番号切手の 2 作品。

「郵便番号宣伝 1968-73」(千葉・宮崎幸二) 金銀賞、郵便番号切手 1 次～6 次で 5 フレ 80 リーフの作品が作れるとは驚愕。意外に後半で見せるアイテムの難しさが痛感された。

「郵便番号宣伝 (1-6 次)」(愛知・宇佐見比呂志) 銀銅賞もよく揃っていたが、隣のフレームと比べられ割損であった。

「電子郵便切手」(大阪・北野雅利) 銅賞、ワンフレよりレギュラー 3 フレに挑戦、特異な切手の使用例、カバーに目を惹く物もあったが、電子封筒分類のフレームはやや冗長の印象か。

琉球 2 点金銀賞。

「琉球 (1948-58)」(香川・太田克己) ベテランは B 円時代の普通・記念特殊全般の作品。年季の入ったマテリアル散見。

「Ryukyu Dollar Current Provisional Series」(東京・木戸裕介) 材料は十二分。構成を改善してワンランクアップ、見ごたえの作品。

ステーションナリー作品、大金銀賞

「分銅はがき」(埼玉・伏木良雄)。失礼ながら目立たぬ分銅葉書ながら、その内容は外地・特殊使用例とも充実。

印紙のオーソリティ、毎年テーマを絞って

「洋紙手彫証券印紙 1873-1874(明治 6-7 年)」(愛知・長谷川純) 大金賞・日本郵趣協会賞、研究結果を豊富な実物での実証が高評価。(下図)



伝統郵趣<外国>

出品数は4点と今年も淋しいが、作品の水準は高い。

「英国ジョージア6世グラビア普通切手」(東京・佐藤明夫)金銀賞。版番号・切手帳・コイルと見て判るバラエティ、以前製造面分類の作品を拝見した記憶も、今回は使用面もバランスよく。

「アルゼンチンの正刷公用切手」(神奈川・佐藤浩一)大金銀賞、加刷以降の正刷公用切手が立派。ブルーに始まり、版研究・難しい高額までしっかり。

「Ceres 1849-1850」(神奈川・有吉伸人)金賞、フランスのファーストイシューに溯っても一級品の作品。不発行だけでなく、カバーも鑑定証付ゾロゾロ。エッセイや初日・最古使用カバーなど眼福。

「事故防止シリーズ 1971-73」(愛知・田中勝善)銀銅賞、40数年前、現行切手として日本でも収集が流行った西ドイツのシリーズ、西ベルリン表記の切手も今となっては懐かしい。内容として、ガッターペア・コイル・切手帳などバラエティ満載。

郵便史<日本および関連地域>

6点の出品。「金子入り書状と貨幣封入郵便」(東京・石川勝己)大金賞・切手文化博物館賞、白眉の作品。氏のライフワークのひとつ、その集大成。布告・通達など多彩な郵便資料と飛脚時代以降、どの時期も入手困難なカバーをその眼力で見抜き収集。郵便料・逓送料・配達料の分析等、是非とも印刷物で拝見・勉強したい。

マルコフィリー(郵便印郵趣)作品2点。

「北陸の鉄郵印」(三重・青木章博)銀賞、エリア別に毎年連続出品。北陸は関西との強い結びつきから名古屋・東京経由との伸延・経路変更状況が作品にストーリーを。

「時刻表示の廃止」(東京・山田克興)金銀賞、戦時体制での変遷を丹念に追いかけて構成、先行した樺太含め北海道をハイライトに展開した佳作。

「戦前の日米航路の郵便」(岡山・安藤源成)大銀賞、齢80を越え益々パワーアップ、例年テーマを変えてご出品。船舶郵便全体が複雑との事で、日米航路に絞っての作品。

「1937年の急速郵便制度改革」(東京・池田健三郎)金銀賞、チャンピオンクラス作品前史とのコラボ作品、ご本人のこだわり。

「訴訟書類(特別送達)」(岡山・村上信和)金銀賞、小判等の伝統郵趣、大型ボタ等の郵便史と多岐のテーマでご出品のベテランもこのテーマは初見。よく集め、よく組み立てていらっしゃる敬服。



郵便史＜外国＞

3点。

「中国 - 戦後、国際航空便」(埼玉・川崎徹夫) 金銀賞、年季の入ったベテランの難しい時期の難しいテーマで、煩雑な航空料金の読み取り方はさすが。

「オーストリアインフレ 1921-1925」(東京・伊藤文久) 大金銀賞、3年余で1,000倍のインフレのすさまじさとローカルでの措置使用例が面白かった。

「South America Airmail by Zeppelin」(東京・立川賢一) 金賞、子供の頃、わからないなりにあこがれたツェッペリンカバーでの本格航空郵便史、今でも一部マテリアル差し替えのご努力、脱帽。

テーマティク

5作品。

「ゴルフを極める - 知識のトッププレイヤーを目指して -」(神奈川・江村清) 大金銀賞、フィラテリスト・ゴルファーも少なくないが、下手な横好きでサブとしてテーマティク作品をとの郵趣家は少なくないが実現できたコレクターはごく少数なのでは。筆者も通信機メーカー勤務だったので情報通信電話のテーマと駄マテリアル収集するも一向に進まず。お得意のWリーフコースに、多彩な玉筋マテリアルでファー。(下図)

ゴルフを極める - 知識のトッププレイヤーを目指して -



スコットランドの名門ゴルフコースの情景
公式FDCカセットには「ゴルファーの心得アルファベット A～Z」が記述されている
FDC St. Andrews 1994/7/5



イギリスからアメリカに渡り、賞金額も多く華やかな男・女プロツアー競技を多試合開催
航空便 FDC CAMDEN 1932/12/1 AM10:30 to Charlotte 12/1 PM21:00

I. 概要

イギリス・スコットランドが起源の近代ゴルフ。ゴルフとは、クラブで小さなゴルフボールを打ち、如何に少ない打数でカップの中に入れるかを競うスポーツです。しかし、ゴルフにはスコアよりも大切なものが君えています。自らが誠実にルールを守り、他のプレイヤーに敬意を払い共存しながら楽しくゲームを進めることが必要です。

本作品は、ゴルフの起源と歴史、ゴルフ場と地域との共生、ゴルフの魅力とエチケット・ルール、ゴルフを楽しむ、真剣勝負の競技ゴルフに章立てし展開します。

II. フラン

プロローグ ゴルフとは何か	p 2	1
1. ゴルフの発祥起源と発展史		8
1.1 ゴルフ発祥のルーツ	p 3-4	
1.2 近代ゴルフの誕生と発展	p 5-10	
2. ゴルフ場と地域との共生		8
2.1 コースの種類と構成	p11-13	
2.2 ゴルフ場の仕事	p14	
2.3 ゴルフ場の環境	p15-16	
2.4 自然環境との共生	p17-18	
3. ゴルフの基本とエチケット・ルール		6
3.1 ゴルフは基本から	p19-20	
3.2 ゴルフのエチケット	p21-23	
3.3 ゴルフのルール	p24	
4. ゴルフの魅力と楽しみ		10
4.1 ゴルフの魅力	p25	
4.2 プレー前の準備	p26-28	
4.3 ゴルフ技術のセオリー	p29-33	
4.4 ゴルフを楽しむ	p34	
5. 真剣勝負の競技ゴルフ		6
5.1 アマチュア競技	p35	
5.2 プロのツアー競技	p36-39	
5.3 オリンピック競技に復活	p40	
		40

「バラの来た道 その生い立ちと人々とのかわり」(大阪・山田精一) 大金銀賞、ベテランの手際よい佳作。男は花の種類を知らず有り難いテーマも、歴史も絡めたストーリーで勉強に。

「Floriculture」(神奈川・嘉ノ海暁子) 金賞、過去より出品を重ね、今回は国際展に向けての英語書き込み。タイトルは従来の難しい日本語より英文のほうがしっくり。フレームごとに5章でストーリーわかりやすく。伝統郵趣も合わせて、鉄道女子ならず本格的郵趣女子の時代、いよいよ到来か。

「宇宙開発の進化」(奈良・中尾謹三) 大銀賞、数々のテーマに取り組まれている氏も宇宙のテーマは新しい素材が多いので、組み立て方が何よりでの受賞。

「障害者スポーツ」(茨城・大沢秀雄) 大銀賞、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて絶好のテーマ。関連テーマで実績のある氏、内容の充実でランクアップが十分望めるのでは。

オープン郵趣

昨年は1点だったが今年は3点の出品。

「東京オリンピック」(東京・犬飼英明) 金銀賞、まさに旬のテーマで、にわか東京五輪コレクターも増加(かく言う筆者も)して、切手・カバー等郵趣マテリアルだけでなくラベル・記念煙草・宝くじ等の関連グッズも取り合いに。それらアイテムもしっかり。開会式も含めた五輪競技の入場券を最下段に並べたフレームは中々の迫力。

冒頭に紹介、チェコ展に展示「The Czechoslovak government-in-exile 1940-1945」(北海道・忠津章) 金賞・東京新聞賞。

「フィンランド共和国 その独立と苦闘」(新潟・菊池達也) 大銀賞、一番切手のカバー等一流の郵趣アイテムも眼福ながら特に日本との関わりあいを当時の新聞他の非郵趣アイテムで数々のエピソードを紹介、その知識の豊富なこと。

ユース

銀賞4点、「鳥切手がいっぱい」(兵庫・津田賢士郎・10才)「日本の城めぐり」(兵庫・榎本育美・10才)「昆虫の仲間」(兵庫・村上和穂・10才)「鑑賞魚」(兵庫・千葉郁実・13才)いずれもユース奨励賞。連続出品作は年々書き込みの文字がしっかり上手に。兵庫以外からの出品を期待したい。

1989年以降の現代郵趣

「日本の自然シリーズ Nature in Japan 1992-98」(新潟・村山廣祐) 銀賞、我々還暦世代の現行切手は50年前の円単位も、これら平成切手も20数年、誰しも持っているが体系的に作品にすることは意外に至難。

「額面印字コイル切手」(東京・虎頭雄彦) 大金銀賞、ワンフレながら製造面の根本現象をアーカイブ的な物、使用例も選りすぐり。

「リトアニア書留郵便史 1989-1996」(埼玉・荒木寛隆) 金賞・日本郵便文化振興機構賞。多彩な守備範囲の氏が、新しい対象に本格的に取り組まれた中で一本の筋の通ったテーマで時代を超越した佳作、脱帽。

ワンフレイム<伝統郵趣>

日本7点外国2点。

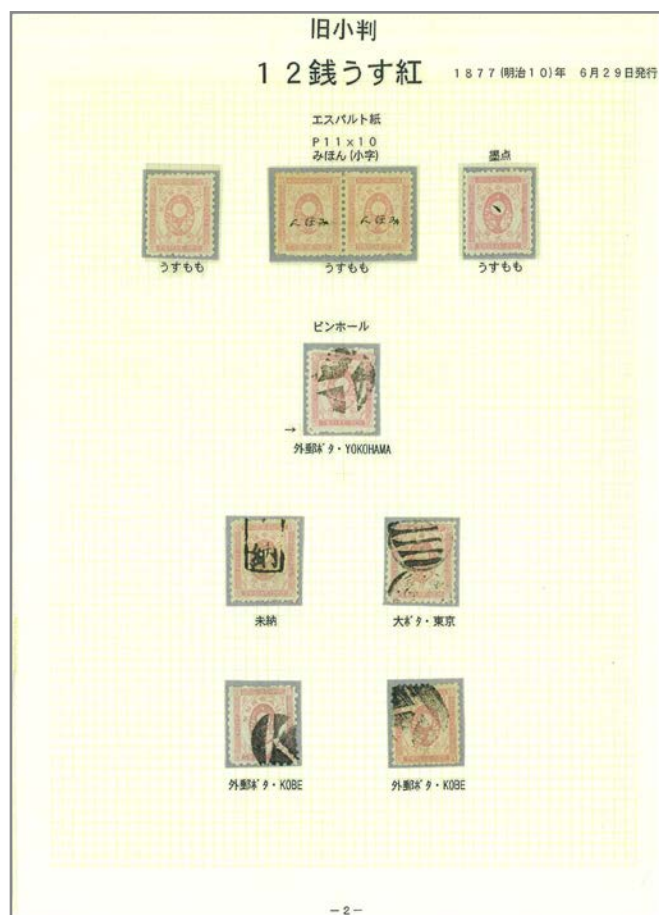
「旧小判切手高額」(東京・長野行洋) 大金銀賞、審査員よりワンフレイム作品としての意図を聞かれたが答えられなかった。(下図)

「新小判5厘」(山梨・穴戸俊介) 大銀賞、第一段で製造面をきっちり分類、二段目以降で使用例をカバーで、外信使用までしっかり。

「<支那>加刷 菊・1円」(静岡・柳川英幸) 大銀賞、菊・田沢の支那字のオーソリティもワンフレ構成できる額面は限られるのでは、カバー白眉。

「満州国」行程(傳儀) 来訪記念」(長崎・木下朋英) 銀賞、毎回1シリーズ4種の記念切手でワンフレ作品。来年のテーマは果たして楽しみ。

「14.00 円姫路城」(東京・吉田敬) 大金銀賞、子供の頃、未・済どちらでも1枚入手できればとの対象1種でWリーフ8枚にまとめられた度肝を抜く作品、未使用シートが4枚と外信中心のカバーに圧倒され絶句。(次ページ 下図)



「切手趣味週間記念『壱圓切手帖』」(大阪・馬淵正比呂)大銀賞、他にもこの小型シート専収コレクターは少なくないが、用紙・輪郭模様・銘版他の印刷ズレバラエティ揃いの完成度。さらに使用例(カバー)も切り抜き・丸ごとそれぞれに。

「地域限定発売『観光切手・博覧会切手』使用例」(大阪・馬淵正比呂)大銀賞、発行当時は地域発売で記念に退蔵されがちな対象の現地使用を丹念に追っかけ。伝統郵趣のボーダーも労作。

外国2点はいずれもアメリカ。

「コロンブス世界博覧会」(茨城・鈴木敏之)銅賞、初の記念切手も発行期間・発行数普通なみに多数も、高額はさすがに難しい。

「米国平版印刷1セント切手」(長野・奥山昭彦)大金銀賞、米国切手の専門家が過渡期の難しい切手をワンフレームにまとめた佳作。

ワンフレーム<郵便史>

10点日本のみ。「龍切手カバー上の東京の初期箱場印」(東京・手嶋康)金賞、東京でも箱場印貴重も龍カバーで発見されている9箱場印は壮観。

「産業図案切手発行下における速達郵便迅速化4政策」(兵庫・数珠雅)大金銀賞、戦後間もない速達郵便史を、産業図案の専門家が厳選して構成。

14.00 Yen Himeji Castle

The Most Lovely Japanese Landscape Stamp

Introduction
Outbound mails was prohibited after the WWII in Japan, and was resumed on August 28th, 1947. Surface post card rate was 2 Yen at first, however, was raised two times in 1948 and 1949 because of the postwar inflation.
1949 surface post card rate was 14 Yen and it lasted for 10 years until March 31st, 1959. As there were no stamp of 14 Yen denomination, the ministry of post & telecommunication issued it on March 27th, 1951.
Souvenir sheet of this stamp was also issued on the same day and the number of issue is only 200 thousand.
This stamp and its souvenir sheet was produced through engraved plate press, which was usual for high value stamps just to prevent counterfeit, and produce outstanding design which was enough to appeal the rival of Japan then.

Exhibit Plan
There exist no essays, DIE proofs and proofs for this issue.
So the collection starts with MIHON overprinted stamps, which means SPECIMEN in this leaf, followed by three leaves showing mint sheets and multiples of the different printing panes.
Transfer method was long used for engraved plate press since 1928 when the first engraved stamp was issued in Japan, and this stamp was also used this method. This method inferior to electrolytic method introduced in 1933 because of the poor precision of reproduction.
This means the transferred copies have many varieties, which is also shown in the exhibit.
Selected usages are shown in page 5 & 6. Although this stamp was sold for rather long period of more than five years between 1951 and 1956, demand on surface post card rate stamp was weak and the number of printing was also small.
The last two pages show the souvenir sheet. The first page shows the production varieties based on the exhibitor's original study, followed by a page showing selected usages; internal and external, full souvenir sheet and cut from s/s.



Purpose of the Exhibit, and the Original Study
This is the first and only research exhibit to show the production of this stamp with deep analysis, and it's based on the exhibitor's original study.
Production report including date and quantity was normally recorded by printing company, however, no report for this issue exist either in private hand or in museum. Thus it's next to impossible to study this stamp deductively, and as a result the number of study report was small since the issue.
Among those study reports, the existence of a plate flaw "curled hair line" (*1) seems to be a key finding, because this plate flaw was often found at pos.97, while several other pos.97 does not have this plate flaw.
*1 Reported by Mr. Hanuma YAMAJI, the Stampedia Philatelic Journal 2012 edition. Several examples

The exhibitor thought this might be a starting point of inductive study of this stamp, and collect sheets and big multiples containing the lower rows as much as possible.
As a result of this accumulation, three facts about plate flaws are found.

- (1) Curled hair line is not only a plate flaw of pos.97, but large crack spread on a vertical strip of ten from pos.7 to pos.97. (see the left vertical strip of ten)
- (2) Another crack also spread on a vertical strip of ten from pos.9 to pos.99. (see the right vertical strip of ten)
- (3) Above two cracks exist on several sheets together, and the other several sheets without these cracks are also found.

The existence of two printing panes can be supposed from these facts about plate flaws. The exhibitor named one printing pane A and the other printing pane B.
The maximum number of panes which can be put into an engraved plate press together is four, however, it was also all right with only one pane. So it is not clear that both of printing pane A and B were used at the same time or not.

Printing Plate
Regardless of the number of panes in a printing plate, the die of this stamp was transferred to the copper plate one by one in the Chapman transfer method.
Imprint was transferred to the plate under pos.95-96, and four registered marks were also transferred at the upper of pos.5-6 and pos.7-8, and the lower of pos.93-94 and pos.95-96.



Each distance between the stamp and the registered marks are the same in both panes A and B, however the distance between the imprint and the stamp differs in panes A and B.

Name	Pane	Gum #2	Shade	Distance #3	Shown
Sheet A	with crack	D	dark	3.1 mm	P2
Sheet B	with crack	A	light	3.1 mm	P2
Sheet C	without crack	A	light	3.5 mm	P3
Sheet D	without crack	A	light	3.5 mm	P1
Block A	with crack	A	light	3.1 mm	not shown
Block B	without crack	A	light	3.5 mm	P3
Pair A	with crack	A	light	3.1 mm	not shown
Pair B	without crack	D	dark	3.5 mm	P3

*2 A is an arabic gum and D is a dextrin gum
*3 Distance between stamp and imprint
Engraved plate press was not equipped with any perforation unit, so sheets were transported to perforation machine by hands. Every 5 or 6 sheets were pin-holed at the register mark and then were perforated one rows and one rows.

Specimen





TOKYO 27 3 51 (Showa 26)

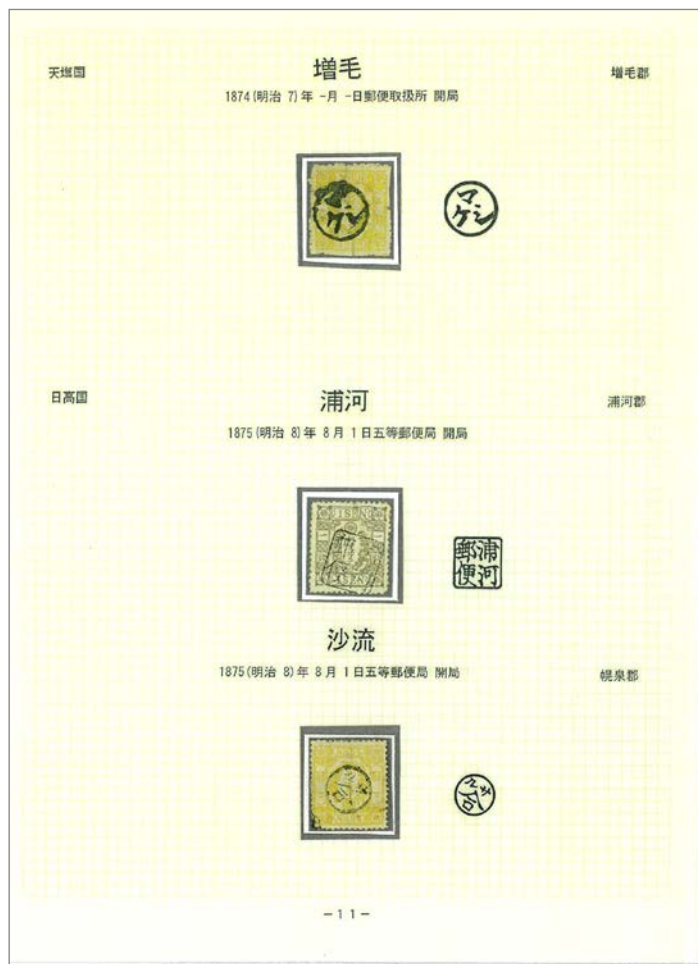
「北海道の不統一印」(東京・長野行洋) 大金銀賞、文献でしか見かけなかった日高・砂流を単片ながら入手、ご披露致したく。(右上図)

「志摩の消印」(千葉・中世古誠) 大金銀賞、安房国同様、局所の少ない志摩国(なんと5局所)、鳥羽・上之郷不統一、記番印はスゴイ。

「沖縄・宮古島局の郵便印(戦後～B円時期)」(埼玉・大井道夫) 大金銀賞、琉球時代に関わらず、戦前・戦後希少な消印揃い、多種の消印を網羅。(左下図)

「北洋方面への進出」(愛知・石代博之)、金銀賞ワンフリの帝王が今年は日口の選りすぐりアイテム、構成さすが。

「満鉄附属の郵政権移譲」(新潟・小林富士夫) 大金銀賞、日満間の条約に基ずく昭和12年12月1日前後の移行時期に絞った材料集めはさぞ大変だったのでは。(右下図)



宮古島局の郵便印 1950年

1950年4月1日より、琉球郵政庁が発足し、沖縄4郡島地区の通信郵便は廃止され各地区に中央局が誕生した。宮古群島地区では、宮古島局が「宮古中央」と局名改称された。しかし通信郵便印は、「宮古島」のまま翌年まで使用され続けた。1950年の通信郵便印は、年月日部分が「左書き」へ変わったのが特徴である。しかし一部局内使用されたと思われる幅広タイプの印影には年月日の右書きタイプがみられる。

局名文字間：幅広タイプ

●暫定標形印(西暦年号)
(年月日：左書き)
《KB3タイプ：戦前型》

局名文字間：幅広タイプ

●暫定標形印(西暦年号)
(年月日：右書き)
《KB4タイプ：戦前型》

第二次普通切手5円
宮古島 50.5.21 ★★★

●暫定標形印(西暦年号)
(年月日：左書き)
《KB5タイプ：戦前型》

第二次普通切手2円
宮古島 50.9.30 ★★★

本土・京都府あて葉書 50戦時期
10戦ダイヤはがき・第一次普通切手・再版40戦貼
宮古島 50.4.21 ★★★

印影タイプ	種別	A欄(局名)	局名表示	B欄(年月日)	使用年	備考(呼称等)
KB3	戦前型	宮古島・右書	文字間・幅広	西暦年号・左書	1950～51	〃
KB4	戦前型	宮古島・右書	文字間・幅広	西暦年号・右書	1950	〃(局内使用)
KB5	戦前型	宮古島・右書	文字間・幅広	西暦年号・左書	1950	〃(局内使用)

II 郵政権移譲と日本切手類有効期間の満州国郵便 郵政権移譲施行 日本切手類有効使用
(昭和12・12・1～13・2・28) (昭和12・12・1～13・2・28)
康德4・12・1 満州国は滿鉄付属地の郵政権移譲を受けて、日本切手類の有効引受を開始する。

愛国切手(昭和12・6・1発行)貼・書状(日本切手類有効使用2日目)

新潟縣三條市
加藤花郎衣標
上展

「治外法権撤廃記念」安東(康德4・12・2)→新潟県
(書状 4分=4銭)

「日中戦争期における軍事郵便～陸軍兵士・越後谷一郎の軍事郵便使用例」(秋田・浅野周夫) 銀銅賞、本人及び家族の差し立て便を年代順に、航空書留等特殊便中心に。

「船内無線電信取扱所の日付印」(岡山・安藤源成) 金銀賞、レギュラーの郵便史に対しワンフレはマルコフィリー(郵便印郵趣)、ご本人はかかり方が不満の物もあるかもしれないが、見たことのない消印多数で正に眼福であった。

「ADVERTISED POSTMARKS IN JAPAN」(東京・岩崎朋之) 金賞・郵政博物館賞、昨年このテーマの作品を初めて拝見した時は、その着想のユニークさにびっくりしたが、前回審査員対話時のアドバイスで初期に絞り、局別からタイプ別に構成変え。(右図)

英文リーフでやはり8月プラハ展に臨むが、ワンフレに適したテーマでアイテムの希少度が伝われば、高評価大いに期待。

ワンフレーム<テーマティク>

4 作品。

「ドラクロワの「十字軍のコンスタンチノープル侵入」(愛知・川辺勝) 金銀賞、一枚の絵に潜む歴史背景をワンフレとはいえ、発展させるとはセンスの問題。

「働く犬」(茨城・大沢知子) 大銀賞、犬の役割を絞って適した素材を選んで構成した作品。おしどり収集家、ここでも本格女子郵趣家が心強い。

「世界遺産・富士山」(岐阜・下園康治) 銅賞、楽しんで作られた作品、このような出品が増えてくれれば。

「古代の女神像」(福島県・今井徹) 銀銅賞、女神信仰を描くのに、マリアヌヌ等切手には材料に事欠かない。

今回も、日本の人口世代別ピラミッド同様、引き続き出品常連の高位入賞者が目立った。とはいえ、初出品の方も数名いらっしや、来年以降も期待したい。全出品者に感謝。

(三鷹郵趣会「フィラ・スリー・ホークス」と併載)

II. Single-line Advertised Postmark II-5 NAGASAKI Post Office

Single-line Type **ADVERTISED**

The only one known example of Single Line Advertised Postmark in NAGASAKI.



NAMURISTATION, BELGIQUE 1904.9.13 - NAGASAKI 1904.10.21 - NAGASAKI(ADVERTISED) 1904.10.? only one known - BRUXELLES, BELGIQUE 1905.6.3 - NAMURISTATION

ADVERTISED

[Single Line Advertised Postmarks in Nagasaki] Data:1904.10.?

The rarest usage among all available examples is from the Nagasaki Post Office, being limited to three types among the available examples, with only one instance of each type. This is the first-ever exhibition of this example. It was used following the first double circle postmark. It bears a deceptive similarity to the same type used by the Yokohama office, but it is smaller, at around 32 mm, while the Yokohama version is around 37 mm. This example, from 1904, is the only known one in existence.

郵趣振興協会 活動報告

2018 年 6 月 12 日～2018 年 9 月 11 日

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

特定非営利活動法人 郵趣振興協会（以下「当協会」と略す。）は、その活動について広く伝えるため、3ヶ月に一度レポートを発行し、電子メール等で賛助会員にお伝えすると共に、無料でご掲載いただける雑誌媒体に同一内容を提供しております。

2018 年度（第 2 期）特別顧問・顧問の委嘱

当協会では、定款および内規に基づいて、当法人賛助会員（3 口以上）の中からフィラテリーや郵趣団体運営に関し卓越した知見を有する識者を特別顧問・顧問として委嘱し、必要に応じて助言をいただく制度を 2018 年度（第 2 期）から設けています。

このたび、2018 年 8 月の理事会（持ち回り）において、2018 年度の特別顧問・顧問の追加委嘱に関する決議（第 2 次）を経て、当法人の特別顧問・顧問 7 名が決定しました。（任期は 2019 年 3 月 31 日までとし、再任を妨げない）。以下にご芳名を掲載いたします。（敬称略）

特別顧問 小林彰、守川環

顧問 安藤源成、岩崎朋之、設楽光弘、長谷川純、福澤慶明

「全国郵趣大会 2018 in 島原」特別講演を実施

当協会では、講師等派遣申請書を用意しており、講演依頼に対応しておりますが、公益財団法人 日本郵趣協会より、9 月 8 日に島原市で開催する催事での特別公演の依頼書を頂戴し、6 月 24 日付でお受けする旨返答いたしました。なお本件に関する協会財政からの支出はございません。

当日は、「ゼネラルコレクションの始め方・進め方」というタイトルで、ゼネラルコレクションについて 60 分間の講演を行い、主催者発表によれば、70 名以上の動員があり、講演をお楽しみいただいたとのことでした。

講演内容は、近日中に動画まとめサイト「スタンペディア TV」にまとめられる予定ですので、残念ながらご参加いただけなかった方は、どうぞご覧ください。

なお、講演に関連するコレクション「目打が初めて公式に導入されるまでに発行された切手」を、主催者が併催した島原切手展において展示いたしました。（5 フレーム）



各種事業の進捗について

当協会は「2018 年度事業計画書」において、5つの事業を計画しております。

それらは「エキシビション事業」「フィラテリー必需品サプライ事業」「リサーチ及び研究推進事業」「フィラトリック PR 事業」「次世代育成事業」の5つです。当クォーターにおける、各事業及び総務ほかの進捗をご報告いたします。

エキシビション事業

郵博 特別切手コレクション展（2019 年度）の展示団体を募集中（2018/6/11 より）

郵博 特別切手コレクション展（2018 年度）を、郵政博物館と共催で 2 回開催。

6/23-24 南方占領地のフィラテリー展

6/30-7/1 郵便番号導入50周年展

フィラテリー必需品サプライ事業

「ヒンジ・カバー用コーナー・透明マウント」の3品目を最重要対象品とした、Amazon.co.jp における供給体制を維持。（本事業は随意契約の形で、無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社に委託しています）

リサーチ及び研究推進事業

国内競争切手展データベースを更新（2018/8/29）

フィラトリック PR 事業

ウェブサイトにおける情報発信を実施（6-8 月で 14 件。対前四半期 7% 減）

次世代育成事業

スタンプクラブ 2018（発行：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社）の監修

その他事業

講師等派遣申請への対応

日本郵趣協会様（2018/9/8, 長崎県）

総務ほか

2017 年度事業報告書を東京都知事に提出（7 月 4 日）

2018 年度（第 2 期）特別顧問・顧問の委嘱（7 月 19 日、8 月 29 日）

（報告者：代表理事 吉田敬）

ジャパンスタンブ オークションニアレポート

鯛 道治

2018年8月25-26日の103回フロアセールのレポートです。今回は、マテリアルの値段でなく、ご出品者とお買い上げの方にスポットを当てて書いて行きましょう。

Lot3026 竜 1 銭 2 - 25 あご無竜 薄い弾性の有る縞紙 50 ミクロン 極美

最低値 50,000 応札 4 スタート 135,000 落札値 185,000

オークション誌に出品記事として書きましたが、白井二実氏が、晩年、取りつかれたかのように情熱を傾けて研究されていた、竜銭の紙質分類の端緒になったマテリアルです。氏のご意見では、竜文の紙が竜銭にも使われたのではないかとの推論を立てておられました。衝撃的な仮説です。その実証の為に、坂下泰一氏とお二人で、高知の紙の研究所に何度か行かれています。「切手研究」の論文で、『満天の空に輝く星』という詩的な表現を使われていましたが、言い得て妙な喩えです。理系の白井さんの言葉だけにより素敵に響きます。



私見ですが、竜銭の紙を、無地・縞でなく、弾性で硬軟を区別すれば、基本的な①脆弱縞紙、②半透明無地紙＝ペルアー紙、③脆弱無地紙が【硬質】、強靱紙（一般的には厚い無地紙・5銭の未使用では厚くない縞）が繊維質の強い【軟質】かなと思います。今回のマテリアルは、軟質だと思います。他の額面を含めて、同種の物を私は見た記憶がありませんので、グループ化して比較対象での検証は望めません。

H18.6.12の日本郵趣連合の鑑定では「半透明無地紙の範疇（ペルアー紙という意味での表現）に属すると判定しますが、断定できません。」です。今までに見たことの無い紙なのは確かですが、現品限りの出現で、白井説の竜文紙を採るのはハードルが高く、紙の弾性からしてペルアーは否定したいと思います。今までのカテゴリーからは、はみ出て考察せねばなりません。

セールではあらゆる分野で、珍品にはやたらと高い評価をする人が、下見無し?で、すっ高いメールビッドを入れてくれました。競って引っ張って負けた人は、綺麗な物に対する高評価で、あご無竜の目打完全を踏んだのです。ノンリミットで落し切りの札を代行に預けていなくて助かっています。それをやっていたら大やけどですよ。シビアな見方をすれば、コンディション重視の人は、紙の分類はどうでも良いというか、評価の基準が違います。それでもオークションのメカニズムで、2人がポイントを違えて競れば、素っ頓狂な値段になってしまうのです。但しこのマテリアルに関しては、時を経て同類が出て来て、科学的に分析出来ればいいお買い物だったという事になるかも知れません。

Lot 3511 和桜 20 銭ハ 濃刷色 殆ど NG 美

最低値 1,000,000 応札 5 スタート 1,300,000 落札値 1,300,000

Lot 2557 久米島切手 Pos20 極美

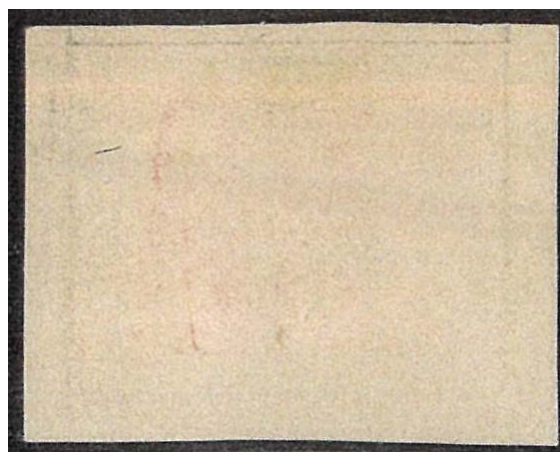
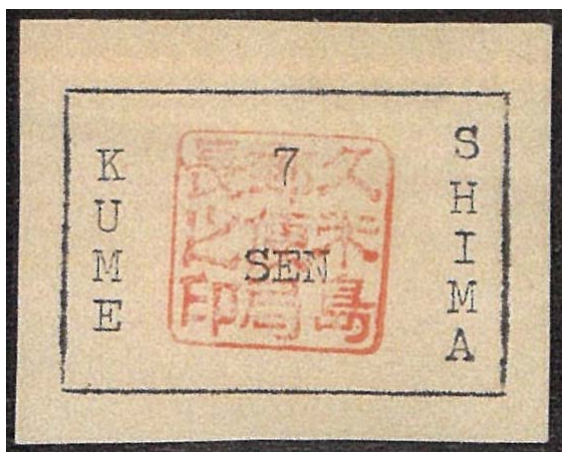
最低値 100,000 応札 10 スタート 150,000 落札値 150,000

オークションで何が売れますかとよく聞かれます。無条件での普遍的な答えがなく、余り真面目に答える気も無いので、役に立たない答えですが、「不発行と青島」かなと返事します。良い物も、悪い物も、本物なら確実に売れますから。逆に売れない物は山ほどあって、相手次第で幾つものパターンでお話も出来るのです。オークションでの、売れる売れないという括りで、銘柄を語るのは無意味です。状態の良し悪しにも左右されますし、設定の値段でがらりと雰囲気は変わります。

ここで取り上げた2点は、銘柄では最高だし、値段も確実に売れる最低値を付けました。和紙の20銭の美品で100万は安いのですが、支払いの能力を考えれば、5名のビッドには意を強くするのです。但し、5人のうちの3人はディーラーさんなのですが。久米島の15万+手数料16%は良い値段です。私の感覚では即売で売りたい値段を超えています。最低値の10万に引きずられてとは思いますが、メールビッドの札を見て、また久米島にビッドが来た・・・。10万ならば他の物に入れてくれ、と思ったのです。銘柄というよりも、値段を込みにすれば、このレベルの人気品はあらゆるジャンルで、沢山残っているのです。切手収集という趣味も強ち捨てたものではないのです。上手に需要を掘り上げたならビジネスとしても成立できると思います。



Lot 3511



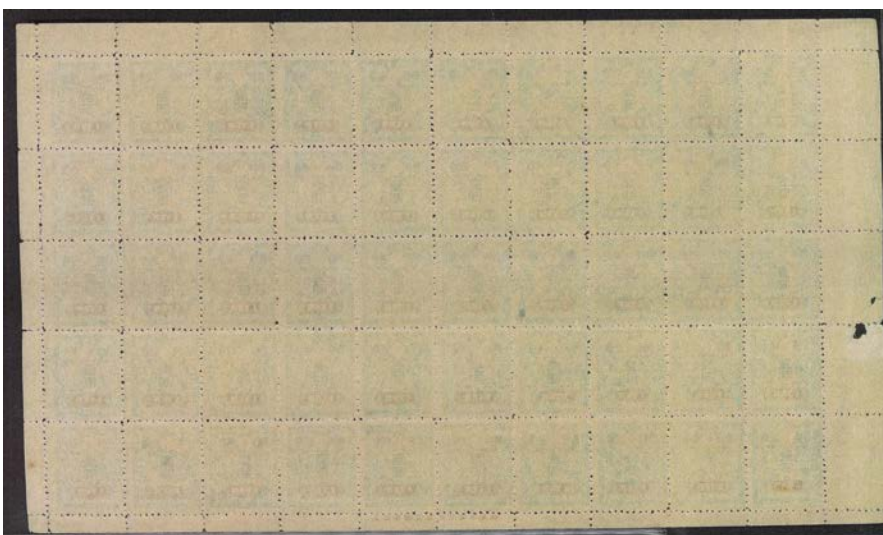
Lot 2557

Lot3636 旧毛 1 円 L12 50 面シート 極美

最低値 1,000,000 応札 4 スタート 1,550,000 落札値 1,550,000

出どころが面白いマテリアルです。今の市場を象徴しているのです。横浜の解体屋さんが当てたお宝の山の一つです。水色勅額が 7 シート＝派手な定変付きと一部シミ有が半々とか。極美の茶摘みの 5 円のシートが 2 枚、それ以外のファクターから判断して、郵政関係者の遺品でしょうか。私のビジネスパートナーの中国系のブローカーが食い込んでいて、東京で、一括処分の条件で、何軒かに声を掛けたのです。今の状況では、皆が同じ答えです。1 掛け位かな、だったとの事です。話が流れて私の元にはもう少し、高い物を凝縮して持って来てくれました。1 点毎に踏んで、28% の数字を出しました。昭白 1 円のシミ・シミの大ブロックとかに、足を引っ張られてしまうのです。先方のご希望の数字は 4 掛けです。一度はお流れだったのですが、仲介者がヤフーに出して、それなりの相場を探ったのです。水勅と茶摘みは、綺麗な物は 4 掛け位になりましたが、安い物は勿論値段は伸びません。

私に見せた物は、目立ちすぎるので、ヤフーには出したいと言っていました。だから、再交渉で、4 掛け保証での預かりにしたのです。状態は極美です。買う人の顔が見える物を選んだのです。出品と、買い取りとをミックスして、ゼロ付塔の完セットのシートと、ゼロ無立山のシート、55 円、75 円、80 円と旧毛 1 円です。このツラならば何とでもなるのです。銘柄をピンで抜けば、良い数字は出せますが、一括のカタログ値数億円を抱える度胸は有りません。売れる自信が無いのです。解体屋さん、今迄も結構当たりを引いていて、横浜にビルを建てたとか、そりゃその位儲かっていても不思議ではない商売です。旧毛 1 円のシート、弊社のオークションに出品して正解でしょう。次の持ち込みを待っています。乗れる話には乗りますから。



Lot 1588 旧小4銭E紙10貼金子入書状 白抜子一+KB2 摂津大阪

最低値 30,000 応札 3 スタート 125,000 落札値 125,000

出品の記事には日付を9年8月10日と書きましたが、これは所有者の単純な勘違いで、10年又は11年が正当です。金子入はおまけであって、旧小4銭の初期の紙の大阪使用がミソなのです。初期無地の大阪消は恐らくは無いのですが、エスパルトと薄紙も単片でも極めて少ないと思います。その理由は明瞭で、大阪では結構遅くまで和紙4銭が使われていたからです。ついでに言えば、和桜6銭と和桜半銭も同様です。エスパルトで大阪ボタ=14年9月以降の使用例、を見つけた時は感激しましたし、同じ紙で未納消=16年以降の使用例、も有るには有るのですが、これらは例外で持ち込み使用でしょう。大阪での旧小判4銭の配給はかなり遅れていたと思います。この意味で、今回のエスパの白抜記番で金子入りは誰が買うのか気になっていたのです。

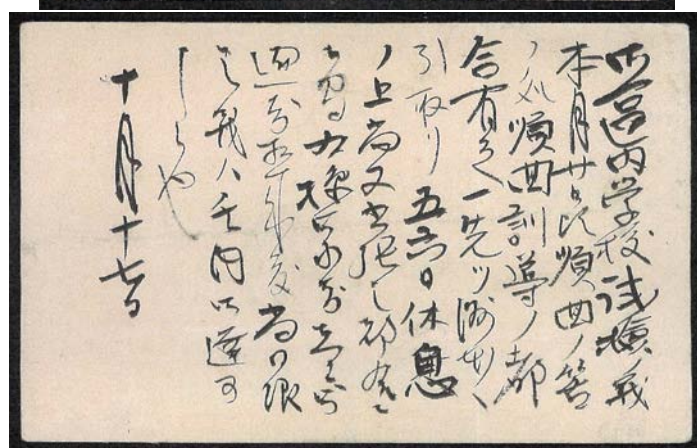
20数年前に今回の出品者に見せられて、吃驚した記憶が有るのです。あの時も随分褒めたし、値打ちを教えたのですが、お持ちの方は金子入り以外の評価が出来ていないのです。希少性の理屈の方は、右から左へ抜けてしまって、とっくの昔にお忘れでしょうか。欲ボケさんにすれば、最低値3万は滅茶安です。たいてい無しは全く気になりません。作ろうとしても材料がないし、作ってもその価値を評価する人はいないでしょうから。メールの一番札は分かった方の札で、ハンマープライスの遙かに上の数字でした。この人は当然全てご存じだと思います。4銭の専門コレクションでリーフに入った時、どういう説明を書かれるか楽しみにしています。



Lot2346 丸菊半銭 地方管内官民往復便 ○仮屋驛+ KG 淡路仮屋 志筑宛

最低値 100,000 応札 3 スタート 170,000 落札値 185,000

誰が見ても分かる珍品です。貶す材料が無いのです。金さえ有れば買いたい人は沢山いたでしょう。脇無半銭でも、小判5厘でもこの使用例は有りません。有れば取り合いになったでしょう。希少性では、丸菊も勿論同様です。でも、この組み合わせだけが、誰が買うのか、札を開けるまで読めなかったのです。メールビッドのお二人は、ゼネラルの消印のコレクターの気まぐれビッド、落ちれば儲けもの程度でしょう。スタート値で落ちるのは可哀想だと思っていたのですが、場できっちり手が挙がりました。終わって名前を確認して納得です。そういえば、丸菊を集めていて作品も作っていた人でした。仮名入りも仮名なしも、兎も角材料がないのがこの葉書、集める意欲が有っても、欲しい物が存在しないのです。製造面では版別を並べるしかないのですが、やったところで誰も褒めてくれません。この一点は将来にわたってもNo1でいられます。いいお買い物だと思うのです。将軍がいれば、兵隊は連れられて現れて来るものですから。



Lot 2884 小判 1 銭葉に旧小 4 銭貼独宛 ポジ Y + 朱◎ YOKOHAMA DEC.23. (1877)

最低値 150000 応札 4 スタート 520,000 落札値 520,000

思う存分に記事が書ける逸品です。今回が全4回の第3弾の小判葉書のコレクションの一部です。展示用のリーフの状態での出品、極めてしっかりとした書き込み付きです。但し、このアイテムだけはちょっと不十分だったのです。日本がUPUに加盟したのが1877年6月20日、この日から葉書を海外に差し出せるようになりました。宛先とルートで3銭・5銭・6銭です。これは皆さん誰もがご存知です。連合葉書の三五六の発行が1877年11月20日なので、それまでは外信葉書は官製葉書に切手加貼に限られます。勿論許可もされていますが極めて珍しく、実例は未発見に近いかも知れません。

暫くして、国内葉書の外信使用が禁止されました。そして、1894年5月12日に復活して、外信使用が出来るようになったのです。私が気になったのが、「いつの時点で国内葉書の外信使用が禁止になったか」です。出品物には1878年頃とのメモがあったのですが、根拠と、日付は書かれていませんでした。だから何時もと同じく、片山七三雄先生に夏の課題として出題して調べて貰ったのです。

見事なレポートをくれました。私が推測した、三五六と小判連合2銭・3銭の発行日と、国内葉書の外信転用不許可はリンクしていないのです。結論で言えば、明治12年の郵便規則及罰則の郵便規則第11



条 外国郵便 第 107 節 — 「はがきは適當の錢位あるものに限るへし 決して郵便切手を以て其不足を補ふをゆるさること」です。日付は明治 11 年（1878 年）12 月 19 日付で禁止です。禁止でも実際は見逃されての、例外使用でペナルティー無しも結構な数で有るのですが、それはここでは無視します。

纏めれば、1877 年 6 月 20 日～1878 年 12 月 18 日は国内葉書が切手加貼で正規に外信使用できたのです。この時点で小判連合 2 銭・3 銭は発行されていません。だから、葉書の外信便のコレクターは、三五六と共に、国内葉書に加貼りした 3.5.6 銭料金も集める意味が有るのです。今回の物は、このカテゴリーで 5 銭に属します。ヨーロッパ宛の 5 銭料金は、アメリカ宛の 3 銭よりも格上です。そして希少性では三五六の 5 銭よりも上でしょう。どの料金でも、見つかったのは各数点に過ぎません。ブリンディッシ経由の 6 銭は、夢の珍品です。

もっと厳しく拘って、視点を変えて論ずるならば、当アイテムは三五六発行後の使用です。少ないながらも稀には有るのです。特に狸 2 銭貼りの 3 銭料金は、私も 2 点は売っています。HIOGO だったと思います。よりグレードの上の物を求めるならば、1877. 11. 20 = 三五六発行前を探したいと思います。それも 3 種類をです。実際それが出来るのです。全くの偶然ですが、7 月に開催された、日本フィラテリックセンターのオークションに出たのです。小判 1 銭葉書に狸 2 銭を貼ってアメリカ宛、差し出しの書き込みが 1877.7. 28 NAGASAKI 発で、HIOGO 中継、YOKOHAMA で 8 月 13 日出航の桑港宛の City of Peking 便です。画像をお見せ出来ないのが残念です。国内葉書としても、最初期の外信使用です。誰が買ったのでしょうか。理屈を知ってないと買えない値段だったと聞いています。

もう一つの珍品の可能性を書きましょう。1878.12.19 に国内葉書の外信転用が不可になったのですが、1879.4.1 に葉書料金が変わっています。値下げです。アメリカ・香港・上海・カナダ宛が 2 銭なのです。そして小判連合 2 銭（3 銭も）の発行が 1879.6.30 です。この間の 6 か月強は料金が 3 銭の宛先には三五六の 3 銭が適正使用できたのですが、2 銭の宛先には何を使えば良いのでしょうか。小判 1 銭に 1 銭加貼はアウトです。小判連合 2 銭は発行前、無理やり 3 銭は想定外です。規則及罰則でカバーできない時期が有ったのです。実例？さあ有るのでしょうか？適正使用は存在しないエアーポケットなのですよ。

官製はがきの外信便で、幻を見たと言いたいような経験をしたのです。多分、30 年は経ったかな。イギリスのカバー屋さんのデーヴィッド・ディグリーがアプで送って来たエンタが有りました。脇無 1 銭を台にして、鳥 15 銭・改色 4 銭・洋紙 2 銭、21 銭料金のイギリス宛です。1875.1.8 ～ 9.9 で料金は合っていました。葉書の印面は料金的には無視ですが、それでも脇無葉書がイギリスに行ったのです。値段は 100 万円位でした。葉書の珍品としてでなく、鳥のエンタの評価です。相当に迷ったのですが、惜しむらくは緑 4 銭が貼り替えだと思ったのです。安ければ飛び込んだかも知れませんが、完全品でない事を買わない理由にしたのです。大島さんに話をしたら、馬鹿野郎と言われました。今なら、買うかも知れません。ディグリーには香港で良く会うのですが、この葉書の話聞いたことは有りません。100 万の脱落エンタは、今でも判断に迷います。

今回の葉書は、ドイツに行きました。メールビッドは随分といい値段だったのです。JAPANESE POST CARDS ADDRESSED TO ABROAD のコレクターです。連合葉書と普通のステーションナリーに加貼した外信便がテーマです。郵便法規も完璧に読めるので、持っているマテリアルのクオリティーでは世界一、アレンジ次第では国際展で LG も望めます。姫路城 10 銭は葉書ホルダー 1 冊にパンパンです。三五六、3 銭 5 銭は沢山で、6 銭は持っているかどうか微妙です。海外で記事に出た日本に来ていない逸品が有りますから。手にしていても不思議では無いのです。今回の一連の小判葉書セールでも、外信物は殆ど日本に残らなかったかも知れません。次は日本のコレクターに頑張ってもらいたいです。

Lot3712 1 昭3 銭横連、満州4 次普通2 分縦連各中華郵政関東郵電加刷、満州4 次普通2 分横連関東郵政加刷貼航空便米宛 在韓米領事館経由の外交公囊郵便 O WASHINGTON JAN. 10, 1949. DC
最低値 150,000 応札 7 スタート 850,000 落札 1,250,000

今回のセールの目玉だと思っていました。日本人で買えるのは昭和切手の人だけです。でも、戦後使用が微妙です。知ったかぶりで、国際展には使えないからと、買わない理由を強調する、天動説さんいますから。展覧会で使える、使えないという、他人の評価を金科玉条の如く思い込んでの収集はつまらない物だと思うのですが。但し外交公囊カバーで使うのは、想定できる落札値からして荷が勝ちすぎるのですが、中国解放区の使用例なら、ドンピシャです。達者な中国人が、スマホで本土での過去の取引実績を調べていたのです。残念ですが欠片も見つからなかったと言っていました。

立派なメールビッドが入りました。日本人では勝てません。ビッドの本人曰く、中国本土以外では、No1の解放区の郵便史コレクターからのビッドでした。ドイツのコンピューター関係の会社のオーナーでしょうか。昭和切手コレクターの札は軽くクリアしていました。でも、本当に強い札は中国に有ったのです。お買い上げは、上海か北京のオークションでの転売ビジネスが得意な人。今までも、新疆や蒙疆使用の中国切手のエンタで散々大儲けしています。今回はいくら儲けるのか CPSJ さんに監視をお願いしておきました。

ドイツに結果をメールしたら、速攻で返事が有りました。もし、落札者が不払いなら、落ちた値段で自分が買う。色を付けても大丈夫。そして、次からは、このレベルの物が出たならば、絶対にテレフォンビッドをやるから受けてくれ、だったのです。さて、中国人のお支払いは、場では予算を超えていたので未決済、でも物はその場で渡して、翌日には銀行へ振り込んでくれています。何人かの中国人とは、日本のお客よりも気持ちのいいビジネスが出来るのです。オークショニア的には、読み通りに、きっちり嵌った結果なのでハッピーな気分です。次回の準備に書かれます。

次は、一年一度の東京での JAPEX 特別セール、2100 点限定のキャパの制限が勿体なく思える程のレベル高い物が、想定の限度を超えて集まって来ています。手品の粉を振りまいて、皆さんのお越しを待っています。



スタンペディアオークション

第6回セールレポート

スタンペディアオークション株式会社

全日展2018最終日(2018/7/22) 午後に公開オークション(フロア)を行った、第6回セールの開催レポートです。創業間もない当社の競売に対しては、「どれくらいの事前入札が入るの?」とお尋ねいただくことが多いのですが、今回数えて見たところ、事前入札は郵便、ファクス、電子メール合計で112名でした。ちなみに内訳は郵便が一番多く、その次がファクス、電子メールが一番少ないのが実情です。

全571ロットの内、事前入札の入ったロットは327で、57%です。最終的な落札数(率)は362点(63.4%)で、フロアで競ったロットも多いのですが、まずは事前入札の人気ベスト7を見てみましょう。

	事前 入札 件数	Lot	最低値 (円)	スタート (円)	落札値 (円)	ロット内容
1位	12件	248	3,000	10,500	10,500	戦後のエアログラム 約30通 ロット
2位	9件	317	10,000	29,000	29,000	琉球第一次普通切手(初版) 耳付きセット 20銭のりおちも他はMNH、特に40銭、1円のMNHは珍しい(JPS-RYUKYU-1,2,3,4,5,6,7)
3位	7件	3	10,000	20,000	21,000	竜100文 第1版 pos.26 (JPS-2)
		366	3,000	5,200	5,400	満州第3次普通20分 老城基 4 6 14 [19370614] スイス宛て書状 (JPS-MANCHURIA-53)
		481	3,000	10,500	10,500	文献、私家本「スイス」(吉田敬) 2バージョン Bangkok2013, Philakorea2014 共にカラー 80ページ
6位	6件	175	5,000	8,500	8,500	2次昭和5銭 7M166 7M222と混貼り、KLANG 2602 2 15 [19420215] Kuala Lumpur 宛て 料金参考情報:南方占領地マライ書留書状 23セント(JPS-251)
		303	3,000	10,500	10,500	富士箱根国立公園 SS 完全使用例。非初日 東京中央 櫛型印 26 10 16 [19511016] (JPS-P49)
		359	5,000	9,000	9,000	満州建国1周年 1分, 2分, 4分, 10分 吉林 2 3 1 [19330301] 哈爾濱宛て書状 (JPS-MANCHURIA-19,20,21,22)

特定の分野が人気があるというよりは、幅広い分野で安いと思う人が多いロットには相対的に多くの事前入札が入っているようです。今回、満州の使用例を集中的に出品しましたが、南方占領地に比べてこれまで売り建てることがなかったため、入札が入るかどうかが心配しておりましたが、最低値を安くつけたこともあり、むしろ人気でした。(右図はLot.366)



軍事切手マージン付き未使用田型

LOT.112 最低値 50,000 円→150,000 円

菊軍事 上耳付き田型 p.13*13.5 上段半分より上は目打が離れており、耳紙裏でヒンジ留め。切手部分はヒンジ跡なしで、表もフレッシュ。(JPS-M1)

LOT.117 最低値 150,000 円→210,000 円

軍事大白 p.13*13.5 右耳付き田型 中子持罫線 一枚ヒンジつき 3枚 MNH (JPS-M2)

今回のセールには、軍事切手の未使用美品が12点も出品されました。ゼネラルコレクターのアルバムに収まっていたものですが、この方は軍事切手については、単片だけでなくブロックで揃える努力をしており、熱心に見る方も多い一連のロットとなりました。状態もフレッシュなものが多く、これだけお金をかけられるコレクターであれば、ここにはない軍事切手(組合カタログ軍5)もあるのでは?と思う方も多いでしょう。

実はアルバムリーフにはそれらしき切手が貼ってありました。しかし残念ながら完全品ではありませんでした。また鑑定書也没有。ということで、ご出品者はまだご処分をお考えではありませんが、遠からず登場することもあるかもしれません。いつか機会があれば、ぜひ当社オークションで取り扱うことができると考えております。



貿易博覧会無目打 外信船便印刷物 使用例

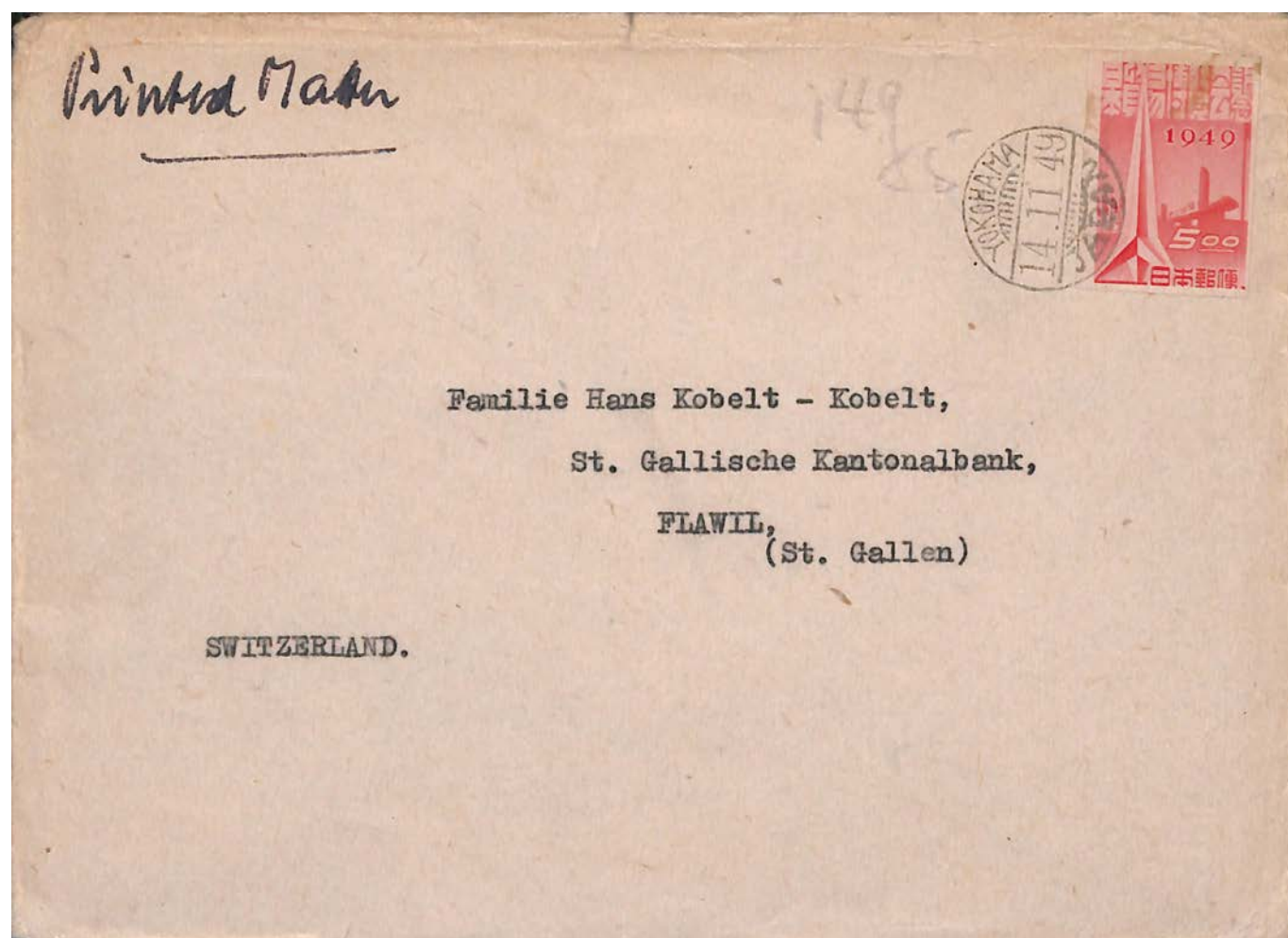
LOT.274 最低値 20,000 円→ 62,000 円

貿易博覧会無目打 YOKOHAMA 欧文櫛型印 19491114 スウェーデン宛て折れ シミ 料金参考情報：
外信船便印刷物 5 円 [1949.6.1-1951.11.30] (JPS-C152)

Consigner (出品者) が「これは珍しいんですよ!」とアピールしてきたカバーでしたが、正直言いますと、最低値を高くつけすぎたかなと思っていたロットです。ところが、事前入札の蓋を開けてびっくり。スタート時点で6万円の評価をした人が二人もいらっしゃいました。記念切手はまだまだ経験不足で相場がよくわからないところがあります。

実は単なる無目打の使用例というだけでなく、発売地限定切手で、貿易博開催地・横浜差出で、全国発売前使用は、日専 u 評価 (現品未確認) で初見なのだそうです。ディスクリプションを書く中で戦後記念の発売地限定切手については注意をしていたつもりでしたが、貿易博覧会については 50 面シートの切手が最初から全国で発売されたのに対して、小型シートは、当初、会場内臨時局限定発売だったことまで頭が回りませんでした。

結局メールで一位の評価をされた方に、そのまま落ちましたが、戦後記念をやっている方には常識の珍品だったのかもしれませんが。



占領地香港 九龍城局発の書状

LOT.401 最低値 100,000 円→ 205,000 円

2 次昭和 5 銭 九龍城 櫛型印 17 7 13 [19420713] 広東省宛て 占領地香港から中国宛書状。九龍局中継 (1943)7.13 広東到着印 (裏面) および日本切手図案を黒炭抹消 (JPS-251)

ご出品を頂いた時に、ありがたい気持ちとともに、偽物ではないだろうか?という気持ちを持たざるを得なかった「珍品」です。香港占領を認めない中国における、香港占領地からの郵便物の切手への印面墨塗り潰しは有名ですが、このカバーのポイントは引受局が、「九龍城局」であることです。

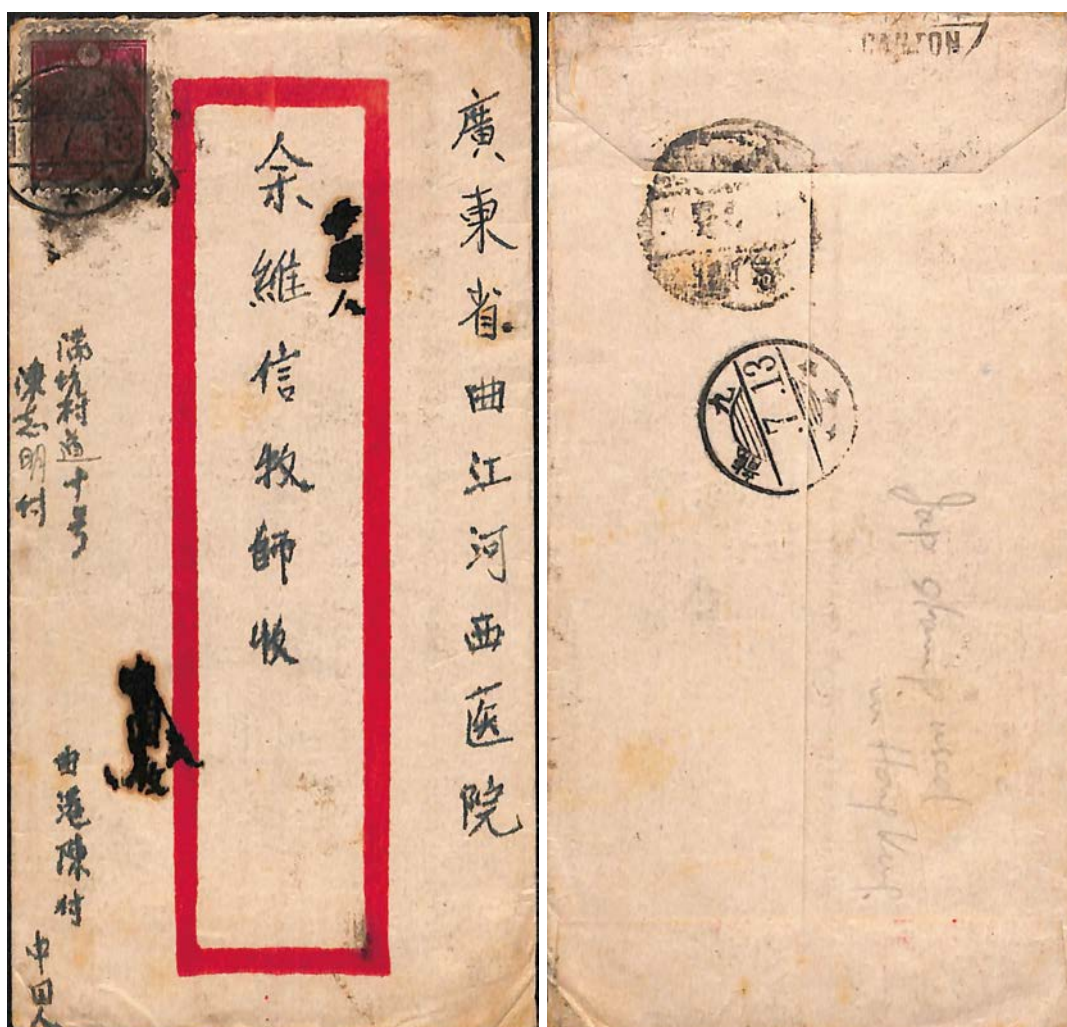
占領下の香港では、昭和 17 年 1 月 22 日に開局した 2 局 (香港、九龍) を皮切りにのべ 12 局が設置されましたが、この内、九龍城局は昭和 17 年 2 月 14 日～11 月 14 日の 9 ヶ月間しか開設されなかった無集配局で、カバーの使用例が非常に希少とされており、「昭和切手専門カタログ (鳴美, 2015)」では、カバーの評価に 200 万円をつけています。もっとも、この価格は同カタログも「参考評価」として、欄外に示している程度なので、あまりあてにはならない数字です。それでも珍しさはうかがうことができます。

郵便史的な真贋チェックとしては、普通局の九龍局の中継印や到着印の日付、切手発行日との関係もクリア、差出人の国籍表記や使用筆記具の見た目も大丈夫そう。となると、あとは消印のチェックが残るわけですが、真正な使用例が少ないため、比較対象も絞られてきます。

偽物カバーも含めて、専門家にチェックしていただき、大丈夫だろうという、お墨付きをいただくまで半年かかりました。

その間、ご出品者には事情をご理解いただき、お待ちいただきました。結果として丁寧なディールができたにご満足いただくことができました。

九龍城と印面墨塗りの組み合わせも珍しく、ご入手された方からすれば、非常にお得な買い物になったのではないかと思います。



下総郵便印（地域郵便印特集）

LOT.539 最低値 3,000 円→ 36,000 円

下総二重丸印 小判葉書 1 銭 下総太田 9.17 る KB2 東京宛 19.9.1 ち 小判葉書紙幣寮銘 1 銭

LOT.541 最低値 3,000 円→ 80,000 円

下総二重丸印 小判葉書 1 銭 下総香取篠本 1.23 KG 東京 15.10.5 イ 小判葉書紙幣寮銘 1 銭

LOT.549 最低値 5,000 円→ 58,000 円

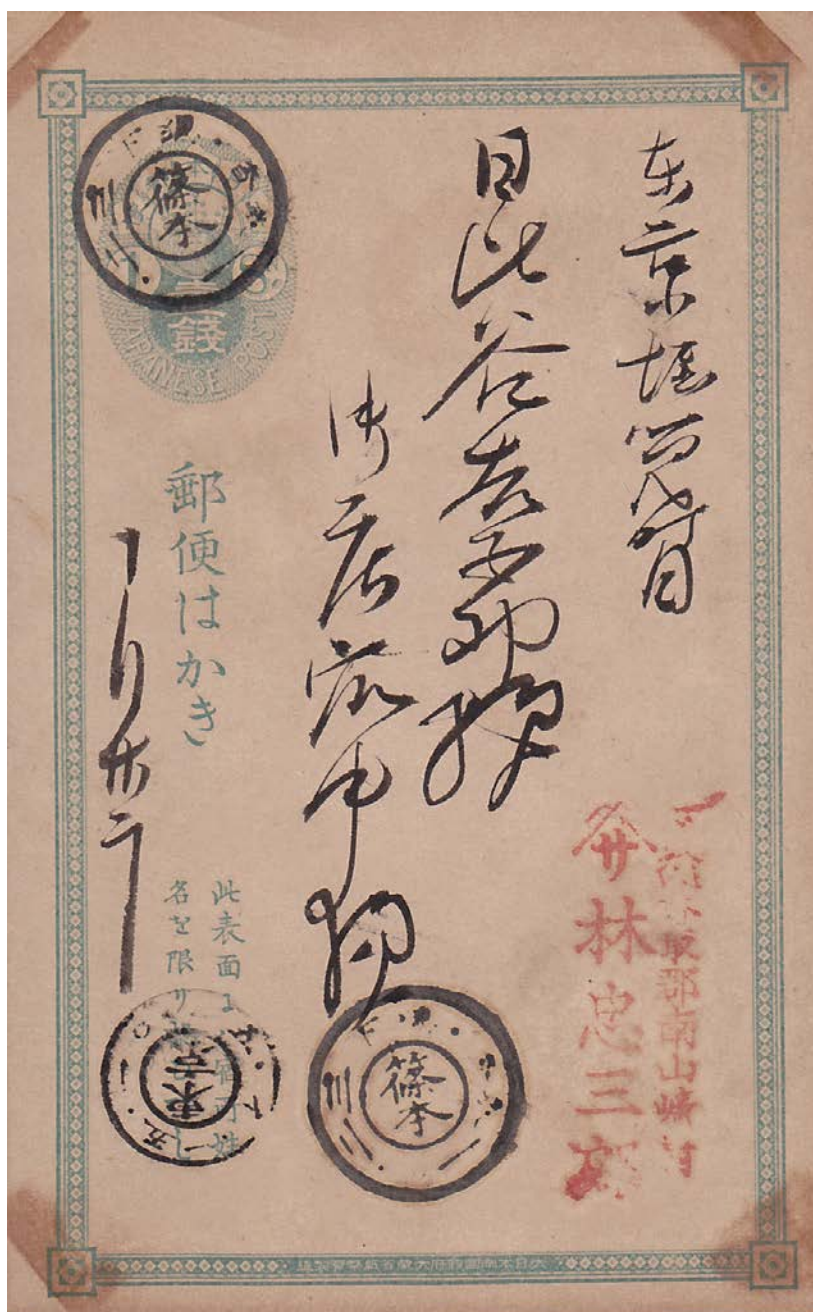
下総二重丸印 小判葉書 1 銭 下総香取萬歳 10.25 → 下総印旛白井 10.27 佐倉町順天堂医院二廻送付箋付 小判葉書紙幣寮銘 1 銭（JPS-PC12）

右下図は、Lot.541 ですが、事前入札締め切り時点で、5万円の評価をした人が2名いたため、公開オークションのスタート値は 52,000 円。フロアに参加した人のビッドにより 80,000 円まで上がりました。

結果データからだけでも、5 万円以上払ってでも、この葉書を手入したいと考えた人が最低3人はいたということで、この地域の地元郵便印を収集される方からすれば、キーマテリアルなのだと思います。

地域郵便印は人気がないという話も聞きますが、当オークションがこれまでに取り扱ってきた、下総国や千住の消印は九割を越える落札率を誇ります。丁寧にオークションカタログに掲載しているからというのかもしれませんが、それ以上に、地域郵便印は一律に人気がないのではなく、収集人口によって人気のあるエリアとないエリアの違いが大きいだけなのではないかと感じています。

11 月の第7回セールでは、駿河・遠江国の地元印のパートを設けるとともに、赤二単片を台切手にした丸一印のコレクションを地方ごとに出品しています。最低値 3,000 円からとお求めやすくなっていますので、是非入手をご検討ください。



第6回セール落札結果 [販売数 / ロット数 = 362/571 (63.4%) 落札合計 5,697,600 円]

Lot	落札値 Result	Lot	落札値 Result	Lot	落札値 Result	Lot	落札値 Result	Lot	落札値 Result	Lot	落札値 Result
1	85000	48	0	95	4700	142	5000	189	5000	236	0
2	9000	49	0	96	5400	143	5000	190	8500	237	62000
3	21000	50	0	97	5600	144	0	191	3000	238	5000
4	72000	51	0	98	7400	145	0	192	0	239	0
5	7200	52	11500	99	17500	146	0	193	5600	240	3000
6	7000	53	0	100	10500	147	0	194	1000	241	5000
7	31000	54	10000	101	50000	148	0	195	3000	242	0
8	33000	55	0	102	3100	149	5000	196	11500	243	0
9	14000	56	0	103	30000	150	3000	197	3300	244	21000
10	11000	57	0	104	3000	151	0	198	0	245	3000
11	30000	58	0	105	4200	152	0	199	20000	246	9000
12	80000	59	0	106	3000	153	7000	200	0	247	0
13	11500	60	0	107	3100	154	3000	201	15000	248	10500
14	10000	61	0	108	3000	155	5200	202	0	249	3000
15	10000	62	0	109	5000	156	0	203	20000	250	1100
16	0	63	6200	110	12000	157	14000	204	4000	251	0
17	1000	64	3100	111	6600	158	0	205	10500	252	0
18	2000	65	9500	112	150000	159	0	206	10500	253	1500
19	0	66	15000	113	0	160	9000	207	3000	254	3300
20	1100	67	7800	114	3000	161	10500	208	1100	255	3500
21	0	68	0	115	3300	162	6200	209	3900	256	49000
22	150000	69	0	116	21500	163	0	210	3000	257	70000
23	155000	70	3100	117	210000	164	4000	211	6200	258	0
24	10000	71	0	118	15000	165	0	212	0	259	0
25	5200	72	8000	119	0	166	0	213	0	260	4300
26	30000	73	5200	120	0	167	0	214	5000	261	3700
27	0	74	4000	121	5000	168	4000	215	0	262	50000
28	0	75	0	122	30000	169	0	216	0	263	2300
29	0	76	0	123	34000	170	5200	217	3000	264	20000
30	0	77	16000	124	26000	171	4000	218	0	265	4000
31	1100	78	7400	125	50000	172	8000	219	3000	266	0
32	0	79	3000	126	80000	173	0	220	5000	267	0
33	0	80	0	127	0	174	4500	221	5000	268	3700
34	4600	81	7200	128	0	175	8500	222	43000	269	6400
35	5000	82	20000	129	0	176	7200	223	0	270	4100
36	0	83	0	130	20000	177	3000	224	2900	271	10500
37	0	84	3000	131	40000	178	0	225	10500	272	0
38	0	85	0	132	500000	179	12500	226	0	273	0
39	0	86	3000	133	0	180	4000	227	3000	274	62000
40	9500	87	30000	134	0	181	5000	228	10000	275	3100
41	5000	88	0	135	5000	182	4100	229	3000	276	4300
42	0	89	0	136	10000	183	0	230	3000	277	0
43	15000	90	7400	137	0	184	17000	231	0	278	5200
44	0	91	175000	138	5000	185	0	232	0	279	3000
45	0	92	255000	139	40000	186	0	233	0	280	0
46	0	93	3700	140	40000	187	0	234	105000	281	0
47	0	94	4700	141	15000	188	0	235	0	282	10000

Lot	落札値 Result	Lot	落札値 Result	Lot	落札値 Result	Lot	落札値 Result	Lot	落札値 Result	Lot	落札値 Result
283	5000	331	0	379	4500	427	5000	475	3000	523	3000
284	10000	332	0	380	7800	428	0	476	0	524	3000
285	0	333	0	381	0	429	0	477	3000	525	3000
286	5000	334	0	382	3000	430	8500	478	3000	526	3000
287	0	335	0	383	3000	431	0	479	0	527	0
288	3100	336	0	384	4100	432	9000	480	15500	528	5000
289	3800	337	0	385	0	433	5000	481	10500	529	5000
290	8500	338	0	386	3100	434	0	482	2500	530	3000
291	8500	339	0	387	0	435	0	483	0	531	3000
292	0	340	0	388	5200	436	0	484	0	532	3000
293	4100	341	0	389	5200	437	0	485	0	533	3000
294	20000	342	0	390	5700	438	5000	486	0	534	3000
295	0	343	0	391	0	439	0	487	6200	535	0
296	0	344	0	392	5000	440	0	488	3700	536	5200
297	16500	345	0	393	0	441	3000	489	0	537	0
298	0	346	0	394	3300	442	0	490	3000	538	5200
299	3000	347	0	395	4100	443	0	491	0	539	36000
300	3100	348	0	396	6200	444	16000	492	8000	540	22000
301	10000	349	0	397	5000	445	3000	493	6000	541	80000
302	0	350	0	398	0	446	8000	494	4300	542	22000
303	10500	351	4300	399	3000	447	0	495	0	543	0
304	0	352	4000	400	5200	448	4000	496	4300	544	10500
305	0	353	5400	401	205000	449	6000	497	8000	545	5200
306	6400	354	5000	402	5200	450	4000	498	3000	546	3300
307	5200	355	5200	403	5200	451	10000	499	3000	547	3000
308	0	356	5000	404	3100	452	6600	500	3000	548	0
309	4100	357	6000	405	52000	453	5600	501	3000	549	58000
310	0	358	9000	406	21000	454	0	502	3000	550	3000
311	0	359	9000	407	3300	455	8000	503	3000	551	3000
312	20000	360	0	408	0	456	0	504	12000	552	5000
313	0	361	5000	409	5000	457	0	505	15000	553	10500
314	3100	362	3100	410	0	458	0	506	13500	554	5200
315	29000	363	3000	411	3500	459	27000	507	40000	555	3000
316	41000	364	0	412	5600	460	18500	508	1000	556	12000
317	29000	365	5000	413	6000	461	30000	509	1000	557	10500
318	0	366	5400	414	5200	462	40000	510	2000	558	0
319	0	367	5000	415	3100	463	30000	511	8000	559	5000
320	0	368	0	416	3000	464	0	512	1000	560	3000
321	0	369	0	417	3000	465	36000	513	1100	561	8500
322	0	370	8000	418	0	466	80000	514	0	562	3000
323	0	371	0	419	0	467	5200	515	5400	563	6800
324	0	372	3000	420	0	468	10000	516	3100	564	5200
325	0	373	3100	421	19000	469	0	517	3000	565	0
326	0	374	3100	422	5000	470	6500	518	4100	566	0
327	0	375	3000	423	8000	471	4500	519	3300	567	20000
328	0	376	0	424	9500	472	0	520	3100	568	3000
329	0	377	0	425	16000	473	0	521	3000	569	4100
330	0	378	0	426	0	474	0	522	3000	570	3000
										571	0

あとがき

6月下旬に立て続けに3冊の単行本を刊行したことで、一時的に多忙を極めました。どの書籍も好評を博しており、安堵しております。現在も様々な分野の単行本やカタログの刊行についてお話をいただいております。お引き受けできる件数に限りはありますが、「30年後の郵趣人口の確保」の観点から優先順位をつけて取り組んでまいりたいと思います。また刊行書籍の流通規模拡大に向けて、書店取次会社との契約を現在検討中で、将来的には、書店・図書館でも当社の刊行物の一部をお取り寄せいただけるようになる予定です。

雑誌部門では、8月のプラハ展で当社のフラグシップマガジン「スタンペディア フィラテリック ジャーナル」が金賞を獲得することができました。3回連続となればもう常連なのですが、毎回結果が気が気ではありません。個人の出品物に比べて、日本を背負っているプレッシャーもありますし、それ以上に雑誌の金賞は一度落ちたら次は厳しいかな、と感じているからです。常連になる前に出品手続きを済ませてしまった、マカオ展、バンコク展が終わったらしばらくは、同誌の国際展出品はお休みしようと考えております。その一方でより海外で購読していただけるように色々な仕組みを検討中です。

プラハ展をお休みしたこともあり、8月は業務に集中することができましたが、9月以降、郵趣振興協会の活動を中心にまた色々忙しくなります。一つ目の催事として「全国郵趣大会 2018 in 島原」特別講演の講師をつとめに、9月8日に一泊二日で長崎県まで出張してまいりました。都市部での開催と違い、交通アクセスに問題あるのは仕方ありませんが、それを補って余る、山海の珍味や暖かい応接を受け、微力ながら協力できたことを大変喜んでおります。協会活動は10-11月に複数の郵博特別切手コレクション展を控え、これから佳境に入りますが、全て成功させたいと考えております。どうぞご期待ください。

書 名：フィラテリストマガジン

号 数：第20号（2018年秋号）

発行日：2018年9月15日

発行者：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

発行人：吉田敬

編集部：北川朋美、山田はるか、菊地恵実

* 当誌は「スタンペディア日本版」の機関誌です。

Name of the magazine: The Philatelist Magazine

Number: 20th (2018 Autumn issue)

Date of issue: Sept. 15th 2018

Publisher: Stampedia, inc. Takashi Yoshida

Editor: T. Kitagawa, H. Yamada, E. Kikuchi

南方ゼネラルコレクション約 600 リーフを掲載

南方占領地 玉芙蓉コレクション

JAPANESE OCCUPATION BALL FURONG COLLECTION

1941-1945



郵政博物館 2018 年度第 2 回特別切手コレクション展 展示作品

TAMAKI MORIKAWA

近年逝去された南方占領地切手の大収集家のコレクション（全てリーフに整理済み）が、郵政博物館で展示されることにちなみ、リーフを4分の1サイズで掲載。南方占領地切手コレクターにとっては垂涎の品の連続。専門家以外の方には南方占領地のフィラテリーの全容が理解できるようなつくりの一冊。編者はコレクション所有者の友人の守川環氏。南方占領地のフィラテリー振興のため、価格も思い切った低価格で提供いたします。2018年7月1日発行。

書籍名：南方占領地 玉芙蓉コレクション

編 者：守川環

発 行：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

体 裁：A4 判 156 ページ、フルカラー、オフセット印刷

価 格：2,000 円（消費税込、送料別）